

総合研究

第7号

2019年3月

講演録

映画よもやま話V	岡田裕介
これでいいのか日本の政治	橋本五郎
エッセイを書こう -枕草子をテキストに-①	内館牧子
エッセイを書こう -枕草子をテキストに-②	内館牧子
アベノミクスと日本の政治	福岡政行
政局動乱 -どうなる日本の政治の明日-	福岡政行
2018年日本の国の姿 -ジリ貧大国日本はどうなる!?-	福岡政行
迷走する日本政治と米朝会談?	福岡政行

研究論文

カントにおける「理性の事実」と自由	銭谷秋生
『百戦奇法諺解』について	花田富二夫
夏目漱石『虞美人草』を読む -藤尾の人物造形とその死をめぐる-	橋元志保
秋田県の自然風景地を活用した誘客戦略の検討	村中孝司
修辞判断の認知プロセス -本音、アイロニー、皮肉、嫌味、優しい嘘、 欺瞞、間違い、冗談、からかい、照れ隠し-	瀧澤純

研究ノート

がん検診の受診率向上はがんによる死亡率を減少させるか?	力石國男
-----------------------------	------

目 次

講演録

映画よもやま話V……………	岡 田 裕 介 (1)
これでいいのか日本の政治……………	橋 本 五 郎 (13)
エッセイを書こう	
－枕草子をテキストに－①……………	内 館 牧 子 (35)
エッセイを書こう	
－枕草子をテキストに－②……………	内 館 牧 子 (59)
アベノミクスと日本の政治……………	福 岡 政 行 (83)
政局動乱	
－どうなる日本の政治の明日－……………	福 岡 政 行 (99)
2018年日本の国の姿	
－ジリ貧大国日本はどうなる!?－ ……	福 岡 政 行 (117)
迷走する日本の政治と米朝会談……………	福 岡 政 行 (133)

研究論文

カントにおける「理性の事実」と自由 ……	銭 谷 秋 生 (149)
『百戦奇法諺解』について……………	花 田 富二夫 (165)
夏目漱石『虞美人草』を読む	
－藤尾の人物造形とその死をめぐる－……………	橋 元 志 保 (181)
秋田県の自然風景地を活用した誘客戦略の検討……………	村 中 孝 司 (203)
修辞判断の認知プロセス	
－本音、アイロニー、皮肉、嫌味、優しい嘘、 欺瞞、間違い、冗談、からかい、照れ隠し－……………	瀧 澤 純 (223)

研究ノート

がん検診の受診率向上はがんによる死亡率を減少させるか？ ……………	力 石 國 男 (231)
--------------------------------------	---------------

〔講 演〕

ノースアジア大学 総合研究センター主催 講演会

「映画よもやま話V」

講師 東映株式会社 代表取締役グループ会長
ノースアジア大学教育諮問会議委員 岡 田 裕 介
ノースアジア大学総合研究センター客員教授

司会 ノースアジア大学 経済学部経済学科 3年 五十嵐 泰 我

日時 平成30年2月26日 午後1時～4時30分

会場 秋田市文化会館

五十嵐 本日は、ノースアジア大学総合研究センター主催講演会・東映映画先行上映会に、東映映画を心待ちにしていた数多くのファンの皆様にご来場いただき、誠にありがとうございます。平成29年度も東映株式会社様のご好意とご協力により、3月10日のロードショーを待ちきれないファンの皆様のために、ここ秋田の地で特別先行上映会を行うことができます。この場をお借りしまして感謝申し上げます。

申し遅れましたが、本日の司会進行を務めさせていただきます、ノースアジア大学経済学部経済学科3年の五十嵐泰我と申します。人生の先輩である皆様の前でこのような機会をいただき、やや怖気づいているところではありますが精一杯頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

では本日の日程に従いまして、公開講座のご案内をいたします。映画の上映会に先立ちまして東映株式会社代表取締役グループ会長並びにノースアジア大学教育諮問会議委員、ノースアジア大学総合研究センター客員教授の岡田裕介先生よる「映画よもやま話V」の講演会を行います。岡田裕介様におかれましては、毎年大変お忙しい中、あるときは吹雪で前も見えず、ある時は搭乗機が遅れ、きりたんぼなくしては乗り越えられない冬の秋田で映画界の逸話や現場の人にしかわからない生の声をお話しして下さいます。今年は私たちにどのようなお話をしてくださるのでしょうか。どうぞご期待下さい。

秋田の皆様の感謝の気持ちとご挨拶を代弁させていただければ、「まんずとぎどごがら わざわざ こんたにさびして なもかもなねえんた 秋田さ来てけで ありがとさん。おれだば こんた秋田の寒ささ まげねだげ 映画っこさ あじい 思いあるもんだがら 寒さどご気にさねで たくさん話してたんせ。」と言ったところでしょうか。「今日は遠い所から遠くて寒くてどうしようもない秋田へお越しいただき、ありがとうございます。私たちはこの寒さに負けないくらい映画を楽しみにしていた熱い思いを持った観客です。寒さを気にせず沢山お話しただければ」といった意味合いでございます。失礼いたしました。それでは岡田先生、よろしくお願い申し上げます。

岡田 ただ今ご紹介を受けました東映株式会社の会長を務めております岡田裕介でございます。本日も平日にもかかわらず多数お集りいただき、ありがとうございます。昨日で平昌オリンピックも終わったところで丁度良かったと思っております。今日のこの日を決めたのは半年くらい前で、平昌オリンピックの日程のことは知らなかったのです。オリンピックの最中だったら、誰も来てくれなかったかもしれません。そんな中で今回、この『北の桜守』という映画を持っ

ていち早くみなさんに見ていただければと思ってやって来ました。

元々私が秋田の皆さんの前でこうしてお話することになったのは、最初は講演ということでしたが小泉理事長から、「あまりにも講演になっていない。なんだか漫談に近い。」というお話があって、内容が少しずつ変化してきました。上映会としての一番初めは『北の零年』という映画を持ってきてお世話になりました。それからもう12年くらい経ちまして、本日を迎えたわけですが、『北の零年』『北のカナリアたち』そして「北の三部作」の最終章とうたいまして、今回の『北の桜守』という映画と相成ったわけです。

秋田も同じですが、北海道の厳しい寒さをテーマにやってきたつもりです。北海道の歴史を含めて今までやってきた訳ですが、北の三部作の最終章ですから、「北」は今回が最後ということになりました。なぜ終わりになったかという、吉永さんが体力的に限界だとおっしゃっているからです。寒くて過酷なところでの撮影は本当に大変だったのです。連日マイナス20度近い気温でしたが、「これが最後だから頑張る」と撮影を続けました。だから「北」はこれ終わりにして、次は「南」で映画をつくりましょうという話をしています。そういう北シリーズの中でも今回の『北の桜守』が一番良く出来た作品だと思っています。吉永さん自身もやり遂げた感があったようです。それで大きく“最終章”とうたうことにしました。

これからみなさんに見ていただくことになるのですが、吉永さんにとってこの映画は主演120本目となる記念すべき映画となりました。120本というのは我々映画界でも大変な数字です。バイプレイヤーというかちょっとした役の俳優さんであれば2、3シーンくらいの出演でたくさんの本数に出ていることになりましたが、ずっと主役をされているような俳優さんが120本というのは大変な数字です。1年間に10本の映画を撮るといってはなかなかできません。できたとしても120本だと12年かかります。5本ずつ撮ったとしても24年です。それには健康でいなければなりませんし、いろいろなことに気を付けなければなりません。私たちが尊敬する高倉健さんは205本までいきましたが、今後はそういうことはないと思います。この記念すべき120本目というのは、実は映画界の各社で争奪戦になりました。

それぞれの会社がいろいろな企画を提案しました。ストーリーや監督などを出してお願い申し上げていたのですが、私どもの東映では、「北シリーズではどうですか」とお話ししていました。『おくりびと』の滝田洋二郎監督に監督をお願いして、シナリオは“北シリーズ”の1作目、2作目をずっと書いていた那須真知子さんに今回もお願いしました。吉永さんは話を聞いて、「どうし

よかな」と迷っていましたが、「一度、網走にいきましょう」とお誘いして、監督とシナリオライターと私で網走に行ってきました。もちろん4人だけではなくて付き人やスタッフなども一緒です。2年前のことです。そのとき、たまたまですが網走にちょうど流水が来たのです。とてもきれいで感動しました。「こんな感じだったらできるかもしれないですね」などと皆で話して、船にも乗って流水を見ました。とても素晴らしかったです。「流水を撮れるなら是非ともやりましょう」と話して陸に上がってきたら監督が、「網走に来たのだから、次は網走刑務所も見ましょう」と言い出しました。吉永さんは「嫌です。私はそういう所には行きたくないです」とおっしゃったのですが、監督が是非にということで見ただけでも、ということになって行きました。一通り見て最後のスロープのところ吉永さんが、「こういうところには長居をしたくない」と少し急いで歩き始めました。そうしたら、ツルっと滑って転んでしまったのです。ついてしまった手が痛いと言ってうずくまっていたのですが、しばらくして休憩所のようなところに移動しました。見てみたら手が不自然に曲がっていました。吉永さんは我慢強くあまり痛いとは言わない人です。「大丈夫です」とその時もおっしゃっていましたが、大丈夫な訳がないくらい曲がっていました。すぐに東京に戻る手配をしましたが夕方だったのでその日はもう飛行機の便がなく、帰ることができませんでした。次の日まで待たなければなりません。とにかく応急処置が必要なので近くの診療所に行きました。すると、「これは引っ張って入れなければ」と、とにかく引っ張るんですね。「東京で見てもらうので、無理しないで。引っ張らないで。変な風になったら後で困る」と私は言ったのですが、「大丈夫、大丈夫」とすごく引っ張るんです。「大丈夫なはずがない。そんな風にしたら痛いでしょう」と私は更に言いましたが、吉永さんは涙一つ見せずにじっと耐えていました。骨折をしたことがある人はわかると思いますが、本当に痛いものなのです。私にも経験があります。そうやって我慢に我慢を重ねて、次の日東京に連れて帰りました。結局1日しか見ることができない網走になってしまいました。監督やスタッフには残っているいろいろな所を見てもらいましたが、私は吉永部隊と一緒に帰ったのです。そしたら帰りがけに、「なんだか不吉だからこの作品はちょっと考える」と吉永さんが言うのです。困ったことになりました。そこで、「ちょっと待ってください。ここは少し期間を置いて考えましょう」と話しました。それからやっていただくまで、ちょうど2年かかりました。引き受けていただくまでに結構大変な思いをしました。

いざやることになったらなったで、今度は“いったい何をするのか”というこ

とになりました。モデルというと失礼になりますが、今回は戦後すぐに樺太から北海道に引き揚げてきた方がモデルの話になりました。戦後の樺太にソ連軍が押し寄せました。樺太は日本の領土でしたが、満州と同じようにソ連軍が押し寄せてきて日本人が殺されたり迫害されたりして大変な思いをしました。8月15日の終戦日の後のことですから、日本人は戦闘意欲がなくなっていますが、ソ連軍はどんどん攻めてきて、次々に殺されてしまいました。辛くも逃げられた人が引き揚げ船「小笠原丸」で日本に戻ろうとしましたが、攻撃にあって沈没させられました。ほかにも2つ攻撃された船があって“三船殉難事件”と言います。いまだに認めていませんが、明らかに攻撃したのはソ連軍なのです。当時の乗組員が後に証言したりしています。表向きにはソ連軍ではないとなっていますが、間違いありません。今のロシアとは違います。当時のことです。この事件を今回の映画でも取り上げていますが、微妙に面白いのがどこの場面でもソ連軍だとは言ってはいません。

そういった人たちの話なので、主人公をどういう女性像にしていこうかと色々調べて何度も話し合いをしました。引き揚げてきた人の中には本当に色々な人たちがいました。一番有名なのは相撲の大鵬関だと思います。実は子供の時にこの船に乗っていて生存した人なのです。年配の方はよくご存じだと思いますが、大横綱になったあの大鵬ですが、もしあのときに生き延びていなかったら大横綱も誕生しなかったのです。その時の大鵬関の大変な殉難のことも今回取り入れさせていただきました。二所ノ関部屋の関係者が大鵬関をスカウトに来たときに、お母さんの条件が一つだけあったそうです。「相撲取りになってもいいので、この子にはお腹一杯ご飯を食べさせてあげてください。あとは何もいりません。」と言うくらい過酷な体験をしてきていたのだそうです。他には今はあまり表に出ていないので知っている人が少なくなっていると思いますが、こまどり姉妹も引き揚げてきた方たちだったそうです。北海道で三味線を持って2人で歌ってずっと流しをしていた双子です。生きて引き揚げてきて家もなく、みんな大変な苦労をしています。秋田にもあるかもしれませんが、ニトリという家具店の似鳥昭雄社長さんも樺太から引き揚げてきた方です。この方の大変苦労されたという話も映画の中に取り入れています。どの人の話がどこの場面と言えないぐらい様々なエピソードが混ざり合っています。吉永さんが演じた“江蓮てつ”はいろいろな人から集めたエピソードを集めた主人公です。こういう人がいたのですか、と聞かれてもモデルは1人ではないのです。10人ぐらいのモデルの話が混ざり合っています。嘘の話ではないのですが、全部を体験したこの人という人というのはいないのです。映画と

いうのはそうやって作り上げていくものなのです。

これから映画を見ていただくので、エピソードを話しすぎても面白くないと思うのですが、今回吉永さんに、「最後の方で呆けた人を演じてもらえませんか」とお願いしました。吉永さんは、「呆けるんですか。どんな風にですか」と困ったようにしていましたが、とても良く研究していただいて痴呆症の人というのとは少し違う形で、それに近い人を演じてくれました。実際、戦艦大和から生還した乗組員やベトナム戦争を体験した兵士たちに非常に多く見られることだそうです。その時は何とも思っていなくても後々になってから、その体験した悲惨な記憶から逃れたくなくて、無理に忘れようとするがゆえに他のところもおかしくなってしまうという病気があるのだそうです。最近分かってきたことだと言われていますが、ずっと昔からあったことだと思います。老いと重なってきて段々そういうことが現れてくるようですが、今回この映画にそのことも取り上げています。戦後を生きた親子の話であるとともに、そうした我々が現代に抱える問題を提示させていただいています。

映画は“こうあるべきだ”“そうすべきだ”と思って作るような大それたものではない、と私は思っています。「こんな問題がありますね。でもこんなことがあれば幸せだよ。こんな風になれば良いですよ」ということを提起するものだと思います。前にもお話ししたことがあると思いますが、私は高倉健さんがいつも言っていた、「映画なんて大したものじゃないんだよ。映画なんでものは感動を与えられるどうかかわからないけれど、見た人が“見て良かった”“良い映画に感動した”と思ってもえたらそれで終わりなんだよ。人々の心の中に1日だけ時間をもらう。その1日の感動をお届けするために何年も構想を練って、あれこれ考えて作るものなんだよ」ということをいつも胸に刻んでいます。「まずは一生懸命に作ることが皆さんを感動させることになる、それが通じるかどうかはその映画の良し悪しなんだ」ということだそうです。

昨日までのオリンピックを見ていても、つくづく同じようなことを感じました。あの歓喜や感動は、実は1、2週間すると忘れてしまうものなのですが、選手が活躍している姿を見ていて、“良かった”“すごい”“感動した”と多くの人が思ったと思います。ああいう時は皆さん一生懸命に日本を応援しますよね。なぜオランダを応援しないのでしょうか。どうして他の国を応援しないのでしょうか。不思議なもので一様に“日本頑張れ”になっていきます。選手の皆さんも、努力がそういうときに報われて“良かった”“感動できた”となるように頑張っているのだと思います。選手や俳優、監督には似たところがあります。ファンのためにだけやっているというのは非常におこがましいことで、やっ

ぱりある種の達成感や“これ以上のことはできない”といった満足感のようなものが出たときに、“良かった”となるのだと思います。そうならなかった時に、“もう一度頑張る”という気になるのだと思います。達成感を持てた時に人は辞めたり違う道に進むようになるのではないかと思います。

この話に追従した話をさせていただければ、私的なことですが私の母方の祖父、つまり私のお祖父さんは韓国で大成功した開拓主だったそうです。祖母から聞いた話ですが、ものすごく大きな農場を持っていて、本当に凄かったのだそうです。戦前に亡くなっていたので私は顔も何も知らない祖父です。祖母は亡くなるまで、「あの土地があったらあなた達に苦労をさせなくても良かったのに」と言い続けていました。その土地は没収されてしまったというので、「一度、その土地があった場所に行ってみようよ」と何度か誘って見ましたが祖母は頑なに、「二度と行きたくない。何千人も現地で使用人がいたのだから、今のこの情勢だと行くと何を言われるか分からない。袋田叩きにあうかもしれない。無くなったものことはもういい。思い出したくもない」と最後まで絶対に行きたがらなかったのです。でも祖母はさっきお話したような病気にはなりませんでした。

私は祖母が亡くなってから、「あれだけ言っていたのだから一度見てみたい」と思ってその場所に行ってみました。そしたら村中の人が出てきてくれました。祖父が農場をしていた頃、その場所は日本の領地でしたから村の皆さんは実は日本語がとても上手でした。でも国の命令で日本語を話すことは長い間禁止されていたそうです。30年、40年話したことの無い日本語だったそうですが、「私たちは日本語で育ったのです。日本語で話せることが嬉しい」と、とても上手に話してくれました。登記の図面まで見せてくれて祖父の農場があった場所を教えてくださいました。今学校になっているところはみんな祖父の土地だったそうです。祖母から聞いてはいましたが、本当にものすごい広さで私は驚きました。次の日、祖父の家の真ん前に住んでいた方が今住んでいるところから1日かけて私に会いに来てくれました。「兵頭（祖父の苗字）の家の孫が来ている」と聞いてわざわざ来てくれたのでした。その人は「これがお祖父さん、お祖母さんの家の表札だったのですよ」と蔵から探して持ってきてくれました。「私の家で二代にわたって、あなたのお祖父さんとお祖母さんと家の表札をずっと預かっていました。誰かが訪ねてきたら返してあげるようにと言われてきました。すばらしいお祖父さんだったと聞いています」とおっしゃるんですね。日本に引き揚げて来るときは表札すら持てない状態だったそうです。お祖父さんは不作の時は年貢を軽くして、逆に与えたりしていたようでした。「あなたのお祖

父さんが開拓してくれたことに村中が改めて感謝する。今この村があるのはあなたのお祖父さんのおかげなんです」と言われました。その村には1 kmくらい続く桜並木が残っていました。お祖父さんが植えたものだと思いますが、桜の木は50年くらいで枯れていきます。村の人たちが枯れて無くならないように、新しい木を植え替えてくれていると聞きました。そういった話を聞いて私は涙がボロボロと止まりませんでした。今まで何も知らなかったけれど、私のお祖父さんはきっと良い人だったのだと、話を聞いて初めて姿に触れることができました。韓国の霊岩という場所です。ここに来て本当に良かったとつくづく思いました。この話もシナリオライターの那須真知子さんにして、今回の映画の大きなテーマとして取り入れてもらいました。これもモデルエピソードの一つになっています。

それから主人公の“てつさん”の話です。「てつさんのおにぎり」というものが今、ローソンで売られています。一度買ってみてください。なぜかという映画の中で吉永さん演じる“てつさん”とおにぎりの場面があるのです。おにぎりが大変ありがたかったというところから物語が始まるのです。この“てつさん”は誰なのかという吉永さんのお祖母さんの名前です。吉永さんから、「祖母の名前でやらせてもらえないでしょうか」とお話がありました。「主人公と同じように貧しかったので、祖母をイメージして演じたい」ということだったのです。“てつさんは”実は吉永さんの発案で決まっていきました。映画というのはこんな風に少しずつ集めて作っていくのです。空想で作っている訳ではないのですが、それぞれの“いいな”と思うエピソードの組み立てた集まりなのです。

さきほど小泉理事長には映画の試写を見ていただいたそうですが、肝心なラストシーンだけは、まだ見ていないのだそうです。これでは先程の私の祖父のエピソードがまったく生きてこないのです。この映画の最後は泣ける話になっています。皆さん平等にエピソードを聞いていただきましたので、オーラスまで必ず見て行ってください。

それと音楽の話です。途中で戦争の悲惨なシーンや“戦争は大変だ”ばかりを描いても今の若者たちには、「もういいよ」となってしまうのでその部分を舞台の方へ持ってきました。舞台化した部分と実写の部分とを併用しながら進めていくことにしたのです。これはてつさんの記憶というか脳の中のイメージという意味合いもあります。もう70年も経ったことを、そんなに戦争、戦争と悲惨なことを取り上げて日本にとってあの戦争はやられてばかりの負け戦でありあまりおもしろくありません。そういうことを取り上げたかった訳ではあり

ませんから、そういう時代を生きた親子のことを堺正人君がやってくれています。それに出演者も篠原涼子さん、佐藤浩市さん、阿部寛さん、岸部一徳さんと思いどおりのキャスティングが組めております。吉永さんの120本目ということがあって、皆さん快く出演を承諾してくださいました。これはひとえに吉永さんの業界における人柄にもよるところがあります。ひとつのステータスという表現が合ってるかわかりませんが、吉永さんの120本やってきた中での努力とも違う心遣いや優しさ、姿勢があったからだと思います。

面白いのはその舞台のところで初めて音楽を付けたのです。その音楽を担当してくれた人がいます。小椋佳さんです。知っている人は知っていると思いますが「シクラメンのかほり」や美空ひばりさんの「愛燦燦」、梅沢富美雄さんの「夢芝居」などのいろいろな大作詞家であり大作曲家です。実はこの人が今回の音楽を全部担当してくれました。この人がどういう人かということ、今まで小椋さんに関しては話をしてこなかったのですが、ご自分でも話し始めたので、私からもお話ししていいのかなと思って少しお話しします。初めて話します。実は私が21歳のときに私のところにある音楽ディレクターが来たことがありました。「この曲を聴いてみて欲しい」と持ってきたのです。「曲数が足りないのですがLPとして売り出してみたいと思っている。聴いてみた感想を教えてください」ということでした。それに「顔が悪くてデビューが難しいかもしれないので協力して欲しい」とのことでした。曲を聴いてみると、すごく良い曲ばかりが何曲か入っていました。これは後に『青春』というLPで発売になりました。良い曲ばかりだったので、「この人をデビューさせるために協力したいと思うが何をすればいいのか」と聞いたところ、まずジャケット写真を私にして曲解のナレーションをして欲しいというのです。小椋さんの歌は小さくして私のナレーションを大きくして売り出すというので詐欺みたいな話ですが、それであればレコード会社のポリドールが了解してくれることになっていたのだそうです。小椋佳さんは当時、第一勧業銀行の銀行員でした。今のみずほ銀行ですね。彼はエリート行員でニューヨーク支店に赴任していたため会ったこともありませんでした。曲だけ聴いて非常に面白いなと思ったので、私は小さな詐欺事件に乗かってレコードを出しました。皆さんは私が歌っているものと上手く誤解してくれました。「歌が上手ですね」とよく言われますが、「僕は歌を歌わないようにしているんです」と言っていました。小椋さんは私よりキーが2つ上なので、何度か歌おうとしても歌うことができませんでした。キーを下げれば良いのですが、今のカラオケのようには当時うまくいかなかったのです。結局私は1回も歌わずに“黒子”として私が表面的に出ていました。どっ

ちが“黒子”だったのかよくわかりませんが、小椋さんの歌詞が次第にヒットしてきて、とうとうNHKホールで「小椋佳がベールを脱いで素顔が明らかに」ということになりました。「シクラメンのかほり」がヒットした後のことですが、彼自身が表に立てるようになって表裏が分離独立していくことができました。

今回私はこのことを一切話さずに映画の曲をお願いしました。「頼むね」とだけ言ったのですが以心伝心で、頭の良い彼は全部私の思いどおりに何でもやってくれました。今回は区切りとなる映画でもあるし、私自身が直接関わることも最後かもしれないと思ってお願いしたのですが、「だいたいの話はわかりました」と引き受けてくれたのでした。私が、「ちょっと会いたい」と言ったときには既に何曲か作っていて持って来てくれました。何の話も聞いていないし脚本も何も決まっていなかったもので、「どういうことですか」と聞いたら、「何かのテレパシーですね」と言っていました。この曲の歌詞は非常に面白くてびっくりしたのですが、桜の木を称える歌になっていて、撮影が大変だった吉永さんにとってはどこかご褒美のようなものになっていました。初めから作ってくれていたその曲を主題歌として使うことにしたのですが、映画の最後で良い感じが出てきますのでお聴きください。

それと、今回吉永さんが本を出されました。120本目を記念した映画にまつわる話を本にまとめたものです。何冊かと主題歌の入ったCDを持って来ますので感動された場合はお帰りの際にお求めください。利益になる話ではなく、皆さんに知っていただきたいと思って持ってきました。

今回小椋佳さんにやっていただいた曲のテーマは桜ですが、「桜は満月のときに満開になる」という話があります。必ずしも正しいとは言えませんが、月の引力とどこか関係があるのかもしれないという説があります。満開の桜は明るく見えるのでそう思ったのかもしれませんが、平安の前からずっとそういうことを思ってきたようです。しかし桜は不気味なものでもあります。西行さんが「願わくば 花の下にて 春死なん その望月の如月の頃」と詠んだように、旧暦2月（今の3月頃）に満月の日の桜のところで死にたいと願っていたことを和歌に残しています。太古の昔から、西暦500年頃の継体天皇の頃からの話もありますが、この話は長くなるので今回はやめておきます。

桜というものを日本人は非常に好きで、いろいろなことをしてきています。秋田にも有名所として角館などがあります。角館にもいると思うのですが全国に“桜守”と言われる人がおります。これは何なのかということですが、今、市や県に桜を長年枯らさずにすばらしい花を咲かせるように苦労して管理している専門の職員がいます。桜は勝手に咲いている訳ではなく、かなりの手当を

しているのです。映画の中でも吉永さんが手当てをする場面が出てきますが、傷ついた木が雨にあたって腐食しないように糊や墨汁を塗ったりして、桜を守っている人が全国の都道府県に結構いるのです。その人たちをテーマのひとつにしようとも思いました。映画のネタバレをしてしまうと最後の最後に吉永さんがこの桜守になっているんですね。それは何かというと、そういうきちんとした職業があって桜が守られてきているということを知って欲しいと思ったのです。前にも話しましたが桜の木の寿命は約50年と言われていています。種類によって違いはありますが、種や苗木で繋いでいくことはできます。子孫を残すという意味では人間と同じです。桜は山桜やソメイヨシノなどいろいろな種類があってそれぞれに子孫の残し方が違うので、桜守の皆さんは大変な苦勞をしています。その苦勞の話も盛り込みながら、全体としては吉永さん演じる母親と堺雅人さんの子供の2人の親子関係を通して戦後の日本史を語っていきたいと思ったのです。

少しだけ変な話をする、堺さんの台詞として話してもらったのですが、「24時間営業を良しとして人の倍働くこと」というのがあります。そうすると、「近ごろ労働基準監督所がうるさくて」という人が出てきます。「何を寝ぼけたことを言っているんだ。今は働かなくてはいけないんだ」と言うのですが、これは昭和40年代の日本の働き方です。今は「働き方改革」が取り上げられていますが、私はあまりこういう改革をすると日本はダメになって行くのではないかと思っている派なのです。そういう私の主張もちょこっとだけ盛り込みました。全体としては楽しんでいただいて、感動していただければと思っています。これまで自分で直接作った映画を持って来てノースアジア大学で講演をしてきたのですが、私も高齢になってきてやり方を変えることも必要かなと思っています。

今年は明治維新から150年目の年にあたりますが、北海道も命名150年になります。そこで北の地で何かイベントができないかなということになり、「キタデミー賞」を行いました。北のアカデミー賞のようなものですが映画界に関わらず北海道で頑張っている色々な人を表彰しました。高倉健さんが生きていたら怒ったと思いますが、主演男優賞はヒグマと高倉健さんでした。そういうふうにもろんなものを表彰していきました。その中には観光名所もありました。秋田県でも何かのイベントの時にそういうことができれば盛り上がるのではないかと思います。秋田県のいいところをアピールして世の中に発信していくことを大切にやっていくことが必要だと思います。観光などで潤っていないと働くだけが脳ではないけれど、働かなければだめだと思うし、

そのためには頭を使ってみんなで秋田県を盛り上げていきたいと思うのです。

最後になりますが、3月2日に今年も日本アカデミー賞を開催します。主演女優・男優賞を発表した後にこの賞の最高殊勲賞となる作品賞を私が発表します。夜の10時45分ごろになるかと思いますが、起きてご覧いただければと思います。一応、映画連盟の会長をしていますので私が発表することになっています。

皆さんとはまたお会いできれば大変に良いと思っておりますが、映画に関してはいろいろとお話をしましたが、政治や経済の話は極力やめてきました。こういう所でお話しすると問題発言になることが多いのでなるべく控えています。でも映画に関しては何をお話ししても大丈夫だと思っております。今テレビが少し停滞ぎみなのですが、映画が非常に盛り上がってきています。一時期はみんなテレビを見るようになって下火になっていた映画が、再び物凄い勢いで復活してきています。映画の良さをすごく理解していただいているのだと思います。我々はいつも言っているのですが、テレビ見ても良い、映画見ても良い、レストランに行っても良い、何をしていても良いので1日の中で、「今日はこれが良かった」と思えるものが一人ひとりに1個あれば幸せなのではないかと思えます。そういう人生を送っていきたく、皆さんにもそういうことがあれば良いなと思っております。

本日はどうもありがとうございました。またお会いする機会があればと思います。ありがとうございました。

五十嵐 岡田先生ありがとうございました。1895年のリュミエール兄弟の発明以来の映画の形が問われておりますが、そんな歴史のなか日本の映画界をけん引されてきた東映映画の熱い熱い思いが強く伝わってきました。本日は誠にありがとうございました。

〔講 演〕

ノースアジア大学 総合研究センター主催 講演会

「これでいいのか日本の政治」

講師 読売新聞特別編集委員
ノースアジア大学 教育諮問会議委員
ノースアジア大学 総合研究センター客員教授 橋 本 五 郎

司会 ノースアジア大学総合研究センター長
本学経済学部教授 藤 本 剛

日時 平成30年7月8日 午後1時30分～3時00分

会場 ノースアジア大学 40周年記念館271教場

藤 本 皆様、本日はようこそお出で下さいました。橋本先生は2010年から毎年この時期にお出でいただき、中央のリアルで新鮮なお話を伺えると同時に、秋田の私たちが何をしなければいけないかについて示唆に富んだご講演をお聞かせ下さっております。本日のお話も大変楽しみにしております。本日は「これでいいのか日本の政治」をテーマにお話し下さいます。皆様、最後までご清聴のほどよろしくお願いいたします。それでは橋本先生よろしくお願いいたします。

橋 本 みなさん、こんにちは。玉置宏さんの名調子は「1週間ぶりのごぶさたです」ですが、私は1年のごぶさたです。

ついこの1週間の間にもいろいろなことがありました。大雨による水害は大変な状況です。雨が降る度に、「今まで経験したことがない」ということが毎回言われていました。それからついにオウム事件の麻原彰晃、本名松本智津夫死刑囚の死刑が執行されました。日本の場合は本人たちには事前にその日の朝に言うというのが慣例となっています。もちろん家族や関係者には事前に知られることは無いと思います。ただ今回は一か所で何人も執行できないので、死刑囚はいくつかの拘置所に移送されました。このことでこれは死刑執行が近いのではないかということが、関係者の間では予想されていました。執行には法務大臣が判子を押さなければいけなくて、普通は月曜日に決めてそして5日以内に執行されることになっています。それで大体は木曜日か金曜日に行われることになっているようなのです。今回の場合は、発表されてみると意外な感じがあるのですが、かなりの事情を知っていた関係者の間では予期されたものでした。日本の場合は死刑制度があります。ヨーロッパではほとんどの国が死刑制度をなくしているようなところがあります。死刑廃止論の考えからすると死刑は野蛮だということです。人権無視だということで反対論の方が段々多くなってきている感じです。実は私は死刑廃止には反対でした。というのは菊池寛という人が『ある抗議書』という短篇を書いています。これはちくま書房の文庫にも入っているのですが、読んだときにこれだなと思いました。この抗議書は誰に対してかということ司法大臣閣下に対してです。司法大臣とは今でいう法務大臣のことです。この話は両親が無残な殺され方をされて、その殺した犯人は他にも何人も殺しているという実際にあった事件のことを題材にしています。なかなか犯人が捕まらなくて悶々としているところに、とうとう犯人が捕まってやっと浮かばれると思います。そして当然に犯人は死刑判決になります。それでほっとしたわけではないのですが、しかし一区切りついたなと思っていました。ところが彼はその犯人が死刑を執行さ

れた後の新聞記事を読んで驚いたのです。というのはその犯人が教誨師に従ってキリスト教の信者になっていて、自分の罪を悔い改めて喜んで死んで行ったという記事だったからです。彼はこの記事を読んで、「何だ」という気持ちになるのです。だって殺された人間はどうして殺されたのか分からないような無残な死に方をしていったのに、殺した人間が幸せを感じて死んでいくというような馬鹿なことがあるかというので、司法大臣に抗議書を突きつけるのです。

これはかなり本質的なことだと思います。なぜ死刑制度があるのか、なぜ裁判というものがあるのかということです。また、そういうものがきちんとしていなければどうなるかという、殺された側が今度報復します。報復すれば今度反対側のその子供が報復します。そういうことがずっと永遠に続いていってしまいます。こういうことではいけないということで、公的な裁判という形でお互いに弁護士と検事が真実を解明するという名のもとにやることによって、報復する連鎖をそこで断ち切って公のところで裁いてもらいましょうという話なんですね。しかし罪を犯して死んでいく人間も一人の人間な訳です。特に日本は死んだ人はみんな仏様になるというところがありますが、中国や韓国は違います。死んだ後でも罪がばれると墓を掘り出して頭蓋骨に短刀を突きつけたりします。日本にはそういうことがなくて“死ぬとみんな仏様”という感じがあります。それもこれも“公な所で裁かれたのだからみんなそれに従いましょうよ。そうでなければ永遠に報復が繰り返されますよ”ということからきているのです。そうであるならば、私は人の命を理不尽に奪った人はそれなりに報いることがなければならぬと思います。私はかならずしも死刑制度があれば殺人事件が予防できるとは決して思わないです。しかし“殺された人の身になってみろ”ということだと私は思います。だから私は死刑制度が必要だと思います。もちろん冤罪という問題もあります。いくつもそういうことはあって冤罪は無くしていかなければなりません、人が人を裁くのだからおのずと限界もあります。限界もあるけれど死刑だって殺害したのが1人だけなら死刑になりません。複数でなければならぬそうです。これも私はすごくおかしいと思いますがそうになっています。

もうひとつの問題は、今度の場合は死刑が確定してから執行までかなりの月日を経ちました。逆にすぐ執行しなければいつ執行されるのかという状況がずっと続いて、この方が裁かれる人間にとってはもっときついと思います。それに死刑と無期懲役についてどちらが重い刑罰かということです。これは吉村昭さんが書いていますが、どちらの方がむごい刑罰かということです。ひょっとしたら無期懲役の方がむごいかもしれません。というのは、最近は無期懲役

といってもずっと一生刑務所にいなければならないのではないケースが多いのですが、判決が出て無期懲役と死刑になった人では、裁きが決まってからのその後の生活態度が全然違うそうです。無期懲役になった人はいつまでたっても緊張した毎日ではなくて、死刑になった人は残された時間をどうするか考えるようになって緊張するというのです。だからむしろ無期懲役の方がむごいのかもかもしれません。ということ吉村さんは書いています。ここはなかなか難しいところですが、私はやはり犯した罪は自が償わなければならないと固く信じています。当然ながら私がそういう状況になったら、それにきちんと従わなければいけないと思っています。

今度の場合はいろいろな意味で死刑の問題について考える契機になりうると思います。と同時に今度のオウム事件で私が一番衝撃的だったのは、みんなが大変な思いをして戦後復興を頑張っていて豊かになった日本の陰で何があったのかということです。山梨県の一角で、ある意味で国家転覆とも言える“国家の中の国家”を作っていたのです。なんとか省というのをたくさん作って、サリンを作ってむしろ殺人も許される国家です。それが我々の知らないところで行われていたことに気が付かなかったのです。サリン事件は3月に起きるのですが、読売新聞は元旦の新聞でそのことをスクープしていました。しかしなんと本本当のことと思えませんでした。だからあの事件が起きたときに本当に驚きました。オウムはソ連からサリンを手に入れたりして計画的に進めていたのです。しかも本来ならばエリートになってもいいような理科系の極めて優秀な人たちが、麻原を信じてやっていたという恐ろしさです。ひょっとしたら今この瞬間もどこかで何かがあるんじゃないかということを思い起こさせるような事件です。当然ながらこういうことを生んだ背景を、もっと考えなければならないと思います。なぜ彼らを犯罪に走らせたのかを考えなければならないという議論になっています。そうなっているんですが、私はそれにも異議があります。「社会がどうだ」というようなそんなことが犯罪の理由になるかと思うのです。どんな国家であれ社会であれ殺人が許されるはずがありません。

私は秋田高校の130周年のときに頼まれて講演をしました。そうしたら女生徒から、「殺人はなぜいけないのでしょうか」と質問されました。教員を対象とした日教組の教研集会のときにもある先生から、「“人を殺してなぜ悪いか”ということを生徒に質問されて答えられなかった」という報告がありました。それに対して藤原正彦さんは、「ダメなものはダメだと言えばいい」と『国家の品格』という本で書いていました。私はそう言っても生徒は分からないと思うのです。私は秋田高校の女生徒に、「私は自分が理不尽に殺されたくない。

自分の命を人に奪われたくありません。だったら人の命も奪うなということです。自分がやられて嫌なことは、他の人にもダメだということです」と簡単に答えました。話は簡単なのです。これで十分だと思います。答えられないのはどうかと思います。“殺す方にも理由がある”というような考え方はおかしいです。ということで、今日は一番ホットな話題から始めましたが、依然として光の輪やアレフといった後継団体があります。あまりいい役ではないのですが、私はそれを取り締まる公安審査委員の仕事を4年間やりました。その後どうなっているのかを確認するのですが、依然としてまだ麻原を信仰している人たちがいます。今日の新聞にも載っていましたが、遺体を誰が引き取るのかということは四女に決まりました。麻原を信仰している人間の手に渡った場合、信仰対象の神様になってしまっただけで危険です。そういうせめぎあいがありました。そこでそうさせないためにマインドコントロールから解きはなたれている四女に引き取ってもらうように司法当局が考えていたようです。死刑執行をする前に麻原本人に聞いて、四女でいいということを確認して引き取り先になったのです。神様化して祀り上げられることはある程度はあるかもしれませんが防げたと思います。しかし体が浮くということだけで神秘的になってしまうのかもしれないかもしれません。青森のイタコが亡くなった人を生き返らせたり、その人の口調で話すようなことがどういうメカニズムになっているのか分かりませんが、神秘的なことは確かにあって合理的にだけ考えることはなかなかできないと思いますが、カルト集団がああいう形で殺人集団になっていくのは本当に衝撃的でした。それを必死になって止める家族と八王子でも争いがあったりしましたが、自分の心の内部に不安を抱えていたりすれば、忍び寄って付け込まれたりすることが当然起きたりしてしまうということだと思います。死刑は執行されましたが、オウム事件というものが決して終わったものではないと思います。これからは形を変えていろいろなことが出てくるかもしれないと思います。

この頃は母親が自分の生んだ我が子を虐待するという事件が相次いで起きています。私もいろいろな施設に行きましたが、ああいったことは繰り返されるものようです。我が子を虐待する母親は自分も虐待された経験があることが結構多いのです。そういうことが繋がっているのです。自分が産んだ子を自分が虐待するなんて、と誰もが考えます。この間も幼い子が虐待される事件がありました。幼い子が親に正視することができないような虐待を受けていました。それは自分も同じようなことをされていたことがあるからです。この問題の原因はどこにあるのかということになるとと思います。人ごとのように言うのではなく、親の教育なのではないかと思ってしまう。日本は豊かだと

いっても、みんなそれぞれに内部に抱えている大変なものがあるのだなとつくづく考えさせられます。

さて、そういう中で昨年の今頃もここで国際政治についてお話をしましたけれども、違ってきたのは北朝鮮を取り巻く状況です。私がいつも思うのは、みんな物事をすぐに解決できるかのように思っただけだということです。物事を進めるには時間がかかるということです。トランプもすぐノーベル賞なんて言っていますが、何がノーベル賞だと思います。と言うのは金大中が平壤に行って金正日と南北首脳会談を実現してノーベル賞をもらったのですが、その後はどうなったのか。物理学賞や化学賞などははっきりしていて分かりやすいのですが平和賞はどうでしょうか。オバマ大統領の「核なき世界」は大統領に就任してすぐに、「核なき世界にしましょう」とプラハ演説をしました。ただ喋っただけでノーベル賞です。それで何をやったかというのです。それで核弾頭が減ったのかと言えば、数で言ったらブッシュ大統領のときの方が減っています。喋るだけなら誰でもできます。喋っただけで賞を出しているのです。平和賞はいい加減な感じがしてしまうのです。トランプが今回も同じように喋っただけで平和賞を狙うなどというのは何事かというのです。これは秋田県も北朝鮮からミサイルが飛んでくるかもしれないので関係のある話です。ただその危険は米朝会談が行われて、少し減ったということだけは言える訳でプラスになりました。でもプラスになっただけで、すぐに解決できるかのように思っただけなのです。去年、安倍晋三首相は“大儀なき解散”と言われながら選挙を行いました。おかしい、何のために選挙をするんだと言われました。あのときに非常に大きかったのはモリカケ問題です。「いい加減にしてくれ」と早くこのことから逃れたい気持ちがあったのは確かだと思います。もう一つ大きかったのは年末年始あたりにアメリカが北朝鮮を攻撃する可能性があったということです。北朝鮮がアメリカを攻撃することはまずありませんでした。なぜ無いかと言うと、そんなことをすると北朝鮮はアメリカに必ずやられて、その時点でもう北朝鮮という国家が無くなるからです。北朝鮮が攻撃されると韓国にもその分だけ犠牲はあります。だから北朝鮮にはそういう選択肢は絶対にありませんでした。しかしアメリカが北朝鮮を攻撃することはありえました。平壤だけとか核施設だけという攻撃の可能性が多いにあると見たのです。そうするともう選挙どころではありません。今ならまだ、年末の少し前ならば野党もバラバラだしやるなら今しかないと思ったのです。その後小池人気がくるのですが、50議席くらい減るのは覚悟の上で解散をしました。かなりの確率でアメリカのトランプならば北朝鮮攻撃をやりかねないという状況にあったのです。米朝の会

談がありました。今まではテレビや談話で激しいことを言い合っても、トップ同士が直接会って話すのは意味が違います。あのようシンガポールで会って約束したということはなかなか反故にできません。だから戦争の危機はひとまず去ったと思います。けれども問題は何か一つ解決されたわけではありません。これは時間がかかる問題です。国務長官が引き続き交渉をしていますが、これは辛抱強くやっていくしかありません。ただし交渉している間は戦争にはならないと考えることもできます。一方で、北朝鮮がずるずると先延ばしにして核・ミサイルの完成度をもっと上げようとすることも十分考えられます。なかなか難しいところですが、あんまり短兵急に何か解決するとは思わない方がいいです。

つくづく色々反省されます。今度のサッカーの大会だで行く前はあれほど悪口を言いながら、彼らも言っていました、「行くときは100人か200人くらいしかいなかったが、戻ってきたときは何万人も成田空港に来た。こうも違うものか」というのです。だからあまり短い単位で物を考えるべきではないなという感じがします。

さて、日本の政治はどうなっていくかかということ。7月22日で今の国会がおしまいになります。今回は32日間延長しました。国会には通常国会、臨時国会、特別国会の3つがあります。通常国会というのは150日間毎年1回必ず開かなければなりません。大事な予算案や予算関係に法案について話し合っただいたい1月末に開かれます。会期が長いので延長は1回しかできません。臨時国会は何度でも延長できます。30日間と決めて開催してもなかなか法案が通らなかつたりした場合は延長が可能です。それでも決まらないときはまた延長することができます。特別国会というのは衆議院議員選挙に関係します。普通は解散をして選挙をします。解散とは今の国会議員の人たちの首を切って議員でなくすることです。だから衆議院議員選挙の後に、新しく選ばれた人たちが最初に議長を決めたり、いろいろなことを決めたりするのが特別国会です。今回の通常国会は6月20日までだったのを7月22日までの32日間延長しました。なぜ延長になったかということ、今回の国会が何のためのものだったかということ、働き方改革やカジノをつくる法案などを通すために審議をしていたのですが、モリカケ問題のことがあってストップして時間が足りなくなって32日間の延長となりました。そうするとどうということになるかと言えば、9月に自民党の総裁選挙があります。自民党の総裁というのは1期3年で2期までしか務められないことになっています。今の安倍晋三は今から5年9ヵ月くらい前に自民党の総裁に選ばれて総理になっているので、今年の9月

で丸々2期6年になります。そうすると総裁選挙が行われます。今度の安倍さんの場合は昨年の3月に今までの1期3年、2期だったのを、3期6年までという改正されました。3期9年までできるようになったのです。そすると9月の総裁選挙では当然ながら安倍晋三は確実に手を上げます。他の人はどうかというと、もう一人確実に手を上げる人がいます。石破さんです。どんなことがあっても出ます。そのために閣僚を辞めたのです。それから総務大臣の野田聖子さんも出ると言っています。大臣を任命されたときに、「来年9月の総裁選挙に出ます」と安倍晋三に宣言しています。それから岸田さんという政調会長は長く外務大臣をやっていたのですが、今度総裁選挙があるからともう少し自由なところに行こうということで政調会長になりました。だけど、どうしたらいいかまだ悩んでいます。岸田派のなかにもいろいろな意見の人がいて決められずにいます。問題は6月20日に国会が終わったら9月の選挙に向けて飛び出すことができたのに、閣僚であることによって、外務大臣であることによって、それから自民党の政調会長であることによってなかなか身動きがとれません。まだ法案が通っていないのに自分のことだけを考えて、「さあ、今度総裁選挙に出ます」なんてことをすればかえってマイナスになるので言えず、自重しているのです。だから7月22日がくるのをじっと待っているというわけです。そういう中で安倍晋三は結構いろいろな地方に行っています。この前も埼玉の鉄道博物館に行っています。鉄道にそんなに安倍が興味があったのかというとそうではなくて、石破が鉄道マニアだからなのです。日本の政界の鉄道マニアの鉄ちゃんと言えば右に石破、左に前原誠司です。この2人が双璧です。鉄道ファンにとって夜行列車は郷愁を呼ぶところがあります。石破は夜行列車に乗るのが好きなのです。地方に行くときに夜行列車に乗れば何かプラスがあります。例えば秋田に来るときに夜行列車に乗ったとします。今は無くなりましたので有るとしての話ですが、夜行列車に乗るために夜遅くまでいることになるわけです。それまでの時間をどうしているかといえば、ご飯を食べたりしながら秋田の人たちと会うことができるのです。これが大きいのです。普通は大臣も党三役も忙しいので、ちょこちょこっと話してすぐに東京に戻ります。ところが石破だけは残っているのです。そうすると地元の方は石破と食事をしたことがある人はいても、他の人は遠くから見るだけしかいない人たちです。そうすると選挙になると、一緒に食事をしたことのあるのは石破だけです。石破の名前を書くようになります。5年前の自民党総裁選挙で石破が安倍晋三の倍近い票を獲っています。圧倒的に地方票は強かったのですが、半数を取れなかったので自民党の総裁選規定では総裁にはなれませんでした。半分以上獲得

の人がいなければ1位と2位の決選投票になります。これは主に国会議員が投票しますが、石破は国会議員になるとまったく弱くなるのです。なぜ弱いかと言うと石破は自民党が一番大変なときに自民党から出て行って、良くなってから戻って来たという過去があるからです。小池百合子も同じようなことをしているので、森喜朗に嫌われるのです。嫌われるのは理由があるのです。石破派は20人くらいしかいません。国会議員の選挙ではだめなんです。その分だけどうしようかという徹底的に地方を回って1回目で勝負をつけようとしています。自分が過半数を獲ってしまえば決選投票はありませんが、できませんでした。前の選挙でなぜ石破が1位の票を獲ったかと言えばそれは夜行列車のおかげなんです。どうなるか分からないものです。だから安倍晋三は埼玉の鉄道博物館に行って鉄道ファンの人たちにそんなことは言ってはいませんが、「私だって鉄道に興味を持っているのだ」とアピールして少しでも石破の票を減らそうとしています。つまらない政治をしていると思うかもしれませんが、結構これが大事なことなんです。鉄道や夜行列車がどうのこうのではなくて、やはり地方の人たちのことを考えていますよ、親しく話しましたよという日頃の活動が大事なのです。そういう意味では比較的自由な立場にあるのがポストに就いていない石破なのですが、問題はポストについていないから、石破がマスコミに取り上げられるのは安倍の悪口を言った部分だけなのです。そうすると自民党内でどう見られるか、秋田弁で言うと“文句くしゃ”で“何にでも文句ばかり言っている人”だと思われる可能性があります。この前“五郎の家(え)”で秋田放送の特番のため石破と壇蜜と私の3人で対談をしました。「移住・定住」をテーマにした2時間番組で、囲炉裏を囲みながら3人で話をしました。収録が終わって東京に戻る最終便の飛行機で、石破と席が隣同士になりました。大学の後輩なので、「あんなに文句ばかり言うと嫌われるぞ。そういうときの物の言い方を考えなければいけない。“日本はこういうでなければいけない”などと言いながら“今の安倍はだめだ”という具合に言わなければいけない」と言いました。

それから、「年寄りを大事にしなければならない」という話もしました。今自民党の長老議員たちには力を持っている人たちがたくさんいます。山崎拓は議員を辞めても依然として力を持っています。それから古賀誠もそうです。岸田さんのところには古賀誠がいて、古賀さんの方が力を持っています。やはり議員ではありませんが青木幹雄という人は竹下派で一番力を持っています。この人たちは議員でなくても政治を動かしたいと思っています。だから人が挨拶に来るということはとてもうれしいものです。そこに行くにはお金は車代くら

いしかかかりません。ちょっと行って、「お知恵をお借りしに来ました」と言えば、「よく来たな」となってそれが新聞に載ったりするのです。そうすると来られた方も自分が何か注目されているような錯覚を覚えるのです。そういうことには何もお金がかかりません。その話を石破にしたのが土曜日でした。そうしたら月曜日に二階幹事長のところに行ったのです。自分が弱いところは国会議員票なのだから、そういうところも結構大事なのです。

野田聖子さんにも動きがあります。“日本で最初の女性の総理大臣になるか”などとは誰も言っていませんがこの人も難しい立場です。彼女は今、安倍内閣の下での総務大臣です。総裁選挙に立候補するとはどういうことでしょうか。安倍がだめだから立つ、ということになります。何がだめなのでしょう。政策が悪いのかアベノミクスが悪いのかやり方が悪いから立つということになります。そうすると大臣でいることは変ではないでしょうか。自分を大臣に選んだ総理に対抗して、総裁選に立つというのはどう考えてもおかしいです。大臣は辞めざるをえませんね。その手前で決断をしなければなりません。ところが最初から総裁選挙に立つことを条件にして総務大臣になったということは、どういうことでしょうか。これはとても変な話です。どこかできちんとけじめをつけなければならぬということです。それから女性たちを集めて「女性塾」をやっています。それについても疑問があります。

サッチャーさんはイギリスで初の女性首相になった方です。そのとき、「イギリスの憲政史上初めての女性首相」と言われて、「私は女性だから首相になったのではありません。首相になった人間がたまたま女性だったのです。それだけのことです」と憤然として答えました。私はそういう気概がなくてはどうするんだということだと思います。そこに限界を感ずるのです。だからきちんとけじめをつけることです。それからもうひとつ国全体のことはどうするのか、ということ。アベノミクスは良いのか悪いのかということについては、かなりうまく立ち回っていて良いとも悪いとも言っていません。「アベノミクスの役割は終わった」と言って評価しているようでもありますが、もういらぬという評価しているともとれるのです。「アベノミクスの役割は終わった」というのは面白い言い方で、取りようによっては“安倍の役割は終わった”ということにもつながります。であれば、その首相の下で大臣をやっているのはますますおかしいです。身の処し方がとても難しいです。しかも残された時間は7月22日から9月の総裁選挙まであと1カ月ちょっとしかなくなっています。さっき話したように岸田政調会長は出るべきか出ざるべきかと、ハムレットのような心境になっています。出来ることなら安倍晋三が、「自分が辞めて次は

岸田でいいよ」と言ってくれることを期待しています。しかし、世の中はそんなにうまくはいかないです。戦い獲らなければならない。“政治的な死”といっても別に殺されるわけではありません。徹底的に戦わない人間はだめです。例えば橋本龍太郎という人がいました。田中派で圧倒的な力を持って総裁選に名乗りをあげました。河野洋平という人が外務大臣でした。この人も“出る”と手を上げていましたが敵わないと思って出ることをやめました。こうなるともうだめです。「負けるのが分かっていたから出られなかった」と言ってやめたので次のときにまた手を上げて人も、「この人はわからないぞ」となって人が付いて行きません。敗れてもいいから戦わなければなりません。ここが大事です。そんなのは無理だとわかっているけど徹底的に戦わなければなりません。ここが大事なのです。「そんなのは無理だと分かっているけど、私は違うのだと手を上げた」となると、「負けるのを分かっているけどよく頑張った」と評価されて次は浮かぶわけです。自民党の総裁で総理大臣になれなかった人が2人います。それは河野洋平と自転車で転んで今リハビリをやっている谷垣禎一で、ふたりとも同じ派閥の宏池会です。池田勇人以来のお公家集団でお利巧さんばかりでなかなか戦わない派閥です。池田勇人が創業者で次が前尾繁三郎、大平正芳、鈴木善幸、宮澤喜一で、その後は分裂してしまいました。麻生のところも谷垣のところも分裂して、今は岸田が代表です。DNAというか引き継いでいる血というのは争えないわけで、岸田も戦う覚悟は決めないとなかなか物事は開かないのではないかと思います。そうすると一体9月の総裁選挙はどうなるかを考えてみると、安倍の続投という雰囲気になってきています。これにはいろいろな要素があってモリカケは依然として残っているにしても、北朝鮮情勢がどうなるかということです。でも一進一退です。さらに拉致問題がどうなるかがあります。これは安倍内閣にしか解決できないと言ってきたわけですが、全く進んでいません。進まなければ逆に批判の対象になりかねません。でも少しでも動いたら安倍にとってはプラスになります。プラスになるからやるのではなくて、もう拉致被害者の家族はご高齢になって大変苦しい思いをしています。でもなかなか難しいのです。何が難しいかということ、今の金正恩時代にやったことではなくて父親時代にやったことだから直接自分に責任がないと言われます。それにもう5人を帰していますから、彼らから見るとあれで問題は解決していることになっています。彼らから見れば「帰したことで終わったはずなのに、また蒸し返してきた」ということになります。日本から見るとほんの一部が帰ってきただけで、そうではない人が大勢います。ところが北朝鮮は骨にしても違う物だったりして辻褃を合わせるために引き延ばしをしてい

るようにも見えます。こうなると実際にはどれだけのカードがあるのかということ。一番象徴的なのは横田めぐみさんです。なかなか大変で進みません。一応は米朝会談でトランプが後押ししていますが、考えてみると日本の拉致問題はアメリカには二次的問題で米朝で話すことではないです。本来は核の問題なのです。それでもトランプは話して日朝の会談についても金正恩は決して拒否をしなかったようです。そこまでやってくれたわけですから、今が最後のチャンスだと思ってやらなければならないと思います。そのことについても国民が、「なんだ、何もできないじゃないか」と思われたら安倍晋三にとってはマイナスです。それから一番内閣支持率などに響くのはスキャンダルです。お金の問題や女性問題です。最近では女性議員の男性問題もあります。それから失言です。麻生が一番心配です。余計なことを言います。「セクハラ罪という罪はない」と余計なことを言いましたが、今はセクハラに罪名があるかないかの話ではないのです。ここを理解していません。ところがしょっちゅう失言しているとあんまり問題にしなくなってしまいます。「またか」となって本来は何回クビになってもおかしくないのにしょっちゅう失言を喋っていると、「そういうものだ」となります。これを得な性分というのかどうかは分かりません。問題なのは麻生ですが、しょっちゅう問題になることで我々も免疫になってしまったということもあるのかも知れません。

私はこれも総裁選に影響があると思っているのですが、正攻法でやることも大切だと思っています。自分は日本をこういう国にしたいんだというのがあるはず。本来ならば石破は鳥取の出身なのだから地方を大切にするという、それ一点においては安倍に対抗できると私は思っています。新幹線で回るのが一番遠いのは4時間近くかかる秋田です。青森は3時間半で金沢は2時間半で行けます。新幹線がなくて一番遠いのが鳥取、島根なのです。しかし島根には出雲大社という神様がいます。悪く言うわけではありませんが、鳥取には何があるのかということです。前にも話しましたが47都道府県で最後まで鳥取県にスタバックスコービーができませんでした。去年の5月でしたか47番目によくスタバができましたが、鳥取の若者たちは肩身の狭い思いをしていました。「スタバもないのかよ」と言う感じでしたが、平井鳥取県知事が、「スタバはないけど砂場はある」と言って全国区で話題になりました。鳥取砂丘があるのですから。その後のことですが、とうとう鳥取にもスタバができました。地方はいろいろな問題を抱えています。秋田は100万人を割ったとニュースになっていますが、島根や鳥取はそれどころではなく選挙区割りでも問題が起きています。普通は最低限で一つの県の中で選挙区を1つにするか2つにするか

と話し合われるところですよ。ところがそうではなくて隣の県の鳥取と島根が一緒になって一つの選挙区にするくらい大変なことになっています。だから今は東京に出て来ている石破ですが幼少期を過ごした鳥取の人たちの、「安倍は冷たい」という地方の声を背景にして戦うことができます。だけど地方創生大臣を辞めてしまった。その方が自由に動けて政権構想が描けると考えたようですが、そんなことはありません。政権構想なんて30分あればできます。なぜ辞めなければならなかったのか私はよくわかりません。ということで、いったい何を旗印にしていくのかということですよ。

安倍は女性に嫌われていて支持率が男性に比べて10数%低いんです。それは分からないわけではありません。安倍を支持しているのは若い右寄りの人たちですよ。なぜ女性に嫌われるかということですが、私の高校の同級生たちと飲んだときに、なぜ女性は安倍総理を嫌いなのかを聞いてみました。私の高校の同級生たちは一学年550人くらいいて50くらいが女性でした。答えた彼女は上手く言いました。一つ目は“教養がない”というのです。えっと思いました。私は随分たくさん総理大臣を見てきましたが、大平総理や中曽根総理の教養は桁が違いますが安倍晋三も良く勉強しているし、経済や安保・防衛について結構ものを知っています。そう言うと、「そういうことではなくて小説を読んでいるとか、そういうふくよかな教養がない」というのです。言われてみればその通りだと思いました。二つ目は“国会答弁が誠実でない”そうです。いつもはぐらかしているというのです。私たちの様に長年政治記者をしていると、はぐらかすのもひとつの答弁術でまともに答えていればいいというものでもないと思ってそう言ったら彼女は、「いいんです。ボコボコに叩かれてもいいからこの人は一生懸命に答えているんだなということがわかれば応援するんです」と言うのです。なるほど、それもその通りだと思いました。三つ目は“滑舌が悪くて聞きづらい”というのです。それに対しても私は疑問があります。国会答弁もいつもちゃんと紙を見ないで答えています。だけど女性の耳にとってはすごく嫌な感じなのかもしれないですね。この3点については本人に言わなければいけないと思うのですが、失礼になるかなと躊躇していました。この間『五郎ワールド』という私のコラムで書くことにしたのですが、総理大臣を捉まえて教養がないとは書けません。それで国会答弁のところだけ書きました。誠実に真っ向からちゃんと答えれば良いということを書きました。なぜそういうことを書いたかということ、やはり正直ではないと思われているからです。何十年もの親友が新しい学部を作ろうとしているのに一度も話を聞かなかったなんておかしな話です。誰が考えても変じゃないですか。とにかく防御するために普通

の人から見ればどう考えてもおかしいことをずっとしてきました。私は正直さがないということだと思います。正直であるということが一番強いのです。加計の問題だってなぜ特区制度をやるかを考えてみればわかります。特区というのは今の制度ではだめと言われているけれど、特別にこの地域だけはやってみて様子を見ようという制度です。例えば、どぶろくは作ってはいけませんがこの地域だけはやってみようとしているのが特区制度です。獣医学部で獣医師になるための学部は今まで50年間新設を認められませんでした。なぜかというのは、はっきりしています。獣医学部を作ると獣医師が増えます。全体の仕事量が同じだとすると人が増えれば今までの獣医の分け前が減ります。今は鳥インフルエンザなどの問題があって獣医を増やさなければならぬので増やそうと文部科学省に申請するのですが、これまで50年間新設を認めていません。これではとてもじゃないけれど規制突破できません。これを岩盤規制と言います。岩の様に立ちはだかつて認めないというものです。こういうのを止めるためにどうするかと言うと、文科省ではなくて内閣府が国家特区として国を挙げてやっていくものにしてしまうのです。文部行政ではなく国の方針として内閣で閣議として決めてしまうわけです。獣医学部を創ることをそうやって決めました。閣議で決めたことですから、ここまでは何もおかしくはありません。そうでなければガチガチになって先に進まないと思って作った制度です。ところがこれに誰が申請してきたのかというのが問題なのです。申請してきたのは加計学園で、理事長は安倍総理の親友です。その時点で特区制度は内閣の方針として決めたのだからやらなければなりません。しかし問題は私の親友が申請してきたことです。「皆さん、一切忖度をしてはいけません。私の親友だからと言って認めるなんていうことはしてはなりません。厳正にちゃんと審査をしてやってください」と最初にそう言っていれば良かったのです。そうやって宣言しておけば何の問題にもなりません。そう言われても実際には忖度すると思います。担当者は頭にあってちょっと意識をすることはと思いますが、するけれども宣言しておけば良かったのです。加計からお金を貰っていたわけでもありません。

森友にいたってはお金を貰うどころか昭恵の方からお金を渡したという逆のことが問題になっています。お金を渡して文句を言われてどうするのだという話です。あの100万円の問題ですが、安倍からかかって来た電話では、「絶対に渡していない。ちゃんと昭恵にきいたけれども、一切渡していないと否定している」ということでした。しかしひょっとしてこういうことがあったことがあったのではないかと調べたことがあったそうです。それは森友学園に講演に

行ったときに、謝礼の封筒を渡されたのではないかというのです。昭恵はそれの中身を一切見ないで、「これはいただけません」と返した物に100万円が入っていて、相手方からそれを貰ったと言われているのではないかというのです。総理大臣夫人が100万円を包んできた、となるととそれだけ肩入れしているのだという宣伝材料になります。そう捉えたのではないかというのです。そう思ったので調べたそうです。どうやって調べるかというのと、そういう渡される場面があったかどうかを調べたのです。だいたいお付きの人が一緒にいます。そういう人たちみんなに聞いたわけです。でも、そういう場面はなかった。だから自信をもって渡していないと言えるのだということです。籠池は後で100万円を返すと言って家まで行ったりしたのですが、上と下だけお札で途中は紙だったと言う話もあってほとんど喜劇のようなものです。

この問題は本当は簡単な話なのです。改ざんのことも後で出てくるのですが、最初のところは分かりやすい話なのです。後からゴミが出てきたのです。最初の契約価格のときにはゴミなんてなかったのですから、ゴミが出て来てどうしてくれるのだと言ってきます。それはもう脅しです。だから8億円の値引きというのは必ずしも不合理な値引きではないとも言えるんですね。正直言って8億円を差っ引いても早く売ってしまいたかった土地なのです。ところが今度それに辻褃を合わせるためにいろいろなことをして、改ざんまでしてしまったのが問題なのです。最初の間違いがああいう形になってしまったのです。初めから正直に言えばよかったです。「実はゴミがあるとは何も思っていなかったのです。実際ゴミが出たので半減どころの話ではない。しかも何度も私たちは脅されたのです。だから早くこの件の決着をつけたかったのです。そうやってみると8億円の値引きは我々の間ではそんなにひどい値引きだとは思っていませんでした」ということを最初に言ってしまうと、これだけの大きな問題にはならなかったのです。それに合わせるために次から次に何度も改ざんして辻褃を合わせてしまったのです。改ざん問題は何ら本質的なところではないわけです。そもそも一番大事なところが手直しされているかと言うとそうではない話で、政治家や総理大臣夫人の名前が出てくるところを削ったことによって、逆に正直でなかったという証拠になってしまうかもしれません。余計なことをやって、最初の嘘や正直にやらなかったことが後から取り返しの付かないことになるという標本のような話です。それで1年半以上にわたってこういう状況になっています。間違ったときは最初から謝るということをしなければなりません。結構学ぶことも多い問題です。

私はこの10数年間、内閣ができると読売新聞に“内閣総理大臣宛ての手紙”

というのを書いています。5年以上前に安倍が総理に返り咲いたときには「非情の宰相であれ」と書きました。情け容赦ない宰相だということです。優しすぎて人のクビを切ることができないので、かえって多くの人を不幸せにしますよということです。例えば防衛大臣の稲田については早い段階でクビを切らなければならなかったのですが切れません。そうすると傷がどんどん深くなっていくのです。リーダーにとっては優しいことは何も良いことではないのです。憎まれてはいけませんが、君子は恐れられなければいけないのです。5年半前の危惧がその通りになりました。2番目に書いたのは、「長期政権を考えるな」ということです。これはその1年後に書きました。今まで長期政権になろうと思って長期政権になったためしはありません。先のことばかりを考えていると足元が見えなくなります。それから長くやっていると緩みが生じて傲慢になります。何も良いことはありません。例えば戦後一番長かった佐藤栄作政権は7年8ヵ月でしたが、こんなに長くなるとは誰も思っていなかった。ところが彼にとっては幸運というか、次から次にライバルが死んでいったのです。河野一郎、大野伴睦といったライバルが次々に亡くなってしまったのです。それから“トカゲの尻尾斬り”をやりました。トカゲは本体が生き延びるために、噛みつかれた尻尾を切り離して本体が逃げるのです。大臣のクビを切って自分は逃げるということをやりました。そうでなければなかなか維持できないということもあります。だから長期政権になるだろうと思っていました。それから中曽根内閣は田中角栄が作った内閣でしたから、長期政権になるとは本人も含めて誰も思っていなかった。角さんになんだかんだと難題ばかり言われてすぐにダメになると思っていたのですが5年弱続きました。小泉もすぐポッキッといくと思っていたのですが5年5ヵ月続きました。みんな結果なのです。長くなると思った内閣、例えば竹下内閣は2年でダメになりました。短いと思うと毎日毎日一生懸命にやらざるを得ないのです。小渕内閣は3日もつか、3週間もつか、3ヵ月持つかと毎日ビクビクしていましたが、毎日毎日一生懸命にわき目をふらずにやって結果的に長くなっていきました。安倍晋三は昨年から今年にかけてこれだけ支持率が下がったのは、長期政権を考えたのが原因だと思う、と私はずっと言っています。昨年の3月に“来年9月に自民党の総裁選挙があるけれど、この調子だとこれだけ高い支持率があるのだから次も安倍晋三だな”とみんなそう思いました。そしてさらに3年できるようになりました。間違いはあそこから始まったと私は思っています。そうすると周りのゴマ擦りが始まるのです。“来年9月になっても安倍だ。今からゴマを擦っておかなくては”という考えが浮かぶわけですから。みんな来年のことばかり考えて、加計問

題や森友問題にまともに対応をしなくなってしまうのです。私の言った通りでしょ、という話です。

それから前にもみなさんにお話ししたことがあったかもしれませんが、「心耳を澄ませて謙虚な政治をして欲しい」と新内閣ができたときに“拝啓 安倍晋三様”と読売新聞の1面に書きました。このときはちょうど12月の選挙が終わった後でした。「私は秋田の田舎から東京に出て来て50年近くになります。東京に住んでいると真冬でも布団を干すことができます。真冬でもぽっかぽっかの布団に寝ることができます。私は布団を干しながらいつも思うのです。わが故郷ではどうしているのだろうか。深い雪に閉ざされて一人暮らしの80歳のお婆さんが朝から晩まで雪かきをしていなければいけない。私は不公平なことだと思う。人は“好きでそこに住んでいるのだろう”と言うかもしれないけれども政治とは何か。ぽっかぽっかの布団に寝ることができるそのときに、雪で苦しんで人がいるかもしれないと思いやることが政治ではないのか。アベノミクスをこの道しかないと断固としてやることも大事だけれども、同時にある政策のをやろうとすると、その陰で泣いている人がいるかもしれないと思いやるのも大切な政治ではないのか。どうか静かに心の耳、“心耳”を澄ませて謙虚な政治をやって欲しい」と書きました。そうしたらある国会議員が予算委員会で私が書いた全文を読み上げて、安倍にどう思うかと聞きました。安倍は、「私が日頃敬愛している橋本五郎さんのコラムはいつも楽しみにしております。ここに菅官房長官もおりますが、同じく秋田のお生まれです。その気持ちにはよく分かります」と答えました。私はそれを見ていながら、分かっているなと思いました。頭では分かっているつもりでも心で分かかっていません。東京生まれの東京育ちには地方に住んでいる人の気持ちがわかりません。私はずっとそう言っています。安倍晋三が返り咲く前、小泉のすぐ後にやった第一次内閣のときは大変でした。閣僚が次から次に辞めて最後には絆創膏の大臣まで出てきた。あのとき、1月5日だったと思いますが銀座の久兵衛という高級寿司屋で安倍晋三にご馳走をしました。そのとき私は、「地方を回らなければいけませんよ。いつ帰って来るかもしれない息子を待ちながら田んぼを耕しているお婆さんの愚痴を聞かなければなりませんよ」と言いました。彼には聞く耳がありました。2月から全国行脚を始めました。第一号が大曲でした。それは本当に嬉しかった。でも聞いて驚きました。一か所15分ずつ4カ所回ったそうです。それを聞いてもう頭にきました。何をやっているんですかと思いました。私だったら田んぼの畔道で2時間、お婆さんの愚痴を聞きますよ。それでも分からないのですよ。ここなんです。東京生まれの東京育ちにはダメです

ね。私はつくづくそう思います。だからこそ地方出身の議員はその気持ちでやって欲しいのです。私はこのコラムは15年前から書いていて安倍晋三になってから7本書きました。これが3本目でした。

4本目は「度量の広さを示せ」です。大体、自分が野党に野次られたからと言って野次り返すなんて総理のやることではありません。そういう所は完全に台湾の李登輝さんに見習うべきだと私はかねてから思っています。私は金日成やサッチャーさんと会って握手をしたことがあります。外国人の指導者として一番尊敬しているのは李登輝さんです。この人は敬虔なるクリスチャンで信仰心があります。それに哲学を学んでいて日本人よりも日本人らしいところがあります。作家の司馬遼太郎さんが台湾を訪れたときに李登輝さんに会って話をしたことがありました。日本人よりも日本人らしいことを話すので何故なのかを本人に聞きました。そうしたら、「だって司馬さん、私は22歳まで日本人だったのですよ」と答えたそうです。日本統治下の台湾で、李登輝さんは京都大学農学部に留学していたのです。「自分は日本人の教育を受けたからここまで来られたのです」と話したそうです。やり方の違いはあったのですが、ここが韓国と全然違います。この李登輝さんを見習うべきです。安倍晋三はまだまだ発展途上国です。これから伸びる余地がたくさんあるのかもしれない。総理大臣を捉まえてそう言うのもどうかと思いますが、こちらの方が年上なのです。

「度量の広さ」についてですが、読売新聞は安倍晋三が返り咲いてから憲法についての大事なインタビューを2回記事にしています。一回目は憲法96条についてです。これは“憲法を改定するときは国会議員の三分の二の賛成を得なければならない”というもので、参議院と衆議院のそれぞれが満たさなければなりません。三分の二の賛成があって初めて国民に発議・提案ができるのです。そして国民投票にかけて半分以上の賛成があれば憲法を改定できるのです。日本は結構厳しくて2段階になっています。安倍晋三はその三分の二を二分の1にしたいと言いました。その方が壁が低くなります。だけれどもその“三分の二を二分の1に”という憲法改正も三分の二の賛成がなければ通りません。結局同じことなのです。同じことなのですが、そのインタビューを読売がしました。それから2回目は最近の憲法改正についてです。憲法学者の7割以上が自衛隊については憲法違反でおかしいと言っていますが、ほとんどの国民はそう思っていないのだから自衛隊を持っていいのだということをきちんと憲法に書くべきだということです。そのためにはいろいろな書き方があるだろうけど、憲法9条を変えないでもうひとつ別の物を作って定めましょう、と言う提案で

す。そのときにまた読売新聞がインタビューをしたのです。なぜそうなったのか私には手に取るように分かります。産経新聞とは考えかたは一緒なのですが、仲間内でやっているような話になります。一方朝日新聞に対しては見るのも聞くのも嫌です。“あ”というだけで嫌なのです。毎日悪口ばかりを書かれていますからね。頭にきています。だから安倍の地元の山口県では朝日新聞の購読者が減っています。その分読売が増えているようです。産経新聞は仲間内で朝日新聞とはやりたくない、となるとどこもやるかという“その間にある読売新聞”となるのです。しかし私が総理だったら朝日新聞とやります。自分を日頃一番批判している新聞であっても、憲法改正の具体的な案を出したらこれは絶対に1面トップです。これは何だと批判するにしても、1面トップにせざるを得ないのです。これなんです。産経新聞や読売新聞と飯を食うのではなくて、きつと断ってくると思いますが、朝日新聞と食べるのです。ここの度量が狭いのです。自民党の総裁でもあるけれど、日本の総理大臣なのです。天皇陛下はそんなことはしません。産経新聞とだけ飯を食うわけにはいかないでしょう。それと一緒にもっと翼を広げて度量の広さを示さなければならないのです。これはまだ足りません。でもついに左ウイングを広げました。左ウイングと言う物は共産党まで包み込むぐらいの大きな翼でなければだめなんです。さっきの“女性は嫌いだ”というのはまさにそうなのです。もっと大きな翼をひろげれば“この人は心の広い人なんだな”と思ってくれるのです。この“左ウイングを広げよ”という話をコラムに書いたら、「読売新聞はいつから左翼になったのだ」と読者に言われたりしましたが、そういう話ではないのです。もっと大きく包み込むようではなければならないのです。

それから5回目は、「信なくば立たず」です。これは論語にある言葉で“民の信頼がなければ先に進みませんよ”ということです。安倍晋三もこの頃言い始めました。去年の解散は50議席を減らしてもまだ政権を維持できるとやったわけですが、小池人気が高かったので不安でした。それで電話がかかって来ました。「どうしたらいいのでしょうか」というのですが、自分の決断でやったことですからどうしようもありません。ただこれからの選挙期間に大切なことは何かということで2つアドバイスしました。まず“小池の悪口を言ってはいけない”です。これは何の得にもなりません。あの頃の小池百合子は女性からの人気が高かったのです。高かったのは男どもをスパスパと斬ったのが理由です。小池百合子の支援者は家庭の主婦が多いのです。女性議員というのは女性に嫌われるのが普通です。具体的に例えて言えば蓮舫などのキンキンしている人が女性は嫌いなのです。ところが小池百合子は女性の支持が高かったのです。

それはテレビで言うF3という歳の頃は45、6歳から60歳くらいの間の方たちで、今日はそういう方たちが多くいらっしゃるようですが、この層にとっても人気があります。なぜかというとなどもを斬ってくれるからです。日頃亭主に持っている不満を代わりにやってくれているように思うのです。これで拍手喝采なのです。だから小池の悪口を言うと増々女性に嫌われてしまうよということなのです。

2つ目は“愚直に謙虚に謙虚にやっていくということを強調する”というものです。そうしたらその翌日から急に言い出したのですが、みんな本当に謙虚にやるのか疑問に思っていました。話していることがなかなか身に付かないのです。そういう具合にやはり国民の信頼がなければ1日も持たないよという気持ちでやらなければいけないのです。

それから一番最近は、「王道の政治を歩め」というのを書きました。王道の政治とは何かというと、なぜこれが必要なのかということ堂々と議論することです。働き方改革といってもこれもいろいろなことがあって、過労のことが問題となっています。プロフェッショナルという専門的な知識を持つ人たちは特別なことから普通の勤務に合わせなくてもいいのではないかなど、これもまた考えようなのです。私は新聞記者で現場にいた頃は毎日早くても1時半ころまで働いていました。遅いときには3時半です。政治家のところに行くための朝の迎えの車がすでに待っていたりします。そうすると家に帰っても、家内も働いていたので起こさないように泥棒みたいに抜き足差し足でシャワーを浴びてすぐに迎えの車に乗って家を出てしまっていました。どこで眠るかというとな車の中か仕事の合間です。だからすぐにどこでも眠れるようになっていきます。人目があるのでちょっとできませんが、今もここに座ったらすぐに眠れると思います。そうやって政治家だって相手を信頼しなければ本当のことを言いませんから、絶対に自分のためにこちらを利用しようとしてきます。そこをきちんと見極めながらやらなければなりません。やはり信頼関係なのです。その信頼関係を築くためには、しょっちゅう顔を合わせなければなりません。家族よりも担当している人と顔を合わせている時間がはるかに多くなります。そうやってきた人間から見ると、一律みんな5時に帰っていたら仕事にならないと思ってしまうのです。そうするとそれをまた利用するブラック企業があるのです。だから制度というのは難しいものです。よく見なければなりません。ある日制度を変えれば何でも解決するという話ではありません。

例えば、料理屋の仲居さんは長時間労働はだめだと言われているので残業をさせないようになってきています。今まで残業をして辛うじて1か月の生活で

きるお給料になっていたのができなくなってしまう。そうすると休みのときに別の店でも働かなくてはいけなくなります。逆にもっと過酷になるのです。そのお店だけでやっていけたのに、新しい制度ではできなくなるというおかしなことになっています。残業があった方が過酷な労働を止めることができていたのですが、役人は制度をつくることによって過酷な労働を辞めさせられたと思っているのです。そうでなければ労働基準監督署がきてここはブラック企業だと言われてしまうので、企業は守らなければなりません。労働時間はある一定時間しか認めないとなると働く人は収入が途絶えて、補填するために他でも働かなくてはいけないのです。私はおかしいと思ってときどきテレビでもそのことを言ってみたりしていますが、この大きな流れの中では消えてしまいます。今度の働き方改革も一つの法案をだしたからと言ってすべての問題が解決するわけではありません。やっぱり進めるべきところは進めて、それに伴う問題があればその問題についてそうならないようにすることを考えなければなりません。悪い企業が出てくることはまた別の問題として考えていかなければならないのです。ということでこれでいいのか日本の政治、これでいいのか今日の講演ですが終わりにしたいと思います。

藤 本 橋本先生、ありがとうございました。本日も熱のこもったお話をお聞かせいただきました。皆様からの質問の時間にしたいところですが、橋本先生はこの後あまり時間ごさいません。お一人だけ質問を受け付けたいと思います。どうしてもというかたはいらっしゃいますか。

質問者 本日は有意義なお話をお聞かせいただき、ありがとうございました。先生はいつもテレビでコメントを求められることが多いかと思いますが、そういったときにどんなことを心掛けてお話をされるのでしょうか。それから我々がコメントや意見や見解、説明を求められたときにどんなことに注意して話すべきかということをお教えていただけないでしょうか。

橋 本 後の方の質問からお答えしますと聞かれる内容にもよりますが、そんなことを聞かれてもわからないということもあるかと思いますが、そう言うときは正直に言えばいいと思います。「それについては深く考えてなかった」と言っても良いと思います。テレビではみんな模範的なことを突然聞かれて答えているように見えますが、あれはたくさん収録した中の一部分を放送しているのであ

て本当はみんなが全てにすらすらと答えられているわけではありません。正直に分かっていることは分かっていると、おかしいなと思うことはおかしいなと話すことだと思います。

私がテレビでコメントするときには当然ながら“こういうことがテーマになるな”ということ想定して話していますが2つ気を付けていることがあります。1つは自分で長々と話さないことです。限られた時間の中でのことなので他の人に迷惑をかけてしまいます。ところが見ていると用意してきたことを全部話そうとする人がいるのです。そういう人は周りに迷惑をかけているのですがどこか上手くて、「これはつまり」と話を続けるので、その“つまり”を聞かなくてはいけなくなってしまうのです。こういう具合にずっと続いてしまうのです。土曜の番組で言えば辛坊くんにできるだけ迷惑が掛からないように考えて的確に話すようにします。あっちも話しをしている途中に入ってきて話を切ろうとしてくるので、そういうせめぎあいもありますが、できるだけ短く分かりやすいように言うように心掛けています。それからもう1つは一色に染まらないことです。この番組はみんな同じ考えだ、などはよろしくありません。そんなことはあるはずがありません。最初に話した死刑制度についても色々な考えがありうるのであって、こんな考え方、あんな考え方がある中で私はこの立場だと言えなくてはなりません。一つの流れで全部そうになってしまうとなければみんな同じで、他の考えがなくなってしまう。一色に染まりそうになったら自分の考えじゃなくても、「いやいやこんな考えもあるんだよ」と偏らないように言うようにしています。この2つです。簡潔に人の心に残るように言わなければならないということと、多様な色々な意見があるのだということを見ている人に分かってもらう。その中で自分の考えはこれだという具合にしなくてはテレビは一方的なので気を付けなければなりません。新聞は読み返したりできますが、テレビは見ている一瞬のことです。

藤 本 ありがとうございました。他のご質問をお受けできず残念ではございますが、今日のご講演はこれを持ちまして終わりにさせていただきます。もう一度橋本先生に拍手をお願いいたします。

〔講 演〕

ノースアジア大学 総合研究センター主催 講演会

「エッセイを書こう
—枕草子をテキストに—①」

講 師 脚本家

ノースアジア大学 教育諮問会議委員

ノースアジア大学 総合研究センター客員教授

内 館 牧 子

司 会 ノースアジア大学総合研究センター長

本学経済学部教授

海老川 寿美夫

日 時 平成30年3月24日 午後1時00分～2時30分

会 場 ノースアジア大学 40周年記念館271教場

海老川　ご来場の皆様、こんにちは。本日は内館牧子先生のご講演会です。テーマはエッセイについてです。私どもの文学賞ではエッセイ作品の公募を行っております。本日の内館先生の「エッセイを書こう」でエッセイについて学んでいただいて、是非投稿をしてもらいたいと思っております。『枕草子』は皆様ご存じのように西暦1000年頃に清少納言によって中宮定子に仕えた体験談や感想を三百段くらいからなるものにかかれた随筆です。類聚的な部分と日記的な部分と随想的な部分から成っております。今日はこのことをテーマに内館先生よりエッセイを書いてみようということについてお話をさせていただきます。それでは皆様、最後までご清聴のほどよろしくお願いいたします。内館先生よろしくお願いたします。

内 館　前回この会場にきたときはその階段をまだ自力では昇れないくらいのケガの跡が残っていましたが、今日は手を貸してはいただきましたがなんとか昇ることができました。歩くときは100%元通りではないのですが、筋トレを続けて時間がくれば治るものなのだなと思っております。次回はもう少し治ってもっと歩けるようになっていると思います。

今お話があったように、今日はエッセイの書き方についてお話しします。「書きたい」と思っている人は結構多いのです。でも、「何を書いたらいいのか分からない。書き方が分からない」と言っている人も結構多いのです。そう言っただけでは損ですよ。ここの大学では毎年文学賞を実施していて募集をしています。そして、今日ここにいらした方は、絶対に全員がノースアジア大学文学賞のエッセイの部に応募してください。もう絶対です。もちろん私も選考委員のひとりではありますけれども、どなたが書いた作品かは分からなくなっていて、非常に厳正に選考委員たちでちゃんと読んで選んでいますからズルは絶対にできないのです。今日ここにいらした方は必ず出してくださいね。

書くということは物凄くいいことです。すぐに“ボケ防止”なんて言う人もいますが、決してボケ防止しなんかではなくて、老若男女がちょっと書くことによって自分の気持ちがきちんと整理がつくのです。書いてみると自分の想いというものが良く分かるのです。

今日はまず、エッセイというものがいったいどういうものであるのかということと、何を書いていいのか分からないという人にはこんなことを書いてみたらどうでしょうか、これなら絶対に書けますよということ。また、書き方が分からないという人には、こういう書き方がひとつの例としてありますよというお話をしようと思っております。もしかしたらこのお話は2回に分けてお話しす

ることになるかもしれませんが、2回目にここで話しするのは6月ですから、それでも十分ノースアジア大学文学賞の締切りには間に合います。大丈夫です。

私も昔はすごくよく日記を付けていたのですが、ものを書くようになってからは付けなくなくなってしまいました。これはなぜかというとなり日記をつけなくても脚本や小説を書いたりしているとそこで発散できてしまうからです。だから私はみなさんに底意地の悪い嫁の話とか、どうにも何回も別れかけてもう捨ててしまいたいと思っている夫の話とかを是非書いてもらいたいと思っています。夫側にしてみてもなんでこの女と50年も一緒にいるんだと思っているかもしれないし、そういうことを是非書いてもらいたいと思います。

エッセイを書く上で、清少納言の枕草子をテキストにすると聞くと、おそらく多くの方はそんなのはいくらなんでも千年も前のものは古めかしすぎないか、参考になんかならないだろうと思う方が多いと思います。これは大きな間違いです。枕草子を知らないと思うのも無理はありませんが、エッセイってこう書けばいいのか、こういうテーマでいいのか、を知らない人が多いのです。今日来た方は絶対にお得ですので、是非よく聞いてください。

ノースアジア大学文学賞のエッセイの応募作品は毎回すごく面白いんです。書き方にこだわらずとにかく書きたい思いをおつけて書いている人がいっぱいいますから、大変面白いのです。面白いんですけれども、「もっと面白く書けるのに」とか「こんなにいいテーマなのになんでここで終わっちゃうのか、もっとないな」と思う作品もいくつもあります。それも含めて例を挙げようと思います。まずノースアジア大学文学賞には作品がたくさん送られてきます。海外からも来ます。それを読んでいて感じるのは、ひとつはエッセイというのは随筆なんです。随想なんです。ですから勝手に言ってしまうと自分の身近雑記です。身近というのは何も「自分の内面を深く掘り下げる」とかということではなくて、海外旅行のことでいいのです。海外で思った雑感を含めて“私”という自分が中心で、私の身近の様々な出来事を書くというのがエッセイなんです。それについて私がどう思ったかなんです。

例えばきりたんぼを食べたことについて書くとします。「きりたんぼを食べたことのない友達にご馳走したら友達がこう言った。それについて私はこう思った。小さいときから食べ慣れている私からすると彼女がいうことはトンチンカンなんだけれども、そういう意見もあるんだよね」と書くことができます。もうひとつきりたんぼを例にすると岩手の知人からから、「秋田がいかに豊かなところか、きりたんぼを見ると分かる」と言われたことがあります。私はどうしてそう思うのか聞きました。すると、「秋田はとっても美味しい新米を半

殺しに潰してきりたんぼを作る。岩手は新米はそのままでしか食べない。さらに串に刺して焼いてその上、比内地鶏の出汁という凄いものでいろんな具材と一緒に煮て食べる。これはとても贅沢な食べ方だ。いかに秋田が豊かであるかということだ。きりたんぼを食べる度にそう思う」と言われました。私は母が秋田出身で、父は岩手の盛岡出身なんです。そのきりたんぼのことを言ったお友達に、「そうか、岩手の食文化は麺類が多いものね」となにげなく言ったら、「盛岡のじゃじゃ麺の食べ方を見てごらん」と言われました。じゃじゃ麺はスープのない麺の上に肉みそなどがかかっている、混ぜて食べます。最後に50円で別にスープを買ってお皿に付いている肉みそなどを剥がしてスープとして全部飲みます。彼が言うには、「昔、飢饉があったりしたときには大変だったろうから、おそらく当時はスープじゃなくて白湯で流して飲んだんだと思う。こういうところは秋田とは違う」のだそうです。こういう話はすぐにエッセイになるわけです。おそらく秋田に暮らしていると分からないと思うのですが、比内地鶏がいかに美味しいか。私は以前に、きりたんぼが数本残ってしまったことがありました。東京のスーパーには比内地鶏が売っていませんでしたので、普通の鶏肉を買ってセリも三関のものでないものを買って作って見ましたが、全然違うんです。鶏肉が本当に違うのです。そのとき友達を呼んでいたのですがとても言いにくそうに、「悪いんだけど、あなた料理の腕落ちてない？」と言われました。「料理の腕のせいではなくて鶏肉のせいだ」と言いましたがこういうこともエッセイとして書けるわけです。

ところがエッセイを書いたことがない人や何を書いたらいいか分からない人は小論文みたいになってしまうのです。小論文はエッセイや随想ではないんです。小論文がどういうものかということ、「最近日本語が乱れている」ということについてはエッセイのテーマにもなりますが、小論文はそれについて論考を展開するのです。「何とかと言う学者は日本語の乱れについてこんなことを言っている。でも何とかと言う学者は古い文献を紐解くと何とか時代にはこんな言い方もあったのだから、日本語が乱れていると言っているいいものかどうか」と証明していくのです。これはエッセイではありません。これは論考で小論文です。例えば福祉について、高齢者の福祉の体制が日本は整っていないのではないかいうことをテーマに書いたとすると、それについて書くのはいいのですが諸外国の例などを挙げるわけですよ。友達はスウェーデンに行ってみてきたらこんなことがあったけれども、それに比べると日本はこうだから日本の進め方は遅れていると言わざるを得ないと紹介する。そしていかなるテーマであれ、だいたい最後はありきたりな、「一人ひとりがもっと考えなければな

らない。日本は身を持ってこれを知って、少しでも実現に向けて動き出すべきだ」となります。これは絶対につまらないです。

こういう論考や論証など小論文的なものはエッセイではありません。例えばそれについてどう思ったか、自分はその話をどう感じたかなのです。だから“日本語の乱れ”もエッセイのテーマとしてはありますが、その例えとするならば、あるときに若い人と食事に行ったときのことを書く、というのがあります。若い人は孫でも知り合いでも誰でもいいのですがその若い人が、一口食べて「ヤバッ！」と言った。メニューを見て「高ッ！」あるいは一口食べて、「旨ッ！」でもいいです。これは今の若い子だったら普通に言いますよね。「それを聞いたときにすごく驚いた。私は古い人間だけれども「高ッ!」「旨ッ!」「やべえやべえ」などを聞いてこんな言葉を使うのかととても驚いた。でも日本語学者によると言葉はどんどん変化するものだし、実際に紫式部や清少納言の時代の言葉を今は使っていない訳だから、そういうことを考えると変化するというのはあるんだろうなと思う。でも私としては女の子のこういう言葉は許せない。男の子だとしても許せない。なぜなら…」というふうに書いていくと学者の言ったことをただ並べて書くのとは違います。

この前の夏のオリンピックのときに日本がいくつものメダルを獲ってメダリストたちが銀座をパレードしました。そのとき確か銀座に人が53万人集まりました。その銀座をメダリスト達を載せたオープンカーがゆっくりと進んで行きました。メダリストたちが、「ありがとう」などと言いながら手を振っていましたが、そのオープンカーに乗ったあるゴールドメダルの女子選手が、凄い群衆を見て「やべ!やべ!」と言っていたのです。NHKのカメラが中継放送しました。民放は録画映像で画面の下に「やばい」などとテロップを出しました。その映像を見たときに、私は正直に言ってそのメダリストたちがバカ面に見えました。最近は生活の中でも「やばい」は使います。「凄い」も「美味しい」も今や全部「やばい」ですませます。ですが、あのパレードでの女子選手はとても残念に思えました。そういったことはエッセイとして書けるわけです。どんなふうに思ったかを書いていけば、日本語の話として書けるわけです。実際にノースアジア大学文学賞にエッセイとして応募してくる作品の中にも論証のようなものがあります。

それにもうひとつ間違いやすいのが状況説明で終わってしまうものです。たとえば夫と千秋公園に行った。これはいいテーマです。夫と行って何を感じて何を思ったのかを書くのは良いです。ところが、「千秋公園に行った。入り口には桜の木があった」と書いたとします。次には、「その先には桃の木があった。

その先には何とかの木があった。藤の花が咲いていた。チューリップの花が咲いていた。パンジーが咲いていた」と書く人がいる。つまりずっと状況説明なんですね。「空が青かった。スズメが時々鳴いていた」のようになると、確かに千秋公園に春になるとどんな花が咲くのかなどの素晴らしいことは分かるのですが、これでは状況の羅列です。本当に実際にこういう作品が結構あるのです。「クラス会があった。60年ぶりだった」と書いてあると、どんなおもしろい話が出てくるんだろうと思うのですが「私は水色のスーツを着て行った。あのとき仲よしだったよ子は黄色いセーターを着ていた。さち子は赤い靴を履いていた」と着ているものだけを書いたら状況説明なんですよ。書き方によっては面白く書くこともできますが、そういう羅列をどう書くかはもうひとつ上の高度なテクニックです。「75歳になって60年ぶりのクラス会があった。ぱっと部屋に入ったらすごく部屋の中が明るかった。なぜならならば女たちがみんな派手な服を着ていたからだ。さち子はピンクだった。私は黄色だった。何とかは赤だった。誰それは凄い花柄の服だった。何とかはここまで胸の開いたドレスだった」とすると話の次の展開があるわけです。例えば、「75歳を過ぎるとみんな派手な服を着たくなるのかもしれない」と書くことができるのです。だけど誰が何色を着ていたというだけではエッセイにはなりません。でも羅列や状況説明で終わってしまっている作品が多いのです。この後皆さんが応募するときに羅列だけはダメということを考えておいてください。

それからもう一つは、必ずあるのですが愛する者のことを書く時です。愛する者についていくら書いてもいいのですが、これは一番難しいテーマなんです。なぜかという“愛してる”ことを垂れ流してしまうのです。どんなに自分が愛しているのかを垂れ流している場合の多くは、どんなに上手く書こうとしても自慢話のようになってしまいます。それから自分がいかに幸せかということになってしまいます。絶対に忘れていけないのはエッセイというものは日記ではないのです。自分だけが読むものではないのです。ノースアジア大学文学賞のエッセイの部や、秋田県でやっているふるさと秋田文学賞の随筆・紀行文の部のエッセイに応募する作品は、不特定多数が読むものなのです。書いた自分のことを何も知らない不特定多数にとって、この文章は成立するだろうか、完結するだろうかということは頭の片隅のどこかに置いておかななくてはなりません。日記だったら夫がどんなに優しいか、孫がどんなに可愛いかも好きだけ垂れ流してもいいのです。それは自分だけが読むものです。たまに友達や家族との間で交換日記のようにやっている人がいますが、そういうものならお互いに孫自慢を好きだけ書いてもいいのです。ただ不特定多数に呼んでもらう文

章で自分の心の中にあることを書く中で、自慢話はダメなんです。不特定多数が読むことを忘れがちになるんです。

読んでいて一番困るのが孫です。やっぱり孫は可愛いんですね。私には孫がいませんが、孫がどんなに可愛いかはすごくよく分かります。小さな赤ちゃんが生まれて突然家にやってくる。どんどん大きくなって1歳になり2歳になり学校に入って中学生になっていく。それは可愛いに決まっています。“可愛い”が大前提にあることはOKなのですが、ただそれをどう書くかということなんです。不特定多数に自分の孫の可愛さを書くにはどうすればよいかということなんです。例えば良くない例ですが、「私の孫のよっちゃんはいつも私の後をバァバ、バァバと付いてきた。この孫も今は18歳になった。時間が経つのは早いなと感じる」という書きだしたと、来るぞ来るぞと思って読みますよね。「18歳になってノースアジア大学を志望した。なぜなら消防士になって秋田に尽くしたいと言っている。そのためには公務員試験ですごく合格率が高いノースアジア大学が一番いいと思って受けることにしたい。それを聞いて私はバァバ、バァバと言っていたのにこんなにしっかりした大人になり、涙で目の前が見えなくなった」とよく涙で目の前が見えなくなる人がいるんです。目の前が見えなくなるのが好きな人がいるんですよね。「いつのまにこんなに立派な男として成長してくれたんだろうか。子供の頃はバァバとしかお風呂に入らないと言っていたよっちゃんのことを思い出す。けども今バァバは消防士を目指しているよっちゃんのことをすごく自慢だよ。何があってもバァバはよっちゃんの味方だからね」という文章をノースアジア大学文学賞に出してみてください。一次選考で落ちます。こんな書き方では誰が素晴らしいと思うかです。バァバが愛しているのはよくわかります。よっちゃんが素晴らしい考えを持って自分の人生を切り開いているのも良く分かります。けどそれを涙で目の前が見えなくなるというかたちで、よっちゃんの素晴らしさとバァバの愛情を垂れ流しているのです。バァバの愛情は日記でやるにはいいんです。それから身内どうしでやる手紙とかメールならいいんです。随想としてエッセイとして書くのならこれは良くないです。

例えば他にも、「夫は掃除も料理もできないし預金通帳がどこにあるのかもわからないくらい全く家のことは何も分からない人でした。結婚して何十年か経ちます。私はこの度急に病気になってしまって2カ月間入院しました。入院している間に夫は自分で3食作ったようです。それは目玉焼きと出汁の入っていないスープだったりして美味しくはないだろうけど、夫が3食作っていたということを見舞いに来た娘から聞きました。今まで何もできなかった夫がこん

なことをやってくれたのかと思うと涙で目の前が見えなくなった」と、また涙で前が見えなくなるんですね。何もやったことがない夫が奥さんがいなくなったら3食作ったという話はすごくいい話なんです。テーマとしては全然間違っていないんですが、垂れ流したあげくにすぐに涙で前が見えなくなる。この夫と目玉焼きとお出汁の入っていない味噌汁というのはとても面白いと思います。たとえば、夫は味噌汁の具に何をいれたんだろうかと思うわけです。とても面白いテーマなのにそこを除いて、結局夫の素晴らしさを書くのです。「夫は何も言わないで毎日毎日お見舞いにきてくれた。私も料理のことを言ったら嫌がると思ったので何も言わなかった」と、この辺りはいい話なんです。「あるときパパが“やっぱりママがいないと寂しいね”と言っていたよ、ということを見舞いにきた娘からきいて夫の気持ちがやっと分かって私は涙で前が見えなくなる」わけです。「夫は毎日来ては“じゃあまた明日来るから”とだけ言って帰って行く。私は本当にいい人と結婚したなと思う」これだけでもいい話で目玉焼きや出汁のない味噌汁とか何もできない夫が三食作るだとかいい話があるのに、そこをねぐって夫がどんなに素晴らしいか、どんなに自分を愛しているかの方向に行ってしまうのです。これはやはり良くないです。

そこから多くは更に間違うんです。どう間違うかということエッセイというのは短いものです。ワンテーマです。これは覚えておいてください。ワンテーマで書き切るんです。例えば「今日夫が上の孫が書いた絵を夫が持ってきた。これはバァバの顔だって、と夫が言った。紙を広げてみると4歳になる上の孫がクレヨンで書いた顔の絵だった。バァバの目から見るとバババカかもしれないけれど本当に色といい形といい良い絵だった。この子は画家としての才能が絶対にあると思った。この絵の才能は夫譲りだ。夫は家の中のことは何も知らないけれども、若いころは工作が得意でプラモデルを作ったりしていた。だから孫は画家になれると思う。今病院でバァバはその絵を貼って、お医者さんや看護師さんが来るたびにを見せている」と書くと、これは二つのことを書いています。バババカの話と夫の優しさの話でどちらも涙で前が見えなくなるのですが、これはエッセイではありません。渡されても読みにくいです。こういうものを書く場合、“バババカだから”や“親バカだから”というワンフレーズが入れば何でも許されると思っちゃう人が多いんですが、残酷なことに許されません。まず二つの話は入れないことです。ましてや5枚や10枚などの短い文章の中に、「私が入院したら何もできない夫が急に病院に来るようになって、食事も3食作っているらしい。娘に聞いたらこういうメニューだった。あるとき私は夫に“お味噌汁作ってるらしいけど病院に持って来て”と言って見た。夫は“い

やだ”と言ったけれども強引に食べてみたらすごくおいしかった。娘に“パパの作った味噌汁すごくおいしかったわよ”と言ったら“ママから持って来いと言われたとパパから聞いたから、私が出汁の取り方を教えたのよ”ということだった。わたしはそうかと思った」と書くと夫の妻への愛情や見栄が全部分かる訳です。だから垂れ流さなくてもいいのです。だからワンテーマでいいのです。でも二つも三つも書いてしまうんですね。

例えばバババカの、「4歳の孫は絵が上手いから画家になれるんじゃないか」と思っている。医者や看護師に絵を見せては自慢している」もテーマとしては書きようがあります。あるときハッと気が付けばいいのです。「これはひょっとして看護師や医者は迷惑なんじゃないかと思った」と。それは迷惑ですよ。この“迷惑かも”と気が付いたところからエッセイになっていくのです。「迷惑だったかもしれないと思ったら急に格好悪く感じて悪かったなあ、私もそこいら辺のババと同じになってしまったと思い至った」という話を書くとはこれはいけるんですね。結局そのババは何に気が付いたかという、例えば、「うちの孫は世界一でこんな可愛い子はいない」と思っても、隣の奥さんもお向かいの奥さんもそう思ってみたいだ。どこに行っても、「うちの孫が一番可愛い」と思っている人がいっぱいいる。アメリカでもインドネシアでも同じかもしれない。ということは、「うちの孫は世界一可愛い」と思っている人が世界中にいるということに病院で気が付いた。それに気が付いたら今まで孫自慢をしていたことが格好悪くて申し訳なくなった。そこら辺にいるババと同じだったということに至ったんですね。さらに面白くするなら医者に、「あなた私の孫の話の聞かされるのは迷惑？」と聞いてみた。そうしたら医者は、「いやいや、とんでもない。迷惑ではありません。素晴らしいお孫さんですね」と言った。無理してるなァと思った、という話を書くといいです。非常に面白い話になります。でもだいたいのジジババは孫がいかにか可愛いかを垂れ流して、「孫がジジジと言った、孫がバババと言った」と決まり文句の目の前が見えなくなるんです。他にもうひとつラスト一行に来やすいのが、「よっちゃん、これからもずっと元気でね」とか「かず子ちゃん、これからもバババはかず子ちゃんの味方だよ」「かず子ちゃん、ずっと優しい少女で育ってね」というような呼びかけで終わるんです。こんなことは日記に書いてくださいね。エッセイに書いてはダメです。こういうのは絶対に一次選考で落ちます。これは書き方がどうだとか、テーマがどうだとか言う問題ではないんですね。垂れ流してしまっているからダメなんです。私は垂れ流さないために思うのは書き手の知性だと思います。医者が迷惑だっただろうな、ということにハッと気が付くのも知性だと思うん

です。だから「私は知性がなかったわ」というところから書くとすごく面白いエッセイになります。単なる自慢話だけだとうっとしいだけになってしまいます。

実際に私にきた秋田のある俳句の会に行っている方からの手紙の話なんですけれども、その俳句の会はお爺さんお婆さんだらけなんだと思いますが、「びっしり孫の句ばかり書いてあってうんざりしました」と手紙にあった。例えば孫が這った、立った、歩いた、喋った、食べたとか、優等生で東大に入ったなどの句ばかりで本当にうんざりするんです。自分に孫がいる人でもうんざりするらしく、ついにその俳句の会の先生が“孫の句は禁止”ということにしたとその手紙に書いてありました。孫の句は禁止、と言いたくなるくらいみんなでたくさん垂れ流し句を作ったんだと思います。趣味でやる分にはいいんですけども、上手い句を作ってみようとか句会を開いてみようとかしたら、垂れ流しではなくて一捻りも二捻りも必要なんです。それでもやっぱり家族や優しい夫や孫のことは書きたくなるものです。書いても構いませんが、不特定多数が読むものであることや、私の孫が世界一可愛いと世界中の人が思っていて、うちの孫もその中の1人に過ぎないんだということをよく考えて書いてください。

2015年6月22日の秋田魁新報の“えんぴつ四季”に出ていたエッセイなんですけれども、あまりに上手くて切り取ってあったものがあります。もう3年も経つものなのですが今回紹介したいのは、現在80歳の女性のエッセイです。77歳のときに書いて魁新報の“えんぴつ四季”に載せられたものです。湯上市の大久保ミツさんと言う方です。ゆっくり読みますね。

「身支度をしている私に“今日おめ、どごさいぐ（今日おまえはどこにいくんだ）？”と夫が尋ねる。“あえー、公民館のデッサン教室だって昨日言ったねしか（あら、公民館のデッサン教室に行くって昨日言ったでしょう）”と答えると“あぁんだな（ああそうだった）。んで、何時に帰る？”また始まったと思う。夫は耳が少し遠くなったし忘れっぽくもなったかと心配になる。でも普段の生活は変わりなく左手で器用にパソコンを打って軽い運動もしている。きっと一人っきりになるのが心細くてつい口に出してしまうのだろう。そんなとき、ふと互いの若い時分を思い出す。私は起き抜けから手ぬぐいを頬っかぶりをし背には子供を括り付け、年がら年中大家族の家事に追われていた。それでも休日の夫は藤山一郎さんの歌さながらに、青い背広で心も軽くバッチリめかし込んで妻子など眼中にない。独身であるかのようにルンルン気分で靴を履く。私はたちまち頭に血が上がり“あんたばかりどごさいぐの（あなたばかりどこにいくの）？”と鋭い棘を口にす。夫は振り向きざまに“うるせ（うるさい）！”

と言い残し夜の街へと繰り出していく。そんなことを何度繰り返しただろう。今はただただ懐かしい。あの頃二人は若かった。その夫は不摂生がたたってか健康を害した。時たま私がそわそわすれば羨ましそうに“おめ、どごさいぐ？”と聞いてくる。公民館で学ぶ楽しさを知った私は夫のやっかみなど何のその。かつて寂しさに耐えた我胸中を思い知ったかと意地悪くクスリと笑う。そして教室が終われば飛んで帰らねばと思う」

上手いですよね。これはメチャクチャ上手いです。なぜかという、まずたった一つのテーマなんです。タイトルが示すとおり、「おめ、どごさいぐ？」という話なんです。今は夫が言っていますが、若いときは妻が一人で出かけていく夫に、「おめ、どごさいぐ？」と言うワンテーマなんです。上手いのは最初に今公民館に行く妻に夫が、「おめ、どごさいぐ？」と言っていて一段落目、真ん中のサンドイッチでいうと具の部分、サラダの部分は若い頃の夫と自分ことを書いています。妻の方が夫に、「あんたどこに行くの？」と聞いています。また最後のパンのところは今のことに戻って夫が公民館に行く妻に、「どこに行く？」と言っているけれど、「私はこれだけの目に遭ってきている。あんたのことは知ったことじゃない。勝手にさせてもらうわ、あぁいい気味」というのをうまく挟んでいるんですね。さらに上手いのは最後に、「かつて寂しさに耐えた我胸中を思い知ったかと意地悪くクスリと笑う」と言いながら次の、「そして教室が終われば飛んで帰らねばと思う」の一行で全部救われるんですね。

これはプロ級ですね。本当に上手いです。いつかノースアジア大学でエッセイの書き方のことをお話する機会があったときにご紹介したいなと思って、とってありました。今回、魁新報社の文化部を通してお願いして許可をもらいたいとお話ししたところ、文化部長から家に連絡がきて「どうぞ、どうぞとおっしゃっていました。今、80歳だそうですけれども、ものすごくシャキッとされていて、あの方は大変なものですね」とのことでした。部長は思わず、「また“えんぴつ四季”に出してください」というお話もしたそうです。

このエッセイは現在があって過去があって、また現在がある。“ごまあみろ”で終わってしまうと後味が悪い。それも、「夫が待っているから帰らなくちゃ」ではなくて、「教室が終われば飛んで帰らねばと思う」のです。これだと思いました。こういうふうには書けばどんな夫がどんなに良くて、自分もどんなふうで今まで二人がどんなふう築きあげてきたかがわかる訳です。これは今日、明日に上手になるということはないですけれども書き続けるといって必ず上手になります。だからあきらめないで書いて欲しいと思います。こういうエッセイを読むと、「バァバ大好き」とか、「うちのよっちゃんは」と書くのは格好悪

いということに気が付くと思います。

それともうひとつご紹介したいのが、今年の1月30日の魁新聞に載った写真なんです。仙北市角館町の八柳良太郎さんというお祖父ちゃんが撮った写真です。孫がニコニコ笑っていたりくっついていたりする写真はよくあるものです。ところがこの八柳さんの写真は玄関口の写真で、人は一人も映っていないんです。スナップのタイトルは“小さなお客さん”です。玄関の一段高くなった三和土のところに小さなピンクの長靴と紺色の小さな長靴が二足並んで置いてあるんです。その横に短い文章があって、「お正月に我が家に二人の孫が遊びに来ました。小さな長靴が玄関に並び可愛かったです」と書いてあります。こういう描き方があるわけです。小さな長靴を見せているだけで、あとは玄関しか映っていません。それも気どった写真ではなくて玄関の奥の方には色々なものが置いてあるのを全部見せています。でも真ん中に小さな長靴2足が綺麗に並んでいて可愛いのです。きっと孫がお祖父ちゃんの家で投げ脱いだものを並べたのかな、とも想像ができます。こういうとき多くの方は可愛い孫が新聞に載るのは嬉しいですから孫の写真を、「右が5歳のよっちゃん、左が3歳のなっちゃん、私の可愛い孫です。いつまでも元気でね」と書くと思いますが、これはやっぱり日記でしょうね。こういう長靴で表現できるようなことは、エッセイを書くときにはものすごく勉強になると思います。私は魁新聞を丁寧に読むのですが、とても面白いのです。読売とか朝日とかとはまた違う迫力と面白さと人々の気持ちが出ていて、やっぱりよく読んでみるとなるほどと思うことが皆さんも多いだろうと思います。ちょっと長くなりましたが大雑把なことなんです。エッセイを書くための注意点を挙げてみました。

それでどうして清少納言の『枕草子』なのか、ということなのですが、「書き方が分からない、何を書いたらいいか分からない」という人には私は『枕草子』がぴったりだなというところがあって是非『枕草子』をテーマに勉強してみようと考えたわけです。

これは先ほど海老川先生の方からも紹介がありましたが、一千年前の話なんです。一千年前ですよ。本当に笑ってしまいますよね。紫式部とか小野小町という人達が絶対に表に顔を出さずに生きていた時代です。十二単を着て髪を垂らしていた時代ですよ。その時に紫式部が『源氏物語』を、『枕草子』を清少納言が書きました。二人とも天皇の後に仕える女でした。清少納言が『枕草子』を書くまでは物語りや日記を書いた人は多くいるのですが、いわゆる随想、エッセイというものを書いたことがある人は誰もいませんでした。有名なエッセイ集に『徒然草』というものもありますが、清少納言よりもずっと後に

書かれたものです。この国の女性のエッセイスト第一号だったのです。それも千年前ですから紙なんか高級で滅多に手に入らないんですが、紙に筆で書いてあった。『枕草子』という言葉がどこからきたのか調べてみたら、書いた紙の量が枕ができるほどあった。枕ができるくらいの量の紙を綴じたエッセイ集である。つまり原稿がそれだけあったということです。とかくライバルとされて仲が悪かったらしい清少納言と紫式部なんですけど、今日はそこまで多分話ができないと思いますが、紫式部が清少納言の悪口をどれだけ言ったかというのが分かるメチャクチャ面白い資料があるんですね。それはただ式部が意地悪だったのかということ、お互いに天皇の後に仕えたということのライバル意識があったのだらうと言われてます。

清少納言の凄いところは、結婚して子供もいたんですね。ところが父親が亡くなったときに、「私は自分の生き方がしたい」と言ったんです。今の女たちならば当然ですが、千年前のことですよ。外には顔を出さないという時代に、あれほどのことを書くというのは難しいです。高貴な女は奥の方について引きこもっている時代ですから。顔を出さないでエッセイを書こうとするのは大変なことです。そういう時代に自分の生き方をしたいと言った女性なんです。それでどうしたかということ、今っぽいと言えるかもしれませんが夫や子供と別れて宮中に入っちゃったんです。夫と離婚して自分は新しい職場に飛び出したんですね。それでその飛び出したときに一条天皇という天皇の中宮、正式な第一后である定子に仕えたわけです。清少納言はキャリアウーマンになったんですね。これが自分の生き方だ、と思ったから幼い子供や夫と別れて一人で行ってしまったわけです。その宮中で書くという才能を一気に花開かせたのです。宮中には高貴な男性たちがたくさんいますが、みんな一目置くくらいの素晴らしい『枕草子』を書き続けたのです。片一方では紫式部が『源氏物語』を書いていますから、これは大変なことです。稀勢の里と白鵬とどっちがいいか、みたいなものです。仲も悪かったんだらうなとは思いますが、夫も子供も捨てて入ってみた宮中は清少納言にとって素晴らしかったのです。そうは言ってもやっぱり別れてきた子への思いとか自分を支持してくれていた人たちがちょっとのことで左遷させられたりするのを目の当たりにして辛い日々もあって、そういった中で自分の日記をずっと書き続けていた。それが『枕草子』になって行ったんですね。やっぱり書くということは上手いとか下手だとかいうことではなくて、書くことによって気持ちの整理が付いて落ち着くことができたのだと思います。自分の中で悲しいとか悔しいといった気持ちが一気に炎上するよりは、鉛筆でもパソコンでも書いてみて整理をつける。まして第三者に読んでもらう

ことを意識して書くということは、すごく理知的な解決方法だと思います。

『枕草子』はさっき申し上げたみたいに羅列ではないのです。好きか嫌いかをはっきり書いています。あの時代は女は顔を出さないで御簾の内側で密かに楚々と男たちの言うことを聞いて暮らしていたのに、清少納言ははっきりと好き、嫌いを書いているのです。好きか嫌いかをはっきり言うということは、今皆さんがエッセイを書く上で非常に参考になると思います。好き嫌いをはっきり言うということは、自分の考えや思っていることがバレるから怖いんです。だけどそれを言うことを考えると、「千秋公園に入ったら桜があった。桃があった。その向こうに梅があった。榎があった。雀が鳴いていた」と書いても何の意味もないということがお分かりになると思います。好きか嫌いかというのは自分のことをさらけ出すことになるので、例えば『枕草子』にすごく分かりやすいおもしろい話があるのですが、鳥についてどの鳥が好きでどの鳥が嫌いかということを清少納言が書いています。「私は不如帰が好き。鶯は嫌い」とハッキリ書いてある。鶯は“春告げ鳥”とも言われてますが千年前にすでにそう言われていたんですね。「ホーホケキョ」と鳴くと春が来たということです。清少納言は、「鶯は春告げ鳥と呼ばれているのに、春が過ぎてもダラダラ鳴いているのよね。本当に締まりがないったらありゃしない」と書いているんです。これ千年前の女性ですよ。

そうかと思うと今の私たちでもなかなか書けないことだと思いますが、「他人の悪口とか噂話は本当に面白いわよね。言うのを我慢するなんてできないわ。だけれどもそれを怒る人もいる。なんで怒るのかしら。他人の悪口とか噂を我慢するのは無理だわ」と書いてあります。でもその後で、「その人にもなんとなく憎み切れないところとか、どこかいい所もあるんだから、相手のことをコテンパンには言わないでおこうと思うけどさ」と書いています。これも本音でしょうね。週刊誌がこれだけ売れるのも噂話が面白いからですよ。他人の悪口とか噂は千年前の人でも我慢できないくらい面白いことだったんだな。清少納言はそれが好きだったんだな、知的な女なのにな」と思う面白さというものがあるわけです。こんなふうにはっきりすっきり書かれているところは一つの個性であり、清少納言の凄いところだと思います。

もうひとつ凄いところは視点のおもしろさなんです。ある出来事をどう見るかという視点の面白さがあるのです。みなさんの中にもそれぞれにいろんな見方がきつとあって、だからエッセイになるはずなんです。例えば清少納言はカラスのことも書いているんですね。その視点がおもしろいのはカラスの昼と夜の態度の違いを書いているんです。「昼間は憎たらしくて愛嬌もなく嫌な鳥

だ。ところが夜になるとおもしろい。寝ぼけて留まっている木から落ちそうになって慌てて“カァ”なんて鳴いている。それは昼間のあの憎たらしさから考えるとものすごくおもしろいですよね」とそこに愛嬌の視点から見たエッセイなんですね。これは私たちの毎日の暮らしの中にも絶対にあることなんです。「会社で大嫌いな上司がいる。ところが夜になるとおもしろかった。ウケもしないのに一生懸命に若い人の歌を覚えて、『嵐』の歌を調子っぱずれに必死にカラオケで歌っている。これが昼間の鬼課長かと思うとかわいいところのあるんだな。でもぜんぜんウケなかった」ということをひとつの話として書けるわけです。それから、「バリバリのやり手キャリアウーマンがいた。確かにできる人だけれど、キツイことばかり言ったりして会社の中では嫌われている、嫌な女だとみんなが言っている。あるときお祭りに行ったら、その女が小さい孫の手を引いて頭にネイガーのお面を被って縁日を歩いているのを見た。かわいいじゃんと思った」と書くこともできます。これも裏と表を書いています。こういったことというのは、たくさんみなさんの周りに転がっているんじゃないかと思えます。息子のことや夫のこと、ご近所のことなど、そういった意味で視点を“ただただ孫が可愛い”とするだけじゃなくて、「キャリアウーマンが綿あめやヨーヨーを持って、お面を被ってとろけるような顔をして孫の手を引いて歩いているところを見ると、孫ってそんなにかわいいものなんだと思った。次の日わたしはロッカールームでみんなに“ねえねえ、私見ちゃった”とそのことを話してやった。ざまあみろと思った」と書くともエッセイはいくらでも書けるんですね。

もうひとつ清少納言のおもしろい視点は、普通の人は台風は嫌なことだと思ってしまう。ところが清少納言は“台風が明けた朝がすごく好きだ”ということを書いていきます。「台風の翌日はとてもいい雰囲気がある。垣根が倒れていたり草や木が倒されている。女郎花や萩の上に大きな木の枝が折れてかぶさっている。そういうのってなんか風情があるわ」と書いています。今は特にコンプライアンスなどが厳しい時代ですから、女郎花などの弱い花の上に木が落ちこちてきているのは風情があるなどと書くと炎上しそうですが、それはもう思ったとおりに書いて良いと思えます。清少納言は、「台風というものは終わって通り過ぎた後の翌日の朝に風情があつていいわよね」と書いています。そういう視点をおもしろいと思えます。もちろん今は台風被害や豪雨で泣いている人に心配りをするのは大切ですけれども、過度に注意を払いすぎて、過度に忸度しすぎると書けないことも確かです。まず自分が“人が何と言おうとこの人は嫌いだ”という視点を持っていたらそれを書くというのはあり得ることで

す。

実際に私がテレビで見たことですが、あるワイドショーで上野のパンダのことをやっていました。シャンシャンがまだそんなに大きくなくてコロコロ転がって可愛く遊んでいるようなときでした。お母さんが舐めて育てているので毛の色がピンク色をしているという可愛いシャンシャンがテレビに映っていました。番組キャスターもコメンテーターもみんな、「可愛いですね。癒されますね」と言っていました。そうしたら一人の男性コメンテーターが、「僕はシャンシャンの何が可愛いのかわかりません」と言ったんですね。私も可愛いと思っていたのでびっくりしました。面白かったのがスタジオがしーんとなってしまったんです。「シャンシャンを可愛くないと思う人がいるのか？」とみんなが思ったんだと思います。そうしたらキャスターが、「そういうこと言うって珍しいですね」とか「そんなことを言うと文句を言われるよ」などと言っていたのですが、その男性コメンテーターは、「わからない」と言いました。「なんで？」と誰かが突っ込んでいたような気もしましたが、そこはうまくごまかしてそのシーンは終わりました。だけれども彼がはっきり、「シャンシャンが可愛くない」と言ったのを私は見えています。これも一つの視点としてはあるでしょうね。だから“シャンシャンが可愛くない”という話のエッセイも書けるわけです。ただ、なぜ可愛くないのかということを書かなくてはなりません。「みんながシャンシャンを可愛いと言うけれど、私はこう思うから可愛くない」と書いて、それに説得力があれば良いエッセイになるでしょう。そういうところに視点のおもしろさというのがあります。

それから清少納言において3つ目のすごさというのは、キビキビした非常に簡潔な文章です。特に古典の場合は主語が分からなかったり、次から次に文章が長く続いていって一つの文章の中で2人や3人の主語が入れ変わって入っているような文章もあります。彼女のはピシャッとシャープな書き方なんですね。それは逆にとらえると、書きなれていない人が短いセンテンスで文章を書いていくという手もあるということだと思います。

お配りした資料を見ていただきたいのですが、『枕草子』の第一段のところでどれだけピシャツとした文章を書いているのか原文のほうが分かると思ったので原文のまま載せました。『枕草子』で一番有名なところです。何が書いてあるかという、「春は曙の時刻が一番いいですね。少しずつ山際が白くなっていって、明るくなってくると細い紫色の雲がたなびいたりする。春は曙がいいですね。夏は夜が一番いい。月の頃はもちろんいいんだけど、闇もいい。暗闇で蛍がたくさん飛び交ったりするのもいいですね。またひとつふたつの小

さな螢がほのかに光って飛んで行くのも風情があります。それに、雨が降っている夜もいいものですね。秋は夕暮れがいい」というふうに「これが好き」と好き嫌いをはっきりと言っています。「夕日が差して山の端に陽がどんどん近づいて沈んでいくと、鳥が自分のねぐらへと3つ4つ、2つ3つで飛んで帰って行くのは本当にもものあわれを感じる。まして飛んでいる雁などが連なって小さくなっていくのは、なんて風情のあることでしょう。陽がすっかり沈んでしまつて真っ暗なところに風の音や虫の音などが聞こえてくる。これもいい。だから私は秋の夕暮れが好き。冬は早朝が良い」と書いてあります。当時は陽が沈むと真っ暗だったと思います。「つとめて」は早朝のことです。「雪が降ったりすると言うまでもなくて、霜が降りたりして白くなっているのもとってもいい。また早朝は寒いから、火を起こして入れた火桶を宮中に急いで持って配っている人たちの姿、すごくいい。昼になると寒さが緩んでくると火桶の炭も灰になって白くなってしまふ。これは良くないわね、嫌いだわ」と書いてあります。だからこれも要は、「春はあけぼのが好き、こういうところが好き、夏は夜が好き、雨などが降ったっていい。秋は一番良いのは夕暮れね。夕暮れのこういう所が好き、冬は早朝が好き、こういうところが好き。寒いのは好きだけど、少し暖かくなって火桶の灰が白くなってしまふのはしまらないわよね。嫌いよ」と書いています。“わろし”は“嫌いだ”ということです。これは短くて、とてもシャープな文章です。ものすごく分かりやすい上に、風情があります。

エッセイというのは主語は書かなくても“私”なんですね。他人のことを書いても自分が主語なんですね。簡単に言ってしまうと、「私は春はあけぼのが好き、一番いいと考えている」ということです。エッセイは常に自分が主体です。この簡潔な文章というのは気どったりしていないので、おそらく多くの人の参考になると思います。例えばさっきお話しした夫の料理のことは、「私は夫には何の条件もつけない。でも、“夫は料理だ”と娘は言う。だからある時、“今、つきあっている人と結婚したらと言ったら？”と娘に言ったらそう返された。困った娘だ」と書くことはできると思います。あるいは母親も一緒になって、「そうよね、これからの夫は料理ができなくてはいね」という話でもいいと思います。

それから『枕草子』はテーマが分かれています。何を書いていいかわからない人には参考になると思います。資料の下の方を見てください。「枕草子の三つの章段」というところを見てください。実はこの他にも分け方があるのです。あるんですけども、私はこの分け方が一番わかりやすいと思っています。枕になるほど分厚い冊子は大きく分けると3つにわけることができます。

ひとつは“ものづくしの章段”です。一番目は虫とか鳥、森、山など自然について書いています。二番目は可愛らしいものや間の悪いもの、憎らしいものなどそういったものがいっぱい出てくるんですね。そういうことについて書いています。資料の②は“随筆的章段”体験談や他人について感じること。“こういうことは貧乏くさいと思う”とかについて書いています。こんなことを書いていたら嫌われると思います。秋田弁で言うと“やばつ”という感覚でしょうね。

③は“日記的章段”です。宮廷に仕えていたわけですからOL生活の様子みたいなことを書いているんですね。部下と上司のこととかのOL日記のようなことを書いています。例えばこの中でも“ものづくしの章段”の“もの”については本当に書くことの宝庫です。例えばさっき申し上げたみたいに、間の悪いものや可愛いもの、憎らしいものについて書いているんですけども、その他にもいらぬもの、滅多にないものについても書いています。がっかりするもの、格好いいもの、悔しいものなどまだ延々とあります。それらについてずっと書かれています。その中でも「滅多にないもの」などはすぐに書けそうな気がします。例えば、「底意地の悪い嫁がパリに行ってきた“お母さまこれお土産です”とスカーフを買ってきた。すごく綺麗でいいスカーフだった。これはきっと裏があると思った。こんなことは滅多にない」と書くことができます。あるいは、「そう思う私は単に底意地が悪いのだろうか」とも書くことができます。

さっきの「春はあけぼの」は山などのこと書いていますが、これは二番目の随筆的章段に入るんです。山などの自然のことを書いていますから①のものづくしの章段に入るのではないかと思うのですが、一番目の章段は単に山の名前を羅列しているんですね。例えば、「山は小倉山、鹿背山、三笠山、木暮山、いりたちの山、忘れずの山、末の松山、かたさり山、五幡山、かへる山、後背の山」と羅列しています。これは何の羅列なのかと考えると清少納言のおもしろさが出てくるんですけども、おそらく名前の良さだと思います。“私にとって風情のある山の名前”なんだと思います。「小倉山、鹿背山は鹿の背ですから名前として良いですよ。木暮山は木が暮れる山ですから風情がっていい名前です。忘れずの山、末の松山、かたさり山はどういう意味なんだろう、風情有りますね」と清少納言は書いています。他にも「五幡山、かへる山、後瀬の山はいいですね」ということを書いているだけで、標高の高い順というわけではありません。名前を考えたときに「その由来は何だろうかと思う」というエッセイというのは書けるんですね。さっき申し上げたみたいに①の“ものづくしの章段”に入って随想とは違うわけです。

第十七段は「淵」について書いてあるんですね。「淵は」と書き始まります。「淵は、かしこ淵は、いかなる底の心を見て、さる名を付けけむと、をかし」は「どうしてこんな名をつけたのかしら。入るなという頭の良い淵なんですね。おもしろいわね。」なんですね。それからこれも面白いです。「な入りその淵」は古語の使い方で「な〇〇そ」は「〇〇してはいけません」なんですね。ひとつの文脈に“な”と“そ”が入っていたら「してはいけない」だから「な入りその淵」は「入ってはいけない淵というのもおもしろいんですね」なんて書く。それから「青色の淵こそ、をかしけれ。蔵人などの具にしつべくて」は「青色の淵というのも素敵よね。宮中の男性たちの衣装にしたら良さそうな名前よね」ということを言っている訳なんです。「隠れの淵、いな淵」は隠れの淵はなんだか色っぽくて、いな淵も「いない淵」ですから男と女の色気を感じさせるような淵の名前になっています。おそらく清少納言はそういうところから書いていったのだと思います。「川は、山は、海は、お屋敷は」などのように自分の感覚でプッシュして書いていっています。

随筆的な「春はあけぼの」や「山の端が段々赤くなっていく」というのとはまた違います。「鳥は、牛は、森は」と自分の感覚で好きなものを羅列していっています。ですから、「この間千秋公園の入り口を入ったら、桜の木があって桃の木があって梅の木もあった」という羅列とは根本的に違います。だからみなさんも例えば自分が好きな春の花ということで、ちょっと変わった切り口で書いてみるといいかもしれません。「私の好きな花はこういう花だ」と書き始めてもいいと思います。花の名前は今はみんな横文字になっていますが、シクラメンは日本名で「篝草みがりびそう」というんです。真っ赤な篝火が燃えているように見えますよね。好きな花を選んで日本の名前を調べてみると非常に面白いです。ルピナスという花は「昇り藤」と言うんです。藤の花を逆さにしたような形をしていて下の方から昇るように花が咲いていきます。「昇り藤」と言った方が分かりやすいような気がします。そのあたりのことも書けるとと思います。

今日は紫式部の意地の悪いところまで行きたかったのですが、残りの時間が少なくなってしまうました。次回に残りの部分を続けたいと思います。随筆的な章段のところで自分の思いを書くというのは何も好き嫌いだけのことでなくて、例えばさっきお話したカラスのことで、「夜に鳴くものはみんな好き」と書いてあります。「鶯も牛も夜に鳴くのはみんな好き。だけど赤ん坊の夜泣きは嫌い」とあって、ここら辺の感覚は面白し、皆さんもこういうことってあるのではないのでしょうか。

私が「山」と言って思い出すのは岩手山なんですね。盛岡で突然心臓病に襲

われて13時間近くにわたって緊急手術を受けました。その時は「助からないかもしれない」と言われたのですが、奇跡的に生還することができました。そのとき4ヵ月近く入院しました。たまたま倒れた盛岡が父親の故郷でしたので、もちろん馴染みもあって友達もいたのですが、すごく遠く離れた病院で一人入院して、筋肉も落ちて動けなくなっていました。東京から家族も来てくれてはいたのですが、結局私が毎日毎日そこで何をしてたかという、動けなくて寝てばかりいる。すると、病室の窓から毎朝鳥が飛んで行くのが見えるんですね。ある朝看護師が、「今日は岩手山がきれいに見えますよ」と言ったんです。私は動けずに寝たままだったので、岩手山が見えることを知らずにいました。「岩手山が見えるんですか？ どうにかして見たいです」と言ってみましたが、とても動けるような状態ではありませんでした。それから2ヵ月くらい経ってから看護師さんが車いすに乗せて岩手山が見える窓辺に連れて行ってくれました。それはもう、鳥海山も太平山もそうですが山がそこにあるというのは凄いなと思いました。東京では山が見えません。岩手山がどんと目の前にあったのです。その風景というのは感激でした。一番印象的だったのはシルエットになっていく岩手山です。夕方に山がシルエットになるのは当たり前なことなのですが、とても印象的でした。入院中は毎日、山がシルエットになると必ず病室のテレビからNHKの天気予報のテーマ曲が流れていました。ちょうど天気予報の時間だったのです。退院して10年近くなるのですが、今だにその天気予報の音楽を聴くと岩手山がシルエットの時間だということを思い出します。このことを何かに書いたことはないのですが、書いたら1本のエッセイにはなりません。シルエットの山が好きということではなくて、シルエットの岩手山を見ているといつもあの音楽が聞こえていた。今、銀座や六本木であの音楽を聴いても岩手山が反射的に甦ってくるわけです。そのことと同じように秋田の山や川やいろんなところに皆さんはお持ちだろうなと思います。そういうことを自分と重ねて書くこともできます。

ノースアジア大学文学賞が10周年になったのを記念して特別賞を設けたんですね。そのときに花のことを書いたエッセイがありました。男の人でしたけれども、この作品は本当に見事でした。随想とはこういうことだなと思います。「山」と言われるとそのことだけでなく自分の出来事と重ねる。同じように『カトレア』というタイトルのそのエッセイは花のカトレアと重ねています。「今はおじさんになったけれども、今から何年も前はやんちゃ坊主だった。そのときにクラスメートにもものすごく優秀な子がいた。その優秀な少年が病気になって入院してしまった。やんちゃ坊主たちが相談してお見舞いに行くことになっ

た。そのときに何を思ったか、俺たちやんちゃ坊主は花屋に行ってカトレアを買った」。あの頃の子どもですから、鼻までは垂らしてないにしても、たぶん結構埃っぽい小学生だったんだと思います。その子たちがカトレアを買ってルンルンお見舞いに行ったという話なんです。それで、「その非常に優秀だった男の子は喜んでくれたんだけど、結果的にその子は失明してしまった。だけれども今はマッサージ師としてすごく頑張っている。カトレアの花を見るといつもそのことを思い出す」という文章だったのですが、これはすごく上手いです。シーンが映画みたいに思い浮かんできます。腕白坊主が3人でカトレアを抱えてお見舞いに行く。高い花ですからたぶん一本でしょうね。結果的にその子は失明したけれども、すごく頑張っただけで今はいいマッサージ師になっている。いい話だなと思います。これこそまさに随想的章段にあたる話です。だからこうやってみなさんも是非書いていただきたいと思います。

応募期間は6月上旬から8月下旬頃ということですので、次回の6月の講演では今日お話しできなかった「ものづくしの章段」についてお話ししたいと思います。例えば大きい方が良いものということについて書いています。清少納言もよく言うな、と思うのですが、「大きい方が良いものは“家”それから“お弁当を入れる袋”“お坊さん”“果物”“山吹の花”」と書く。お坊さんの大きいのはどうなんだろうと思うのですが、袈裟の具合とか着映えがして大きい方が立派だと感じたのかもしれませんが。果物は確かに西瓜などは大きい方が良いです。あとは“嬉しいもの”とかいっぱい「ものづくし」を書いていきます。この「ものづくし」を知れば必ずみなさんエッセイを書けるようになると思います。始めから上手でなくとも、8月まで練習したら書けるようになります。

私は選考委員ですが、作品は丁寧に読みます。石川好先生も選考委員ですが趣向が全然違いますので、私とぶつかったりすることもあります。是非応募していただきたいと思います。そのときには、さっきご紹介したような山の名前を羅列するのはだけでなく、名前が好きとか姿が好きとか、その山についての思いを書いてください。次回もまた丁寧に話ししたいと思います。長い時間ありがとうございました。

海老川 内館先生ありがとうございました。内館先生より文学賞の宣伝もしていただきました。今年作品集は来週出来上がる予定です。最優秀賞、優秀賞、選考委員特別賞として内館牧子特別賞、石川好特別賞、今年度は10周年記念の第10回記念賞の入賞作品を掲載しております。また入賞、落選にかかわらず全員の作品名とお名前も掲載しておりますので、ご応募いただいた方全員に作品

集をお送りします。

内館先生がご紹介してくださいましたエッセイ第10回記念賞の『カトレア』という作品についてはコピーでよければ総合研究センターにお話しいただければ希望者にお送りいたします。皆さま方はこれでエッセイの達人になられたので6月中旬から8月いっぱいくらいまでに、作品をお送りいただければと思います。ちなみに最優秀賞の副賞は旅行券5万円分です。

今年はモンゴル、香港、アメリカのソルトレイクシティからの応募があって全国各地から700通近い作品のご応募がありました。もちろん秋田からも良い作品の応募があって多数入賞しております。お待ちしておりますので、是非ご応募ください。よろしく願いいたします。

内館先生本日はありがとうございました。

内 館 石川好先生はノンフィクション作家で、ご自身もすごくよく取材されて作家活動をされています。私はフィクションの方、創り物を書いているので二人で違うんですね。だから意見の相違などがあってお互いに捨てがたい作品があるとなって、石川好特別賞や内館牧子特別賞を作ったということもあります。是非、いろんなことを思いっきり書いて送ってください。次回は清少納言の続きを少しやって「好きなもの」「嫌いなもの」「いいと思うもの」「滅多にないもの」「格好いいもの」を具体例として取り上げていこうと思っています。それと紫式部が『紫式部日記』でここまで言うかというくらい、清少納言の悪口を書いていますので原文ご紹介したいと思います。

みなさん今日は本当にありがとうございました。

海老川 それではこれにて内館先生の講演会を終わります。次回の公開講座にも、またぜひお越しください。ありがとうございました。

枕草子 第一段

春は曙。

やうやう白くなりゆく山際、すこしあかりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。

夏は夜。

月の頃はさらなり、闇もなほ、螢のおほく飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。

雨など降るもをかし。

秋は夕暮。

夕日のさして、山の端いと近うなりたるに、鳥の寝どころへ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど、飛び行くさへあはれなり。

まいて雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆるはいとをかし。

日入りはてて、風の音、虫の音など、はたいふべきにあらず。

冬はつとめて。

雪の降りたるはいふべきにもあらず。

霜のいと白きも、またさらでもいと寒きに、火など急ぎおこして、炭持てわたるもいとつきづきし。

昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火桶の火も白き灰がちになりてわろし。

枕草子 第三十四段

木の花は、濃きも薄きも紅梅。桜は、花びら大きに、葉の色濃きが枝細くて咲きたる。藤の花は、しなひ長く色濃く咲きたる。いとめでたし。

枕草子の三つの章段

① ものづくしの章段

I. 虫、鳥、森、山など自然について

II. 可愛らしいもの、間の悪いもの、憎らしいものなどについて

② 随筆的章段

自分の体験談

他人に対して感じること

③ 日記的章段

宮廷生活の様子や他人とのやりとりなど日々のことを、いわば日記的に記録している

〔講 演〕

ノースアジア大学 総合研究センター主催 講演会

「エッセイを書こう
—枕草子をテキストに—②」

講 師 脚本家

ノースアジア大学 教育諮問会議委員

ノースアジア大学 総合研究センター客員教授

内 館 牧 子

司 会 ノースアジア大学総合研究センター長

本学経済学部教授

藤 本 剛

日 時 平成30年6月16日 午後1時00分～2時30分

会 場 ノースアジア大学 40周年記念館271教場

藤 本 皆様こんにちは。本日は総合研究センター前期公開講座内館牧子先生の講演会にお出でいただき誠にありがとうございます。ご案内のとおり本日のご講演は3月に引き続き、「エッセイを書こう－枕草子をテキストに②－」でございます。

エッセイを含むノースアジア大学文学賞は6月1日より作品の応募を開始しておりまして、8月25日の締め切りとなっております。昨年度は第10回の記念の回でありましたが612作品の応募がございました。前回のご講演会で先生は受講者の皆様に、「必ず応募するように」とおっしゃってくださいました。本日の講演からさらにエッセイについて多くを学び、書きたい意欲が一層高まるものと期待しております。それでは内館先生よろしくお願いたします。

内 館 みなさん、こんにちは。いつもの講演会ですともっと多くの方にご出席をいただいておりますが、今日は周知が遅れてしまって一部の方しか間に合わなかったと聞いています。でも問題ありません。実は以前、東北大学で学部長などから講演をお願いされたことがありました。母校でもありますからお受けして、川内キャンパスの400人くらい入る階段教室でお話しすることになりました。当日、大学に到着するとスタッフが困った顔をしていたので、どうしたのか聞きました。そうしたら周知をしていなかったということでした。今日の場合はしなかったのではなくて、遅れて徹底できていないということですよね。東北大は周知をしていなかったんです。私も在学中に授業を受けていた大きな教室なんですけれども、これから掃除でも始まるのかなと思うくらい人がいなくて、一番前の席に慌ててスタッフが9～10人くらい座りました。さっきまで受付をしていた人もいました。受付はしなくてもいいんですよ、周知していないですから誰も来ない。そんな状態でまじめな話をしてもどうなるんだろうと思って、結局あの日は最後まで相撲の話をして終わりました。今日は10人よりは多くの方がきてくださっています。これだけ入れれば満員みたいなものだと思います。わざわざ今日いらしてくださったみなさんが損をしないように、この後ノースアジア大学文学賞のエッセイの部に少しでも応募する力になるように、それを考えながらお話ししたいと思います。やっぱり得をしたと思ってお帰りいただけるようにしたいと思います。みなさんノースアジア大学文学賞のエッセイの部に必ず応募してくださいね。私はこの後、市民市場に寄ってイカステーキを買って帰ります。

前は『枕草子』に学ぶエッセイの書き方のパート1をやりました。本当は1回で終わらせられるかな、と思ったのですが清少納言は中身が濃いですから、

2回に分けることになりました。今日がその2回目です。ただ1回目をお聴きになっていない方もいらっしゃると思いますので、1回目の復習を簡単にしてそれから2回目の内容に入っていきます。

書くということはすごく面白いことです。気持ちの整理もなります。例えば「大切な人を亡くしてどうすればいいのか分からない」と言っている人や「重い病気を宣告されてぐちゃぐちゃになっている」とか「不倫の果てにどうしていいのかわからない」といった暗い問題だけではなくて「孫や子供がよい学校に入った、よい企業に入った」や「娘が結婚した」という嬉しいことや会社の問題でも書くことによってかなり整理ができるということがあります。ぜひ書くことをお勧めしたいと思います。

日記のようなものであれば誰も読みませんから、好きなように書いていいんです。書き方のルールも一切ありません。「不倫の相手を絞め殺してやる」でもなんでもいいんです。それは日記ですから自分しか読みません。だけれども私が秋田魁新聞に書いているようなものは不特定多数の方が読むわけです。これから私がご説明しようとするのは、「不特定多数の人が読むエッセイという短い文章をどう書いたらいいか」ということです。書き方のルールというものが別に決まっているわけではないのですが、最低限のことは覚えていた方がコントロールなどに出すのなら得策です。ノースアジア大学文学賞にはエッセイの部門があります。それから秋田県では、「ふるさと文学賞」というのをやっています。紀行文の部やエッセイの部があります。そういったところに出すときの最低限の心得を覚えていたほうが得策だと思います。それを清少納言から学ぶという大それた授業です。

まず前回にもやったことですが、書き慣れていない人が陥りやすい間違いがあります。ひとつは論文調だということです。これは無理もないのですが、大上段に構えてしまっているんですね。例えば、「エコについて話題になっているけれども私は関心がなかった」ここまでは良いんです。「でも関心が生まれて世界のエコはどうだろうかと思うようになった。アメリカではこうで、イギリスではああで、エコの先進国では何とかで、東京では何々で、秋田ではこんなふうで、北海道では…」と書き並べててしまうんですね。アメリカや先進国の例や日本国内の状況を論文のように並べても、エッセイではなくて小論文になってしまいます。例えば私が秋田魁新聞のいつもの連載欄にこういう文章を書いたとします。そうすると「小論文でつまらない」という声が来ると思います。そのかわり、そのデータを元に自分が何を考えているか、何に行きついたかを書けば良いエッセイになります。「みんなはマイバックとかマイ箸と

か言っているがそれは違うと思う。なぜなら…」と徹底的に説明したり、「朝から晩まで家じゅうの電気を消して回ったら息子に嫌な顔をされた。妻が嫌がった」などを書く。自分が何を考えてどうしたかなんです。データだけでは絶対にダメです。これは忘れないでください。間違いやすいのは論文調になることです。

もうひとつ間違いやすいことは、実に多いのですが状況説明になってしまっているものです。例えば、「今日は久しぶりにお祖父ちゃんを車イスに乗せて千秋公園に行った」と書くと、ここまでは大丈夫です。「ちょうど藤の花が満開の時期でした」ときて、問題はその後です。これは実際に多いことなのですが、「千秋公園の入り口を入ったら藤の花が咲いていた。もうしばらく行ったらタンポポが咲いていた。もうしばらく行ったらバラが咲いていた。また行ったら何とかが咲いていた。何とかが咲いていて、池のところには何とかも咲いていた」と状況説明になってしまっているのです。千秋公園ではなくて他県の方の作品でしたが、実際にこういう作品を読んで、ちょっとびっくりしました。でもこれはよくあるんです。「山に行ったら鳥がいた。何とかが飛んでいた。しばらくしたらカッコウも来た。雁も来た。スズメが来てピーと鳴いた。ピューと鳴いた」というような状況説明とだけではエッセイになりません。「藤が咲いたところにおじいちゃんを車イスに乗せて押して行ったら、普段家で見ている顔と違う顔をしていた。嬉しいのだろうと思ったら、おじいちゃんは面倒くさそうな嫌そうな顔をしていた。なぜだろうと思って“おじいちゃん藤がきれいね”と私が言ったら“俺は藤より家にいる方がいい”とおじいちゃんは言った。えっ、どうしたんだろうと思ったけれど公園を一周してすぐに帰ってきた。おじいちゃんは家の池の鯉に餌をあげて嬉しそうにしていた。やっぱり家が一番いいらしい」となると、人の心や気持ちがわかります。状況説明というのは間違いやすく、陥りやすいことです。

もうひとつはこれもよくあるんですが、垂れ流すんです。何を垂れ流すかという、一番多いのが“孫”です。孫自慢のエッセイは大変です。ある俳句の結社に入っている方から、「うちの結社ではとうとう孫の句を禁止しました」という手紙をもらったことがあります。聞き苦しくて禁じたということでした。五七五の短いものでも孫は聞き苦しいんですから、エッセイになるともうすごいんです。でもこれは自分にとって一番書きたいことなんですね。愛する者について書きたいという思いは分かります。書いてもまったく構わないのですが、私のかわいい孫についてあるいは優秀な孫について、例えば「孫が明桜高校に入って甲子園に出た。キャプテンをしている。二刀流でとても自慢の孫だ。う

ちの孫はすごい」とおじいちゃんが自慢を書きたいと思った。でもこの嬉しさをどう書くかなんです。多くの人が垂れ流してしまいます。雑誌や新聞の投稿欄を見るとお分かりになると思います。例えば「よっちゃんは、バァバのアイドルだよ。いつまでも元気でいてね」と不特定多数の人に読ませています。これはこのままでは感動できません。日記ならいくらでも垂れ流していいんです。「うちの孫ほどかわいい子はいない。隣近所の孫を見てもどこがかわいいんだと思う」ということを書いても構わないんですが、不特定多数に読んでもらって、且つノースアジア大学や県でやっている文学賞などに応募するときは垂れ流していると読みにくいし、みっともないものです。

これをどう書くかなんです。それは孫に限りません。夫婦愛についても同じです。「うちのお父さんは世界一だ」ということは書いてもいいのです。全く問題ありませんが、どう世界一なのか、世界一についてどう考えて何で妻は世界一にしたのか、というあたりがエッセイになるんですね。ただただ、「病気で寝ている私のところにお粥を持ってきてくれた。今まで作ったこともないお父さんが“お粥ができたよ”と言って持ってきてくれた。私は思わず涙で目の前が見えなくなった」と、とにかく目の前が涙で見えなくなるのが大好きなんです。孫が大きくなって小学校に入った。ランドセルを背負ってヨタヨタと私の前に歩いてきた。「バァバ見て」と言った。もう嬉しくて涙で目の前が見えなくなった」は、ランドセルを背負って歩いたくらいでは、不特定多数の人を感動させることは絶対にできません。自分だけ感動している分にはいいんです。夫婦二人で感動している分にはいいんです。ランドセルを背負ったよっちゃんを見て「偉いね、すごいね」と涙で前が見えなくなるほど感動するのはいいんですが、ランドセルを背負ったくらいでなぜ嬉しいのかをきちんと書かないと、単に垂れ流しになってしまいます。ですから孫のこと夫婦愛、親子愛などの身内のことを書くのは特に難しいんです。だけれども書けるようになるとテーマとしては非常にいいテーマです。

もうひとつ前回のおさらいで、書きたいんだけど何を書いていいのかわからないという人が結構いるのです。ところが、それを聞いてあきれられる人もいます。「書きたいのに何を書いていいかわからないってどういうこと？バカじゃないの」と言うかもしれませんが、気持ちは良く分かります。とにかく書くことをしたい。でも何をどう書いていいのかわからないんです。孫のこともいいんだけどどう書けばいいのかわからない。まして私に「孫のことはちょっと難しいですよ」などと言われると「さあどうしましょう」となると思います。何を書いていいかわからない人のために清少納言の『枕草子』が、一千年以上

前に書かれたエッセイ集ですが非常に勉強になると思って、それで取り上げたいなと思ったのです。

清少納言は夫や子供と別れて一人で、今でいう住み込みで一条天皇のお后に宮仕えしたんです。あの時代にキャリアウーマンとして外に出たわけです。そういう女性なんです。そのときに宮中でずーっと書き溜めたエッセイが『枕草子』だったのです。枕にして眠れるくらい、うず高くたくさん書いた原稿があったので『枕草子』という名前になったそうです。

これも前回のおさらいになりますが『枕草子』の何がすごいかというのは、とにかくエッセイを書く上ですごく勉強になります。まず清少納言は紫式部などと同時代の一千年前の人です。一千年前の人なのとにかく好き嫌いをはっきりいう人なんです。好き嫌いをはっきり言うということは結構大事なことです。例えば、「うちの孫は隣の孫と比べると全く違う。顔もかわいい、姿もいい、頭もちがう、ものすごくちがう。うちの孫はなんてすごいんだと思っていたらば、孫の母親である娘が“えっ、私が見る限りあまり変わらないよ”と言った。そこでバァバは怒った」という話なら面白い。清少納言は好き嫌いをはっきり言っています。一千年前にそれを言うということはすごいことです。当時の女性は顔を人前にさらさないし、楚楚として女らしく生きていくのが一番良かった時代です。例えば清少納言は、「鳥の中では不如帰が好き。鶯は嫌い」とはっきり書いています。「なんで嫌いかと言うと、鶯は春告げ鳥なんて言われているけど春が過ぎたってだらしくいつまでも鳴いているんだよね。あれでは春告げ鳥でもなんでもないじゃない。私はああいうダラダラした鳥は嫌い。締めまりがないわ」と書いています。「春が過ぎてもまだ鳴き続けているから締めまりがないわ」という視点はおもしろいと思います。皆さんの中にも多くの「これは嫌い、好き」ということがあると思います。それはエッセイになります。

そうかと思うと清少納言は、「言っちゃなんだけど、人の悪口や噂話は我慢できないわよね。言いたくて言いたくて仕方がないものね」と書いています。「それを“してはいけない”と怒る人の方がどうかしていると思う。誰だって好きでやりたいことなんだから。でも私だってちょっと憎み切れないなと思う人のことは、できるだけ言わないように我慢しているけど」と書いています。これも実にはっきり自分の思いを出しています。やっぱりあの時代では相当すごい女だと思います。多分ですけど、私はあまり秋田弁が上手ではないのですが秋田の言葉で言えば「やばつ」じゃないかと思います。わあ、皆さんから反応があって嬉しいです。やっぱり秋田弁で「やばつ女」で合ってるんだなと思います。秋田弁ベラベラの母に清少納言の話をして、「ねえ、この人やばつがった

んでない？」と聞いたら、「あいー、やばつ人！」とっていました。この「やばつ女」を標準語で言おうとするとすごく難しいです。「嫌な女」でもないし「下品な女」でもないし何と言っていいのかわかりませんが、とにかく「やばつかった」のです。好き嫌いをはっきりと言うことは皆さんが書く上で頭に入れて置くと良いことだと思います。

もうひとつ清少納言は視点が面白かったのです。何かを見るときにその見方があたりまえではありませんでした。この当たり前ではないというのは何も清少納言の才能ということではなくて、誰もそういうところを持っていると思います。例えば少し前のことですが、上野のパンダのシャンシャンが生後半年くらいの頃だったと思います。小さくてコロコロしていてかわいくて、どこのテレビ局も一辺倒でした。シャンシャンの映像が流れてみんながかわいいと言っているときに、一人の男性コメンテーターが、「僕は別にかわいくない」と言ったんです。スタジオが凍り付きました。私はリビングでテレビを見ていたんですが「へえ～」と思いました。私もシャンシャンをかわいいと思って見ていました。しーんとなったスタジオでキャスターが、「珍しいね君、どこがかわいくないの？」と聞いたらその男性は、「よくある動物の子どもです。動物の赤ちゃんはみんなかわいいから別に珍しくないですけど…」とか、はっきり言わないでうまくごまかしていました。上野のシャンシャンが別にかわいいと思わないという視点はおもしろい視点です。どうしてかわいいと思わないのかを、きちんとおもしろく書けたら素晴らしくおもしろいエッセイになるだろうなと思います。

それと同じように清少納言もそういう視点を持っていました。例えばカラスについて書いているんですね。この視点というのは、「カラスというのは人に嫌われている。頭が良くて悪さもするし、見た目もかわいくなって愛嬌もなく嫌な鳥ですね。でも夜になるとおもしろいんですよ。夜中に木に留まって寝ぼけて落ちそうになって、慌てて“カー”などと鳴いている。こういう姿と言うのは昼間の賢げな憎らしさに比べたら愛嬌があってかわいいわよね」と書いています。こういった表の顔と裏の顔がすごく違うというおもしろさは人間にもあるだろうと思います。例えば上司について、「すごく仕事に冷酷で下の者をバンバンやっつけて、パワハラギリギリのことをする嫌な奴だと思っていたら、あるときお祭りで孫を連れて歩いている部長の姿を見た。部長はネイガーの紙のお面を被って綿あめを持って孫と一緒に歩いていた。その顔はとてもやさしかった。孫と私たちに見せる顔とは全然違うじゃないかと腹も立ったが、何か人間臭さを感じてかわいらしいなと思った」という話だと、嫌な上司の人

となりもよく書けるわけです。

それから清少納言の文章で有名なものですが台風の次の朝のことを書いています。台風のことを野分のわけというのですが、「野分が過ぎ去った朝っていいわよね。すごく雰囲気がある。塀とか垣根が倒れて庭の草木の上に折れた大きな枝などが落ちていて、女郎花や萩の花などがてんでんバラバラに地面に叩きつけられている。そういうのを見るとちょっと風情があるように私は思う」と書いています。これも今だったら「台風被害に遭っている人に対して何という無神経な」と炎上しそうですけれども、少なくとも「嫌だと思ふ台風でも翌日は風情があるわよね」という視点は独自のものです。みなさんの中にも他とは違う視点をお持ちのことがあると思います。そういうところを書いてみるのも良いと思います。

例えばだいふ前のことでしたけれども40歳過ぎで独身のモテモテな俳優さんに、当時70歳過ぎくらいの女性有識者2人がテレビの中で、「あなた結婚しないとだめよ」と諭したのです。俳優さんは、「そうですよね」と聞いていました。2人对1人だったので女性たちが、「どうして結婚しないの？」と詰め寄るわけなんです。そのうちの1人が、「妻の手料理を食べずに死ぬっていうことは人生すごく損したことよ」と言ってもう1人も、「そうだそうだ」とやっていました。私はたまたまそのテレビを見ていたんですけど、その独身の俳優さんがちょっとためらった後で、「おっしゃってることはよく分かるんですが、僕は妻の手料理を食べることが幸せだとは思えないんです」と言ったんです。そしたら2人は血相を変えました。私は「おもしろい！」と思って見ていました。彼は「今はおいしいものはどこに行ってもありますし、あまり美味しくない妻の手料理を食べるより、本物のプロの包丁を使った料理を食べたいんですよ」と言っちゃったんです。おもしろかったですよ。そしたら女性2人が怒りました。「プロの包丁と妻のあまり美味しくない料理を比べると、妻の料理の方が上だ。なぜなら愛情がこもっている」と女性たちは正論を言ったのですが彼は、「愛情って時にうっとうしいかな」と言っていました。これもわかるなと思いました。これも今考えるとエッセイになります。常に世の中で言われていることを、「本当かな、私はちょっと違うけど」と見て書くこともひとつの方法としてあります。それが自分の視点ということになります。

さらに清少納言の3つ目のすごさというのが文体なんですね。文章です。これは初めて書くときやあるいは書き慣れていないときは文体も文章もありません。ノースアジア大学文学賞の選考をしてもふるさと文学賞の選考をしても文章とか文体とかいう以前に、例えば決められた枚数5ページに一回も

句読点がなくずーっと続けて書いている人がいるんです。話はいいいんですけど、段落も何もなく、ずーっと続いているんですね。ふるさと文学賞で言えば私も西木正明さんも塩野米松さんも、「これすごく読むの大変でしたね」と言っています。話はいいいですよ、となるのです。ですから最低限の書き方というのがあります。清少納言で言えば、まず文章が簡潔なんですね。短いセンテンスで文章を書いています。小説なんかで言えば野坂昭如みたいにずーっと「、」で続く文体もあります。だけれどもそれはプロの第一人者の技であって、まず私たちが書くエッセイのときには不特定多数の人が読んでわかるような文章なんです。となると句読点や段落がなくずーっと続くような文体だったり、装飾がいっぱいくっついて訳がわからないような文章は、読んでいても途中でギブアップですよ。「僕は〇〇した」の「僕は」という主語と「〇〇した」という述語の間にいろんなことが書いてあってそれが3ページあった文章もありました。読んでいても主語の「僕」を忘れてしまいます。途中でお祖父さんが出てきたりお祖母さんが出てきたり孫が出てきたりするんです。ですから例として学ぶならば清少納言は短くはっきり書いているんですね。一番有名なのは、「春はあけぼの」です。「夏は夜」「秋は夕暮れ」とはっきりしています。「冬はつとめて」の「つとめて」は「早朝」のことですから「冬は早朝」ということです。「春はあけぼのが良いですね。なぜなら山際が少しずつ明るくなって行って紫がかった雲がちょっとずつたなびいて、つくづくこの時間は良いですね」「夏は夜。月の夜はなおさら良い。たくさん蛍が飛び交っているのも良いし、少しの蛍が飛び違うのも良い。雨が降っても夏の夜は良いですね」と短い文章で書いています。書くときにまず、ここで「、」を打てるかな？「。」で止められるかな？と思うことです。「春はあけぼの」「夏は夜」というような名詞で止める書き方を体言止めと言いますが、そういう書き方もできるんじゃないかなと考えてみて下さい。短くすると初心者は特に書きやすいということに加えて、文章にリズムも出てきてシャープに聞こえます。例えば小学生に多い文章ですが、「僕は朝起きて、顔を洗って歯を磨いて、ご飯を食べて、ランドセルを背負って玄関を出て、玄関ではお母さんが見送ってくれて、それからみんなと待ち合わせしているところに行って、集団登校で学校に着いて、学校では「おはよう」と先生がみんなの頭をなでてくれて、一時間目は国語で…」とずーっと続く。こんな文章は小学生だけだと思ってしまうかもしれませんが、それは違います。大人でもやってしまいます。妻と喧嘩をしたなんておもしろい話があったのですが、なぜ喧嘩をしたのかというところに行きつくまで1ページ半ぐらいかかりました。「朝起きてコーヒーを飲んでいたら妻がきて“そのコップは違うと昨日か

ら言っているでしょう。あんたは何でわからないの”と怒って、私は“いいじゃないか、これが好きなんだから”と言ったら“すぐに口答えするんだから”と言うので“夫は妻に口答えをしてはいけないのか”と私が言いそこで喧嘩になり…」と続いていくのですが、本格的に喧嘩するまでさらに状況説明が続きました。「そのときにちょうど小倉さんのワイドショーをやっていたので僕はそっぽを向くふりをして見ていたら妻がテレビを消して“またテレビを見て逃げる”と言ったので頭にきて…」と続きます。これはエッセイになりません。文章が続いている限りは行替えができません。行替えは基本的に文章が終わったところであるものなんです。だからこれも考えて欲しいところです。

それから何を書いていいか分からないという人たちにとって『枕草子』はすごく良いお手本になるだろうということを前回も言いました。ひとつは『枕草子』は3つの章段、章に分かれているんですね。まず1つ目の章段は「ものづくし」なんです。これは虫について、鳥について、森について、山についてなどの自然について次から次に書いています。それから、可愛らしいものというのは何だろう、間の悪いものは何だろう、ということについて書いています。これも私たちがエッセイを書くうえで参考になるものです。

2つ目の章段というのは「随想的な章段」です。これは体験談なんです。宮仕えをしていていろいろな体験をした、また体験をさせた相手に対して思うところがあったというような。これは私たちも社会の中に住んでいて、隣近所や会社や商店などいろんな所でいろんな人に会ったり一緒に何かをする。そんな中で感じるものがたくさんあります。その体験を書くということです。そういったことはどんなことでもあらゆることがテーマになります。例えば無責任なことに関して自分の想いを書くという意味では全然構わないです。例えば、「トランプ大統領はいつも赤いネクタイをしている。あれどうしてだろうと考えた」ということを書いたとします。「トランプさんを見たことはないわけですけど、なんでいつも赤いネクタイをしているんだろう。あの人は上背もあるし71歳の割にはなかなか精力的な顔立ちだし、体もいいしバシッとスーツを着ている。でもあの赤いネクタイは何か変だ。なぜなんだろうと僕は考えた。その結果こういう理由があるんじゃないかということ考えた。ふと気が付いてみると中国の習近平も赤いネクタイをしていた。これはなんでだろうと考えた。トランプとは絶対に違う理由があるはずだ」というふうに自分が思ったことを書くことができるということは、エッセイとして随想的なおもしろさだと思います。

3つ目の章は「日記的な章段」です。これは本当に日記的に毎日朝起きて仕事をするなり学校にいくなり娘や息子と夫と朝ご飯を食べるなりしたときに、

ふと感じたことや思ったことを書き連ねたものです。

私がNHKで『ひらり』という朝の連続テレビ小説の脚本を書いたときに、当時どなたかが皇太子浩宮様に、「殿下、好きなテレビ番組がありますか」と尋ねたそうです。「『ひらり』が好きだ」とおっしゃっていたと、つい先日発売された週刊誌に載っていました。これは本当なんです。私はNHKの「青年の主張」の選考委員をしたことがありました。今は「青春メッセージ」という名前になっている二十歳になった人たちのメッセージの弁論大会です。そのとき、おひとりでご公務にいらしていた皇太子殿下が貴賓席にお座りでした。NHKホールの中のあまり大きくない部屋でティーパーティが催されて、私の他にも何人かの選考委員がいたのですが殿下は一人ひとりと短い会話をしてくださいました。会話の前には横に付いている方が、「この人は何々さんです」と説明をするのでした。私のときも、「内館さんです」と言ってくださったんだと思います。そうしたら、「『ひらり』見えますよ」と殿下がおっしゃってくださいました。「ありがとうございます」と申し上げました。あのときひらりには、みのりというお姉ちゃんがいる設定でした。ひらりはハッキリした子だったのですが、みのりはハッキリしない子でこの先どうなるのかが全く見えな状態で放送が続いていたときでしたが、視聴は40数%ぐらいいっていました。そうしたら殿下から、「これからみのりちゃんはどうなるんですか」と聞かれたんですね。私は咄嗟に出たことなんです、「いくら殿下でもお教えできません」と言っちゃったんです。本当に咄嗟のことでした。すると殿下が、「そうですか。それではテレビでずっと拝見しましょう」とおっしゃって、にっこり笑って隣の方へと移って行かれました。私は本当にご覧になっているとは信じていませんでしたから、殿下の言葉に自分が恥ずかしくなりました。随想的な章段というのは曖昧ですけれども、実は自分の想いを書くということではすごく書きやすいものです。

1回目のときも申し上げたのですが、ちょうど10年前に岩手の盛岡で突然具合が悪くなってしまいました。心臓と動脈のダブルで急性の病気に襲われてしまったんです。それまでは本当に元気でしたから、突然ドンと来て意識不明の状態です。岩手医大の病院に救急搬送されました。そこでトータルで4ヶ月の入院、2回の手術をしてヨタヨタになってしまったのですが、普通は死ぬと言われてたところを助かって10年経ってもこんなに元気にしているというのは奇跡的なことです。それまで入院したことがなく、初めて入院したのが盛岡だったんです。私は病院どころか中学以来注射も打ったことがないくらい元気だったのが、死ぬや生きるやの病気で遠く離れた岩手の病院に入院です。そのときに

全く動けない状態でベッドに寝ているしかない病室の窓から、岩手山がどーんと見えたんですね。秋田だったらきっと鳥海山のように本当に立派な山です。遠いし病院にいと疲れるので最初のうちはお見舞いは全然来てもらっていませんでした。黙って窓の外を見ていることしかできません。そうすると、「春はあけぼの」ではないですが、朝の曙の時刻、夜の時刻、「つとめて」の早朝の時刻、夕暮れの時刻を全部岩手山を見ているわけなんです。それぞれ佇たたずまいが微妙に違うんです。こんなに山というのは色々な表情をするのかと気が付きました。夕方になるとシルエットになっていくんですね。シルエットになるとおもしろいもので、「ああ今日も1日が終わるな」と思うのです。そのときの私はまだ治るという保障がついてなかったんです。シルエットの時刻になると、テレビからNHKの天気予報番の音楽が聞こえてくるんですね。今でもNHK天気予報のあの音楽を聴くと反射的に思うのが、窓から見ていた岩手山のシルエットなんです。これは天気予報だけだとエッセイにならないし、岩手山が暮れていくということだけでもエッセイにならないんだけど、「元気になってからもあの天気予報の音楽を聴くとどこで聴いても岩手山のシルエットを思い出す」ということを書くとエッセイになります。盛岡は父の故郷ではあったのですが、友達や家族と遠く離れて暮らしたことの無い盛岡で1人、面会謝絶の病室に入院していたという話はエッセイとしてあるだろうと思います。

例えば秋田だと雪の朝のことを書けると思います。でも東京にいても気づくのは、雪が降ると外が変に明るくなるんです。そういうことは秋田の人はもっと知っているだろうと思います。東京はちょっと雪が降るだけで、街が機能しなくなります。秋田や盛岡の友達は鼻で笑うわけですね。こういった話は絶対にエッセイになります。とにかく東京はすぐに止まります。風が吹くと新幹線も止まります。地下鉄は動くんですけども雪の溶けた水が上から流れてきたりすると止まります。路上では、ズデンズデン滑って転んでけが人が出て、救急車も滑ってしまっています。雪国の人から見るとこういうのは大笑いだと思います。そういう話を書くときすごく面白いと思います。

私は東北大学に行っているときに仙台の雪でさえ驚いたんですね。大学院の文学部の教室からバス停に行くまでの間の100メートルほど道で、私は遭難してしまっただけです。夕方でしたがキャンパス内に真っ白に雪が降っていてどこを歩いているのか分からなくなりました。これ、東京の人間からすると「ホワイトアウト」ですよ。雪がどんどん降ってくるんです。もう一度研究室に戻ろうかなと思ったんですが、キャンパス内なのにどこにいるのか分からないので戻ることもできませんでした。そのとき私の前に一台の車が止まった

んです。「君、学生だろう。乗りなさい」と言われました。窓が少ししか開いてなかったのですがちらっと見たら、なかなか素敵なおじさんが運転していました。私は、「このナイスミドルのおじさんは何だろう。知らない人の車に乗っちゃいけない」と思ったので、「大丈夫です」と言ったのですが、「大丈夫じゃないよ。僕は国文学の仁平だ。心配しなくてもいいから乗りなさい」とドアを開けてくれて、雪だるまのようになったまま私はその車に乗りました。そして、「すみません。仙台駅までお願いします」と言って仙台駅まで送ってもらいました。その日、私は東京に帰る日だったんですね。そのとき運転している先生に、「国文学の先生とおっしゃっていましたよね」と聞くと、「そうだ」と言うので、「そうですか、じゃあ源氏物語についてお伺いしたいことがあるのですが」と質問をしました。後からその話を聞いた友達に、「随分、図々しい女ね」と言われました。「18、19歳の女子大生ならともかく、いい歳の女が雪だるまになった状態で第一人者にそんなこと聞くか!？」と言われましたが、聞いてしまったんです。そのことがご縁になって、いまだに仁平道明先生には色々とお話をいただいています。遭難するのも捨てたもんじゃないなと思っていますが、仙台駅に降りてもらったときに、「君、キャンパス内で遭難したなんて大笑いだよ」と言われました。私もそう思ったのでこのことでエッセイを1本書きました。だからそんなふうになんでも書くことができるので、ぜひ書いて欲しいなと思っています。

例えば、私は小さいころ土崎にいる祖父母の家によく行っていたんですけど、雪の夜になると囲炉裏が焚いてあって、そこに祖父母がねまって（座って）、私も並んでねまってるんですね。祖父は大酒飲みでしたからお酒を飲んでいました。お酒が足りなくなると、祖母がまだ秋田高校生だった叔父と私にお金を渡して、「買ってきて」となるんです。私はそれがとても嬉しかったのです。夜の土崎の外に出るとすぐ雪が降っていて、好きな叔父と手をつないで一緒に酒屋さんに行くわけです。未だに覚えているのが、酒屋さんに行くまでの道の間にちょっとした飲み屋街があったのですが、雪の向こうにある飲み屋街の看板が紫や黄色に滲んで見えただけです。まだ小学生だったと思いますが「東京には見ない光景だな。秋田はいいな」と思ったことを未だに覚えています。おそらくそういったことは雪国に暮らす人はもっともっといっぱいあると思うんですね。そういう四季の色々なこと、夏の暑さでもいいんです。よく秋田の従弟たちが怒っていたのが、「東京は夏休みが長い。俺たちは短い」でした。そういうことでもエッセイになります。よく丁寧に見渡しながら書いてみてください。そうすると孫がかわいくて仕方がない自慢を、「よっちゃんはバァバのア

アイドルだよ」と書かくのが恥ずかしくなるはずです。よっちゃんのかわいさをもっともっと出す書き方があると思います。

ここからようやく2回目の本日の話になります。みなさんのお手元に今日の資料が渡っていると思います。『枕草子』のテーマ例についてお話しします。資料には1から10までを書きましたが、もっとたくさんあるのです。とりあえず10個出してみました。「大きい方がいいもの」「嬉しいもの」「可愛いもの」と言うふうに出したのですが、これは多くの方々がそれぞれお持ちになっている感じ方だと思います。ですから参考になりそうだなと思ったので、さきほど申し上げた「ものづくしの章段」から抜いてきました。

まず清少納言は大きいものが良いものとして「家」と書いています。はっきりしていますよね。周り近所を考えると貧しい人もいるわけですから、なかなか普通は書けません。はっきり「家」と書くわけですね。清少納言はこういうところを嫌われたとも言われています。秋田で言うやばつわけですね。上から目線で生意気だと事実言われました。それから「お弁当を入れる袋」と書いています。今でもお弁当の他にお茶や果物を入れたりすると大きい方がいいですよ。今ならトートバックとかランチボックスでしょうか。それから「お坊さん」です。これは私が言っているのではありません。清少納言が言っているのです。多分小さくて痩せてひよろひよろしたお坊さんよりも、どんとガタイが良くて頼りになりそうな人、仏様と自分をつなげてくれそうな風貌の人が良いという意味ではないかと思っています。それから大きい方がいいとしているのは「果物」です。確かに梨でも西瓜でも林檎でも、しなびて小さくなったものよりは大きい方がいいですよ。それから「山吹の花」です。秋田では山吹の花はたくさん咲いていると思いますが黄色い花ですよ。あの花は小さいのよりは大きめの方が良いとしています。

みなさんにとってもこういうものはあると思います。「私にとって大きいものが良いもの」について、これはすぐエッセイに書けます。すぐに応募できます。なぜ大きい方がいいのかについて思い入れなど書けるとと思います。例えば、「初めて建てた家は今考えると狭かったんだけど、あのときは本当に大きな家だと思った。子供がだんだん大きくなって狭くなってきたけれど、建てる前は台所と1部屋だけのところに住んでいたから、3つも部屋があつてあの頃は大きな家を感じてとても幸せだった」というのはすごく良いエッセイになると思います。例えば、「果物やお菓子、細長いケーキなどの貰い物を兄弟3人で分けることになると、お母さんはパッパッと3つに分けると大きさに差が出ていつも兄弟げんかになる。だからお母さんは果物のような丸いものでも四角

いものでも長いものでも必ずきちんと物差しで測るようになった」という話もエッセイになります。

私の例でいくと、私は土崎の御休小路というところの近くで生まれて3歳までそこで育ちました。そのときは祖父が市議員をされていて、経営している会社もすごく羽振りが良かったんですね。旭町のすごく大きな家に住んでいました。坪庭があって中庭もあって大きな家だったのですが、祖父の羽振りは良いときと悪いときの落差も大きかったです。良いときはお手伝いさんや男衆もたくさんいて、大きな家に住むんですが悪くなると小さな家に移る。ですから、しょっちゅう引っ越しをしていました。私が高校生ぐらいになるまで大小本当によく家が変わったんです。私はなぜなのか分からなかったんですね。それで母に、「なんでこんなに引っ越すの？」と聞きました。そしたら母が、「お祖父ちゃんの仕事が、上手く行っているときと行っていないときがあるからよ」と平然として言っていました。秋田の女は強いな、とあのとき思いました。そういうこともエッセイになると思います。この「大きい方がいいもの」は逆に「小さい方がいいもの」というテーマにもなります。だから「嬉しいもの」も逆を考えると「悲しいもの」「辛いもの」「腹が立つもの」のテーマにもなります。「嬉しいもの」として清少納言は「とてもおもしろかった本の続きが読めること」と書いています。

それからこれも正直だなと思うのですが、一条帝のお后に宮仕えしていたわけですから、お付きの女たちである女御たちがたくさんいます。彼女たちは真ん中にいる中宮のまわりに座っています。清少納言が何かの都合で少し遅れて慌ててその部屋に入ってしまったら、中宮がそれをさっと見て、「こっちにおいで」と言って自分のお側に呼んでくれた。「これは嬉しゅうて」と書いています。こんなことを書くと当時の周りの女たちは嫌な女だと思ったと思います。ただ実に人間らしいです。「社長が他の誰よりも僕に目を掛けて、君こっちにおいでと言ってくれた。とても嬉しかった」なんてとても書けないと思いますが、こういう正直さが彼女にはあったのです。嫌味ギリギリなんだけれども多くの人が持っている「私だけ」という感情。その特権のような嬉しさも書けるのです。これは「私だけ」というテーマでも書くことができるということです。書きようによってはとても面白いものになります。

それから「可愛いもの」もはっきりと書いています。これは孫の話を書きたい人にとって、非常に参考になるかもしれません。千年前の清少納言は「赤ちゃんがハイハイしてくるのはとてもかわいい。大人の方にやってくるの待っていたらハイハイしていた赤ちゃんが途中で床に落ちているゴミを見つけ

た。そのゴミを不思議そうに小さな指でつまんで、持ったままハイハイしてきて大人に見せた。こういった小さな仕草は本当にかわいい」と書いています。おそらく、かわいい自分の孫のことも、こういうふうに書くと全然垂れ流しにならないわけです。「今まで孫がいなかったから大人だけの生活だった。小さい子供との接触することがなかったところに、ハイハイした赤ちゃんが小さな指で拾ったゴミをジジババに見せにくる。こういう小さな仕草はかわいいものだ。突然小さな赤ちゃんがやってきたのだから、私たちはとても新鮮でおもしろい」ということを書くとある距離感を持ったエッセイになります。一番まずいのが、ありきたりの言葉で愛情を垂れ流すことなんですね。日記ならいいですがエッセイではだめです。

孫で参考になることを、清少納言は他にも書いています。自分の子ではないと思いますが、「赤ちゃんを抱っこして遊ばせたり可愛がったりしているうちに、その赤ちゃんが腕の中でいつの間にか眠ってしまった。小さく口を開けて寝たりしている様子はとてもかわいい」これは誰もが納得すると思います。キャッキヤ、キャッキヤと笑って遊んでいた子が静かになったので見たら眠っていた。大人にはこんなふうにはできない。こういうシーンに会えるだけでも孫が来てくれて良かった。娘や息子を育てるときには感じる暇もなかったことを、やり直しているようだ」と書けるととてもいいでエッセイになると思います。もうひとつ清少納言が書いているのは、おかつぱ頭の幼い女の子が前髪が伸びてきて目に被ってきているのに払いよけもせず、何かに夢中になって一生懸命に目を凝らして見ている。もしかして蝶々か虫か何かわからないけど目に入りそうな前髪が気にならないくらい夢中になっている姿はなんて可愛いんだろうと思う。小さいものはなんでも可愛い。それは子供に限らない。例えば人形遊びの小さな小道具、池に浮いている小さな蓮の葉っぱ、葵の葉っぱなどの小さなものはすごく可愛くて愛らしい」と書いています。この「小さいものはかわいい」視点を孫に重ねると絶対に「よっちゃんはバアバのアイドル」とは書けないです。恥ずかしくなってしまう。清少納言の視点は私たちがもの書くとき、とても参考になります。「よっちゃん、いつまでも元気でいてね」と書きたくなる気持ちを遠ざけます。なぜよっちゃんはかわいいのか、「突然ジジババのところの小さなものが現れた」それは絶対にかわいいです。そのことを書くのは非常にいいだろうと思います。

最近、社会問題として子供の虐待死が問題になっています。調べたところによると虐待死で一番多いのが、実の父親からの虐待だそうです。私は継父だと思っていたが、違いました。実父の次に多いのが継父。そして実母、継母

の順番だそうです。こういった小さくてかわいくて庇護がなければ生きていけないようなものを、なぜ張り倒したり食べさせなかったりいじめた倒して虐待するのか、このテーマは自分の孫が可愛ければ可愛いほど、冷静に書くことができるかもしれません。

そして清少納言はもうひとつ「間の悪いもの」というもテーマでも書いています。「間の悪いもの」つまりタイミングの悪いことを、誰しもやってしまったという経験があると思います。清少納言は一千年前に、現代の非常に私たちが納得する例をあげています。これは実際に彼女がやったりやられたりしたんだらうと思います。「他の人が呼ばれたのに自分かと思ってしゃしゃり出てしまった」ということは今でもあることです。また、これは笑ってしまうんですけど、「特に何かをくれるために呼ばれたところに自分も顔を出してしまった。これは間が悪い。呼んだ方も間が悪いので“あなたにもお裾分け”とならざるを得なくなる」ということは、誰しもあるのではないのでしょうか。それから、ちょっと人の悪口を言ったら子供がそれを覚えていて、その人の前でそれを言うということも実によくある話です。千年前にもこういうことがあったんだなと思います。二つとも実に間が悪いです。特に子供は何が悪くて良いことなのかわかりませんから、言ってしまいます。「ママがね、おばちゃん太ったねって言ってたよ」なんて言ってしまいます。聞いた方は、ショックですよ。それから、「パパがね、おばちゃん家の子はあまり利口じゃないって言ってたよ」とか悪気がないから子供は言ってしまいます。さあ、この状況をどうするか。「物をくれるところに知らずに行ってしまったときは、相手が“あなたもどうぞ”と言ってお裾分けしてくれて事なきを得られたけれど、本当にこんなことは恥ずかしい」というエッセイを書くことができます。「子供が“おばちゃん太ったねってママが言ってたよ”と言ってしまったというような状況を、さあどうするか」というエッセイはぜひ読んでみたいですね。

それから「めったにないもの」ということについても清少納言は書いています。これは「男女の仲が続くこと」としてしています。「女性同士でもずっと仲良くしていることは珍しい、これはめったにないことである」と書いています。こういうことも日常にいっぱいあって、皆さんも書けると思います。たとえば、めったになこととして、「底意地の悪いどうにもならない叩き出したい嫁が土産をくれた。裏があるんじゃないか、毒が入っているんじゃないかと思う」とか孫のことを書くにしても、「私は雨女で、どこに行くにも雨が降る。孫がランドセルを背負う入学式だけは何とか晴れて欲しいと思って、みんなにアナログだと笑われようとテルテル坊主を70個作って家中に下げた。そしたら当日

はめったにないほど晴れた。本当に良かった」という話を書くこともできます。テルテル坊主70個というだけでも愛情が伝わってきます。夫婦仲では定年になった夫のことなど滅多にない話として、いろんな例について書くことができます。

それから清少納言は「羨ましいもの」について書いています。つまり他人が持っているもので羨ましいと思うものです。清少納言が何を羨ましいと思ったかと言えば「字が上手で和歌がうまいこと」です。当時はすごく重要な教養だったのです。だからこの二つが上手な人を羨ましいと思ったようです。それと同じように、今を生きる私たちも何が羨ましいかということもエッセイの大きなテーマになります。例えば、「隣の息子はノースアジア大学を卒業して、試験に合格して立派な公務員になった。中学の同級生だったのにうちの息子はフリーターで仕事もないし、仕事を探す気があるのだろうか。羨ましいなと本音では思っているけれど、その気持ちを外に出すのも腹が立つ。この気持ちをどうしようか」と書くと整理がつきます。「隣の息子は今は大学を出て公務員かもしれないけれど、うちの子はすごく元気で健康だ。人生は逆転よ。この先、何があるか分からないわ」という処理の仕方でもエッセイを書くことができます。私は実は将棋を習っていました。藤井聡太でこんなにブームになる前です。亡くなった将棋棋士で永世棋聖の米長邦雄さんと定期的な会議でお会いしていたときに、私はやったこともないのに、「将棋を習いたい。やってみたい」と言ったんです。米長さんに将棋を教えて欲しいと言うことは、相撲をとったことのない人が北の湖理事長さんに門下にしてくれと言うのと一緒くらい大それたことなんですね。ところが米長さんは全然驚かずに、「分かった。僕の弟子をあなたに差し向けるので彼に習いなさい」と言って下さったんですね。それが今をときめくイケメン棋士の中村太地王座だったんです。当時彼は19歳の早稲田大学の学生で、いつも根気強く私に将棋を教えてくださいました。教わっているうちに将棋の世界では当たり前のことなんですが、私はおもしろいことに気が付きました。そのことを私は米長さんに話しました。将棋盤のあるところを境にして、将棋の駒がひっくり返るんです。「成る」といいます。“歩”という将棋の駒が一番下っ端で、前に一歩しか進めないんですが、ある境界線を越えて向こうに行くと、くるっとひっくり返って“金”になるんです。“金”といったら大変な強さの駒です。「将棋のルールってすごいですね」と米長さんに言ったら、「内館さん、将棋は人生と一緒にだよ。ひっくり返ってからが強いんだ」と。あの言葉には心打たれました。将棋の対局を見ていると、成ってひっくり返って逆転で勝ってしまうことがあります。そういうことを考えると、「人生はひっ

くり返ることがある。今は隣は公務員でうちはフリーターでも、今に見てろ。いつか金になるぞ」という整理の仕方を親もできる。それを書くことができます。

あっという間に時間が経ってしまいました。あと15分しかありません。今日も全部できませんね。全部できなくても3回やると締め切り前までに皆さんが書かなくなりそうなので、できませんね。

もうひとつ清少納言が言っているのが「過ぎ去っていくもの」です。過ぎ去っていくものはエッセイのテーマになります。清少納言が何を言っているかといえば「追い風を受けた帆掛け舟」、それから「人間の年齢」だと言っています。あっという間に歳をとっていきますよね。それから「春夏秋冬」です。確かに今は梅雨の季節ですが、ついこの間新年を迎えたばかりなのに、ふと気が付くともう梅雨ですよ。次にふと気が付いた時には紅白歌合戦だと思います。そんなふうにあっという間に春夏秋冬は過ぎ去っていきます。

今、秋田でも始まっていますが、私の『終わった人』という小説が館ひろしさん主演で映画になっています。これはバリバリのエリートだった館ひろしさんが定年を迎えたという話なんですね。あっという間に定年ですよ。みんな館さんでは格好良すぎると思ったらしいんですね。ところが撮影の裏話をしますと、お腹に二反分の晒を巻いて出っ張らせて、安い量販店のシャツやカーディガンを着てすごい普通のおやじをやっているんです。普通のおやじをやっているながらも、ふと格好良さが出るんですね。その格好良さが、現役のときはバリバリだったんだろうなというのがよく分かって、ベストキャストだなと思いました。定年まではあっという間です。「結婚した時はあんなに素敵だったうちのお父さんが、あっという間に定年になってこうなっちゃった」とうことは書ける話だと思います。それは夫の方にも言えると思います。「結婚したときはあんなにかわいくて綺麗だったのが、今じゃ俺よりおデブになってしまった。あっという間だったな、体重が30kg増えるのは」というのが書けるはずですよ。これから映画を見る方に“見逃せないよ”ということをお知らせしますと、私がちょびっと出ています。「スクリーンデビューだからこれから女優と呼んでくれ」なんて言いましたら、館さんはふざけて私のことを「女優、女優」と言っていました。今日はここの壇上になんとか登れましたが、撮影していた当時は骨折して歩いて歩くことができませんでした。車いすは卒業していましたが、まだうまく歩けない頃でした。

カメオ出演といって関係者である作家や監督が映画にちらっと出るジョークがあるのですが、「内館さん、カメオ出演してくれませんか」とプロデューサー

から連絡があったんですね。私はつかまって立つことはできましたけれども、「出たいですけれども、歩けないので芝居のようなことはできません」と言ったんですね。そうしたら、「大丈夫です。座り芝居にしますから」とおっしゃってくださったので、記念にもなるので出ることにしました。「良かった。衣装合わせなどはまた後で」ということだったので、私はこんな役だろうと思い込んでいたんです。カウンターバーに座っているアンニュイな女で、けだるく髪をかき上げたり、ひとりでワイングラスなどを傾けたりする役できっと衣装はちょっと黒っぽい服とハイヒールかなと思っていました。座っている分には何でも大丈夫ですから。だけれども実際の衣装合わせではジャージを出されたんですね。勝手に思っていたら違いました。館さんが広末涼子さんに恋をして、体を鍛えるためにスポーツジムに通って一生懸命に走ったりするんです。私は館さんが通うスポーツジムで血圧を測っているおばさん役でした。館さんが走っている横で黙って座って血圧を測っている役なのでジャージでOKなのです。「えーっ、これ!？」と思いましたが、そういう役でも一応メイクをするんですよね。血圧を測っているだけの芝居なんですけれども監督からあまりにも上手すぎると言われて、もうワンシーン出ることになりました。今度こそ予想していた役かなと思ったら、おばさん軍団、おじさん軍団のみんなと一緒に走っている館さんに、「ステキ！」と手をたたくシーンでした。映画のパンフレットには「ジムの老人軍団」と書かれていて最悪だと笑いましたが、その2カットに出ています。とにかく、人間はどんどん終わった人になって行くんです。これもおそらくすごく書けるテーマだと思います。私は『終わった人』という小説を、まさに清少納言が言っている「過ぎ去っていくもの」というテーマで書いているんですね。

それから清少納言が言っているのは「過ぎた昔を思うこと」です。「過ぎた昔」というのは「過ぎ去っていくもの」と重なるところがあります。ふっと過ぎた昔を思うことは誰にもあることです。清少納言は何を見て過ぎた昔を思うかというと、京都ですから「加茂の祭りで使う葵の葉っぱが枯れたまま残っている。夏に使った葉っぱが忘れられて残っている。それを見ると過ぎた昔を思う」と書いています。それから「去年の夏に使った扇子」です。「短い夏が去っているんなことがあったけれど、もう扇子を使う時期ではなくなってしまったなあ」ということす。これは、「幼いころに使ったものが出てきたり、社会人になった孫が小さいころに書いてくれた絵が出てきたりすると昔を思う」ということや、「亡くなった夫がこの扇子を使っていた頃は元気だった。でももう居ないのよね」ということも書けます。何も暗い話ばかりではありません。私の友達

の話ですが、「去年の夏は着ることができた服が今年は入らなかった。太っていた。そんなに着ていないし、もったいないので親しい友達に安く売った。友達も安く買えてすごく喜んでいて。けれどもそれを聞いた娘に“ママ、着古したものを売ったの？”と言われたので“着古していないわよ”と言うと“一度手を通したものは売ったりしないでプレゼントするのが女の品格というものよ”と言われた」などは明るい話ですけれども、ちょっと遠い昔を思い出すとという意味で良いエッセイになります。

それから「みすぼらしく見えるもの」と清少納言は言っています。こういうところが生意気だと言われるんでしょうけれども、例えば「6月や7月頃のお昼から午後2時くらいまでのものすごく暑い陽盛りの最中に、汚らしい車をやせ細った牛がヨタヨタ引いていくのはみすぼらしい」と書いています。当時の車は牛車です。やせ細った牛が引いていたんだと思いますが、これがみすぼらしく見えた。それから「板で作られた黒くて小さな家が雨に濡れている」のもみすぼらしいと書きます。それからこれも痛いなと思ったんですけれども「雨の日に小さな馬に乗った家来が、主人の前を馬と一体に全身ずぶ濡れになって走っている様子」。これは上下関係の中で、みすぼらしいに決まっています。だからこそ、普通は書かけない。でも、清少納言はこういうことも平気で書くわけです。だから生意気などと、すごく言われたのです。今現在を生きる私たちにも多分、日常生活の中でみすぼらしいと思えるものが出てくるかもしれません。それを一度書いてみるというのも良いだろうと思います。

最後にあるのは「比べてはならないもの」です。ほとんどは正反対のものです。例えば「夏と冬」は比べてはならない。「昼と夜」「雨の日と晴れた日」「笑うことと怒ること」「老人と若者」「白と黒」「好きな人と嫌いな人」「気合が入っているときと落ち込みの差が激しい人」「火と水」「太っている人と痩せている人」「髪の毛の長い人と短い人」というものは比べてはならないと書いてあるんです。これはどうしてだろうと考えるのですが「夏と冬」や「老人と若者」は「それぞれに個性があって素敵だから比べてはならない」ともとれるし、「違うことにつべこべ言っても仕方がない。全部飲み込め」という意味だともとれるかもしれません。この中でおもしろいのは「気合が入っているときと落ち込みの差が激しい人」というのがあります。これは多分秋田の言葉で“ふけさめのある人”だと思います。皆さんがうなずいてくれて良かったです。母が良く言うんです。私の周囲にもそういう人がいますけれど、良いときはすごく良いんですね。悪い時は別人になっちゃうんです。清少納言は“ふけさめ”とは書いていませんが「良いときと悪いときの差があたかも別人のようだ。こんなのは比べ

てもどうにもならない」と書いています。確かに、比べてもどうにもならないんですね。私も知っている母の友達なんですけれども、娘さんのことを母に言うらしいんです。その娘さんは“ふけさめ”の激しい人で、良い仕事もお金もあってちゃんとした人らしいのですが、「今は一緒に暮らしていないけれどママのことはずっと面倒を見るから心配しないでね。お金のこともできる限りのことはするから思った通りに生きててね」と言うんだそうです。そのお母さんは旦那さんに先立たれて一人で心細く暮らしているので、泣くほど嬉しかったと私の母に電話してきたそうです。私の母は「良かったね」と言ったそうですが、また電話がきたときは「冷めたな」と思ったそうです。冷めると違う人みたいに、「面倒なんか見ないから、自分のことは自分でやってよ。ママのことは構っていられなから」と激しく言うらしいんです。そういう“ふけさめ”の激しい人は、どっちがどうと比べても仕方がないのです。

やっと駆け足でここまでできました。この後どうしたら文章がうまくなるかの方法などについてもお話したかったのですが、次のときにとっても、もう締切が終わってますから次回をどうするかは事務局と相談して決めたいと思います。次回も清少納言の続きかもしれませんし稀勢の里のことをお話しするかもしれませんが、またみなさんとお会いしたいと思います。次回は周知を徹底してもっとたくさんの方に来ていただきたいと思います。今日来ている方は今この話の中で役に立ったことを使って変にうまく書こうとせずとにかく書いていただいて、私も石川好先生もしっかり読みますから、ぜひ応募してください。もしも賞を貰ったりしたら、さらに気合も入ると思います。私も楽しみにしていますので是非書いてください。今日は本当にありがとうございました。

藤 本 内館先生どうもありがとうございました。質問を受け付けたいと思います。どなたかいらっしゃいますか。

質問者 「ふけさめ」は秋田弁ですけれども標準語で言えば何になるのでしょうか。

内 館 「ふけさめ」の標準語は難しいなァ…。標準語でぴったりするものはないと思います。「裏表」とも少しちがいますよね。秋田の言葉は本当に表現が豊かなんですが、私は使えないんですね。祖父母が話していたし母も使うので言っていることはわかるのですが使えないんです。実は明日出るものなので前もって言うてしまうのはどうかなとは思いますが、明日の秋田魁新聞の連載のタイトルは、「かたげわりごど」です。みなさんは秋田の方だからわかりますよね。

私は家にある秋田弁辞書を引いてみました。でもこの「かたげわり」も絶対標準語には置き換わりませんよね。

この話は、あるときテレビを見ていたら小さな女の子の写真が映ったことです。そのとき母が台所からお茶か何かを持ってリビングに入ってきて、ふっとそのテレビを見て言ったんです。「この子 かたげわりごど、何したの？」と私に聞いたんですね。かわいい女の子の写真なんですけれども、そう言ったんです。これが何だったかという、実はこの間の目黒で起きた虐待死の女の子の写真だったのです。母から見たときには“かたげわり”と見えるんだ、ぴったりの表現だなと思いました。どこかしょんぼりしているというか、そんなふうに見えたんでしょうね。「ふけさめ」は標準語の「お天気屋」に近いでしょうか。晴れたり降ったりのような人柄の感じかもしれません。秋田の言葉にしかない表現がいっぱいあります。だから秋田弁は大事にした方がいいと思います。私はしょっちゅう使っています。そういうことも書けると思いますので、みなさん本当に出してくださいね。今日はありがとうございました。

藤 本 内館先生どうもありがとうございました。もう一度先生に盛大な拍手をお願いいたします。

「枕草子」のテーマ例（順不動）

1. 大きい方がいいもの
2. 嬉しいもの
3. 可愛らしいもの
4. 間が悪いもの
5. めったにないもの
6. 羨ましいもの
7. 過ぎ去っていくもの
8. 過ぎた昔を思うもの
9. みすばらしく見えるもの
10. 比べてはならないもの

紫式部の清少納言批判

清少納言こそ、したり顔にいみじう侍りける人。

さばかりさかしだち、真名書きちらして侍るほども、よく見れば、まだいと
たらぬことを多かり。

かく、人にことならむと思ひこのめる人は、かならず見劣りし、
行くすゑうたてのみ侍れば、（中略）

そのあだになりぬる人の果て、いかでかはよく侍らむ。

（「紫式部日記」）

〔講 演〕

ノースアジア大学 総合研究センター主催 講演会

「アベノミクスと日本の政治」

講 師 東北福祉大学特任教授
ノースアジア大学総合研究センター客員教授 福 岡 政 行

日 時 平成29年9月2日 午後1時～2時30分

会 場 ノースアジア大学 40周年記念館271教場

福岡 2001年のことでした。その頃の私は小泉政権でブレーンをしていましたが、小泉さんが平壤に行ったのとは関係なく、今の北朝鮮の対日全権大使である宋日昊ソンイルホとたまたま知り合いになりました。この人は実は大阪出身なのです。「先生、ぜひ来てください」と言われて北朝鮮に行ってきました。2度目の時は、栃木の白鷗大学大学ゼミの学生と一緒に行きました。冷害でお米が無かった北朝鮮に栃木のお米を届けました。宋日昊とカラオケで「ふたりの大阪」などを2人で肩をだきながら歌ったりもしました。夜の10時頃になって、「ところで日本から拉致された人が何人かいるはずだ。返してもらいたい。お金に関しては韓国には数百億のお金を出している。」という話をし始めた途端にそれまでは流暢な日本語で話していた宋日昊が、突然ハングルで猛烈に怒り出しました。

通訳の話によると、「日本人も過去に何人も朝鮮人を拉致した。私の叔父も日本に連れて来られて銃剣で撲殺された。」というようなことを言っていたそうです。翌日、帰国のために平壤からロシアのウラジオストックまで、北朝鮮が運行する飛行機に乗りました。チャーター機ではありませんでしたが、一緒に行った日本人しか乗っていませんでした。搭乗時間は1時間弱で機内サービスのジュースが出ました。持ってきた婦人警察のような制服を着た女性が、「オレンジジュースです」と言っていました。りんごジュースのような茶色に近い色をしていました。“なんだか嫌だな”と思いましたが日本男子として少しでも飲まずにはいられませんでした。3分の1くらい飲みました。するとウラジオストックに着くころにはお腹の調子が大変なことになってしまいました。ウラジオストックの空港で新潟行きの飛行機に乗るまでの約2時間のトランジットをトイレで過ごしました。ウラジオストックから新潟までの日本の飛行機は1時間弱の搭乗時間でしたが、それもCAさんに断りをいれてずっとトイレに座ったままでした。新潟空港から新潟駅に移動して東京駅までは新幹線でしたが、その間もずっとトイレから離れられませんでした。私は大腸癌になったくらいの便秘体質なのですが、あの時は本当に大変で3日間酷い思いをしました。でも私はこの程度で済んで生きています。あの方のお兄さんは殺害されましたから怖い国です。ネットで流れていましたが、ヨーロッパのどこかの国に住んでいる、あの殺されたお兄さんのイケメンの息子さんもかなり危険な環境にいるらしく連絡を取ることができなくなっているようです。中国がバックアップして保護をしているという噂もあります。この北朝鮮のドン、金正恩は30代ですが気が小さいのだそうです。それで過食症になって体型があのように大きくなってしまったようです。お酒を飲むし過食症になるくらい気が小さいので、拉致問題の解決は難しいのではとされています。

アメリカのトランプ大統領がここ2、3日で、「対話では無理だ」という話をしてきているそうです。本当は今日、麻生太郎さんがアメリカに行って副大統領や国務長官数人と会う予定をしていましたが中止にしました。おそらくですが、秋田県の南の方の出身の苦労人と言われている官房長官とのかなり激しいバトルがあったと言われています。“安倍晋三は麻生さんに目立って欲しくないと思っているので中止になった”という永田町の説と同時に、“北朝鮮の建国の日と言われる9月9日に、新型ミサイルが発射されるかもしれないので国会近辺が緊張状態だから中止になった”という説があります。どちらも定かではありません。もしかすると戦争ごっこが好きなトランプと安倍晋三とが、「これ以上何かをやるんだったら」とB1という爆撃機で威嚇的なことをやり始めているのかもしれませんが。イギリスの最大空母が日本海に入って来るためにイギリスの首相が来日している最中に北朝鮮がミサイルを発射したのです。きっと秋田の上空を通過して飛んでいったと思います。Jアラートで通知があつて頑丈な建物や壁の影に隠れたとしても、どうやって身を守るかということは大変難しいことです。

こういうことは安倍内閣にとっては支持率獲得のためにとっても重要なことです。東京新聞にともしつこい女性記者がいます。ずっと加計問題を担当していて菅官房長官に食い下がった人物です。実は安倍晋三が公邸に泊まるタイミングが不思議なのです。彼はマザコンなのであまり公邸に泊まらず私邸に帰ります。1階に車を置いて、まず2階のお母様のところに行きます。3階が昭恵さんとの住居です。普通は奥さんのところに先に行くのですが、彼はお母さんのところに先に行くのです。それがなぜかミサイルが発射される前日は公邸に泊まっているのです。公邸は首相官邸まで歩いて50mくらいです。

小泉さんが北朝鮮に行く予定だったという話がありますので、拉致問題について少し考えてみたいと思います。小泉さんが総理大臣だったときに、私が栃木のお米を持って北朝鮮に行ってきた時の話をしました。あの10数年前に小泉さんが北朝鮮に行った時より前のことです。その話を聞いて、「平壤に行ってみよう」と小泉さんは言いました。「外務省を通して宋日昊には話をしておくから」とセッティングをして、小泉さんは平壤へ行きました。このときの官房副長官が安倍晋三でした。当時の映像を見ると一緒に映っています。私はブレンをしていましたので小泉さんが行く時、「向こうから出たものは一切口してはいけない。おにぎりや魔法瓶にお茶を入れて、羊羹などの間食も持参なさい。必ず日帰りに戻ってくるように。」とアドバイスをしました。彼は甘い物が好きなのです。小泉さんは、「分かった」と言って行きました。そして

日帰りです。戻って来ました。赤坂で新聞記者と話をしていたら、私の携帯電話が鳴りました。小泉さんは携帯電話を持っていないので、秘書をしているお姉さんの携帯電話でかけてきました。「先生が言ったように平壤の街は暗かった」と言っていました。夜8時半くらいに平壤の空港を発ってきたはずですから、街灯の数が少ないことが分かったと思います。体調を尋ねると「大丈夫」とのことだったので、「今度公邸に行ったときに話しましょう」と言って電話を切りました。これが拉致問題のきっかけになりました。自慢ではありませんが、あのときの根回しは私がしていたのです。交渉にはお金がかかっても、もう一度行って1人でも多くの人を日本に戻すことが一番大切なことだと小泉さんといろいろと頑張ってきました。対話は続けなければなりません。フィンランドかノルウェーで北朝鮮とアメリカと関係者の女性数名が話し合いを続けています。ただ、「対話の時は終わった」とトランプ大統領が言っています。次の行動がどこかで起きたということがあれば“戦争ごっこ”と“戦争”は全く違います。ロシアでいじめられて活動ができなくなった相当数のウクライナの技術者たちが、おそらく平壤に入っているのだと思います。ロケットやミサイルを打ち上げるあの技術は全部ウクライナのもので、相当な技術力があるということです。秋田の上空を越えて、どこまで飛んで行くのか、これからの一週間は緊迫の時間ということになるということを考えておいていただきたいと思います。

北朝鮮という国には“北風”より“太陽”が有効だと思います。「魚や石炭を買わない」と制裁をしても困るのは一般の国民です。私は一週間ずつ2回行っていますが、本当に辛い光景ばかりです。一緒に行ったゼミ生の男の子が持っていったチョコレートをひとつ、7歳くらいの女の子にあげました。ポケットにしまうので、「食べなよ」と言うと、「持って帰って妹や弟にあげる」と言うので、「持ってきたものをもっと出さない」と言ったことがあります。思い出しても涙が出るくらい悲しい光景でした。本当に貧しいです。部分的に高層ビルができていても、住んでいるのは軍関係者と朝鮮共産党の幹部だけです。2千万人前後と推定されている国民のうち、本当に豊かに暮らせているのは100万人弱の官僚と軍人だけです。「自分だけ太っている場合じゃない！」と痩せてきたので私も言えるようになりました。それが誰なのかは言うことはできませんが、「“北風”より“太陽”です」と言ったのは平壤で出会ったある人の言葉なのです。そういうことを含めて狙い撃ちにしてくることもあるかと思っています。いろいろな物を持って行っていろいろな話をする“北風”より“太陽”の方が間違いがないと思っていますので、続けていきたいと思っています。

ます。

それから“戦争ごっこ”と“戦争の違い”は本当に大きいです。間違っ普通爆弾が落ちて場所によっては大変な話ですが、もしも核兵器の装着が可能になったら、その影響は何十万人、何百万人の話です。3発くらいが連結しているようなロケットの構造を見せられると、戦争ごっこ好きな金正恩とトランプと安倍晋三にとってみれば、ごく簡単なことがきっかけで大変なことが起きてしまうかもしれません。前の日本と中国との戦いの中でも“何かが無くなった”、“鉄道が破壊された”というようなことが大きな戦いのきっかけになったのですが、調べてみると本当はそんなに騒ぐほどのことはない些細なものだったようです。きっかけは簡単なことでも起こりえるのです。だから対話は大切なのです。この人のことも本当に信じることができないのですが、プーチンは、「制裁などしてもだめだ」と言っています。中国のどこかでいいので、もう一度、習近平とプーチンが北朝鮮の誰かにきちんと話をしたいと思っています。

先日、広島でシンポジウムがあって伊藤忠商事の大先輩にお会いしました。10歳くらい年上で長い間中国に行っていた方です。「習近平と安倍は握手もできず、会話することもやっただ。2人きりで2、3時間話すことは安倍晋三では無理だぞ」とおっしゃっていました。あの2人の関係は通りすがりに少し挨拶する程度です。野中広務さんや古賀誠さんのような親中国派の岸田文雄などが対話をもって、そういう雰囲気を持って行ってはじめて北朝鮮のことも進み始めて、日本の国は変わっていくと思います。賠償金を1千億円用意しても、この現状を変えるためには必要なことだと思います。今の状態では、耳を傾けるということは全くありません。総理官邸にいて公邸に来るとお酒を飲まない安倍晋三は側近とビールで乾杯すると15分くらい演説をするそうです。「俺の言ったとおりでせう。安保法をやって共謀罪やって憲法改正して、きちんと自衛隊を位置づけしなければ日本の国は大変だ。もっともっと日本の国は対応できるように準備をしろ」というようにやっています。やっぱり岸信介の膝の上で育ってきた子です。お父さんの安倍晋太郎側のお祖父さんは安倍寛という人で、戦前に戦犯で捕まったことのある人です。両方の血筋を継いで立派な政治家にはなっていますが、どちらのDNAが強かったかという母方の安倍(岸)洋子の方だったのです。ミサイルは日本の上空を飛び越えて行ったようですが、あれだけの距離を飛ぶことができるようになっていました。日本も射程範囲に計算されていて、ちゃんと津軽海峡の上を通過するようになっていました。この数日間にあつたいろいろなことに触れさせていただきました。

それではレジュメの上の方に戻ります。今日の講演テーマとは違いますが、レジュメのタイトル「ブラック国家」について触れていきます。実をいうと3日前に今日持ってきている物の次の本を書き上げました。『ブラック国家日本』という本です。これは、数ヶ月前にたまたま東京駅から乗ったタクシーの運転手に、「福岡先生、生きていたんですか？」と言われました。BS放送などには時々出ていたのですが、ここ2年くらい地上波のテレビに出ていなかったのを目に触れることが少なくなっていたからだと思います。「私は先生が民主党の応援をしていると思ったので、何年か前の民主党政権になったときの選挙で民主党に入れたのですよ」と言われました。あの時私は民主党代表選挙の司会をしていたのです。だからそのように見えたのかもしれませんが。沖縄から上京してきた方だそうですが、沖縄の方はストレートで優しいですから、「ここ2、3年見かけなくなりましたので心配していました。亡くなってしまったのかと思っていました」と話していました。その頃の私は糖尿の数値が少し悪かったので、「糖尿病になりかけたけど、今はこんなに元気ですよ」と話しました。そのときに運転手さんが一言、「そんなに圧力がかかるのですか？日本という国はブラック国家ですね」と言ったのです。その瞬間、この言葉を使って本を書こうと思いました。安倍の悪口をボロクソに書きましたが直筆では読みにくいので、ボイスレコーダーに吹き込みをしています。

古舘伊知郎や古賀茂明もそうですがメディアコントロールがあります。私はともかくとして小泉純一郎さんまでが制限されてテレビに出ることができません。呼びたいと思っている人はたくさんいます。呼んで話を聞きたいのです。特に前回も話しましたがアメリカの「トモダチ作戦」で被爆した若い海兵隊員のことについては、小泉さんはアメリカに行って話をしています。CNNだけが取材に来て放送しました。小泉純一郎さんはこの番組の中で男泣きに泣いてしまったのです。映像としてはとってもすごいものです。4百何十人の海兵隊員が東京電力を相手に訴訟を起こしています。細川護熙さんも瀬戸内静聴さんも原発反対運動をしています。一緒に反対運動をしていた菅原文太さんは亡くなってしまいましたが、全てメディアコントロールの対象です。今の政権のコメンテーターはレイプ事件を起こしたような人です。あんなような人が平然と出て来てテレビでコメントしているのはおかしなことです。小泉純一郎さんもコントロールされています。

マスコミは本来であれば、第四の権力です。三権分立のほかにマスコミというメディアがあるので権力はチェックされるのです。それを教えてくれたのは筑紫哲也という先輩です。今日持ってきている本を買っていただければ、半額

は大分県日田市の集中豪雨被災地へ行く費用にさせていただこうと思っています。日田市には災害の後、一度行ってきています。日田市小野という所に筑紫さんの生家があって残ってはいましたが、現地は大変な土砂崩れで悲惨な辛い状態でした。

とにかく新聞やテレビが言うべきことを言ってきちんと伝えなければならぬのですが、新聞の力も弱くなってきています。東京新聞や毎日新聞も少し頑張っていますが、まだまだ力が弱いです。読売新聞にも頑張ってもらいたいと思っています。メディアに対する規制がとて大きくなっているということに触れました。

レジュメの一番目、安倍総理の今後の問題についてです。加計問題です。黒いどぶネズミを白いウサギと言っているようなことだと思います。このことは収束したようになっていますが、まだ終わっていません。もう一つ大きな話があって再発する可能性があります。その前に来週から今治市の議会が始まります。すでに情報が出ているように、あの獣医学部の建設費は全部で百何十億円なのですが、そのうちの90数億円を今治市が負担しています。延べ建坪数で計算すると、坪単価は150万円くらいになるそうです。建設関係者に聞いてみると、建てているのは小高い山の上なので元々の地盤が良くて盛り土や杭打ちにはそれほど費用はかからないはずだし、50階建てのような高層ビルでなくて7、8階建てなら75万円くらいで済むのではないかと言っていました。半値です。政経塾の教え子なのであまり言いたくないのですが、あとは岡山県の国会議員関係のA工業がマネーロンダリングをして、実際は80万円くらいでやって、あとの残りは適当に抜くというようなこともあるのかなと、クエスチョンマークですがあるのではと思っています。全体で150億円だとすると75億円は抜いていることになります。教え子でもある週刊文春の記者が取材中です。

加計学園自体が赤字経営なのです。インターネットなどで公表されている財務諸表をプロの人が見るとわかりますが約何百億円の年間予算で経営しています。4つくらいの大学を運営していますが、そのうちまともに黒字に近いのは岡山理科大だけです。「腹心の友」の講演会をした千葉科学大学は銚子にありますが、銚子市は人口が減って9万数千人が6万数千人になりました。千葉科学大学は定員割れもしています。つまり文科省の助成金がカットされています。年間180億円くらいの現金預貯金を繰り越していますが、借金も同じ金額くらいあるのです。その中で幼稚園や小学校、英語の学校などの各種学校を運営しているのですが、全部定員割れしています。倉敷芸術科学大学も定員割れしていて、ここは6割ぐらいしか集まっています。どんどん助成金がカットされ

ていきます。文科省が来年4月の開学に対して“NO”と言い始めているので、難しくなってきましたが加計学園は急いでいます。それは開学がダメになると今治市からのお金が入ってこなくなると借金を返すことができなくなるからではないかと思うのです。ある写真に男たちの悪だくみで4人映っていましたが、その中の一人は三井なんとか銀行の元専務で、アメリカ留学時代からの付き合いです。ですから融資はそのM銀行だと思ってしまいます。加計学園自体が赤字経営で、補助金ありきでいわゆる学園ビジネスで経営してきましたがどこも定員割れです。私は今、県立広島大学に行っていますが、授業料が40～50万円くらいだと考えると私立に150万円くらいかけては行きません。親も国公立に進むようにしっかり勉強するように言うと思います。千葉科学大学はもたないのではないかということも言われています。このことは非常に大きな背景となっています。千葉科学大学を誘致した当時の銚子市長は元岡山県副知事で岡山理科大の客員教授でした。みんなの応援で市長に当選して千葉科学大学を誘致して90億円の補助金を銚子市から引き出しました。銚子市はその費用を借金して作りました。それが分かったら市民から文句が出て辞任しました。今の市長は人件費をカットするなどして頑張っています。たしかゴミ袋も有料化したはずですが、もちろん批判もあります。様々な手をつくしてやっています。そのような状態を考えても大変な問題です。今大学を誘致しても人は集まりませんし、卒業しても残りません。まして今治市は公債残高と言われる借金が800億円くらいあります。年間予算も800億円くらいです。人口は15、6万人ですが基幹産業が弱体しています。造船業もタオルも良くありません。その何もないところに獣医学部を作って一学年の定員が160人から120人に減りましたが、とても無理だと思います。教授や講師などの先生方を呼んで人口が2、3千人増えるかもしれませんが、本当の人口は減っていつているのです。まして獣医になっても残らないでしょう。四国に残るより、大都会のペットショップや動物病院で働くと思います。でもペットブームの峠は過ぎたと思っています。

私の弟子に栃木県にある自治医科大学の教授がいます。四国出身の人です。自治医科大学の医学生は6年間の学費が無料です。その代わりに医師になったら、医師不足の山村や被災地で6年間医療活動に従事しなければなりません。南三陸の日赤病院にこの弟子の後輩が勤務して復興に協力してくれています。獣医も自治獣医医科大学を作って定員50人くらいで勉強して、獣医の資格を取ったら同じようにへき地で働くと授業料を免除するようにすればいいと思います。6年間の学費は約1千万円と言われています。これが免除されるなら優

秀な子は頑張ると思います。そんなところに多額の費用をかけて獣医学部を作っても人が集まらないし開校は難しいと思います。この多額の建設費と開校できないことと、今は言えませんがもう一つスキャンダルがあって、来週から始まる国会で安倍晋三さんは大変な状況になるであろうと思っています。

それから、今治市の職員が2年前の4月2日に総理官邸に呼ばれて藤原という内閣府の人間と会って行っています。今治市の職員の名前はわかっています。藤原は国会の委員会で、「記憶にありません」、「覚えておりません」と7回言いました。そう言っておかないと、後から何かが出てきたときに公務員として終わりになってしまいます。東大出身のエリートですから弁護士の友人が大勢いてアドバイスがあったのだと思います。今審議官でもうすぐ次官になるような男です。データから今治市の職員の名前は分かっているし、同行した愛媛県の県職員も証言しています。だけど藤原は覚えていないのです。皆さんもお分かりのように総理官邸はただ行っても誰かに会えるところではありません。誰かに呼ばれて、「来てください」と言われたい限り入ることはできません。国会議員でも入ることができません。私は何度か小泉純一郎に呼ばれて行っていますが、受付には訪問予定者の一覧表があって必ずチェックを受けなければ入ることはできません。それなのにいないそうですが、少し考えると分かると思います。データはすべて廃棄したと言っています。こんな話までうやむやです。読売新聞だけでなく新聞各社が取材をしています、TVはまったくだめです。まだNHKの方がしっかりしているかなという気がしています。加計学園については黒いネズミを白いウサギだと言い切っていますが、どうもそうではないと思っています。

レジュメの2番目、内閣改造についてです。菅官房長官の力の強さが見えます。麻生さんが、「菅官房長官を辞めさせろ」と言いました。私は菅さんの携帯番号を知っているので、時々話すこともあるのですが、あの怪文書の頃から少し変わったような気がします。秋田で言うのも何ですが、少し嫌だなと思っています。苦労人であるのは間違いないのですが、今は彼が安倍晋三にべったりで麻生さんが外されているように見えます。何か月か前に麻生さんに会った話を前の講演でもしましたが、かなりやる気です。「岸田だよ」と強く推しています。岸田は早稲田の後輩です。私が広島でしている盲導犬やセラピー犬の活動を手伝いにきてくれました。一緒にいろいろなことをしたので、私の活動をわかってきています。外務大臣を長くしていると体調を崩して病気になったりするので、政調会長にしました。代わりに宏池会の秘蔵っ子の河野太郎を外務大臣にしました。野田聖子は別の意味でなりました。とにかく菅官房長官

の方が力があります。でも麻生さんはどこかで岸田を立てて、おそらく河野太郎も含めて反乱を起こすのではないかと思っています。そこでキーパーソンは額賀福志郎という私の大学の同級生です。彼は50数人の派閥の長です。その下に小淵・竹下派の小淵優子さんがいます。額賀福志郎も、「俺もそろそろ口を出すかな」と言っています。麻生さんの派閥も50数人の大きいです。石破さんのところには人が集まらなくて20数人ですが、その人たちは安倍派には行きません。計算をしてみるとこの反乱は、すべて10月22日に行われる補欠選挙の段階か、その前に北朝鮮のミサイルのことがあります。永田町近辺では、「解散かな」という話もあります。補欠選挙に合わせるとなると、衆議院は3週間くらい選挙期間があるので9月中のどこかで解散しなければなりません。そういうこともあるということの頭の片隅に置いておいて欲しいと思っています。

レジュメの3番目、「アベコベ外交の迷走」です。トランプ大統領が大統領になる前に、安倍さんはわざわざ会いに行きました。ゴルフや食事をして外交を頑張ってきました。トランプ大統領の支持率は30%代と史上最低です。まして8か月くらい経ちましたがまだまだという状態で、白人至上主義であることはアメリカの国の中では大問題です。まだ、ニューヨークやワシントンでは反対運動が続いています。彼はある慈善団体に100万ドルを個人的に寄付したそうですが、フロリダかテキサスの自然災害の現場に行っただとしても奥さんはハイヒールでした。スニーカーを借りて履きなおしたそうです。私は1995年1月17日の阪神淡路大震災のときに、仮設住宅に住んでいたおばちゃんたちとご飯を食べているところに、元NHKアナウンサーだった女性が毛皮のコートを着てハイヒールでやってきました。「みなさん頑張ってください」と言われても、お金持ちかもしれませんが被災地の仮設住宅に来る服装ではありません。一緒にいた少し怖い感じのおばちゃんが、「あんたなんか言われなくても、頑張らなければ生きていけないのよ」と言って、炒飯と焼きそばと一緒に食べた“そばめし”を後で一緒に食べました。そういうような心無いことがあります。

トランプ頼みは難しいと思います。制裁なんてやめて北朝鮮にはこれ以上何もしないで欲しいと思っています。それよりも前にもお話ししたと思うのですが、500台くらいの中古車に中古テレビや食料・衣料などの支援物資を積んで、使命感ある1,000人くらいの大学生たちと新潟港や秋田港から5隻くらいのフェリーで届けたいと思っています。女子学生は写真を撮られたりすると思うので、そういうことを気にしない体育会系の学生と行きたいと思っています。

そうやって平壤から離れた小さな村に車ごと物資を届けることをやり続けたいと考えています。10数年前からそう思っているのですが北朝鮮とのことなので、協力したいと言っている人にも何らかの圧力がかかっているようです。私はこういうことには北も南も関係ないと思っています。トランプ頼みで何かを変えろということは難しいのかなと思っています。

それからプーチンはGogleやSNSでいろいろなことをチェックしています。そして来年の春の大統領選挙ではどんな圧力をかけても絶対に大統領になって、過去にはなかった独裁体制にしたいと思います。そんな人間が北方領土を返すはずがありません。なぜ彼が大統領70%近い支持率を得ているかといえば、ウクライナを弾圧しクリミア半島を占拠している状況、ロシアファーストがあるからです。そんなことは人権問題や民族問題などは全く関係がありません。「そんなときに日本に北方領土などを返すわけがない」と、ある専門家に言われました。鈴木宗男とご飯を食べたときには、「まずは半分です」という話をしていました。いきなり4島全部ということにはならなくて、総面積の半分以上を返還対象にするのだそうです。それでも十分ですが、宗男さんも相当苦しい立場になっていると思いますが、北方領土は来年の春まで小石一つ帰ってこないと思います。安倍総理も何も言わなくなってしまいました。プーチンの方に影響力はあります。習近平と一緒に北朝鮮に近いウクライナか重慶あたりのどこかで特使として金正恩と会って、そこに安倍晋三も行って向こう10年間は全面的に日本がバックアップするから拉致とミサイルについて解決しましょう、住む場所と命の保証をするから、ベルリンの壁のように民族の壁、南北問題38度線はなくして民主化しましょう、とそういった具体的な話をしたいと思っても、まだそんなレベルではないのです。安倍さんのやっていることは全部アベコベなんです。霞が関のある省の幹部である後輩が、赤坂でぼろっと言ったということを触れておきます。

レジュメの4つ目、「日本の経済は本当に元気なのか？」で、今日の本題であるアベノミクスのところからです。昨日の昼、友達が来たので、一緒に爪切りを買いに秋田駅まで歩いて行きました。“なかいち”や駅前のデパートや老舗デパートなどに入ってみました。お客さんが数えられるほどしかいませんでした。一人のお年寄りから話しかけられたので、「ノースアジア大の講義があって秋田に来ています」と話しました。県立美術館には人が入っているのでしょうか。美術館の横の大きな建物にも入ってみました。1階の室内で野菜を売ってました。朝採り野菜などはビルの中でなくて外でも売れるのに、と思って不思議でした。県と市が建てた公の施設だったと思います。そう言えば秋田の

県知事は洪水災害のときにゴルフをしていて問題になりました。天気予報で予測ができたはずですが。殿様の血筋らしいですが危機管理能力がありません。ゴルフが好きなのでしょうかそんなときにまでやっていたのです。松山英樹のサインをあげる気にもなりません。東北福祉大学のゴルフ部の監督は秋田の大曲の出身です。秋田のことが大好き男です。元々は野球部でしたが膝を壊してしまって、辞めてゴルフ部を作りました。最近の日本のゴルフの最先端を行っている人は、ほとんどが東北福祉大の出身です。本当にこんな知事では秋田はどうかと思います。誰か40代くらいの人で気が利いた、やれるような人がいたらいいのにと感じてしまいます。駅前であんなことをやってもだめです。集中的に駅前の広場を整理して活用した方がいいです。建物などのハードを作るだけではだめです。建設費にいくらかかって効果がどうなるというチェックをするオンブズマンを出した方がいいです。こんなことをやっていたらますます人口が減ってしまいます。秋田は人口100万人をきったのですよね。平日とは言え歩いていても子供とは会いませんでした。すれ違う人はみんな沈んだ表情で歩いているように見えました。元気がいいな、と思うと観光客のおばちゃんでお土産の稲庭うどんの袋を持っていました。何かを考えないと秋田は本当に終わってしまいます。本気になって何かやろうと思ってもなかなか難しいのかもしれない。

レジュメの5つ目。「10月22日の補欠選挙」についてです。青森4区は弘前選出の方だったと思いますが、木村さんという方が亡くなって選挙になりました。今のところ誰が立候補するのか分かりませんが、新潟5区はなんと田中真紀子さんが自民党に対抗して無所属で立候補して一騎打ちになるようです。自民党は前知事の泉田を擁立しようとしていました。元日銀か何か出身のなかなかの人物ですが、原発反対だったのでやめました。現知事は原発反対の医者になっています。泉田か真紀子さんかなのですが民進党が今、調整能力がなくなっているので相談されています。でも、「忙しい」と言って行かないことにしています。真紀子は大学の同級生なので、あまり口をききたくないと思っています。おそらく新潟は自民党が負けると思います。愛媛3区は亡くなった方の息子さんが地場を引き継いで立候補するようです。ボンボンが出てきますが、女性スキャンダルが多すぎるのでどうかな、という感じです。まるで天理市の市長のようです。後で調べてみていただければわかると思いますが、天理市の市長は東大出身の元外交官です。出張で東京に行ってホテルで何かあったようですが、なぜ表沙汰になったのかわかりません。女の子が話したのでしょうか。とにか

くこの3つの補欠選挙で自民党が1つぐらいしか勝てなかったらガタガタになるので、だったら解散総選挙に合わせて“一か八かやろうか”となるかもしれません。

7つ目に少し触れます。「天皇陛下のご退位」についてです。8月15日の武道館で、陛下は菊の花で作られた祭壇をしばらく見ておられました。一応来年の8月15日が最後となると思いますが、その後のニュースや毎日新聞にも出ていましたが、陛下は“深い反省”という言葉をちゃんと言われました。しかし安倍総理大臣の言葉の中には一切そういうことはありませんでした。戦後70年談話のことは前にお話ししましたがあの日以来、皇室と安倍官邸の間にはギクシャクがあります。今年の春に亡くなったので言いにくいですが、上智大学の教授で渡部昇一先生のご自宅までわざわざ安倍晋三がお線香をあげに行きました。去年この渡部昇一先生と東大の歴史の専門家である有名な先生が天皇の退位に関する審議会の中で、「天皇というのは続いていけばいい」という言い方をしました。議事録に残っていることです。陛下はこの言葉に心がとても傷ついたというようなことを、毎日新聞が書きました。天皇陛下は2年前の富山県でのご公務のときに順番を間違えられるということがありました。お歳を考えるとそういうことは誰にでもあると思います。皇后と一緒に歩かれるときも、腕を組むというよりは支え合っているように見えます。皇居の中を30分くらい歩かれたりして、体力にも気を使われているそうです。陛下のお言葉の中に、「象徴としての務めをきちんと果たしたい」ということがあって、日本の象徴として間違いがあってはならないのだという思いがあるようです。もう80歳を超えられていることへの忖度というか配慮を総理官邸はしていません。70年談話のときからチクチク言われていることもあるのかもしれませんが。日本国が平和なのは憲法9条があるからだとして陛下がお話しになることに、安倍官邸の周りにはおそらく文句や不満を言っていて、1日も早く天皇の退位の日を決めようとしているようです。1月1日にご退位と言ったこともありました。元旦は多くの神事が天皇にはあって忙しい日です。そういった状況を考えていたのかいなかったのか、全く配慮がなくただカレンダー上のことだけを考えていたとしか思えません。常識ある人たちが驚いてやめさせました。平成から元号を変えるタイミングはそんなに単純なものではありません。そんなギクシャクがずっと続いています。

私はどちらかというトリベラル派です。戦後日本が立ち直っていく姿には昭和天皇の、「平和復興のためにみんなで頑張りましょう」と全国を行幸して歩いた姿勢の影響があったと思っています。マッカーサーだって初めは陛下を無

視したような態度でしたが、人柄に触れて頭を下げられるようになっていきました。私は歴史の専門家ではありませんので、機関説ではありますが天皇の名前を借りて軍部が勝手なことをしていたから戦争が起きたのだと思います。天皇陛下にも責任はあったかもしれませんが、それを超えて今日の日本があるのです。そして憲法で象徴として定められている。だから平成天皇にもそういう思いが引き継がれていて、次の天皇になれる皇太子様にも引き継いでもらいたいと思っているのだと思います。この皇室と今の総理官邸とのギクシャクについて新聞はあまり記事にしません、官邸付きの弟子の記者からそういう話を聞いています。日本にとっては不幸な話だなと思っています。

次は2025年問題の本です。団塊の世代の方が2025年に全員後期高齢者になります。正式名ではありませんが英語では“オールオールド”、“Wオールド”と言います。私は本の中で“ダブルド”と書いています。私は今、ひと月あたり医療費を8千円くらい払っています。年間約10万円の自己負担です。70歳超えの医療費は3割自己負担なので、年間約10万円の自己負担だと全額ではその3倍で約30万円かかっていることになります。75歳を過ぎると80万円くらいかかっているそうです。それを橋田寿賀子さんが、「生きているうちに、意識があるうちに安楽死できることを考えて欲しい」と月刊誌などで2度発言されました。認知症でなくてきちんと自分で書類を書くことができる人はスイスやベルギーに行くと、自筆申請すると70万円くらいで安楽死ができるようです。楽しく食事をした後に、睡眠薬で眠っている間に注射なのか薬なのかわかりませんが苦しまずに済むのだそうです。そういうことも書いていますので、ぜひ読んでみてください。私は日本も何か考えなければならぬのだと思います。橋田寿賀子さんはお子さんがいません。80歳を過ぎて体調が少し悪いようですが執筆はまだ続けています。熱海の自宅にいろいろな人が訪ねて行っているようですが、やはり寂しいのです。

これから年金はもっと減って行って、利用するメニューによってはそこから天引きされる介護保険料が増えていくと思います。手元に残るものが少なくなっているのに医療費は年齢を増すごとに増えていきます。橋田さんはそういうことを考えたのだと思います。教えてくれたのは霞が関の財務省の後輩です。「このデータで本が書けませんか」と言ってきたのでこの医療費の問題についてこの本の中で書きました。

何で日本の金利はこんなに低いのでしょうか。マイナスかゼロなのはなぜなのでしょう。日本の借金が1千兆円あります。国債の半分以上は日銀が持っています。金利が2%や3%に上がったら銀行だって日銀だって国だって利払い

が払えないからです。デフレを覚悟している確信犯です。でも公務員の給与は上がっています。大企業や利益のあるところは給与が上がっていくけれど、秋田県はそういう地域ではありません。昨日秋田駅前を歩いていたら時給が700円代のところがありました。最低賃金だったかもしれません。仙台のあたりは800円代がお店関係の賃金です。私の住む六本木の夜の時給は1,550円です。8時間働くと1日1万2千円になります。ちょっとした小遣い稼ぎにはなりますが、それでも働いてくれる人が来ないようです。お店に行くと店長さんに、「誰かいませんか」といわれますが東京の大学で教えていないので誰もいません。低金利の影響は人が減るだけでなく意欲も減ります。まして若者はスマホしか見ていません。義母の介護施設が葛飾になったので地元の葛飾に戻りました。千代田線か山手線を利用するのですが、寝ている以外は若者は全員スマホを見ているか、スマホで音楽を聴いています。これでは考える能力を失います。何でも知っているけれど何も考えていません。大変な世の中です。そういうことも含めて、今から教育をやり直さなければなりません。AIとかIoTと言われて、その中に残る職業と残らない職業があります。あるAIの専門家が言うには、「ある程度は当たっている。薬屋とコンビニは残る。スーパーは段々ダメになる。駅前商店街はきちんとやれば残る」そうです。10年先を考えた教育をしていかなければなりません。公務の定年も65歳にするとうニュースを昨日夜の番組でやっていました。テレビキャスターが、「いつまで働かせるの?」と言っていました。働くところがあるというのはいいことです。年金の受給開始年齢もこの先10年以内に70歳に引き上げられると思います。大学を出てから48年働かないと年金はもらえない時代になっていくと思います。私は昨年からは年金をもらい始めました。繰り下げして65歳からもらわなかったこともあって、受給金額は良い方だと思います。今のお年寄りには元気で長生きです。特に団塊の世代は本当に元気です。私はこの2年で小学校と中学校の同級会を4回しました。2人くらいは亡くなっていましたが、あとはみんな元気です。長生きということは、国は年金を払い続けなければなりません。大変な時代です。

ご清聴ありがとうございました。

〔講 演〕

ノースアジア大学 総合研究センター主催 講演会

「政局動乱 —どうなる日本の政治の明日—」

講 師 東北福祉大学特任教授
ノースアジア大学総合研究センター客員教授 福 岡 政 行

日 時 平成29年12月2日 午後1時～2時30分

会 場 ノースアジア大学 経済学部301教場

福 岡 流行語大賞というもの見ていて、「35億」が分かりませんでした。他の人に意味を聞いてみたのですが、「わからない」と言われていて、今日初めてその意味がわかりました。「地球上の男性の人口の数」だそうです。この中にも分からない人がいると思います。その他の「〇〇ファースト」は分かりましたし、「インスタ映え」もインスタグラムに関係することだとなんとなく分かりました。「忖度」は仕事上分かります。私は時代遅れになっているつもりはないのですが、レジュメの3行目に「リア充」と書きました。意味の分かる方は手を挙げてみてください。分かる方はいませんか。いないようですね。これは若い人が良く使う言葉です。私も知らなかったのですが、「リア充」を正確に言うと、「リアル」と「充足」を足した言葉で「リアルが充足する」でつまり“リアルを感じる”の意味なのだそうです。数年前から使われている言葉のようですが、私は今週水曜日の東北福祉大学でのゼミ時間に学生が話したのを聞いて、何のことだろうと思いました。テレビでも“リアルに〇〇”などとやっていますが、これがわからないと時代的にしょうがなくてだめです。レジュメの3行目については、また後でお話します。

まずは、レジュメの1行目は天皇陛下のご退位の問題のことです。今日お集りの皆さんの中に、大正生まれの方はいらっしゃいますか。見たところ皆さん若いのでさすがに92歳以上の方はいないと思います。これからは生年月日“T”の人は減って行って“S”や“H”が主なものになっていきます。今日は“H”の人はいないようなので全員“S”ですね。新しい元号が何になるのかは分かりませんが“昭和”は古い時代になっていきます。1年5か月後には皆さんは、「昭和ですか」と言われるような存在に変わっていきます。「昭和は遠くなりになり」です。

あるテレビ局の社長が後輩なのですが、戦後の昭和史を歌と共に綴る番組を最近BSでやっています。昨日うっかり間違えて都はるみさんに電話をしてしまいました。間違い電話とも言えず、「今度、益城や日田にボランティアに行くので、時間があったらお願いしたいと思っている」と話しましたが、「年内は忙しいので」とのことでした。私は吉永小百合さんを軸に戦後を歌で綴るといふ番組をしてみたいと思っています。私は昭和20年生まれですが、吉永小百合さんも同じです。アイリスオオヤマの社長である大山健太郎が紫綬褒章授章のパーティを年明けにすると聞いています。彼も同じ昭和20年生まれです。昭和20年生まれの力を集めてそういう番組をしたいと思っているところです。

とにかく2019年5月1日から新元号が始まります。けれど天皇家や宮内庁と安倍官邸との間でギクシャクがありました。5月1日はメーデーと重なりま

す。その年のゴールデンウィークは10日間の連休になるそうです。今は落ち着いているところですが、その年はちょうど4月1日に統一地方選挙が始まります。総理官邸は新天皇のご即位の日を最初は“12月31日に”と言いました。次は“4月1日”でした。皇室のことがわかる人ならばこの日がどんなに忙しくて大変な日であるかを分かっている、こんなことは言うはずがありません。そういうことから安保法や70年談話で「“深い反省”というものがなかった」という安倍晋三に対する天皇陛下のお言葉に表れているのです。

今朝、ホテルの部屋には秋田魁新聞が入っていたのですが、朝食の時に毎日新聞を見ました。毎日新聞は宮内庁の新聞のようになっていて、すごい内容になっていました。機会がありましたら是非読んでみてください。私は“3月の第3土曜日にご退位して翌日の日曜日にご即位される”というのではどうかと思っています。日にちではなくて曜日で限定すれば、多少のずれがあったとしても一番世の中に影響のないところを選ぶことができるのではないかと考えています。できれば土日だと国民も儀式の様子などをテレビで見ることができはずです。総理官邸にはそういう発想がないのかなと思います。前日も触れましたが亡くなった上智大学の渡部昇一先生の「天皇家は続いていけばいい」という言葉に天皇陛下と宮内庁は深くショックを受けたそうです。今年の2月に東大名誉教授の平川祐弘とお二人でそう言ったそうですが、天皇陛下はそうではなくて“象徴としての務め”に対する責任から“ある程度の年齢がきたので”と言われているのです。安倍官邸はそういうことをきちんと忖度できません。

レジュメ2番目の北のミサイルについてです。東京にいと秋田のことはほとんどニュースになりませんが、ところが最近は連続して秋田県が報道されています。男鹿半島のこともあります、特に由利本荘市がよく報道されています。10月の台風で由利本荘に漂着して沈没した北朝鮮の木造船のニュースです。昨日、秋田に来るときの飛行機から日本海を見ましたが、冬の天候で雪が降って荒れていました。北朝鮮から来るあの木造船は1980年代に造られたものだそうです。あの船で荒れた海に出るなんて、私だったら絶対にしません。もちろん逆らったら大変なことになる国ですから出発はして沖で少し魚を獲ったら、難破したことにしてロシア側に漂着させます。平壤からウラジオストックまでの海は飛行機から見る限りはおそらく何もありません。2、3週間ロシアでサボったあと、「申し分かりません」と北朝鮮に帰国すれば暴力的な制裁はあるかもしれませんが、死ぬようなことはありません。私は危機管理の専門家ですから船長だったら、「この船では無理だ」と言ってそうします。由利本荘に漂着した木造船は、魚を獲って積んで戻る予定だったということが認めら

れて乗組員は帰国しましたが、あの船にスパイがいなかったということは証明できていません。

この後選挙の話もしますが、前に拉致問題の話をしたことがあったので、すこし補足程度に触れたいと思います。2000年と2001年に私は平壤入りました。北朝鮮が冷夏で米が採れなかったという報道があり野中広務さんから、「福岡君、君行きたいんじゃないの」言われて「はい、行きたいです」と言ったら、「行きなさい」となって米やチョコレートを用意してくれました。在日の友人は黙って100万円くれました。「向こうに行くとお金がかかるよ」ということでした。ボランティア活動ですから旅費は全部自分持ちですが、同行した学生については3万円だけ自己負担してもらって後は補助しました。1回目は北京から入りましたが、2年目はウラジオストックから平壤に2回に分けて入りました。その野中広務先生ですが体調を崩されて京都のホテルで倒れられたようそうです。今入院しているようで小さな記事ですが新聞にも載っていました。平壤に行く時、「福岡君、夜寝るときは必ず男の学生とツインで眠ってください」と言われました。ホテルの部屋には鍵がありませんでした。入り口側のベッドには一緒に行った運動部の男子学生が寝ていました。私は奥のベッドに寝ましたが、夜中になると綺麗なお姉さんが薄物を着て部屋に入ってきました。「福岡先生は？」と聞くので学生が「酔って寝てしまいました」と答えていました。分かりやすい隠しカメラで明らかに全部監視されています。いろんな政治家が同じ手口に引っかかったということが分かっています。

1回目に行って帰ってきた後に小泉純一郎さんのブレーンをしていた時だったので、総理公邸で小泉さんと一緒に夜に食事をしたときにその話をしました。「平壤に行ってきましたが本当に貧しい国でした。南北離散家族がいるお爺さんと田んぼの稲をみているふりをしながら話したのですが、“南の国はちゃんとしているのか”と聞かれたので“言いにくいですが、北より豊かな暮らしをしています。車もテレビもあります”と話しました。“そうか良かった。妹たちはみんな南にいるんだ”と嬉しそうにしていました」という話をしたら、小泉さんが、「日本から誘拐や拉致をされている人たちがいるんだ。行ってみたいと思っている」と言ったのです。翌年行ったときに、最後の3時間くらいを宋日昊と過ごしました。カラオケで都はるみさんの歌を歌ったりして、親友のように仲良くなりました。最後に、「日昊、日本から拉致されている人が何人かいるんだ。返して欲しい」と言った途端に、いままで日本語ペラペラだったのが急に猛烈なハングルを話し始めました。その夜も薄着のきれいなお姉さんが部屋に来ましたが、男子学生がまた断りました。翌日の帰国する飛行機の中

でジュースに毒を盛られてお腹を壊しました。そしてその後大腸がんにもなりました。

答えは一つです。この夏、あるサインがあって私は北朝鮮に行く予定でいましたが、核だミサイルだとなって結果的に行くことはできませんでした。秋田もJアラートが鳴ったと思います。実にいろいろなことがありました。プーチンが言うように、草の根を食べても生きていく人たちです。でも一番苦勞するのは末端の農民たちです。上層部の人たちは良い暮らしをしているようで、映像から見るとは質の良い服を着ています。そういうことを見ると怒りを覚えます。でも72年前の日本も同じことをしていました。「竹槍で敵機を落とせ」などと国民も訓練をさせられていました。実際にやった人はこの中にはいないと思います。当時の毎日新聞が、「竹槍では敵機に届かない」と書いて発刊停止になりました。勢いでパールハーバーを攻撃しましたが、日本は石油の輸入元がアメリカだったということに、なぜ気付かなかったのか不思議です。その後どうなるのかということやなぜ考えなかったのか、意見する人はいなかったのでしょうか。そういうゴマすりばかりになってしまうとイエスマンしか周りにいなくなります。私はそういう忖度ができないので助教授になったのが33歳で47歳まで助教授でした。業績や成績はとても良かったのですが教授会でちょっと一言発言したら、逆らったことになってしまいました。それは私のゼミ生ではなくて面識のない学生でしたが、とても良いところに就職が決まっているのに2単位足りなくて卒業できないというので、補講や追試でなんとかありませんか、とお願いしたものでした。「学問の自治だ。お前みたいな助教授に言われる筋合いはない」と教授に言われましたが、「そういうことではなくて一人の学生の人生にかかる問題なのですが…」と忖度できませんでした。駒澤大学から東京海上にはなかなか入れません。なんとかしてあげたかったです。それからずっと助教授のままでした。そう私に言った教授もその後は白鷗大学に務めました。忖度も時には大切です。顔色をうかがって、「はい、そうですね」と言うことも必要だということや座右の銘のように心に留めたいと思っています。

“リア充”についてです。札幌の中一の少年が女性を後ろから刺したという事件がありました。幸いにもこの女性の命は助かっているのですが、この少年の証言は二転三転しています。「人を殺したかった」「母親を殺したかった」とも言っていますが本当ではなさそうです。「この事件の背景は何だと思うか」と学生達にきいてみたところ一人の学生が、「座間の連続殺人事件に影響されて“リア充”じゃないですか」と言いました。私はその時に初めて“リア充”

を聞きました。「そんな変な日本語を使うな」と言うと、「えっ、ネットで見てください。一般的に使っていますよ」と言われました。「リア充＝リアル充足」、現実に何かをしたいということです。人を殺すようなことが書いてあるネットを見たり、簡単に人を殺したりする過激シーンばかりのゲームがあるのだそうです。そういうことをしていると、現実的に殺してみたくなくなってしまうようです。その“リア充”をしてしまったのが、座間の連続9人殺害事件です。アパートの一室からクーラーボックス等に入った9人分の遺体が発見された事件です。白石容疑者の話を聞いていると、おそらく2人目、3人目あたりからは人を殺すことが快感だったのではないかと思います。殺されなかったけれど、他にも十数人がSNSでやり取りをしていたそうです。SNSで生きている子供たちがどこかでリア充を求めているも、今日ここに来られているようなお祖父ちゃんやお祖母ちゃんにはわかりません。この“リア充”の意見を言った学生は21歳で3年生です。将来働きたいと思っているテレビ局で、すでにバイトをしています。なかなかやるなあと感じたので焼肉をごちそうする約束をしました。この“リア充”とはどういうことかをお祖父ちゃんやお祖母ちゃんがうちへ帰ってから、偉そうに話すと孫は、「なんで知っているの」と不思議に思うかもしれません。

前にも話しましたが東京の一流高校の先生が言うには、「今の子は失恋すると悲しいからガールフレンドは作らず、ネット上のバーチャル彼女で楽しんでいる」のだそうです。東大に十数人、早稲田、駒沢に100人単位で入学してくるような学校の先生が言うのです。でもネットからリア充になっていく人が出てくると思います。痴漢もある意味リア充なのかもしれません。それからレジュメには書いてありませんが京都大学を卒業した男性がSNSで、「19時01分池袋発川越行に集合」と痴漢サイトに投稿したら初対面の4人が集まって1人の女の子をみんなで触ったという事件がありました。前1両目の車両が痴漢をしやすいのだそうです。つい4、5日前のことです。この主犯格の男は京大卒でIT企業に勤務していた人です。それもどこかでリア充なのだと思います。「何を考えているんだ」と言う方がダメな世の中です。授業中にスマホを見ている学生にも、「どうぞごゆっくり」と言わなくてははいけません。そういう時代です。今日はこのリア充の話はどうしてもしたいと思ってきました。

それからレジュメの4つ目、“ひまふじ”と言って学生に笑われましたが。今は下手に手を出すとすぐに引退しなければいけなくなります。モンゴル出身横綱の日馬富士が事件を起こしました。レジュメに書きましたがこの件について私はコメントできません。相撲をあまり見ないし良く分かりません。鶴亀も

モンゴル出身だとわかっていなかったのです。稀勢の里以外は全部モンゴル出身横綱なんだそうですね。日馬富士が引退することが決まってから貴乃花親父が、「引退まですることはなかったのでは」とコメントしたそうです。それならば何とか助けてあげれば良かったのにと感じてしまいますが、親兄弟と仲たがいで無縁になっているくらい貴乃花も難しい性格です。

以前にみなさんに買っていただいた本にも書きましたが、相撲はモンゴル国技と言われても仕方ないと…。この間の場所は引退したり休場したりした力士が8人いたそうです。大関が1人で頑張ったそうです。高安もお母さんが日本人ではありません。講演に行ったときにお母さんに会ったことがあります。他の力士の名前はほとんどわかりません。150kgもあるような巨体が投げられて下に落ちてくるのだからケガをするのは当たり前です。土俵をもう少し大きくして落ちないようにしてみてもいいと思います。そういう意味では相撲も残酷な競技です。下に落ちたり投げられたりすることに日本人は一喜一憂します。どこかスペインの闘牛と同じようなものを感じます。NHKも相撲中継をやめていいと思います。それに今は朝からどこのチャンネルでも日馬富士の事件のことばかりやっています。昼も夜も同じ状態でもう見たくありません。

レジュメの次にいきます。第48回総選挙が突然行われました。不倫疑惑で話題となっていた綺麗な弁護士、山尾志桜里とハゲの豊田真由子は共に東大法学部出身です。片や国家上級職員試験を100番台で合格して厚生労働省に入省した人で43歳です。山尾は5年くらいかかったけれども司法試験に合格して検事になってから選挙に出てきました。名古屋のある会で山尾にあったことがあります。見どころがあったので「今度食事でも」と言って携帯電話の番号を交換しました。今も私の携帯電話に登録されています。その後で話題の事件が起きました。この山尾志桜里事件直後に“流れが変わった”と読んだ麻生太郎と安倍晋三が会って、「今なら流れがあって勝てる」となって、この一言で解散総選挙に飛び込みました。

悪口を言うのが大好きなので言いますが、日本新党を創るときに細川護熙さんから言われたことがあります。彼はそのとき熊本県知事でした。彼のお嬢さんがボランティア団体で私とずっと一緒に活動をしてきていました。銀座のママからプレゼントされたかもしれないお父さんの高級な洒落たネクタイにサインをしてもらって、それをオークションで売って資金調達に使わせてもらっていました。奥様も時々活動に参加してくれていました。熊本で講演をしたときに奥様が来て、「今日一緒にお食事をしたいと細川が言っています。ホテルはとりますから夜お時間大丈夫でしょうか」と言われました。それで熊本のあ

る料理屋に行って食事をしました。「熊本県知事で終わりたくない。日本国総理になりたいから協力して欲しい。松下政経塾の人たちを入れたい。」ということでした。それで野田佳彦や前原誠司などあのときの衆議院選挙に10人くらいつぎ込みました。その前の参議院選挙のときに初めて日本新党を創ったのですが、議席数は4つでした。その時にテレビキャスター出身の小池百合子も入党しました。

今回の解散選挙では、「行けそうだ」と思った民進党の人たちがみんな小池さんのところに行きました。あのまま何もなければおそらく150議席くらいは獲れたと思います。ところが有頂天になった都知事は9月26日に、「排除します」「更々ありません」と言ってしまいました。しかも笑って言ってしまいました。どこのテレビ局もこぞってこのことを取り上げました。この一言を聞いた瞬間にみんな、「ダメだよね」となりました。その後、10月に土曜日に放送されている久米宏さんのTBSラジオ番組に電話出演しました。10分くらいでしたが、「福岡さん、安倍総理と小池さんはどっちが右ですかね」と質問されました。私はその瞬間に、「一番右を10として一番左をリベラルの0とすると、安倍晋三は8に±1で9か7です。小池百合子は7に±1で8か6でいい勝負だと思います」と言いました。久米さんは分かって質問していますから、「そんな感じだよね」と言いました。つまり2人ともリベラルではありません。「おそらくどこかで維新の会の橋下徹とつながっていると思う」という妙な話のところでも10分が終わりました。結果的に小池希望の党はこの有頂天発言でもってアウトです。党代表を辞めることになりました。都知事の方も、色々言っても豊洲が今動かないので都議会がしらけてしまっています。公明党東京都議会は完全に降りたいと思っています。すると過半数議席を満たさなくなります。50議席ありませんから、段々と自民党と公明党の勢力になっていきます。

私は今、六本木の事務所が建て直し中なので実家のある葛飾柴又に戻っています。母親が亡くなった後も甥がいたりするのでそこに住んでいます。山口那津男という公明党の代表も同じく葛飾区の人です。最近、パーティで一緒になったときに、「池田大作先生は平和と福祉のことを言っていた方ですよね」とちょっと嫌味を言ってみました。公明党は最近スタンスを変えてきました。今、山口那津男は中国に行っています。習近平に会っています。安倍晋三は会ってもらえないのにです。そんなことがあって小池百合子が都知事まで辞めるかもしれません。小池百合子が総理大臣になる気でフラフラしたときに昔からの友人が、「何かアドバイスを言ってあげればいいのでは」と言ってきましたが、私は忖度ができないのでこちらから連絡することはありません。聞かれれば教

えないこともないのですが、わざわざということはしません。そうしたら、あれよあれよとあんなふうになってしまいました。人間は良いときほど慎重にならなければいけないのです。私が大学に入ったときに先輩から、「“実るほど頭を垂れる稲穂かな” というのがうちの大学の基本だ」と教えられました。その頃の私は意味が分かりませんでした。稲穂とはそういうものだという基本を割と大事にしています。小池百合子が愚かな有頂天ガールになったことでいろいろなことが起きて選挙はバラバラになりました。

ただ、このときに枝野幸男が「立憲民主党」というリベラルを立ち上げました。枝野は栃木出身で東北大学出身の弁護士です。この枝野は菅直人総理大臣の官房長官で3.11のときに、「直ちに人体に影響の出るものではない」という弁護士のずるい発言をしたことを、岡田克也とともに絶対に許してはいけないと思っています。このリベラルはこの選挙の10日間くらいを頑張って1,080万票獲得しました。名古屋の東海ブロックでは比例名簿の候補者数以上の票を獲りすぎてしまいました。議席に議員をあてることができず、本来獲得できた議席を次の順位の自民党に渡ってしまいました。惜しいことをしました。立ち上げたばかりで慌てて人数を合わせたのでしょうけれども、誰でもいいので票数を持っている候補者をもう少し見立てておけば良かったのと思います。立憲民主党が1,080万票で希望の党が9百数十万票くらいなので合わせると2,100万票獲っています。ところが自民党は票が増えたと言っていますが1,800数十万票くらいです。公明党は初めて700万票を切った698万票でショックでした。共産党も票を減らしましたが、この共産党と社民党の票を希望の党と立憲民主党に合わせると2,600万票になって、自民党と公明党を合わせた2千5百数十万票を上回ります。答えは簡単です。非自民の共産党には後ろで動いてもらいます。前に本にも書きましたが党名はもう時代に合わなくて古いので“共生党”と1文字変えて、“赤旗”をやめて“黄色いハンカチ”にします。高倉健さんの関係者のことは分かりませんが、菅原文太さんの奥さんには私が話してもいいと思っています。そういうことも必要だと思います。

最近私はテレビに出ていませんが、スポンサーの一部から、「原発に反対している人をなぜ使うんだ」と言われているようです。東京電力に出資している企業だと思います。東京電力の次期社長は日立製作所の方です。次の経団連の代表も日立製作所の方だそうです。それを教わったときに“えっ”と思いました。東芝がダメになったら全部日立です。分かりやすい国ですね。これも忖度すればこそかもしれません。そんなことも含めて、本当に日本の民進党・野党はダメです。それで次の選挙までに少し動こうかなと思っています。「生きて

たんですか」と死んだ人扱いされるのはショックです。それよりは動いた方が
良いと思っています。この数か月で私は体重が5キロ痩せました。その理由は
後でお話しします。寂しい病気になってしまったのです。選挙結果は野党がだ
らしなく弱かったこともあったのですが、北のミサイルのこともあって孫のい
るお祖父ちゃんお祖母ちゃんたちは、「やっぱりここはアメリカのトランプと
きちんとやれる方がいい」となったようです。私も孫がいますが考え方が少し
違います。お母さんたちも本能的に、「安倍は嫌いだけど野党はだらしがない」
と思ったようです。その結果が野党の比例が異例に伸びた原因の一つなんだろう
と思っています。北のミサイルの不安感が影響したこともあったのだという
ことで、このことに触れてみました。

次はレジュメの②です。森友学園の籠池夫妻は拘留期間の40日を過ぎても
まだ警察の拘留所の中です。一般人なので奥さんくらいは出しても良さそうな
ものですが長期化しています。ところが私人の安倍昭恵は証人喚問すらありま
せん。参考人招致もありません。北朝鮮ならまだしも、こんな不平等はどうで
しょうか。北朝鮮の平壤のようです。あの軍事境界線を越えて脱北した兵隊へ
の肅清は、3親等以内の親族全員死刑ではないかと言われていています。脱北兵の
健康状態は大変悪くて、お腹の中に寄生虫がいたりしているそうです。酷い食
糧事情が予想できます。私も小学生の頃にそういう薬を飲んだことがあります。
北はまだそういう状態なので辛いものがあります。

この森友学園のケースははっきり言って安倍昭恵と谷査恵子の2人を証人喚
問で呼んで、「理事長室で100万円のやり取りはあったのですか」ということ
を聞けば良いだけです。すでに招致された官僚たちは、「わかりません」「覚え
ていません」と言っています。証人喚問では答えなければなりません。谷査恵
子は今どこかの外国の大使館に出向しています。全部そうやって意図的に分
からないようにしています。籠池夫妻はすごい詐欺師かもしれませんが違いが
ありすぎるように思います。確かに特例、特例で約10億円を1億何千万円に
したのは悪いことです。あれだけのことが分かっているのに追及できない野党、特に
希望の党の質問者たちには、「いったいどっちを見て話しをしているんだ」と
言いたくなります。おそらく20人くらいは安倍の自民党から、「次の選挙はう
ちから出たらどうだ」と言われているんだと思います。希望の党は分裂するで
しょう。東大出の大蔵官僚の玉木も、もう少し良い人かなと思っていました
がやっぱり利権をチラつかされるとダメになってしまうものかなと思います。
おそらく安倍は逃げ切りで、年内は年末の通常国会でやると思います。

そして加計問題ですが、私は今広島大学に行っていますので、今治まで行っ

て弟子たちと加計学園のことを調査しています。何かを掴めると思います。獣医学部は入試をやろうとしています、どうも人が集まらないのではないかとされています。獣医学部はどこも倍率が5、6倍です。だから創れば儲かるだろうとなったのが岡山理大の獣医学部なのです。ところが教員の約70人について問題になっています。その内の18、9人が北里大学などの他の大学を定年退職した方です。獣医学部の6年課程をできないのではないかとされています。帯広畜産大学や北海道大学から加計学園に行く予定だった教員の中には、「行くのを辞めたい」と言っている人も出てきているようです。12、3人は臨床経験のない26、7歳の大学院生です。家畜だけでなく、ペットの犬や猫でも聴診器を当てたりする臨床は必要です。豚の顔を見て病気かどうかを判断する技術も必要ですが、そういうことも経験していない大学院生が教員になる予定です。韓国からの受験生が既に20人くらいいるそうですが、教員が集まるかどうか心配です。それから、建設費の坪単価は150万円だそうです。大学病院の建設費用の相場が坪単価87万円くらいだと聞いています。水増し疑惑があります。それに大学にワインセラーは必要ですか。設計業者が提案した計画図にはワインセラーやビールサーバーも書かれてあったそうです。もちろん批判されて、「関係各所からのご意見で精査した結果」他の設備に変更したそうです。加計問題はもっと何かあります。ここで潰しておかないと日本の国は本当にダメになってしまいます。私はボディガードを付けて今治で調査を続けていきたいと思っています。

安倍昭恵とは東北の防潮堤視察で何度か会っています。一緒に食事をしたこともあります。お酒は“少し飲み過ぎなのではないの”と思うことがあるので、2次会に行かずにさっと帰るようにしています。安倍晋三は委員会で昭恵のことを言われると瞬間に急にトーンが上がって、「妻が」とハイテンションになって言っていることがバラバラになります。何とも言えないなと思ってあの2人を見ています。森友、加計スキャンダルについては、まだ引き続き何かをやりたいと思っています。週刊文春の“飛ばし”も私たちの関係者ですのでちょっと頭に入れておいてください。

次、安倍外交のバタバタについてです。トランプの新補佐官のフリン氏がロシア疑惑について全部話すことになりました。フリン氏は2016年の米大統領選挙にロシアが介入したとされる疑惑の中心人物の1人です。トランプ氏自身が大統領に就任する前にロシア側と接触したといわれる、「ロシアゲート」を巡る捜査で罪を認めて語るのはフリン氏が初めてです。それで娘婿も議会で証言をするよう招致されたようです。正直に全部話すと罪が軽くなるという制度

を使って証言をさせようとしているのですが、内容によってはこれでトランプが本当にダメになる可能性があります、安倍総理はべったりです。戦争ごっこ好きな連中がみんな外交をやっています。これを是非今後の問題にしたいと考えていますが、トランプのことは話しても無駄だと思うので終わります。

北方領土について9月に鈴木宗男のパーティが東京でありました。招待状が届いたので行ってきました。招待なので本来は無料なのですが、ご祝儀包んで持って行って端っこで聞いていたら安倍晋三も来ていました。「北方領土をとにかく返してもらわなければいけない」とみんなで盛り上がっていました。ところが外務省OBの専門家である評論家がそばに来て、「石ころ一つ戻ってきませんからね、先生」と言いました。パーティが終わってからその人とちょっと飲みに行って、「なぜですか」と聞いてみると「来年の3月に大統領選挙があります。6月のサッカーワールドカップもロシアで開催です。そういう色々なことがあって、ここで当選すれば長期政権になるのでプーチンは必死です。なぜプーチンがこんなに人気があるのかわかりますか」と聞かれました。それは、「クリミア半島をウクライナから奪ってロシアファーストだからなんですよ」ということでした。「ロシア人はみんな“プーチンは凄いぞ”となっている」のだそうです。結局今はどこの国も自国ファーストです。だから絶対に返さないし3月までは石一つ戻りません。その後は、「向こう10年以内に国後島かどこかの北方領土に日本が建設費用を負担するから缶詰工場を作ってください」とお願いして、企業も日本から出して運営は共同でして、売り上げは五分五分する。4千人規模くらいの工場を3つ、4つ個作って段々と日本に復帰させるために我慢するしかないという話でした。プーチン本名を知っていますよ。ね。ウラガ^{アール}・プーチンです。ちょっと間違えて言いました、ウラジミ^{ール}でした。

次は習近平についてです。伊藤忠商事の大先輩から、「海のシルクロードである“ワンベルト・ワンロード”の船に乗れなかった日本はだめなんだ」という話を聞きました。大変だと思い始めて、「乗せて欲しい」とやっと今頼んでいるそうです。中国サイドからすると、ハト派の総理大臣にすれば南京大虐殺問題や従軍慰安婦問題をいつまでも解決できない様子を見て、習近平はそう簡単には応じません。古賀誠や野中広務先生たちなら力があるけれど、ぼんやりと話しているようでは二階俊博は全くだめです。だからとっていたら2人とも議員を引退してバッチがなくなりました。国会に行かなくなったらTBSの朝の番組に出るくらいしかありません。そうしているうちに野中先生は倒れてしまったようなのです。京都の病院に救急搬送されたいらしいです。だから後でも

触れますが、本気で安倍晋三の次を真剣に考えなければならないところに来て
います。

次は右側の④です。昨日の夜、6時半頃に川反の寿司屋に行きました。川反
を歩いている人がいませんでした。一緒に行った人に、「今日は定休日か」と
聞くと、「先生、今日は金曜日ですよ」と言われました。“花金”という言葉
昔は使いましたが、今はそういうのはないのだそうです。金曜日を休む店はあ
りません。

「アホノミクスと日本経済」についてですが、この間、同志社大学の浜^{はまの}矩子^{りこ}
先生と講演会で一緒になりました。私が先に講演して浜先生がその後でした。
最近、浜先生もあまりテレビで見かけなくなりました。帰りの新幹線まで時間
があったので彼女の話^{はな}を30分くらい聞くことができましたが、最初から「ア
ホノミクス」で感動しました。

お金持ちと言われる2千万円以上の所得がある人は約1%と言われていて、
その人たちは元気です。大学の先生も1千万円くらいの給与があるようです。
別の大学からスカウトされたりすると、しっかりした金額が保証されます。お
そらく都市銀の支店長の退職金は千数百万円くらいです。もう学生たちは金融
機関に就職したがりません。今日は関係者がいないと思いますが、みずほ銀行
は7万人の職員から1万2千人の早期退職者を募りました。リストラをするく
らいですから学生は行きません。私たちが大学を卒業した昭和43年は一番優
秀な学生は日本銀行、その次は日本興業銀行、その次は民間銀行の富士銀行に
就職していました。私は住友銀行の採用試験に合格していましたが、三井物産
の採用が決まっていたので行きませんでした。みずほ銀行は富士銀行、日本興
業銀行、第一勧業銀行が合併した銀行です。400店舗ある支店から100店舗減
らすそうです。ゼロ金利やマイナス金利と言っても金融機関はもうやっていけ
ません。生命保険も外資系のもので変わってきています。メットライフ生命の
ようにパソコンのネットでできるようになってきていて、海外との取引になっ
ています。

格差社会は本当にひどくなって来ています。東京は少し元気で名古屋も元気
です。リニアもできます。そうすると品川駅から名古屋までは37分で行き来
できます。そうすると通勤範囲ですよ。トヨタの元会長で経団連会長の奥田
さんと食事をした時に、「リニアの問題ではなくて、もう何年も前からトヨタ
はテレビ電話会議です」という話がありました。アメリカも全部繋いでやって
いるそうです。いちいち会って会議なんてことはしていないのです。そういう
ことをしているのは県立大学や国立大学だけです。長々と会議をしているよう

なところはだめです。結果が出て終わってから、「責任はとるから」というよう
うでなければ生徒の指導はできません。

大企業もでたらめになってきています。榊原東レ会長も関係子会社の問題や、
東芝から何からみんな同じです。トヨタのプリウスになんとなく事故が多いと
いうことはあまりニュースになりません。スポンサーとしては影響が大きいか
らです。自治医大の弟子が私のところにきて泣くのは、自治医大の84歳の男
性患者が、誤ってアクセルを踏み急発進して死亡事故を起こしたことです。弟
子のところにわざわざ東京から息子さんと一緒に診察にきた患者さんだそう
です。私が“75歳以上の高齢者は免許を返納してもらいたい”という運動をし
ているのはそういうことなのです。

これからの大企業はどうでしょうか。金融機関はつらいと思います。ネット
でやっていますといっても一時的なものだと思います。皆さんのお孫さんの時
代の就職先として一番良いのは公務員です。潰れないし、変なことをして問題
をおこさないようにしていれば65歳になれば年金ももらえます。私の教え子
たちも公務員になっています。先週の土曜日に、公務員になったゼミ生のひと
りが東京のウエスティンホテルで結婚式をしました。私は新郎側の主賓として
出席しました。奥さんも公務員だということでした。新郎新婦が入場してきて、
最初の主賓挨拶が私でした。話すことをあらかじめ決めていなかったのですが、
奥さんはとてもかわいい顔の方で新郎はあまり良くないのでとっさに、「良かっ
た。劇団四季ではないけれど“美女と野獣”だ」と一応褒めました。最後に「今
日は公務員の方はいないと思いますが、公務員は暇ですよ」とチクリと言
いました。そうしたら新婦側の主賓は某市役所の市民税課課長でした。胸から巻
物を出して、「本日は」と型にはまった挨拶を始めました。そして、「市民税課
はとても忙しくて新婦は本当に頑張っている」と話すのです。野次ろうかと思
いましたが結婚式だから控えました。しばらくしたらその課長が名刺をもって
挨拶にきました。「そちらの自治体は人口50数万人くらいらしいですが公務員
が4千人弱いるらしですね。こちらの宇都宮市役所の職員に聞いたところ52、
3万人に2,900人しかいないらしいですよ。豊田市は50万人くらいで職員数は
2,400人もいないそう。大野城市は人口10万人を超したけれど400人もいない。
一人あたり1千万円だからな」と嫌味を言いました。

レジュメ④の“切り捨てられる地方・非常勤・シルバー”についてです。非
正規については、正職員とパート、アルバイトは本当に全然違います。もち
ろん最近では正職員へ登用しているところもありますが、それは働く人がいないか
らIT関係がそうしているだけです。スーパーもみんな時給800円くらいで働い

ています。秋田の時給はそんなにはいはずです。東京の六本木あたりの時給は1,300円です。それでも夜10時から朝6時までの間は働く人がいません。東京のコンビニで働いている人はほとんど日本人ではありません。日本人に見えるような人もいますが、名札を見ると東南アジア系の名前になっています。「どこから来たの」と聞いたら「ベトナムです」と言っていました。そういう時代になってきています。シルバーについては、65歳以上の年金は減額されていますが、控除されるものは増えて行っています。教え子が港区役所で働いているので、「住民税は年4回ですよ」などと控除するものについて説明してくれます。今度は東北の仙台に住んでみようかと思っていますが、仙台の大学は客員教授といってもパートです。私も72歳ですからシルバーです。考えなければいけないと思っています。

レジュメ⑤のブラック国家日本について本を書きあげました。前の本は読売から出したので、今度は朝日の後輩に話したら、「ちょっと待ってください」と言われました。この間みなさんに買っていただいた本は増刷されて1万部売れました。1冊1,200円の本なので印税が120万円入って来ましたが既にあれこれと遣ってしまいました。でもそれ以上は売れません。今、ホームページを作ってネットでの販売を考えています。『ブラック国家日本』のサブタイトルは「安倍政権の大罪」です。厳しいことをたくさん書いているので読んだら良い本だと思います。

前に原発の『日本終了の日』という本を書きました。ある出版社から出すつもりでしたが、最後に無理だとなって自費出版しました。1,000冊を100万円で作りました。まだありますので欲しい方には次回来たときにお分けできます。もう800冊売れました。「先生、面白いですよ」と言ってもらっています。サブタイトルは「三度許した原子力爆発」です。それは3.11の後の福島でも一度爆発があったらという未来予想の話です。どこの出版社も新聞社でも出せませんでした。でも書いたことは知られているので圧力はたくさんあります。「5冊送ってください」などのいろいろな人のつながりでやっています。おそらく来年の2月か3月には出すことができるようなんとか頑張っています。

9月と8月に2回ほどテレビ出演しました。その後選挙だと思っても、なかなか出られません。だけれども仙台放送の弟子から、「先生、中央のテレビ局から声がかからないなら、うちでやってください。」ということになって、大学での授業もあって仙台に行っているので出ることにしました。メディアコントロールです。浜矩子先生もおそらく同じだと思います。全てが村度され続けています。時事通信社の田崎史郎も最近良く出ます。彼は自民党本部で座っ

ているだけで、記事も書きません。時事通信社は記事を書かずに他の人の原稿を見て適当に発信しているだけです。でも安倍政権の本を書いたので、ああやることができるのです。テレビ局はどう考えてもそういうふうになってきているのです。メディアコントロールです。安倍政権を批判すると“うるさい奴は外せ”と、本当かどうかは分かりませんが萩生田光一たちが言っているかもしれません。マスメディアは、「第四の権力」です。立法府、行政府、司法府の三権分立の第四の権力がマスコミ、マスメディアなんだと私たちは教わって来ました。それが今は全くだめです。メディアは死んだ。我が先輩で私が唯一弟子の筑紫哲也は、「TBSは今日死にました」と昔言って干されたことがあります。

だけれども今は、朝から晩まで日馬富士のことを2時間も3時間も訳の分からない、ひな壇の番組をやっています。プロ野球の試合中継がなくなったら見るような番組もなくなってしまいました。だから最近の私は、都はるみの演歌を聞いています。このマスコミの状態はやっぱり問題です。アメリカのようにきちんとマスコミが権力を批判できなければ日本の国はダメになります。私は電車や新幹線に乗るときはホームの線路側に立たないようにと教え子の警察関係者から言われています。黄色い線のところではなく真ん中に立って、ドンと押されても大丈夫なような姿勢でいるようにしています。こんなことをしなければいけないのは寂しいことです。福島知事選挙を菅原文太さんと応援に行ってから公安がつくようになりました。私は元東京地検特捜部長の河上和雄さんの教え子ですから、公安で授業をやるように言われて当然に教えていたことがあったのです。その時の教え子たちがいるのです。共謀罪などというものが出来たら電話も盗聴されますから、軽はずみで言ったことでも罪になってしまうことがあります。もしそうなったら、「そんなに悪い人ではなかった」と10人ぐらいで嘆願書を出してもらえたら何とかなるかもしれません。弟子に20人ほど弁護士になったのがいるので、何とかしてくれるのかもしれませんが、何が起きるかわかりません。

それから見たいテレビが全くありません。昨日はホテルでHNCのドラマなどを見ましたが、20分見てもストーリーについていけませんでした。有名な人が出ていれば違ったのかもしれませんが、出ている女優も好きなタイプではなかったので本当に何も見るものがありませんでした。

次はレジュメの⑥で、「2018年の日本」は“安倍一強は続く”ということです。彼はオリンピックの時にやりたいのです。今年選挙だったのですから、4年経っても2021年でオリンピックは大丈夫です。おそらく小池都知事は辞めると思

います。そうすると自分の直系の東京出身の国会議員を都知事にして、「東京オリンピックなんだけど、日本オリンピックなんです」と全面に打ち出して、総理大臣の彼が出てきてやりたいのです。最近は、「歴代で一番長いのは山県有朋かな」などと言っています。その次は吉田茂なのですが、このまま何なものならば間違いなくそれを越します。でも、長くやればいいというものではありません。何をやったかが問題なのです。

前にも話しましたが、安倍さんはステロイドでちょっと顔がゴワゴワになってきたように見えます。まずほとんど顔に艶がありません。その後、内閣支持率を上げようとNHKなどのテレビが無理して一生懸命に良い所を映しています。昨日も天皇陛下ご退位のことを放送していましたが、あれもそうです。この後モリカケ問題で何かがあると一気に低下してしまって、この次は上がらないと思います。「不安定要素あり」ということを希望的観測を込めてお話ししています。

ポスト安倍は不在だと思いますが、広島で麻生太郎から「岸田で行こうね」という話がありました。ところが広島の県人会か何かの会合での岸田の挨拶を見ていると、原稿を読んでいるだけでお腹から力を込めたような感じが全くしないのです。そうしたらさっきお話しした広島の有名な糖尿病の医師のおばちゃま先生が、「ダメよ。あれでは」ときっぱりと言いました。私もそう思いました。私は加藤勝信が利口で頭がいいと思っています。彼は加藤六月の娘婿です。額賀派で大蔵省の出身の厚生労働大臣です。私と額賀は同級生なので、今度会った時に額賀に話して一緒に食事をしてみたいと思っています。とても謙虚な人です。厚生労働大臣なので見る機会があると思います。ちょっと見ていただきたいと思います。私はこの人が良いかなと思っています。進次郎君はまだ若いです。最近勉強不足が露呈しています。ブレーンを付けて勉強しなければいけません。彼には聞く耳があります。分からないことは色々な人に聞いています。この間ある講演会があったのですが、遅れていったら太田誠駒大野球部監督がお出でになっていました。そこに進次郎も来ていたらしく幕間にぱっと寄って行って、「小泉進次郎と言います。私は野球少年でした。駒大の野球が大好きで太田監督の本も読みました」と挨拶していました。そういう所は若いのに偉いなと思いました。本を読んで勉強しているんですね。そういう謙虚さがいいから前に小泉純一郎さんが、「福岡さん、進次郎は私より勇気があるかもしれません」と言っていたことがあります。共産党も一生懸命真面目にやっていますから、非自民で議席を割ることができて名前を変えたら一緒になってやってみたいと思っています。もしも240くらいで議席を割ることがで

きて自民党が勝てなかったらクーデターをやろうと思っています。岸田で麻生と額賀と石破と野田聖子でやります。この人たちの派閥で自民党の半分を持っています。でも280議席をとってしまえば何もできず計画は終わってしまいました。それで“ポスト安倍”はいないということです。野党のことは何を言っても皆さん聞いてくれませんからだめです。レジュメにも書いてありますが、さっき前川さんのことは少し言いかけました。前川前文部次官を新党の代表にするというのはどうでしょうか。イタリアの“オリーブの木”構想ではないけれど日本らしく“桜の党”です。前川代表でそこに付いて、北海道の女性知事や栃木や埼玉などの私の知り合いや後輩の知事を5人くらい付けたいと思っています。大学の先生も浜矩子先生のような骨のあるような人たちを10人くらい呼んで“新党桜の木”で自民党と戦ってみたいと思います。共産党がそれに加わりたなら、「赤旗をやめなさい」となります。この構想は2年以内にやります。

結論です。「大丈夫ですか日本の国!?’のところです。本当にスマホしか見ない若者です。授業中もスマホを見ています。気になりますと言えませんが、あまりうるさく言うとクビになってしまうかもしれません。何でも知っていますが、何も分かっていません。“リア充”だってスマホを見せられて、「こういうのがあるんだ」と言うと、「そうですよ」と言ってきます。こんな日本のテレビではおそらくだめです。今どうでもいいようなワイドショーのような番組から、「先生来てください」と言われますが、ひな壇に並ぶのが嫌いなので、「行かない」と断っています。でもさすがに3人も4人もタクシーの運転手さんから、「先生、生きていたんですか」と言われると、体調も崩しましたし考えてしまいます。

「是非10年後の日本を考えてみてください」と思って書いたのがあの本です。いろいろなところから問合せがあります。商工会や法人会からもお話があるので1万部の増刷をしてくれるかもしれません。「2025年の日本」というサブタイトルです。是非読んでいただきたいと思います。それから「日本はジリ貧ですね」とばかり言っていると悲しすぎるので今度は元気なれるように、「大丈夫だ日本」という本を書いてみたいと思います。秋田はどうなりたいのでしょうか。誰も何もしないようですが、することが良いことかどうか分かりません。駅前を見てもどこを見ても、ああいった状況は変わりません。ということで時間になってしまいました。この1年お疲れ様でした。

〔講 演〕

ノースアジア大学 総合研究センター主催 講演会

「2018年日本の国の姿 — ジリ貧大国日本はどうなる!?! —」

講 師 東北福祉大学特任教授
ノースアジア大学総合研究センター客員教授 福 岡 政 行

日 時 平成30年3月31日 午後1時～2時30分

会 場 ノースアジア大学 40周年記念館271教場

福 岡 このところ少しテレビに出演するようになりました。前にもお話しているように原発反対活動の影響があります。後で触れる今井尚哉という人は、安倍総理大臣の秘書官で経済産業省で原発を推進していた人です。小泉純一郎さんや私たちのような原発ゼロを言い続けている人がテレビに出ると、「なぜそんな人を使うんだ」とテレビ局に必ず電話を入れるそうです。それで秋田出身の日本テレビのコメンテーターや時事通信社の方などを使っているようです。なぜ時事通信社の方なのか不思議なので、この間テレビ局にいる後輩に聞いてみました。「今は彼を使わなければいけないんです」と言っていました。日本と言う国はなかなか大変だなと思います。でもビートたけしさんから声が掛かって2月、3月テレビ出演をしました。今日も触れますが、その中で話したのは“本命は佐川じゃないでしょう”ということです。“佐川の前の迫田理財局長のときに色々な動きがあった”という話がこの1週間は出ています。見た人もいると思いますが、自殺したAさんの上司で近畿理財局の池田靖統括官が逃げ回っているのを、関西テレビが追いかけた5分間くらいの映像が公開されました。1週間前までは顔がはっきり見れましたが、今は加工されて判らなくなっています。パソコンのある人は見てみてください。そのことを時系列的にお話しすると、森友疑惑の流れは今まで言われてきた麻生でも佐川ではなく、本命は安倍夫妻です。そして迫田という山口県立下関高校から東大に入った理財局長の男なのだということです。

レジュメの最初、「まさかの安倍急落」です。安倍総理の支持率が50～40数%あったということは前にお話ししていましたが良い悪いはともかく去年9月の選挙で勝てたのは、野党がだらしくまとまらなかったというのも事実ですが、あの頃の北朝鮮のミサイルなどの色々な問題があったので、「やっぱり自民党の安倍でなければ」という雰囲気があったからの結果です。でも、この内閣支持率は止まりません。マスコミ各社が次に発表するのはおそらく4月10日くらいになると思います。支持率が軒並み30%代を切り、あるいは支持が28%くらいで不支持が56%くらいのダブルスコアになった頃に通常はイエローカードからレッドカードになって退場になるのが普通で時の流れです。この1か月で10数%下がったということに安倍晋三さんはかなりアタフタしています。森友スキャンダルは“身から出た錆”というよりは“墓穴を掘った”のではないかと思います。安倍昭恵さんに関しては東北の防潮堤のことで何度かお会いしています。もちろんそれ以前に山口でも会って河豚をごちそうになったこともあります。悪い子ではないのですが森永製菓創業家と繋がりが深い家系のかかなり能天気なお嬢さんです。聖心女子大学の付属高校から大学ではなく系

列の専門学校に行っています。おそらく高校時代はジュリアナ東京で踊りまくっていたと思います。その時のスターが蓮舫です。今は破門ですが、夫が私の弟子ですから良くわかっています。悪い子ではないですが、昭恵さんの名刺には“内閣総理大臣夫人”と書いてあるので、貰った人への影響力を分かってフルに使っています。森友問題はそれに天才詐欺師の籠池夫妻に引っかけってしまったのが実状だと思います。責任は重且つ大であろうというふうに思っています。

先日テレビ出演の際に触れたことについては、すでに圧力がかかり始めています。これは、「麻生、佐川ではないでしょ。安倍、迫田ですよ」という発言が残って放送されました。その次のところはカットされていたと思います。先ほど少し触れた今井秘書官と警察官僚出身の杉田和博という官房副長官には、以前お話ししたTBSの山口敬之記者の伊藤詩織さんという女性への準強姦罪についてのことがあります。恵比寿の一流ホテルのカメラに、フロントを通らずに歩けないほど泥酔した彼女を引きずるようにエレベータに乗るところが映っていました。それで高輪警察が逮捕するためにアメリカから戻ってくるところを成田空港で待ち伏せしましたが直前に電話がきて、「所轄でやるな、本庁案件にする」となって見送ってしまいました。結局無罪になりました。この杉田の下には秋田出身の官房長官の腹心の友で、警察組織の実質的なナンバー3である刑事局長になった中村格という人がいます。そのことをテレビでちょっと言ったら相当な圧力がかかり始めています。それでなくても今、女性の間では“Me too”という活動があります。ホテルで介抱するなら少なくともフロントに声を掛けてから部屋へ連れて行くと思います。その後はホテルの方をお願いして、自分は別の部屋をとるか自宅に帰るのが普通の筋だろうと思います。そのことは前にも一度触れているのでこれ以上は深く話しません。

籠池自身が証人喚問で触れた、「神風が吹いたようだった」と言ったのが2015年の夏のことです。この年の夏の7月に先ほど話した迫田英典が理財局長になります。そこから色々なことが始まっていきます。問題は疑惑の9月の3日、4日、5日です。本当はテレビや新聞がこのことをきちんと報道しなければいけないのですが、今のマスコミには力がありません。9月3日に迫田理財局長が総理官邸に入っています。17分くらいの時間ですが、理由は当時の日本郵便の株の売買についての話ということです。財務省というところは主計局が一番大きいです。エリートは全部ここにいます。その次は主税局という国税長官になるところです。理財局というのは国有地やマンションを販売するので、財務省の中では窓際に近いところです。そういう理財局の局長になった男

が、なんと3回も総理官邸に行っています。同郷のよしみだと言っても安倍は生まれも育ちも東京で、成蹊学園をストレートです。官邸に入った本当の理由は分かりません。問題の9月4日午前中に近畿理財局で籠池さんと売買契約の、前の土地利用の定期借地権についての期間について話し合っています。福祉施設は10年間できるのですが、教育機関は3年から5年です。それを、お金がないので10年にするというものだったようです。

後に谷査恵子さんが、「その話もうまくできません」ということになる11月15日のFAXですが、そんな話が10時から約2時間、近畿理財局の10何階かの会議室で行われた記録が残っています。昼過ぎに安倍総理大臣が伊丹空港について、なぜか「ミヤネ屋」という午後2時頃のテレビ番組に生出演しました。当時、2015年9月は安保法で国会が大混乱しているときです。それをサボって安倍総理大臣は日本テレビからの生中継ではなく生出演しました。同時に私が媒酌人をした辛坊治郎の「そこまで言って委員会」の録画収録もしています。合わせて3時間くらい読売テレビに滞在しました。その間、通産省出身の今井秘書官と一緒にいたかどうかはわかりません。ただその後4時過ぎに“かき鐵”という牡蠣のお店で、国土交通大臣をした冬柴鐵三という公明党の大阪の議員と一緒に写真を撮っています。安倍晋三の反対側には冬柴さんの息子の冬柴大が映っています。この息子は、りそな銀行のある支店の支店長を辞めて、国の補助金を受けるための経営コンサルタントをしています。りそなから籠池森友学園は融資をしてもらっていて、かなり深い関係です。その背景には大阪維新の会の関係者が絡んでいたというようなことも言われています。この冬柴大と安倍晋三が話している写真が“かき鐵”のホームページに掲載されています。その写真では脇の方に今井秘書官が映っています。羽田空港から伊丹空港までは一緒に飛行機で来て、4時の食事には一緒にいました。その後はどうしていたのかはわかりませんが、近畿理財局では午前中に会議がありました。この間の証人喚問のとき、「その日、今井秘書官は大阪に泊まりましたね」と野党に質問されて急に慌てふためいて、落ち着きなく書類をめくったりしていましたが後ろの席の秘書官からメモをもらって、「帰りました」となんとか答弁していました。本当のところは分からないので、私の弟子の記者が一生懸命に調べています。どうしてあんなに慌てなければいけないのかと思います。それが私の言った、「迫田さんと今井秘書官のことでしょ。あとは警察関係者のことでしょ」ということです。安倍さんはあらかじめ公表されている予定のとおり、夕方の7時ころに総理官邸に戻っています。

冬柴大は、りそな銀行出身で経営コンサルタントだとお話ししましたが、こ

の頃、国土交通省がサスティナブルで10件くらいの本造の建物に総額10億円弱の補助金を出しています。サスティナブルはエコで長く使えるもののことです。そのうちのひとつを森友学園が6千数百万円で受けましたが、後に詐欺だと分かって返還させられています。それが9月から10月のことです。

国土交通大臣は今も公明党です。冬柴大臣以降かなり長い間、公明党が関わっています。裏があるかどうかはわかりませんが、自公が連立でやっている大きなポイントだと言われています。今井秘書官は、安倍総理がペラペラ発言したことに反発して一度辞めようとしたことがありました。その時は安倍総理の方が頭を下げて引き続きしています。ということで官邸の中はこの今井尚哉が握っています。前にもお話ししましたが、新日鉄の今井敬の甥っ子です。栃木県出身で県立宇都宮高等学校から東京大学卒業しています。経済産業省が総理官邸を完全に握っています。その関係で谷査恵子さんも昭恵夫人付きになったのです。財務省もそれで口が出せなくなっているので、おそらく佐川宣寿さんもあの状況なのだと思います。佐川さんは苦労人です。福島県生まれですが幼いころに父親を亡くして、東京の九段高校を卒業するまで3人のお兄さんが働いて学費を支えてくれた人です。浪人経験もあって苦労して東大まで上り詰めた人間です。安倍晋三の腹心どころか知恵袋くらいの男だということを、みんな分かっていても私がこの日曜日に放送されたテレビ番組で発言するまでは誰も言いませんでした。そして9月5日の土曜日に安倍昭恵さんが森友学園に来て、幼稚園や小学校の父兄に講演をしました。その時に控室に戻ったところで籠池ご夫妻に100万円の帯封を、「お使いください」と渡したということになっています。「渡したことはありません」と言っていますが、その時は食事もしているのですが車に乗って別れた後10分後に、「ご内密に」というメールをしています。籠池も詐欺師だから全部を信じることはできませんが、あのケチな籠池が9月6日か7日に金融機関にお金を持って行って入金しています。だから谷査恵子さんがその場にいたか、いなかったかを話してもらえればと思います。「安倍昭恵さんとずっと一緒にいましたか。籠池夫妻と会っているときは部屋の外にいませんでしたか」と聞くのは当然のことでありうると思います。谷さんは4人くらいいた秘書の中のひとりですが今はローマにいます。これが3日、4日、5日の疑惑です。9月4日の夕方に今井秘書官が何をしていたのかを明らかにするために、証人喚問すればよいと私だけでなくみんなが思っているもやらないのだろうなと思います。

これが一番の問題で、ここから定期借地権から売買の方に一気に移ります。しばらくはあまり上手くいかなかったのですが、11月15日の理財局の国有財

産審理室長の田村嘉啓宛ての谷さんからのFAXがありました。「色々頼みましたが口利きはできませんでした。あらためてこれからも昭恵さんには報告をしていきます」という籠池が表に出したものをみなさんも見たと思います。今もネットでも見る事ができると思います。このあたりから10年間の定期借地ができなくて森友学園にはお金がありません。加計学園の問題と同じです。加計学園自体の学生の数が少なくなっているの、文科省の補助金がカットになってきています。加計学園では岡山理大は、まあまあでなんとかなっていますが銚子にある千葉科学大学は定員が60人から70人でなければ補助金が出ませんが、そういうレベルになってきています。細かいことには触れませんが、そういうこともあって2016年になってからバタバタと定期借地権から売買の方に移る話になってきています。

森友はその後ゴミが出てきました。これは共産党が出してきましたが、籠池さんがよく付き合っている作家の菅野完が持っていた音声データがオープンになっています。声紋判定すれば本人かどうかかわかると思います。その中の一人が近畿財務局の池田靖前国有財産統括官です。映像も結構出ている方です。この方の部下にいたのが自殺されたAさんです。ネットでは実名が出ていますがここではAさんとします。とても辛いことですが、「上司や上の人たちに“こんな常識を覆すことはできない”と言った」と書いた」と遺書に書いてありました。奥様や遺族が辛いけれどもこれを公表しました。携帯やパソコンは没収されていると思いますが削除していたメールもNTTのサーバには残っているらしいです。検察は復元して見る事ができるので調査をしています。そういう調査の中で以前、大阪地検が厚生労働省企画課長だった村木厚子さんのことで改ざんの不祥事を起こしました。今の大阪地検特捜部長は女性です。この方はなかなかの人だそうです。

私の先生は東京地検特捜部長の河上和雄です。ロッキード事件で田中角栄を逮捕した人です。バンキシャというテレビ番組にずっと出演していましたので、私も何度か出させてもらったことがあります。が亡くなってしまいました。この方は私の赤坂の事務所で中畑清などと麻雀をするとき、途中で食事をするときに5分間だけ休みます。そういうときに、「福岡君、どんな地位の人間でも法を犯すようなことをした人間を捕まえることが法の正義だ。検察の使命だ」と、ほろっと言っていました。つまり田中角栄を逮捕するにあたっては、証言をとるために当時アメリカにまで行ってきた人です。当時はそういう教えを記憶しておいて、夜になって日記に書き留めておいたりしていました。そういう教えを持っている女性が今頑張っています。彼女にもボディーガードを付けた方が

いいのではと思っています。ロッキード事件には5人くらい不審な死があります。田中角栄の秘書さんの運転手が山の中で自動車の排気ガスで亡くなっていたり、お酒を飲めない人からお酒の香りがしたなどご遺族の方が言っていました。そんなことは普通はありません。だからボディガードが必要だと思います。池田さんも映像を見た限りではそんなに強そうな人ではありません。この人には臨床心理士とボディガードが付いた方がいいのではないかと思います。いずれ表に出てくると思いますがこの人が逃げ回っている映像があります。一時はネットでも見られましたが、もう消されてしまったようです。

結局3月の末から値引き交渉が始まって4月には8億円、TBSなど各社がテープを持っていますが、この池田さんと籠池さんと籠池の弁護士4人くらいで話しているものがあります。「3.1mくらいのところからゴミがでましたが、その下は出ていないんです。でも3.8mまでは計算します。上から打った杭は9mまでですが、そのあたりの地層は縄文や弥生時代のところで、もともと溜池や用水路のようなところなのである程度のゴミはあるはずでしたが、そうでもなかったようです。全部掘り返したらトラック1杯が1万9千何百円で4千台だから約8億円です。」とダンピングになったのです。全額では9億3千万円くらいですが、掘り返した部分の費用の一部について籠池さんが1億3千数百万円支払っています。その分はすでに大阪航空局から籠池さんに支払われました。結局差し引き200万円くらいのプラスがあって、その他にサステナブルで6千万円です。それをだれがアドバイスしたかはわかりませんが、いい商売だと思います。経営コンサルタントがアドバイスしたかどうかわかりません。そうして2016年6月20日に売買は成立しました。その3日前の6月17日に迫田理財局長は国税庁長官に栄転、同日付で佐川さんが理財局長に就任しました。どう考えても佐川さんは悪くないと思うのですが、誰もそれを言いません。言ってしまうと圧力がかかることを分かっています。これがこの事件の本質です。迫田さんを調べる、今井秘書官の動向を調べる、池田さんに来てもらって、「テープの声を声紋判定してもらったら99%あなたと一致しました。まちがいなくあなたですよ」と自分であることを認めてもらうことがのと、もう一人近畿理財局の方がいたようなので、もしかしたら自殺されたAさんだったのかなと思います。籠池さんは人に会うときに必ずレコーダーを隠して持って音声を録音しているようです。なかなかの天才詐欺師です。彼の言うことを全部信じるわけにはいきませんが、事実関係で追うしかないということです。これが一連の背景です。このことをやって欲しいのにやりません。テレビでそういうことを話したいのですが収録番組ではカットされてしまいます。生放送で

10分以上話してもいいなら出演してもいいと思っています。TVタックルはコマーシャルを抜くと実質45分です。実際は1時間15分くらい撮影して30分くらい多めに撮っています。見ていて気付かれていると思いますが、ときどき声が飛んで編集していることが分かります。生放送の番組であれば喜んで出演します。

2016年の秋頃から森友学園文書改ざんについて会計検査院が確認を始めて、酷い内容であることがわかりました。2017年の委員会で朝日新聞がスクープしたあと、「インチキで9割引きだと。酷いじゃないか」ということになって佐川さんが理財局長として答弁しました。安倍さんはいつもはほとんどメモを見て話しますが、ムカッと腹が立ったときは何も持たずにスッと立ち上がります。「もしも私と妻の昭恵が関係していたら総理大臣を辞めるし、国会議員も辞める」というあの立派な発言をしてくれました。これはまったく自分がカチンと来て言っただけです。これが2月17日のことです。このことが問題になって後を引いています。佐川さんは、「そんなことはありません」と言っていました。2月の下旬から4月4日頃までの約40日か50日の間で、値引き交渉の内容や関係した政治家の名前、安倍昭恵さんのことなど全部で約300所の改ざんがあることがわかりました。それをやっていたのが自殺したAさんです。どうしてこんなことをしたのでしょうか。一部はカットしただけでなくて、まったく違うことを書いていたようです。私は司法試験を受けていませんし小六法を持った瞬間に合わないと思ってやめました。が“改ざんは犯罪”ですので佐川さんはかなり厳しい状態で、近々に大阪地検に呼ばれて追及されて答えなければいけなくなると思います。

籠池夫妻は8ヵ月も拘留されています。彼をどうこう言いたくありませんが、人権蹂躪だと思えます。これがいわゆる一連の出来事です。それでなんとなく収まったように思っていたのですが、その間に問題は森友学園から加計学園の方に移ってきてきました。前川事務次官に色々あって、私も出会い系バーに警察関係者と一緒に行ってきました。問題がなんか消えかかったときに、朝日新聞の叩かれていた若い記者5人が大阪と東京を行ったり来たりしながら、ようやく3月2日に一面記事を書きました。普通は記事の根拠をはっきり見せませんが、できないところをみると発信源は知られてはならない大阪地検ではないかと思っています。今回は吉田調書のような問題を朝日は起こせません。執行役員をしている教え子や後輩がいる朝日新聞なのに行っても、「先生来てはだめです」と門前払いです。局の中では話ができなくて近くのスターバックスコーヒーに行ってお話をしている状況です。3月の朝日新聞改ざん暴露で佐川さんの証人

喚問があって、刑事訴追の恐れがある捜査や取り調べが50数回行われているようです。野党もたるんでいるのではないでしょうがないです。一件落着ではないですがこんな状態です。安倍総理はダッチロール状態でグラグラだそうです。早く手を上げて辞めた方がいいのではと思います。私は安倍晋太郎先生の弟子です。安倍晋太郎先生に、「息子は3人いるけれど、後を継ぐのは次男の晋三だ」と頼まれていました。長男と一緒に暮らしていますが三菱関係の会社の社長をしています。

どうやら安倍は4月にトランプに会いにいけるかもしれないようですが、私はおそらくゴールデンウィークの頃に総理大臣を辞めざるを得ないような状況になるのではないかと考えています。理財局から逮捕者が出て、おそらく加計学園についてもある文書が出てくるかもしれないとなると、100何十億円の話です。森友がたった8億円、9億円とは言いたくありませんが桁のちがう話です。ロッキード事件でも5億円です。そうなるという金額のことよりも気になるのは関係者のことです。ノーパンしゃぶしゃぶ事件だって、当時は大きな事件で関係者たちはみんな辞めました。前川事務次官の出会い系バーの近くのスナックには当時私も行っていましたが、新宿歌舞伎町では有名でした。「テーブルの上ではボトルがあって女の子たちがお酒を作ったりして、東大出のメガバンクの偉い人たちが接待を受けて、下ではノーパンを覗いているらしいですよ」ということだったらしいです。漫画の世界のような話です。行くなとは言いませんが、自分のお金で行きなさいと言いたいです。当時、スナックのママやお店の人たちから、「先生も行ってみたらおもしろいんじゃないですか」と言われましたが、「そんな趣味はない」と見栄を張って言っていました。この春は秋田か弘前の桜が散る頃に簡単に政変の桜政変なのかなと思っています。ここまでのことは、みなさんもテレビ局に、「もうちょっと真面目にしてください」と言ってもいいかと思っています。企業スポンサーが付かないのでコマーシャルができません。だから番宣ばかりでテレビ局は悲惨です。

ここでもう少し日本の国は頑張らなければいけません。なぜなら財務省といえば日本の権力の中核です。中には立派でいい人もいます。だけどみんな自分がかわいいので口に出しません。前川事務次官のように前川製作所の息子だったらいいのですが、そうもいきません。前川さんの妹は一人は中曽根弘文の奥さん、一人は東天紅の奥さんで、弟さんが前川製作所をやっている年商5千億円くらいでしょうか。前川製作所の株の何割かは彼が持っていると思います。

レジュメの右側に行きます。安倍総理の外交はでたらめです。蚊帳の外どころではありません。誰かが何か言わなければならないところまで来ています。

よっぽど官邸に電話をして話しに行こうかなと思っていますが辞めてもらうのが、一番いいと思っているので行きません。トランプも絶体絶命ですが、あれだけの女性スキャンダルが出て来ました、結婚して奥さんが子供を産んでいる最中に有名なセクシー女優とどうにかなっていたそうです。奥さんの顔は前も怖かったですが、今はさらに目が吊り上がって見えます。人事も次から次にクビにして末期的症状です。ただし、もっと良い諺や表現があったら教えて欲しいのですが、もしかしたらトランプはここで終わると思ったのか“瓢箪から駒”で金正恩と会いました。本気で交渉して失敗したときは、まちがいなく戦争になります。そうすると黙って日本海に出ている空母から基地だけを攻撃します。影武者は4人か5人いると言われています。その人たちは一生懸命に食べて太らなければならないのだと思います。上から狙い撃ちされるかもしれないので金正恩は習近平にも会いに行きプーチンとも連絡を取り合っています。

2月にテレビに出たときに少し触れたのは、プーチンが言うように北朝鮮の人たちは何もないときは木の根っこを食べているんです。筑紫哲也先輩も、「昔は食べた。子供の頃に疎開先の群馬で食べた」と言っていました。「食べられるんですか？」とは聞けないので、「そうですね、大変だったのですね」と言っていました。ところが“木の根っこもない”というのが私に入ってきた情報です。だからあの木造船で日本海に出て魚が船いっぱいになるまで戻れないということになっているのです。あんな木造船ですから奥尻島に漂着したりもしていますが、亡くなっている人もいます。それと3月に韓国に逃げてきた兵士は、北朝鮮のかなりの軍幹部の息子だったそうです。そこまでそういう状態になっています。そういう情報が出ているのでやはり、イソップの『北風と太陽』でなはないけれど“北風”よりは“太陽”だと思っています。「圧力だ、制裁だ」と言っているワンパターンの安倍ではなくて、今だからこそカップ麺やレトルトご飯、チョコレートなどを持って死を恐れない心ある人たちや若い学生と北朝鮮に輸送船で持って行って配ろうと思っています。今から17年前にゼミ生たちと一緒にやったことをもう一度やろうと言っています。それでも安倍総理はまだ“圧力”“制裁”だと言っています。

昨日、拉致被害者家族が官邸に行って、「トランプ大統領に言ってください」と訴えていました。トランプはもしかしたら、やるかもしれません。それはやってもらった方がいいのですが、私はアドバイザーをしたいと思っています。米朝関係はどうなるか分かりませんが全力を傾けています。「北朝鮮が全てだ」と非公式に周囲に言っているそうです。これはおそらく何もできなくて戦争になったら攻撃されるのは日本です。北朝鮮は同じ民族なので韓国には撃ちませ

ん。それからアメリカには届きません。グアム島もうまく当てられるかわかりません。とりあえず秋田と東京をやめてもらって、広島もやめてもらって、大阪は在日の方が多いので撃たないで、となると九州か中国四国地方が多少ずれてもなんとか当てられる範囲の場所かもしれませんが、そういう冗談をいっているレベルではありません。これは日本としても全力でやらなければなりません。この1カ月のあいだに本当に輸送船を5台くらい借りて、色々な物を載せて直接みんなで行ってみるということをやりたいです。北朝鮮は中国に接近してましたが、今まではうまくいっていませんでした。しかし今は習近平が永久独裁です。おそらく今夜あたり金正恩はかわいい奥さんを連れて北京に行って2泊か3泊で色々な話をしていると思います。「俺が面倒を見るから、核なんて余計な物はどんどん段階的に減らせばアメリカや韓国、日本の日本海での動きを止める。その代わりに南の南沙諸島あたりは中国が取るから」などという条件の話をしていて、かなりのハイテンポで北朝鮮はこれに乗る方向だと思えます。もしかしたら北京で金正恩とトランプが会うリハーサルであるのかもしれませんが。板門店では会わないと思います。何もない所だし2時間くらいの会談をすることはできますが、泊まるところもありません。大体の人は南側から平壤に入りますが私は2回行きましたので北側からも入ったことがあります。平昌オリンピックをしたところにはかなり凄いホテルができていたので1泊で行ってきました。とにかくこの外交で安倍晋三の出番はありません。何年か前は一緒にゴルフをしたことがありましたが、今はゴルフをするわけでもありません。

一昨日、東北福祉大学の卒業生の集まりに出席しました。松山英樹はいませんでした。ゴルフ部の関係者がいて松山英樹のサイン入りの帽子を貰ったので終わってから焼肉に行きました。そのとき、「トランプとゴルフをしたときバンカーに入った安倍晋三は上がろうとしてまた落ちてしまったんです。そのときの帽子です。世界に3個しかありません。要りますか」と言われたのですが、私はそこまで落ちぶれていません。オークションで売れると思ったのですが、「いらない。松山のだけでいい」と言いました。後から損をしたような気がしました。それを高く売ってボランティアの費用にすれば良かったかと、少し思いました。

韓国の文在寅大統領は相当したたかです。彼の家系の2、3代前は北朝鮮地域の関係者だと言われていますが、そういうことを抜きにして、本気でノーベル平和賞を狙っています。38度線が解除されればそれは絶対に賞が獲れると思います。その後は共和国か連邦国かどういいう体制になるのか分かりませんが、

おそらく金正恩は生活と身分と命の保証がされるならばもう政権にはこだわらないと思います。おそらく彼にはやる気がありませんから、「好きにしてい」と言うと思います。でもどういう訳か韓国の大統領は辞めるとみんな逮捕されます。そういうことを考えると彼は親戚や関係者に、「余計なお金には絶対に手を出すな」とお金のことはかなり厳しく言っています。それに安倍晋三がどうこう言ったって、従軍慰安婦のことをああいう形で言っているうちは今の朝鮮半島では受け入れられません。会津若松の人たちから長州や薩摩の人たちが、「もう謝らなくてもいい」と言われたときに初めて終わりになるのです。相手が言わないのにこちらから、「もう終わりです」と安倍晋三は70年談話のときに言っています。

天皇陛下はそういうことを思われていて、あのとき事前に宮内庁を通じて連絡をしていたのに安倍晋三から、「深い反省」という4文字はありませんでした。結局8月15日に行われた武道館の戦後70年の戦没者慰霊の式典で天皇陛下ご自身が、「深い反省」というお言葉を使つかいになりました。次の年もこの言葉をお使いになって2年連続でお話しされましたので、今年も同じようにお話しされると思います。それに今回は沖縄に数日間滞在されて、日本最西端の島にもご訪問されました。私も琉球大学で講師をしていたときに誘われたことがありましたが、遠いので行かなかったところです。照屋さんという年配の女性が、「最初はいやだったけど、こんなに何度も来てもらって」と言っていました。それが一番大切な心の問題なのだと、あのシーンを見ながら思いました。朝鮮半島の人たちが、「もういいよ」と言ってくれたときに従軍慰安婦や中国の南京大虐殺も同じようになると思います。いろいろあったって70年も80年も経ると分かなることがあります。言い方を考えて話さなければなりません。

2000年と2001年と平壤に入ったときチョコレートなどを持っていろいろな活動をして、最終日に宋日昊と肩をだきあってカラオケで“ふたりの大阪”を歌っている最中に、「日本から何人か連れて行った人がいるだろ」と言った瞬間、日本語ペラペラの在日の彼が猛烈なハングルで話始めました。1時間喧嘩のようになりました。その翌日帰国の飛行機で薬か何かを盛られて死にかけました。お腹の調子を崩してウラジオストックの空港で3時間ずっとトイレから離れることができませんでした。それは“拉致”“誘拐”の2文字を言った瞬間から、「日本人は戦前朝鮮半島で何をしていた。私の親類も日本の兵隊に銃剣の柄で殴り殺されている。連れていかれて慰安婦をさせられた女性もいる」と通訳の人が宋日昊のハングルをずっと日本語にして話してくれていました。日本には日韓基本条約の後、当時のお金で韓国に1千億円、今のお金にするとから

5千億円から1兆円くらいのお金が支払われていると思いますが、お金で済む問題ではありません。だから今いろいろな物資を持って行けばいいのですが、誰もそういうことの大切さが分からないと思っています。プーチンも習近平も独裁だからここは金正恩の後ろ盾となっています。

とにかくあの変なのがいなくなればいいと誰も思っていますから香港か南の方に彼のために豪邸を作ってあげて、周りに城壁も作って命と生活の保障をしてあげれば喜んで行くのではないかと思っていますが言えません。金正恩は生き延びたい、死にたくないと思っているようです。子供ができてかわいいと思ったのか、あの利口な妹がおそらく二人目を妊娠しているようだからかもしれません。平昌オリンピックのときにあの妹がイケメンの軍人か官僚と思われる男性に話しかける様子をテレビで見ましたが、そのときだけは女性の顔になっているように見えました。テレビ局にも言っていますが、もしかするとあれが旦那さんなのではないかと思っています。金正恩は、「お兄ちゃん、もうやめよう。オリンピックができる韓国は幸せそうですぞい。なんとかしよう」という利口な妹からの生き延びたいという進言を受けているのではないかという、本音の情報が流れています。圧力制裁としか言えない安倍さんでは無理です。まだ拉致されている人が何人もいるのですから、だったら私が言う北風より太陽のことを言わなければなりません。少し考えると分かるだろうと思うのですが、分からないのです。私のゼミ生だったらきつく言う所ですが、パワハラになったりするので言い方は考えなければなりません。

レジュメのアベノミクスについては、今までもお話ししてきているので、もう話すことがありません。格差社会については昨日も少し川反にいきましたが、本当に静かでいいところです。それより大切な注目をしなければならぬことがあります。どうにもならない野党のことです。大塚耕平は後輩なのですが民進党から国民民主党で、希望の党の玉木は大蔵省・財務局出身です。このまま枝野幸男にも協力したくありません。原発のときの官房長官で「直ちに人体に影響が出ない」と言った人です。彼も宇都宮高校から東北大学で迫田と同門で年齢や学年が近いと思います。ただし小泉純一郎さんが本気でテレビに出ようとしています。非公式に“原発ゼロで枝野と組もうかな”と言う状況です。自分が南関東ブロックなどから比例で選挙に出てもいいのですが、小泉進次郎の発言がかなりハッキリ言いだしたので、もしかすると彼に付いている20数名の若手は参議院よりも解散したらどこかで不信任を出させて、公明党が休んでくれれば審議は成立します。憲法上は総辞職か解散です。その時は私が今度265議席になる全国の小選挙区の候補者は現職か前回次点だった人優先で応援

します。後は外で応援しろというふうにします。公明党はくるんだったら5人ぐらいまで小選挙区でやります。そうすると世の中がガラッと変わります。おそらく細川さんも協力すると思います。それから何人かの知事や小泉さんが立憲民主と組むと変わります。何もしない副総理になってアドバイザーをすると変わっていきます。とにかく2050年原発ゼロにします。詳しくはわかりませんが石川県の原発も廃炉の可能性が高まったようです。政治はあまり好きではありませんが、こういうことになるかもしれないので、そのときはちょっとだけやろうかなと思っています。

一番最近感動したのは、アメリカ・フロリダの高校生たちが銃規制を訴える行動を起こしたことです。数百万人の高校生が集まって、黒人の女子高生がスピーチでした6分20秒の沈黙の訴え。ああやってアメリカの若者たちが動いた。それに比べて日本の若者はずーっとスマホばかりみえています。電車の中でも大丈夫かと思いますが言うてはいけないそうです。アメリカではピストルやライフルなどの銃の数が3億丁を超えたとされています。人口が3億人を超えたらしいので一人1丁ということになります。女性は護身用の小さなものは持っていてもいいと思いますが、ライフル銃や自動小銃はよっぽどでない限り許さないなど何か考えた方がいいと思いますが、まだトランプはライフル協会からお金を貰っています。まずはそれを止めることからでしょう。ケネディ大統領のことからずっとアメリカの人たちは考えてきたと思います。私はアメリカに行ったときにマーティン・ルーサー・キング・ジュニアの弟と一緒に食事をして話をしたことがあります。兄の夢は差別のない肌のことだと一生懸命に話していました。キング牧師の孫も出て来てスピーチをしましたが、いい所も悪い所もあるけれどアメリカの民主主義は凄いなと思っています。

レジュメの最後です。昨日の夕方のNHKのニュースで、2015年の調査によると秋田県は27年後の2045年には今の98万人の人口が41%減って60万人になるそうです。今日ご出席の方はその頃にはほとんどいないと思います。上小阿仁村の人口は700人くらいになって58%減るそうです。ほかの市町村もほぼ同じような感じですが、生まれる子供が当時3,000人くらいで80歳まで生きると24万人です。昨日のニュースでは18歳になると進学や就職で秋田から離れる人もいるそうです。昨日も新幹線で女の子が手を振っていたので私に振ったのかと思ったら、違いました。昔は集団就職がありました。この中には行った人がいないかもしれませんが、映画の『3丁目の夕日』に象徴されるように東京タワーが出来た時に中学生だった世代は集団就職をしたのです。秋田からも沢山そういう人がいました。

今も地元の大学に入らずに東京の大学に行ってしまう人がいます。そういう人は就職で秋田に戻ってこようとしてもなかなか難しいです。今朝の新聞に秋田魁新聞の社員10人の募集広告が載っていました。でも受けるでしょうか。東京大学や慶応大学の学生はメガバンクにも行きません。この間マネーカードを落としてしまったのですが、教え子に電話してカードを止めることはできましたが、再発行は窓口に行かなければいけないということでした。免許証を持っていない場合はパスポートを持って来てくださいと言われてました。三菱UFJ銀行が一番いいと思います。おそらく、みずほ銀行にはいかないと思います。三井住友も前頭取は先輩ですが、どのメガバンクもこんなに支店と窓口を減らしているの、ちょっと気の利いた学生なら20年後にどうなるのかを考えると、秋田の銀行がどうか分かりませんが、厳しいと思います。もう先がないのでテレビ局にも行きません。

TVタックルのディレクターは後輩ですが、娘さんが大学に入ったので、「TVタックルのプロデューサなんだよ」と言ったら、「何、それ」と言われたそうです。この間テレビ朝日系列のAbemaTVで3.11関連の番組に2時間くらい出演したのですが、それがYouTubeでも見られるようになっていて、そのプロデューサもしているんだと話したら娘が、「パパって凄いのね」と言ったそうです。もう価値観が全然違うのです。日本はそういう国になってしまいました。

今日の新聞を見たら、2045年はともかく2060年くらいには秋田の人口は30万人になるそうです。この間の選抜野球に由利工業高校が出た由利本荘市はなくなっているかもしれません。どうしますか。今の人口90万人だから3分の1です。今すでに秋田駅前が静かです。県や市の建築までの経緯はわかりませんが、あんなところに有名建築家が設計した美術館や市場をつくるより、駅前にシルバーのケア付住宅を作って、道路もアーケードにして雪が降っても歩けるようにすれば良いと思います。丸亀市の“ゆめタウン丸亀”や静岡市の“農福連携しずおか野外マルシェ”のように何か本気で考えなければならぬのに、この後開催するゼミの出席者も4、5人です。本当に10人ぐらいが本気で3年やろうとするなら、私は本気でやります。でも広島の方が楽しいし、稲庭うどんより広島のお好み焼きの麺の方が味が濃いので、もういいかと思っています。

日本の人口だって減少しています。だったら子供を3人産んだら300万円あげるとかはどうでしょう。最近いろいろなところに行ってもこの話をするのですが、この間沖縄にヤクルトのキャンプを見に行ったときに、ホテルにいた2人

子供を連れていた若いカップルに、「もう一人産んだら国が300万円くれると
いったら産みますか」と聞いてみました。奥さんが、「300万円もらえるなら
産みます」と言っていました。出生率2.7%を超えなければならないので3人
です。私は息子が一人いますが、お嫁さんが3人目を産んでくれたときは嬉し
くて涙が出ました。黙って100万円を用意して病院に行って、「ありがとうね」
と女房から渡させました。3人産んだら何かを上げれば良いと思います。二人
目200万円、3人目300万円ではどうでしょう。そして元気のよい介護や子育
てのプロのおばちゃんやお婆ちゃんが面倒を見てあげる。そのくらいのことを
すれば良いと思います。警察や自衛隊のOBが送迎の運転を担当してもいいと
思います。私の友達はそういうことを時給300円で有償ボランティアしていま
す。無料でもやると言っていますが、時給300円でも5時間もするとちょっと
した晩酌ができるくらいは貰えます。何か考えれば、できることはたくさんあ
ります。私は20くらいやりたいことがあります。どこに行ってもきれいご
とばかり言ってだめです。早く決めて、今やらなければならないのです。今で
きるようなことをみなさんも本気で考えてください。

では時間になりましたので終わります。今日はありがとうございました。

〔講 演〕

ノースアジア大学 総合研究センター主催 講演会

「迷走する日本政治と米朝会談？」

講 師 東北福祉大学特任教授
ノースアジア大学総合研究センター客員教授 福 岡 政 行

日 時 平成30年6月30日 午後1時～2時30分

会 場 ノースアジア大学 40周年記念館271教場

福 岡 今日、今日は暗い話からします。本当にこの1、2ヵ月は暗い話が続きました。特に新潟の小学校2年生の女の子の事です。この子に目を付けていた20代の男はあの事件がおきる1ヵ月前から中学生を連れまわしてわいせつ行為をして警察に捕まっています。ですから早い段階から彼は警察からマークされていました。この女の子の家とは100mも離れていない近所で、線路際の少し道路を入ったところでランドセルに車をぶつけて、倒れたところを大丈夫かと抱き上げたまま車に連れ込んで殺害し、その後線路に放置したという事件です。新潟県警にも教え子がいるのですが、こういうことになる前にもう少しきちんと対応したらどうだ、ということです。私の周りには警察、消防、自衛隊のOBの元気な友人が大勢います。有料ボランティアの時給400円で登下校の見守り隊をしてはどうでしょうか。今は無料でやっています。六本木では水曜日の12時を過ぎると近くの人たちが表に出てきて見守り隊をしています。私も麻布十番の商店街に行きます。同級生の警察のOBがいて、「お前は何かあったら携帯で警察に110通報をして欲しい。お前は逃げ足だけは速いけど喧嘩はできないから」と言われています。そうやって子供たちが交通事故などに合わないか見ている人がいます。私たちは無償ボランティアでもやりますが、時給400円が助かる人もいます。3時間やれば1,200円ならワンカップのお酒を1つ多めに買えるし、夜のお刺身なども買えるかもしれません。何かしなければ本当にこういうバカなことが起きるだろうというふうに思っています。

それだけでも嫌だったのに、この1週間、10日、2週間の間に目黒区の結愛ちゃんの親からの虐待のことがありました。今から20年前頃、アメリカの心理学の中で母性本能はないという仮説が出ました。私はあると思いますが、最近のニュースを見たら“ない”と言っていました。「お腹を痛めた自分の子供なんだから」という表現はもう通じないということがあの事件から見えてきます。それにしてもあの親は酷すぎます。「もう許してください」なんて彼女のメモは凄いらしいです。辛いですが目黒警察にゼミのOBの警視がいるので今度言ってみせてもらおうかと思っています。テレビのチャンネルも、どこを見ても朝から夜まで紀州のドンファンかこのことだけです。

イギリスでは幼児虐待のときはセパレーションといって子供と親を離します。日本は子供の体に傷があっても親の権利である“親権”が重視されるので、なかなか無理です。今から十数年前、栃木県小山市の白鷗大の近くのコンビニで小さな男の子達の体に痣があるのをいつも見ていたゼミ生が、「この子達はいじめられているのではないか」と最寄の警察に教えました。警察が家に行ってみたところ親は少シヤクザ系で、「同居している子分がやっているようだ」

ということになりました。一時は保護された子供達でしたが、1か月もしないうちに男の子達は思川で死亡しました。そういうときでも親の教育ができないなんてと言っていたらイギリスの友人から手紙が来て、「そういうときはセパレーションで分けなければだめだ」ということでした。日本もそのくらいのことを行えば、小さな子供達が助かりません。「お父さん許してください」と言っても暴力されてご飯も食べさせてもらえないような事件はいろいろ起きています。

それから新幹線の殺人事件です。この犯人は家から出てホームレスをしていました。お祖母さんから貰ったか定かではありませんが金をもっていました。「自分の居場所がないから人を殺して警察に捕まって刑務所に入った方が楽だ」というような発言をしているらしいです。そして東京に来て斧や鉈などの刃物を買って、新横浜あたりから新幹線に乗って三人掛け席のC席に乗ってすぐにA席にいた女の子にナイフで傷つけました。キャーと言った反対の席の女の子も傷つけ、何席か後ろにいた東京大学理学部理工学部出身のエリート会社員の37歳の男性が立ち向かって戦いましたが亡くなってしまいました。その他の皆は逃げました。私は今、新幹線に乗る時に護身用に折りたたみ傘を鞆に入れるようにしています。警棒を貸してくれるならそれを入れたいと思います。中畑清と一緒にいたら彼に戦わせませんがひとりの時は誰かがいなくても、「お前何やってんだ」と逃げずにその折りたたみ傘で戦おうと思っています。そのエリート会社員は結局一人で戦って亡くなってしまいました。いい人が亡くなってしまいます。

数日前の富山県の元自衛官の事件がありました。最近、小野寺という防衛大臣は出てくるとヘリコプターが墜落しても謝るだけで、この富山の事件では何もありませんでした。携帯電話で文句を言ったら、ついにはその後は電話に出なくなりました。用事があってすぐに出られないこともあります。普通は自分の先生や先輩から電話があったら折り返してくるものですが、それもあります。私は必ず折り返して、「すみません、所用がありました」と言います。言われることが分かっているので電話に出ないのです。もう破門です。この事件は元自衛官で、結果的にプロの行動です。警察官のピストルを奪いましたが、拳銃は盗られない様に針金の入った接続ワイヤーがあったりします。それを外すことができました。警察官の腹部を三十数か所、刃物で刺していそうです。池田小学校のように学校を狙って向かったかどうかはわかりません。彼はかなりキレる人だったそうです。その日もアルバイト先で上司とトラブルを起こしていたそうです。家宅捜索では彼の部屋からモデルガンのようなものででき

ています。そういうような中学、高校の時から少し問題があるような子供たちをきちんとケアするようなシステムが日本ではまだありません。臨床心理士のような専門家を学校に配置するなどが、なかなかうまくいっていません。もう70歳過ぎの爺さん、婆さんが死んでいくのは順番で良いと思うのですが、5歳の女の子が、「許して」と言って亡くなっていくのは、黙ってられません。

山口県立山口高校OBで東京大学出身の迫田が理財局長になって、森友学園は動きました。そんなことは時系列で見ていくとすぐに分かります。2回も3回も総理官邸に入っています。地元の山口の同窓会と一緒に出ています。安倍は関係ありませんが出席しています。この人間が動いたのです。佐川はむしろ気の毒な部分があります。福島出身で九段高校から一浪して東大に入って大蔵財務省の国家試験に受かって入省しています。最後は文書改ざんで、おそらく偽証罪になるかもしれません。大阪地検のやる気のある女性の特捜部長は、佐川の問題を無しにして栄転しました。寂しい世の中でしょう。信賞必罰です。安倍に良いことをやっている連中はみんな立身出世し、逆らった人間は葬られていく。古賀茂明通産官僚は城山三郎先生の『通産官僚たちの夏』を読んで、麻布高校から東大に入って10番台で国家試験に受かってでも大蔵財務省に行かず通産省に入省して、同期トップで審議官になりました。3.11のとき参考人として呼ばれて、「福島原発は極めて厳しい状況である」と参考人の席から答弁隊の席までは10mあるかないかです。心の中で本当のことを言おうと決めて彼は厳しい状況で話すことになって、福島原発については大変だという趣旨の発言をしました。そうしたらその時の総理大臣の菅直人が、「あなたの経歴に傷がつかますよ」と言ったのです。民主党の政権でしたから、それを聞いた自民党の議員たちが抗議をしてその発言は取り下げられました。なんて人なんだ、それでも本当に市川房枝先生の弟子なのかと思いました。その彼と今でも付き合っってその時の話をしました。「私の父と母は長崎の教会の人間で、仕事をして教会に全部寄付をしてやってきました。死んだ動物が放り込まれたり、私の家だけ盗聴されてきました」と言っていました。1軒だけ盗聴するにも上からの配線などを全部やらなければなりません。そこまでやって古賀茂明を潰しにかかりました。あまり言いたくないけれど、そういう陰に陽に日本の中にはいっぱいあります。

私はいいけど小泉純一郎さんですら、今テレビになかなか出られません。出にくくなっています。ついに昨日、小沢一郎塾に行って発言しました。小泉純一郎さんと小沢一郎は、学部は違ったと思いますが慶応大学の同期です。この二人ははっきり言って天敵ですよ。小泉純一郎はいわゆる数の政治に対抗し

で戦っていました。私も小泉さんに付いていましたが、田中・竹下と小沢と戦っていました。「でも原発反対でやろう」となって進次郎との親子のことにもなってきました。このことは後で触れます。小泉さんですらテレビに出にくくなっています。YouTubeとかAmebaTVにしかでられなくなっています。前に触れたように航空母艦ロナルド・レーガンが福島沖にきて400人近くの兵士が放射線疾患になり、8人が亡くなりました。そのご遺族に会いにアメリカに行ったときにCNNの取材が入っていて小泉さんは、「申し訳なかった」とみっともなく男泣きに泣きました。日本は一時はYouTubeで見られましたが今はもう見られません。朝日報道で知って集会に2,000人の人が集まりました。それでも日本のテレビ新聞はは知らんぷりです。日刊スポーツは15行だけでした。水はミネラルウォーターを飲んでいましたが、空母の調理用の水は海水を真水に変えて使っていたそうです。東海村の友人に聞いたら、「そんなもので放射能が取れるわけがないじゃないですか」と言っていました。でも小泉純一郎はやる気になっています。そのことを息子は勘づいて小沢さんも気づきました。「安倍ではだめだ」と言うふうに、今永田町が動いているのはその部分だということをお考えください。

そして、モリカケ疑惑です。前にもバイキングという生放送番組に出たことがあります。また出演依頼があります。一度生放送番組で、「モリカケ事件のこの疑惑は黒いドブネズミを白いウサギというようなものだ」と言ってみたいと思います。“黒いネズミ”じゃなくて“黒いドブネズミ”です。加計孝太郎のあの記者会見は何でしょう。加計学園の事務局長が、「もういいでしょう」と会見を終わらせました。そのときにあんなに新聞社やテレビ局の記者がいて何も言えないのかと思いました。一人くらい、「2月25日に東京に行っていないということを証明してください」と拳証責任を言っても良かったと思いますが誰もいいませんでした。私はマスコミを志望している学生には、ゼミでそういうことを指導をしています。「分かりました。2015年2月25日に安倍さんと東京で会っていないのですね。では証明してください。岡山でその日は何をしていたのですか。教えてください」と私なら聞きます。スケジュールはびっちりあります。少なくとも理事長の日程はどこでもあると思います。都合の悪い所だけ嘘を言って、都合のいい時はこうなんですとはっきり言うということが続いています。安倍昭恵さんは何度も言いますが、悪い人ではないのです。あんな記事を週刊文春にすっぱ抜かれるようにちょっと変です。腹心の友と全部話し合っているなんて、ごく自然なことです。「今度頼むね」、「今治の件は分かっている。官僚に言ってあるから」というやりとりはごく自然だと思いま

す。だから国民も75%の支持率です。この一件で安倍総理大臣は信じられない疑惑が残っていて膿はでていません。どうしてそんなことが言えないのかと、見ていて思います。加計孝太郎は国会に呼ばれるのを待っていますが、それでも数の力で野党は呼べません。公明党はそんなに大臣になりたいのかと思います。ヒマワリの政党でいつも太陽の方を見えています。何のために政治家になったのかという気概やプライドがありません。私は今、出身の葛飾の実家に住んでいます。山口那津男も葛飾に住んでいるので会っていました。最近私がいるので政治家のパーティーにほとんど来なくなりました。小池百合子はこの間行ったパーティーにきていました。「先生、お話があるんですが」と言われましたが逃げ回りました。ちょっと今、彼女にアドバイスしてあげようかなと思っていますが、みんなが行かない方が良くと言うのでやめています。

加計孝太郎を見ていて、本当に日本のマスコミはアホなんだなと思っています。レジュメの“改ざん、隠蔽、偽証、とぼけ、忖度”については、「今治の人に会ったかどうか分からない」と官僚が言っています。加計学園の人は会ったと言っています。周りに人がいっぱいいたでしょう。真ん中に今治と愛媛の人がいてみんな分かっています。でも東大出のエリート官僚はそれが分からない、覚えていないそうです。そんなことはありません。周りの人は誰と誰が会ったか見ているし、捨てていないと言っているメモも全部とってあります。2月25日に東京に行っていることを加計学園の誰かがバラせばどうなるか。あまり良いことではありませんが司法取引という方法もあるのだから、誰かそういうふうに分ける人がいないものかと思っています。あつてはいけないことが起きていたら、やはり自分から手を上げるものですがありません。とにかくそんな世の中です。

小泉さんがどうもここにきて動き出しました。今まで少し仲が悪かったのです。東京都知事選で、細川護熙を応援したときから少し戻りました。菅原文太さんがいたのでやっていました。文太さんが亡くなってまたちょっと距離がありました。赤坂で食事をしようかということになりました。その時に、「だったらやりましょう。もう一回世の中を変えるような非共産ではない、非自民の何かを作ったらいいのではないです」と言っていますが、そんなことが出て来ています。

その下のメディアコントロールです。こういうようなことが続いてきましたということも含めて、反安倍、反原発です。私の後輩にメガバンクの頭取会長クラスがもう何人もいます。大学の同窓会をするとさりげなく、「反原発と言わないでください。うちは電力会社にたくさん出資しています」と言う人たち

がいます。宴会の席では、「そういうことでいいのかな」と言いません。もう向こうに行って、邪魔だからという雰囲気です。結局そういうことで反原発の人が全部外されていきます。私が、「安倍政権は持たないのではないのですか」と4月に言ったらもう普通なら終わりです。だが持って来ているのでまた書き始めます。どうも今の日本にはそういう雰囲気が全部出ています。メディアコントロールです。誰とは言いませんが、「先生、少し余計なことを言っています」という人がいますが、私は言いません。それだけ日本の国はおかしくなってしまう。誰とは言いませんが進歩的なコメントをする人が帰りがけに私のところにきて、「先生のご指摘のとおりだと思います」と言いました。彼は評論家だからそれ以上踏み込めなくても、私はテレビに出なくてもまだ仕事があるし競馬もあるので毎週お小遣いがでています。ちょっとすごく嫌な国になっています。盗聴もあって、今は携帯電話も盗聴されると聞きました。「変な電話をしない方がいいですよ」と言われていますが、大丈夫ですよ。詳しいプロの方がいたら教えて欲しいと思います。

どうも安倍晋三は逃げ切りで総裁選に勝ちそうです。まだ続きます。もういいでしょう。それは国民の7割の人が“違うんじゃないの”とそう思っている。読売新聞と日本テレビと遣い走りの付度評論家たちとNHKも大越なんとかという人が出ていて、最近彼はスポーツ番組にも出ています。もっとちゃんと言って欲しいと思いますが、みんな外されています。

2番目は“ダメな野党、ダメダメポスト安倍、もちろんアホメディア”です。もう野党は何党かもわかりません。立憲民主の枝野なんて自分でこんなQ&Aなんかやめた方がいいとアホなことを言って最低です。昔に応援していたのが恥ずかしいです。国民民主か希望かわかりませんが、細野は証券会社から5千万円を受け取っていた問題で政治家として終わるかもしれません。まだモナちゃんのスカートに惑わされた方がかわいいもんです。「そんなことがあったのなら、すみません。失敗しました。反省しています」と謝ってしまえばいいと言ってやったのです。彼は途中から、私のように言ってくる人とパーティで会っても逃げるようになりました。それではダメだと思います。結果的にそうなってくると思います。大塚耕平共同代表も後輩ですがダメだと思います。優秀な成績は私に勝るとも劣らないくらいなのですが、政治家として小さいと思います。とにかくそれを見ていて小泉さんは旗が必要なのかなというふうに思えた。私は今、何人かの知事に声を掛けています。「覚悟を決めて一度野党連合のようなことをやってみたら」というふうに言っています。秋田県の知事については他の県では諸々言っていますがノーコメントです。

ポスト安倍についてですが、石破は相変わらずやっぱりダメです。小泉進次郎は石破のところにはいます。二階俊博幹事長もおそらくダメだと思いますが、この人はキングメーカーになりたいから菅官房長官より自分が政治の上を取りたいから、もしかすると石破を抱えて竹下と小泉進次郎と組んで小泉純一郎と野党連合と公明党までを入れてクーデターを起こすのかどうかはわかりませんが、選挙になったとき動くのではないかと思っています。石破はそこがチャンスですが、トップリーダーとしてはちょっとスケールが小さいです。テレビ局はTBS系で時事放談やTVタックルを使っていますが、言っていることが頭が凝り固まっているというふうに思うので難しいです。私は政治対局討論で随分一緒にやって来ましたので、頑張ってもらいたいとは思いますが、ちょっと違うかなとも思っています。聖子ちゃんはスタンドプレーはできますが、人間的な器に問題があると思っています。私は岐阜の大学に25年行っていますから目にしたことがあるのですが、人がいっぱいいるところで秘書を怒鳴ったりしてはいけません。どんなに腹がたっていてもしてはいけません。「人を怒る時とお金を渡す時は人のいないところでやれ」というのが田中角栄さんの言葉です。人間は人が見ているところでお金を貰いたくないものでしょう。講演に行き平気で学生のいる前で、「お車代です」と5万円足らずのお金をくれる人がいます。一応いただきますが、破って捨てたい気分になります。「後程お振り込みをさせていただきます」とか、「先生ちょっと」と言って別の部屋に行くなどしてもらう方がいいです。田中角栄はそういう心の機微を持っています。怒る時だって同じです。褒めるときは人前でやった方がいいです。「よかったな。昨日は良いプレーだった」と太田誠監督は言うときは高く評価して、ダメなときは陰に隠れて怒って指導をします。

昨日広島でテレビの仕事があって、「人生は出会いだ」という話したときの冒頭で、「とにかくポスト安倍で広島の岸田がダメですね」という話をしました。「様子を見て安倍が行きそうだったら、その時は戦ってください」と後援会の人たちが言っても、「皆様のご意見は尊重します」と答えました。2、3日前のことです。私は加藤紘一先生に加藤の乱のとき、「戦って敗れるなら、敗れてください。政治家は逃げてはだめですよ」と言いましたが、結局逃げました。そのまま失意の中で亡くなってしまいました。宏池会の人々はみんな結局何もできずに終わっていきます。谷垣禎一も岸田も宏池会です。岸田は盲導犬の活動を一緒にしてくれた良い人です。募金箱を持って一緒に立ってくれました。でもいい人だからと言って政治家ができるとは限りません。マックス・ウェーバーではないけれど心情倫理と責任倫理がある。どんなにいい気持ちを持って

いても、政治家は結果を出さなければなりません。それが政治家の使命で、やっぱり勝たなければなりません。今の岸田にはそういうところがありません。結局、消去法でポスト安倍は誰もいません。進次郎と言われても若すぎます。まだ40歳手前です。彼女がいるんだったら早く結婚すればいいと思います。道端でおばちゃんたちの人気で票を得るのはもういいです。「おばちゃま達やお姉さん達はいい加減で、いいなと思う人が出るとすぐにそっちへ行ってしまうものだ」と言っている人もいるのです。進次郎はやるだけやってみて誰かを立てて彼が支える、ということに小泉純一郎は気づいたかもしれません。勇気はありますが彼はトップリーダーではありません。非常に理解力があります。その辺に期待して、近々に7月のある日に小泉純一郎さんにお会いして、「動きませんか」と言ってみるつもりです。このままでは日本の国は本当に村度社会になってしまいます。もっと自由にもものが言える国にならないと、いつか来た道を歩き始めています。あの70年前、80年前、90年前の日本のように物が言えなくなってしまうと思ったので、今日はこの部分をレジュメに書きました。

今日の本題に入る前に、レジュメの「ソントクマスコミ」については前にも触れたので詳しいことはいいかなと思っていますが、とにかくコマーシャルも同じ時間にやるようになっていきます。チャンネルを変えてみると分かると思います。全部のチャンネルが一斉にコマーシャルです。そういうふうに指導を受けています。訳がわかりません。1分計の視聴率表が出るようになっていきます。何をすると視聴率の数字が上がるかといえば、紀州のドンファンかアメフトの内田監督の顔を出すと、「嫌だね」と言いながらもみんな見ます。そうやってディレクターが横並びにやっています。嫌でしょう。余計なことを言う人はどんどん外されます。だからみんな媚びなければ生きていけません。秋田県も今朝の魁新聞を読んでいたならJAおばこの数十億円のミスの罰金が2万数千円で済んだという記事が載っていました。数十億円も赤字が出ているんですね。何とかが何とかで、と体裁よく記事を書いています。が“魁”というならもっときちんとものを言う記事を書けばいいのには思います。みんな考えてやっています。このことを秋田のテレビ局がいくつあって、どう報道しているのかは分かりません。

大屋壮一が昔、「一億総白痴化」と言っていたことがあります。が今は、「一億総おバカ日本」になってしまうかもしれません。今日のメインタイトルの米朝会談についてですが、後ろで殆どシナリオを書いたのは韓国の文在寅大統領の様に見えましたが、基本的に中国の習近平であろうということがなんとなくここにきて分かってきました。韓国の大統領の想いは朝鮮半島における寂しいこ

との離散家族のことです。とにかくあの板門店で会いました。2人で歩くシーンなど素晴らしい映像を全世界に見せました。一緒に行っていた妹さんも映り込まないように離れて歩いたりしていました。なかなか利口な人だと思います。前回の3月のときにもお話ししましたが、彼女が平昌冬季オリンピックを見て金正恩に、「お兄ちゃんどこかで変えよう」と強く進言して色々な流れが変わってきたとされています。この板門店の会談から即座に金正恩は北京と接触を持つようになりました。習近平はいわゆる南沙諸島や尖閣諸島のことがあるので北朝鮮をまったく静かにさせる訳にもいきません。だけれどもどこかでもっと広げなければなりません。飛行機や電車で北京に呼んで3回か4回会っています。わざわざいろいろな所でかわいい奥さんや綺麗な女性音楽団の団長と会って食事をしたりしています。だんだんと広がって2回も3回もやって最後に会ったとき、「とにかくシンガポールかどこかでトランプに会った方がいい」とアドバイスしたようです。「でも非核化はすぐにやらないで時間をかけろ。今はサッカーワールドカップで盛り上がっているがプーチンも苦しい立場だから立てろ」と一連の話の中であったようです。習近平の方がはるかに全方位的に見て動かしています。韓国大統領も先走っているけれども一生懸命やっています。それが民族の韓国の心持です。あげくの果てにわが日本国の総理大臣はトランプ大統領に拉致問題をお願いしました。それだけです。アメリカで米朝会談の後、「トランプ大統領にノーベル平和賞を」という話があるそうです。何を言っているんだと思います。パレスチナやイスラエルなどのいろいろな所で何十人、何百人の人が亡くなっています。ノーベル平和賞とは平和のためやっているものです。朝鮮半島の38度線が無くなるのは素晴らしいことだけれどやっていることがあちこちで、全く反省がありません。そんなことはノーベル委員会の人たちは100も300もわかっています。トランプ大統領に元気がないのはみなさんも映像でわかる通りです。米朝会談が終わった後、彼の身边はかなり厳しいです。それにお願いをしています。自分の国のことなんだから自分で話をつけろと思います。前にもお話ししていますが、私は小泉さんに言われて2回平壤に入りました。最後に今の対日全権大使の宋日昊^{ソンイルホ}と肩を組んで“ふたりの大阪”をカラオケで歌って、「ところで日昊、私は明日帰るけれど日本から誘拐してきた人たちがいると聞いている。1人でも2人でも戻して欲しい。小泉総理の気持ちはそう思っている。韓国には日韓基本条約で何千億円のお金を渡しています。お詫びもするし補償もする」と言ったら突然ハングルになって、翌日薬を盛られてウラジオストクで死にかけました。連れて行った学生の助手を外で待たせて、一人でも帰したいと思って公邸で小泉さんと二人で話

しました。小泉さんには奥さんがいないので年配のお手伝いさんが料理を出してくれましたがその後、「私は今日はこれで帰ります」と居なくなりました。「先生、帰りたいんだ」と小泉さんは言っていました。私は小泉さんに、「平壤に行くときは夜の8時まで居てくださいね。そして向こうから出された食事には一切口を付けないで下さい。日本から魔法瓶を持って行って羊羹などを食べてください」と言うと、「分かった」と言いました。小泉さんは携帯電話を持っていません。平壤から戻ってきた日、夜遅くに姉の信子さんの携帯電話から電話がありました。「純一郎先生が戻りました。お話があるそうです」と電話が変わってくれました。「今戻ってきた。8時まで居ろと言われた意味が分かったよ。本当に暗かった。先生はそれを言いたかったのですか」と言うので、「はい、そうです」と答えました。街灯が500mに1個くらいしかなくて本当に街が暗いのです。「何とかしてあげてください」と言うと、「やるよ」と言って外務省の田中均を中に入れて彼はいろいろな取引をして、5人か6人の拉致被害者が帰国しました。横田めぐみさんは亡くなったと言われていますが、本当のことは分かりません。他にもまだ何百人かはご存命でいるはずですよ。やるんだったら小泉さんのように、「俺はやる。俺行くよ」と言って動かなければなりません。トランプには頼みません。私はいちばん最後に出たTVタックルで、『『イソップ童話』ではないけれど“北風より太陽”です』と言いました。誘拐されているんだから“上かつ井が食べたい”と言ったら渡すんですよ。右翼やネット右翼にやられています、そんなのは関係ありません。

トランプにも野心はあります。ノーベル平和賞を考えていなくても何かをしたいのです。「オバマ大統領がノーベル賞をもらって、何で俺が」と思っています。だからやると思います。金正恩に全部譲歩していきます。それでいいと思っています。非核化も段階的に進み始めました。いくつあるのかわかりませんが、20個あるのなら10個壊してください。進み始めましたがここにきて習近平の、「ゆっくりやれ」という方の動きがあって、物資の支援は30億円くらいだそうです。誰が負担するのでしょうか。日本と韓国ですよ。韓国は今お金がありません。ワールドカップも決勝トーナメントに出られなかったようです。韓国の選手は髪の毛を金髪に染めたりして韓流スターのようです。長友も金髪にしましたが俳優のように見えません。「綺麗な奥さんを貰ったんです」と言う人がいましたが、それは許せないと思いました。とにかく負担金を出すのはいいのですが、経済交流もやる。三井物産、三菱商事などの大手商社が入っているいろいろなことをすればいいと思います。農業について日本の寒さに強い稲を持って行って育て方を指導してもいいと思います。北朝鮮の女性は秋田と同

じくらい綺麗です。いろいろな交流をしているうちに多くの人が北朝鮮に行くようになると思います。ちゃんこ料理屋の女将が行って料理を作るとか、いろいろな専門家に行ってあげて欲しいと思います。ただ少し寒い国です。フラットな所があまりありません。2回行ったうちの1回は北側から38度線を越えて入国したので、よく分かります。薬も盛られたけれど良い物もたくさんあります。なんとかチャンスになれば防衛費の5兆円なんか必要がなくなります。自衛隊が必要としている25万人の隊員が集まらなくなっています。陸上自衛隊は5万人で良くなって、残りの15万人は第二警察や生活安全隊として見守り隊をやれば良いと思います。警棒を持った人が幼稚園や小学校に2人くらいいたら子供達も安心して暮らせるようになります。

習近平は一時期干されたようになったときに、数か月間沖縄にいたようです。琉球新報の教え子から、「沖縄と中国は意外に近いんです」と教えられました。距離的なことよりもメンタルなところが近いです。沖縄は中国だったと言う人もいます。だから話は通じます。でも南沙諸島や尖閣のことがあります。絶対に南に出ようとしています。浅瀬のところだったのですぐ埋め立てができて基地や飛行場ができています。それは悪いのは回転寿司です。中国人は日本で食べた回転寿司で魚の味を覚えました。私は上海に1か月くらい滞在したことがあります。揚子江の魚は食べられたものではありません。魚のおいしさや料理の仕方を覚えてしまったのです。環境汚染やPM2.5のこともあります。農業を立て直すことはできても、水質を変えて食べられる魚を手に入れることはなかなか大変です。だから南を目指しています。習近平は今度の改正で永久独裁になるそうです。死ぬまで彼は主席です。プーチンも長いですが限りがあります。鳩山政権のときだったと思いますが小沢一郎との対談後で来日した習近平が、来てすぐに突如天皇陛下に会いたいと言いました。陛下の日程は2、3か月前に決まっています。予定はタイトです。それでも陛下は日本のためになるのなら、と予定を調整して会いました。習近平はまだ副主席のときで、就任予定は決まっていたが主席ではありませんでした。そのとき陛下の前で足を組んで座ったのです。そんなことは普通ありえません。日本でも陛下の前で足を組んだバカが一人います。言えませんがある大学の総長です。それを見ていた私の大学の先輩の大ドンが、「やめろ」と制しました。普通は自分より年長者の前では足は組めないものです。そのくらい習近平はなかなか傲慢な男ですから付き合い方は簡単ではありません。野中広務先生が去年のあるとき、「福岡君、日本は大丈夫かな」と言っていました。亡くなってしまいました。後は古賀誠くらいしかいません。二階はだめです。あとは伊藤忠商事に頼むしかありせ

ん。

わが友人で同じ病気だった毎日新聞の岸井成格が5月15日に亡くなりました。11年前に同じ大腸癌でした。毎日新聞の記者でサンデーモーニングや筑紫哲也さんと一緒に夜の番組をやっていた髭を生やした男性です。彼はあんな顔をしているのに慶応大学出身で佐高信と同級生です。11年前に大腸癌になって亡くなったのです。その時、私は東大で手術をしたので今はこんなに調子がいいのですが、彼は虎の門病院で内視鏡の腹腔鏡手術だったそうです。私は40日入院して一泊7万円の東大の特別室だったので4、5百万円かかりました。でも日本生命のがん保険に入っていたので全額出て、なおかつ当時常務で後に専務になった後輩が、「先輩、死なないでください。うちも死亡保険金を払うのが大変です。生きていたら1千万円出ますから」と保険金が降りてきました。そういう保険に入っていたのです。癌で入院することになったときに女房に隠し口座などを全部渡しました。帰ってきたら何もなくなっていました。ちょうどその頃に孫が生まれたばかりでした。とにかくその子に会いたいと思って頑張って運動や歩いたりしました。「腹腔鏡だと2週間の入院だったよ」と岸井はもうお酒を飲んでいたので、「お酒なんか飲まない方がいいよ」と私は言いました。そうしていたら3年後くらいに彼は肝臓あたりに転移して、今回は肺に転移したらいいです。半年前くらいに電話で話しました。「福岡、テレビに出ていないな。やっぱり圧力があるのか。最近のテレビは緩いな」と話したのが最後になりました。それから今年になってからはほとんど難しい状態だったということをお別れの偲ぶ会に行ったときに関係者が話をしていました。その偲ぶ会には朝日新聞関係の方たちもたくさん来ていました。

『ジリ貧大国ニッポン』という本は8千部からプラス数千部増刷されることになりました。同時に『ブラック大国ニッポンー野郎自代の安倍政権ー』をほぼ書き上げてこれを出版したいと言ったら、「先生、それより前にお話ししていた“人生は出会いだ”の本の方が絶対面白いと思います。それを先に出版しませんか」と言う話になりました。生まれてから70歳になるまでにいろいろな人に出会ってその中で自分がこうなった、というあらすじを前に渡してありました。この2冊の本について、今出版について話し合っている最中です。

日本の国は今がピークです。東北福祉大学も県立広島大学もゼミ生全員の就職が決まりました。県立広島大学の女子学生は明治安田生命と三井住友銀行の両方に受かりました。「当然、三井住友銀行に行くよな」と言うと、「いえ、もう銀行の時代ではありません」と明治安田生命に行くようです。OB達もみんなが、「えっ、違うんじゃないの」と言いましたが、本人の決断です。もう一

人の子は広島企業の内定が出ているのに、「東京に行きたい」と言うのでどうしてかと聞くと、「彼氏が東京消防庁にいるから」という分かりやすい理由でした。「サマンサタバサかドン・キホーテか先生の知っているところに入れてください」と言うので、「ダメだ。ちゃんと履歴書を書いてきなさい」と断りましたが、そんなコネを使わなくても決まりました。前にここに連れてきた秋田出身の東北福祉大の女の子もJR東日本に入りましたが、そのまま務めていけば良かったのですがあっさりと辞めてしまいました。「海外に行きたい」と旅行会社に転職しました。思ってもバカとは言えません。今がピークです。お子さんやお孫さんがいたら来年まではなんとかなります。今の大学3年生まではまだピークに乗れてなんとかなりますが、1、2年生は大変になります。県立広島大学の保護者会という200人くらいの集まりで1時間お話をしました。今は“父兄会”と言ってはいけないそうですよ。お母さんもいるからだそうです。父母会はいいそうですが、お祖父ちゃんお祖母ちゃんもいるので“保護者会”だそうです。うちもそうですがお祖父ちゃんが一生懸命に教育費の積み立てをしたりしていて、今は祖父母も孫を保護しています。1年生の保護者が集まっているところで講演タイトルは、「企業が求めている人材」です。私はそんなことは知りませんが一生懸命考えて、「パソコンよりも独創力だ」と言う話をしました。いいでしょう。今はパソコンなんか出来て当たり前です。企業に入るとアイリスオオヤマの様にプレゼンをさせられます。データを並べただけのどこの誰でも話せるようなことをではなくて、「この方式のモップがいいんです」のような社内プレゼンを毎週月曜日の午前中に会議室で4組くらいの開発商品ごとに5分くらいずつやって、最後に○×をつけて新商品の商品開発をしています。おもしろいでしょう。これがパソコンよりも発想力と独創力です。そういうのを7つくらいあげて話しました。その時の資料をお配りしようと思っていたのですが、できなかつたので次回の9月のときに用意したいと思います。こういうことはテクニックではありません。

それから今は公務員になるのが物凄く難しいです。県庁なんてとても入れません。東北大学や秋田大学クラスの人がたくさん志望してきます。昔は口からよだれをたらしているようなうちのゼミ生でもなれましたが、今はとんでもないです。仙台で宮城県庁なんて無理です。県庁に行くよりも市役所に多く行きます。理由は異動がないからです。県庁だと県内の遠くて自宅からはなれなければなりません。市役所だと家から通える範囲です。今の学生はせこい子ばかりです。この授業だって本来は学生向けのものでしたが、今は一人もいません。「福岡先生ってだれですか」と言う雰囲気でしょう。もうそれで終わりです。

でも受講者の中には知っている人たちがいます。県立広島大学は学生も強制です。ゼミ生たちが出席しています。

中尾ミエが3人娘のコンサートをしたときに募金箱を置いてくれました。それに30数万円近く集まったそうです。「私、九州出身だから大分の日田でボランティアがしたいの」ということだったのでドン・キホーテや東急ハンズやなどの後輩が社長をしているところから20品ほど品物を提供していただきました。博多の駅の近く店舗でみんなで適当な物を選んで、被災地について抽選会をしました。私も私物をいくつか出しました。その抽選会には広島カープの選手、丸佳浩と鈴木誠也と新井貴浩のサイン入りユニフォームを着たゼミ生が3人いました。そのユニフォームも学生が抽選会に出してしまいましたが、私の私物でした。私は王監督からいただいた「福岡」と私の名前が入った革のスタジャンを着ていました。背番号12番で私と同郷の高谷裕亮のものです。するとひとりのおばちゃんから、「先生が着ているのも頂戴、ソフトバンクに大分の選手がたくさんいます」と言われました。これを脱いだら寒いな、と思ったのですがゼミ生に、「先生それ脱いでください」と取り上げられてしまいました。それから鼻炎になって、鼻の調子がよくありません。

仙台のコンビニも外国人が働き始めています。どこから来たのか聞くとミャンマーだと言っていました。秋田はまだ日本人でしょうか。東京のコンビニはシニアが働いています。女房のお義母さんが亡くなる時、しばらく家に居なかったので食べるものが何もなく六本木麻布十番のコンビニに買いに行ったら自衛隊を退職した同級生が働いていました。何時から働いているのか聞くと朝5時からで4時に起きるのだそうです。朝早いので時給は1,050円だそうです。3時間でも働くとそれなりの収入になります。夜12時の赤坂のコンビニはお客も店員もほとんど外国人です。中国語や韓国語ではない言葉でお互いに会話をしています。現場はこれから外国人労働者とお爺ちゃん、お婆ちゃんになっていきます。それでもいいと思います。時代はそうなっています。AIロボットと管理者がいれば大丈夫です。高プロ制度の話が出ていますがそんなものは要りません。たまたま人事担当をしている人と食事をしたことがありましたが、「最近は大丈夫なんです。すぐ辞めるので多めに採用しています」と言っていました。マイナビやインディードを知っていますか。マイナビ病と言ってすぐに転職してしまう人たちがいます。学生にはよく言っているのですが、3回転職した人を企業は本気で採用はしません。派遣の哲学や嬢王などというのをやったのがいけなかったのです。正社員とそうでない人とではだいぶ違います。私が明治学院大学の非常勤のときは1ヵ月3万円で頑張っていました。駒澤大

学で転職して1ヵ月10数万円くらいになりました。12月5日頃に2ヵ月分くらいのボーナスが出ました。その後の12月25日の給与で20万円以上もらえる正教員って凄いなと思いました。そういうことを学生に今話しているのですが、「いいんです派遣で。その方が楽だから」と言います。私は70歳から数十万円の年金を貰っています。働かなくてもお金が入ってきます。基礎年金だけだと1人6万円くらいです。ご夫婦二人でも12万円くらいにしかありません。学生時代に未納があったと言われて、インチキしているなどとも言われましたが、昔の大学院生はお金がありません。後でその分も納めました。とにかく地道にやる。今がピークだから考えなければなりません。

〔研究論文〕

カントにおける「理性の事実」と自由

銭 谷 秋 生

はじめに

カントが1780年代に公にした倫理学に関する二つの著作の間に思考の連続性があったのか、それとも断絶があったのか。この問題は、カント解釈者の間で今日でも論争的となっている。ここで言う二つの著作とは、言うまでもなく、1785年に上梓された『道徳形而上学の基礎づけ』とその三年後に出された『実践理性批判』を指す。

これらの間に断絶があったとする解釈を支える論拠の代表的なものは、後者にのみ「理性の事実」という概念が登場し、その概念が道徳法則のあらゆる根拠づけの試みを無益なものにするとされていることである。この解釈で無益な試みとして指摘されるものには、『基礎づけ』における、超越論的観念論に準拠した叡智界の導入によって定言命法を根拠づけるという試みや、「自由はあらゆる理性的存在者の意志の固有性として前提されなくてはならない」という宣言が含まれる。

これに対して、両著作間の連続性を支持する解釈は、『基礎づけ』においても「理性の事実」論の先駆形態が見られるという見解に依拠している。それは、この解釈を支持する代表的な論者であるプルスによれば (Puls,548)、定言命法の可能性の根拠を探究する『基礎づけ』第三章における次のような叙述に表れているということになる。「叡智者としての、したがって理性によって活動的な、つまり自由に作用する理性的な原因としての自己の意識が人間に否認されるべきでない限り、理性が自分自身を実践的だと考えることは必然的である」(IV 458)。

この論争に関して私は、論考『カント「道徳の形而上学の基礎づけ」と理性の事実』において連続性を支持する見解を提出したが、その論拠を直ちに「叡智者」概念に求めるのではなく、『基礎づけ』第二章で述べられる理性が自らの純粋な実践性を「自覚する (inne werden)」という事態に求めた (銭谷 c.10)。

「経験的な刺激といった異質な付加物と混じりあっていない、純粋な義務の表象は、そして一般に道徳法則の表象は、理性を通してのみ (理性はここで初めてそれ

だけで実践的でもありうることを自覚する (inne wird) のだが) 人間の心に非常に強力な影響を及ぼす」(IV 410-11)。

ここでカントは、元来は思考の自発性に即して提起されていた「叡智者」という概念にではなく (cf.B158)、義務表象に即して人間に到来する、理性の純粋な実践的自発性の自覚に依拠している。ここで取り出された「理性が自らの純粋な実践性を自覚する」という事態を、後の「理性の事実」概念の先駆形態と考えていいのではないか、というのが私の解釈だった。

しかし「人間に到来する理性の純粋な実践的自発性の自覚」とはそもそも何を言い当てているのか。このことをあらためて考えてみるのが、この論考のテーマということになる。

ところで、このテーマを考察する際に私が手掛かりとしたいのは自由の概念である。カントは『基礎づけ』において「自由はあらゆる理性的存在者の意志の固有性として前提されなくてはならない」と宣言していたが、『実践理性批判』では自由のこのような直截な前提は退けられ、自由は道徳法則を認識根拠として初めて開かれるという思想が前面に出てくる。そしてこの自由の認識根拠とされる道徳法則そのものは、理性の事実として「与えられている」とされる。つまり、理性の事実についての思索の深まりが、言い換えれば、理性の「純粋な実践的自発性の自覚」についての考察の深まりが、自由なるものを新たな相貌において照明するのである。それはどのような相貌であり、それ以前の著作における相貌とどこが異なるのか。このような観点から考察を進めたい。

I

「はじめに」において述べたように、カントには「道徳法則がなければ知られないままであつたろう自由」(V 30) が存在するという思想が牢としてある。しかし我々は通常、道徳的なものを殊更に介することなく直接に自由を意識しているだろう。我々には、何かに強制されることなく、必要を満たし、自らにとって有益なものを求め、害あるものを忌避し、そのようにして生活を理性的に整序するという、合理的行為者としての自己理解が存する。このような日常的な自由理解は、カントにおいてどのように捉えられていたのか。道徳法則を介して開示される自由の相貌を確認するためにも、まずこの点を確認してみたい。

さて、カントはしばしば人間の選択意志を「動物的な選択意志」と対比することで、前者の固有性を際立たせている。「ただ傾向性(感性的衝動、刺激)によってだけ規定可能な選択意志は、動物的な選択意志(arbitrium brutum)であろう。これに対して人間の選択意志は、衝動によって触発されるが、しかし規定はされない」(VI 213) と。

では、そのような人間的選択意志を規定するものは何か。それは理性の表象であるとされる。

「感性的衝動から独立に規定されうる、したがって、理性によって表象される諸動因によって規定されうるような選択意志は自由な選択意志 (arbitrium liberum) と呼ばれ、そしてこの自由な選択意志と…関連しているものはすべて実践的と名付けられる」(A802/B830)。

「選択意志が理性によって表象される諸動因によって規定されうる」とは、言い換えれば、理性的存在者としての我々が、ある行為を理性的であるとみなすがゆえに (weil)、その行為へと自らを規定しようということである。これがカントが取りだす、我々がもつ合理的行為者としての自己理解の一つの姿である⁽¹⁾。

この自己理解において意識されている自由をカントは「実践的自由」と呼び、その存在は「経験によって証明される」としている。というのも「我々は、より離れた仕方ですえ、有益であるもの、あるいは有害であるものについての表象によって、我々の感性的欲求能力への押し付け (Eindrücke) を克服する能力を持つ」(ibid.) ことが経験的に確かめられるからである。「より離れた仕方」とは、自らの将来のあり方を含む包括的な仕方とといった意味だろう。だからカントはこう続ける。「我々の全状態に関して欲求に値するもの、つまり善いものならびに有益であるものに関するこのような熟慮は、理性に基づく」から、この理性は「自由の客観的法則であるところの諸法則」を与えると (ibid)。文脈から分かるように、ここでの「法則」は、実用的な規則を含む包括的なものを指している。カントの言葉でいえば、生きる上での格律一般を指している。我々は通常、ただ目前の生活上の課題をその都度こなすだけでなく、一定のポリシーをもって自らの生を方向づけているから、カントの以上の説明はやはり我々の合理的行為者としての自己理解に即したものであることが分かる。

『純粋理性批判』のカントは、ここで言及されている理性が与える「諸法則」について、それが自然がもたらすことのない「当為」を含み、そうであるがゆえに「現象において提示されるがままの諸物の秩序には従わない」ある秩序を生み出すと述べている。「理性は…完全な自発性をもって諸理念に従った固有の秩序を作り、経験的諸制約をこれらの理念に適合させ、それどころか生起しなかった諸行為…でさえも諸理念に従って必然的なものと宣言する」(A548/B576)。

確かに合理的行為者としての人間には、「何が現に存在するか、何が存在したか、何が存在するだろうかということ認識する」(A547/B575) だけでなく、「何が存在すべきか」という当為に関わる認識が開かれている。しかし、問題の「当為」に関してカン

トは、定言的と仮言的の区別をしていないことから分かるように、ここで理性が作り出す「固有の秩序」が直ちに道徳的秩序を指すと考えるべきではないだろう。むしろその秩序とは、「欲求に値するもの、つまり善いものならびに有益であるものに関する熟慮」を軸とした、したがって選択意志の自由の範囲内にある、目的合理性を原理とするものと考えべきだろう。

ところでカントは後に、ここで取り出された「衝動によって触発されるが、規定はされない」選択意志の自由を「純粹ではない」(VI 213)としている。彼によれば、我々の合理的行為者としての自己理解に即して確認され、目的合理性の原理がそのなかを動いている自由は「純粹ではない」という相貌をもつということになる。この指摘の含意は何だろうか。

このことを考えるために、ここでヴィラシェクの用いている例を多少デフォルメして援用しよう。我々が日常生活の中で、道徳的なものを介することなく直接意識している自由は、例えば「安くて赤いバラを買うか、それとも高くて白いバラを買うか」といった、与えられた選択肢の間でどちらかを選べるという経験に即しているだろう。我々はどちらを買えばいいかと熟慮できるし、一方のバラを買うという決心はその熟慮の結果に依存している。例えば私は白いバラの方を好み、必要な金銭の持ち合わせもあるから、「高くて白いバラを買う」と決心できる。そしてその決心は、誰かに強要されたのではないから、自由であるように見える。しかし「この見かけが人を欺く」(Willaschek,b.222)のだとヴィラシェクは述べる。なぜか。決心をもたらした熟慮が関係しているのは、何が私にとって「快適な」ものとして、あるいは「好ましい」ものとして現象しているかという問いである。この問いへの答えはもちろん、どれほどのお金を使えるかなどの他のファクターにも依存している。しかし結局のところその答えは、どのような物事が私にとって有用であり有益であるか、そしてどのような仕方ですべての物事を一番よく達成できると私が信じているかということ、つまり「価値評価と目的-手段関係についての熟慮」に基づいている。では、この両者そのものは自由な決心の対象だろうか。そうではない。私は赤いバラよりも白いバラを「より快適だ」と思うよう決心できないし、金銭を支払うことはバラを得るための適切な手段であるとみなすことを決心できない。何かを快適だと感じることはいつの間にか身に着いた嗜好の事柄であり、物品を（強奪するのではなく）購入することは私がそのなかに住まう制度の事柄である。すると「決心はただ、階層化された価値評価を周知の目的-手段関係のもとに包摂し、そこから、理性的な仕方で行うべきことを『引き出す』という点に存していることになる」(Willaschek,b.223)。

もちろんこの「引き出す」という操作は合理的であり、行為において因果的機能を持ち、その限り自発的である。しかしこの決心は、「行為者がそれに対して意志的な影響力をもたない諸条件（経験的に制約された価値と〔目的-手段に関する〕理論的確信）

から論理的な必然性をもって生じてくる」(ibid.) だけで、そのような諸条件に依存しない、その意味で「純粹な」自発性をもちえない。

このことを言い換えると、選択意志は、カントが言うところの「意欲の経験的な実質」と言わば地続きになった場で働いているということである。そのことに即して直接意識される自由は、実質による触発を許し、その意向に沿う行為をもたらすものである。

ここで我々は、『純粹理性批判』に登場する「悪意ある嘘」(A554-5/B582-3)の例を想起すべきだろう。悪意ある嘘によって社会にある種の混乱をもたらした人物がいたとして、我々はその嘘が生じてきた動因を求めてその人物の「経験的性格」の源泉にまで遡及できると、カントは述べている。我々は「その源泉を、悪い教育や害悪の多い社会のうちに、一部は羞恥心に対して無感覚な気質の邪悪さのうちにも探し求め、一部は軽率と無思慮に帰する」。これらの諸動因も、ヴィラシエクが言う「行為者がそれに対して意志的な影響力をもたない諸条件」に数えていだろうか。この人物はこうした諸動因に押され、しかし自発的に嘘をついたのである。

しかし、人間における自由はこのような「純粹ではない」自由に尽きるわけではない。周知のようにカントは、「悪意ある嘘」の経験的な諸動因を挙げた後、嘘をつくという「行為がこうしたことによって規定されていると人は信じているが、それにも拘わらず、人は行為者を非難する」と述べ、「この非難は理性の法則に基づく」と言明している。この言明が前提している自由の相貌がある。その含意は、最終的には「理性の事実」論において展開されることになる。

しかしその考察の前に、『基礎づけ』で表明される「自由はあらゆる理性的存在者の意志の固有性として前提されなくてはならない」という宣言について、若干の考察を試みたい。

II

この宣言は『基礎づけ』第三章に登場するものだが、ここでの「自由」は「その概念の単なる分析によって、道徳性とその原理が帰結する」(IV 447)として位置付けられている。しかし、なぜこの自由は、理性的存在者の意志の固有性として前提されなくてはならないのか。そしてそのようにして前提された自由の単なる分析がなぜ道徳性を帰結するのか。『基礎づけ』第三章はこのような問いをめぐって展開されている。

この問題設定では、道徳性がそこから帰結する自由の解明が問題なのだから、道徳法則の存在とその妥当性を解明のためのあらかじめの前提として立てるわけにはいかない。すると自由は、事柄の順序として、道徳法則とは独立にその想定 of 必然性が確保されなくてはならないことになる。そうしなければ論証は、カント自身が認めるように循環に陥る。「はじめに」において述べたように、カントは『基礎づけ』第二章で「理性

が自らの純粋な実践性を自覚する」という事態に言及しているのだが、この事態をここで自由の想定 of 必然性のための論証の基礎として引き合いにだすことがこうして控えられることになる。

カントのここでの戦略は、『純粋理性批判』で確立された超越論的観念論による現象と物自体の区別を援用することである。「常識（ごく普通の悟性）」でさえ、感官の表象のような我々に生じる表象は対象が我々を触発するとおりに対象を認識させるだけであって、したがってその対象がそれ自体としてどのようにあるのかは知られないままにとどまることに気付いている（IV 450）。触発を通して知られるものは現象であり、それは現われであるがゆえに、現われとは区別されるところの現われでてくる何か（物自体）がその背後に考えられるはずだという常識の立場は、カントによれば、「感性界と悟性界の区別を粗削りではあるが与えてくれるに違いない」とされる（IV 451）。

カントはこのことを踏まえて、次にこの区別を人間に適用する。人間は自分自身を内感を通して、つまり「自分の意識が触発される仕方」を通して認識するのだから、その限り、自分自身について現象界に属する存在者としての知識を獲得する。しかし他方で人間は、「どうしても、彼自身の主観のこの単なる現象から合成された性質を超えて、その根底に存する別のものを、すなわち彼の自我を、それがそれ自身においてどのような性質のものであろうとも、想定せざるを得ない」（*ibid.*）。ここからカントは、人間の二重性を引き出す。

「人間は自分を、単なる知覚と感官の受容性に関しては感性界に数え入れるが、しかし彼自身における純粋な活動性（*reine Tätigkeit*）であろうもの（まったく感官の触発によってではなく直接意識に達するもの）に関しては、叡智界に数え入れるにちがいない」（*ibid.*）。

「彼自身における純粋な活動性であろうもの」とは、ここでは、同じように自己活動性ではあるがしかし感性との協働において働く悟性をはるかに超えて、「理念の名の下に純粋な活動性を示す」そういう理性であるとされる（IV 452）。人間は「自らの内に現実に（*wirklich*）このような能力を見出す」がゆえに叡智者でもあり、その限り叡智界の成員でもあると見なす。すると、次のように言ってよいとカントは述べる。「理性的な、したがって叡智界に属する存在者として人間は、自分自身の意志の因果性を自由の理念のもと以外において決して考えることができない。というのは、感性界の規定する諸原因からの独立性…が自由であるからである。ところでこの自由の理念は自律の概念と不可分離に結びついており、自律の概念は道徳性の普遍的原理と同じく不可分離に結びついている」（*ibid.*）。

自由の演繹と呼ばれるこの論証が成功しているならば、カントは『基礎づけ』の後にあらためて「理性の事実」に言及する必要はなかっただろうと思われる。ではこの論証のどこに問題があるのか。すでにカント解釈者たちはその問題性を様々に指摘しているが⁽²⁾、ここでは次の二点に焦点を当てたい。第一は、この論証を踏まえて叡智界に属する者の「意志」について語ることは正当なことかという点である。第二は、ここで論証された自由は、「道徳法則なしには知られないままであったろう自由」と同じなのかという点である。

先ず第一の点について述べたい。

人間に叡智者としてのあり方を認めること。このことは、理念の能力としての理性の所有に鑑みても、哲学的に正当な想定だと思われる。そして、人間が叡智者として位する叡智界に現象の世界においてのみその適用が許される因果性のカテゴリーは適用できず、その意味で叡智界とその成員が現象界の規定する諸原因から自由であること、このこともカントにあっては正当に主張できるだろう。

しかし、先ず、叡智者概念の出自が理論理性の領域にあることが想起されるべきだろう。『純粹理性批判』でカントは、我々の現象としての自己の認識についてこう述べていた。「我々自身の認識のためには、各々の可能的直観の多様を統覚の統一のもとにもたらず思考の働き(Handlung)のほかにも、そのような多様がそれによって与えられる直観の一定の仕方が必要である」(B157-58)。これは、上に引用した『基礎づけ』の記述(我々は、自分の意識が触発される仕方を通して、自分自身について現象界に属する存在者としての知識を獲得する)と対応している。『純粹理性批判』では、しかし、自己意識がそのまま自己認識ではないことが確認されたうえで、こう付け加えられる。「私は、もっぱら自らの結合能力を意識している叡智者として存在する」(B158)。叡智者という概念は思考の自発性に即して提起されており、それはあくまでも理論的認識を可能ならしめる人間のあり方を指すものなのである。したがって、「彼自身における純粋な活動性(reine Tätigkeit)であろうもの」に定位して人間を叡智者として叡智界に位置づけることは可能であっても、そのことは、そのような叡智者の(理論的能力とは区別された)意志のあり方について何事かを述べるということを直ちに帰結するわけではない。

しかし次のように反論されるかもしれない。<人間が理論的認識のための装置を備えているだけでなく、ある行為を理性的であるとみなすがゆえにその行為へと自らを規定しようという意志的装置をももつということは、自明なことではないか。してみれば人間の叡智的あり方において、その意志的装置が経験的諸規定から自由に、つまり純粋に、発動すると想定することが出来るのではないかと。>

だが、人間の意志的装置が、その叡智的あり方において、純粋に発動することを保証するものはあるだろうか。ここでは、I節において確かめた合理的行為者の自己理解に

即して「経験される」選択意志の自由が問題なのではなく、純粋に叡智的なものの因果的発動が問題である。そしてカント本来の立場からすれば、叡智的なものの発動は経験的に確かめえない事柄だったはずである。『実践理性批判』がこのことを明瞭に語っている。「人間の洞察はすべて、我々が根本的な諸力あるいは諸能力に達するやいなや終わりとなる。というのもそれらの能力の可能性はもはや何ものによっても把握されえない…からである」(V 47)。しかし、「理性の理論的使用においては、経験のみがそうした能力の可能性を想定する権限を我々に与える。これは、アプリアリな認識源泉からの演繹の代わりに、経験的証明をもってするという代用手段である」(ibid.)。理論哲学では、我々の内実をもった経験から出発し、その経験の可能性の条件へ向かって経験の背後へと問い進むことが可能である。しかし、このような遡及的な道は道徳哲学には閉ざされている。こうカントは続ける。「このような代用品は純粋な実践理性能力に関しては奪われている」。なぜか。第一に、ある行為が、純粋に叡智的なものだけを根拠にしてなされたのか、それとも主観的な傾向性に由来するのかは、知覚や観察から究極的な確実性をもって探り出すことはできないからである。ツィーママンも指摘するように、「一義的に同定された義務充足 (Pflichterfüllung) という状況から出発して、その義務充足は一般にただ純粋実践理性の能力を条件として可能である」という具合に論じることができない (Zimmermann,109)。そして第二に、そもそも叡智的なものの因果的発動の機序を我々は洞察しえないからである。このことを『道徳の形而上学』はこう述べている。「叡智的なものの感性的なものへの因果的關係については、いかなる理論もない」(VI 439,Anm.)。

しかしそうだとすれば、「叡智界に属する存在者として人間は、自分自身の意志の因果性を自由の理念のもと以外において決して考えることができない」という文は何を言っていることになるのか。この問題は第二の点に関わる。

ここで我々は、『基礎づけ』第三章が、シェーネッカーの言う「分析性テーゼ」を前提にして開始されていることを想起すべきだろう (Schönecker,153ff.)。カントはすでに第二章において、「理性が意志を必ず規定する」存在者という理念を提起していた。「そのような存在者の行為は客観的に必然的なものと認識されるが、主観的にも必然的である。すなわちその意志は、理性が傾向性から独立に、実践的に必然的なものとして、つまり善として認識するものだけを選択する能力である」(IV 412-13)。このような存在者は人間とは区別されなくてはならない存在者であり、理念としての「純粋な理性的存在者」と呼べるだろう。人間が自らの行為のために形成する格律が差し当たっては主観的であるのに対し、このような存在者の格律は、経験的な諸制約に依存せずしかも理性的であるだろうから、同じ純粋な理性的存在者一般に妥当する客観性や理性性を持ち、したがって「法則」としての資格を有するだろう。その意志が「理性が善として認識す

るものだけを選択する」とき、すなわち法則としての資格を有する格律を形成するとき、それは自律した意志であり、自由な意志と言い換えてもよい。だからそのような存在者にあつては、「自由な意志と道徳法則のもとにある意志とは同じである」(IV 447) ことになる。自由と道徳性のこのような関係についての主張が「分析性テーゼ」である。

このような理念的存在者の想定は恣意的なものではないとカントは考えている。と言うのも、この想定は我々においても確認できる理性能力の固有性に基づくからである。その固有性を彼は次のように述べている。「自分の判断が自分自身のものだという意識を持ちながら自分以外のところから制御を受ける理性を考えることは不可能である」(IV 448)。したがって「理性は自分自身を、自分の原理の創始者であつて自分以外のものによつても何ら影響されないものであるとみなさなければならない」(ibid.)。

カントはこのような分析性テーゼを提出してから、『基礎づけ』第三章三節で議論を我々人間へと移行させ、先ずは次のように述べる。「我々は道徳性の確定した概念をついに自由の理念に帰着させた。しかし我々は、この理念を何か現実的なものとして(als etwas Wirkliches)、我々自身において、そして人間的本性において証明しえたわけではなかった」(IV 448-9)。しかし、と彼は続ける。「もし我々が自らを、理性的であり、行為に関して因果性の意識を授かつた、つまり意志を授かつた、そういう存在者として考えようと欲するならば(denken wollen)、自由の理念を前提しなくてはならない」(ibid.)。分析性テーゼにおける理念的存在者と我々人間はもちろん直ちに同じなのではないが、しかし理性の所有という点に関しては共通した部分を持つ。ここからカントは、理性的存在者としての我々の本来性を、感性によって触発される側面ではなく、理念的存在者と共通する側面に求めていく(我々において「すべき(Sollen)」として体験されるものは、「理性が何の妨げもなしに実践的であるならば、本来は(eigentlich)『したい』という意欲(Wollen)である」という三節での記述がこのことを示している(IV 449))。そして、このような方向性を正しいものとして、つまり「何か現実的なものとして」明かすのが、人間が「自らの内に現実的に(wirklich)見出す」能力、つまり「純粋な活動性であろうもの」なのである。

このような筋道をたどることができるとすれば、「叡智界に属する存在者として人間は、自分自身の意志の因果性を自由の理念のもと以外において決して考えることができない」というテーゼは、我々が自らを叡智者として叡智界に位置づけ、その世界の本来の成員である「純粋に理性的でかつ意志を賦与された理念的存在者」と自らを重ね合わせて「考えようと欲する」場合にとることになる見解だということになるだろう。

しかしこの見解は、すでに述べたように、我々が自らを純粋に「理性的な存在者として考えようと欲する」ことで導かれるものであつて、その意味でやはり一つの想定である⁽³⁾。たとえその想定が、我々において「現実的に」見出される「純粋な活動性であろう

もの」に基づいているとしても、そもそもその純粋な活動性が叡智的な意志の因果的発動を担保しえない限り、あくまでも想定にとどまる。そしてこの見解が想定である以上、そこで宣言される自由の理念は人間を現実に動機づける力を必然的にもつわけではない。我々が自らを、純粋な理性的存在者として「考えようと欲する」ことを強いる何かはここにはないからである。したがって、このテーゼにおける自由は、「道徳法則なしには知られないままであったろう自由」と同じではない。後者の自由は、カントにあっては、道徳法則の働きという我々において強制力を有するものとして体験される事態を通して避けがたく開示される自由であり、単なる想定を超えるものだからである。では、その自由の内実とは何か。

III

我々は合理的行為者として、「衝動によって触発されるが、しかし規定はされない」という意味で、実践的に自由であるという自己理解をもつ。しかしそのようにして経験されている選択意志の自由は、「意欲の実質」と言わば地続きになった場で働いている点で種々の制限を持ち「純粋ではない」。これが『純粋理性批判』で言及される実践的自由の特性だった。これに対して『基礎づけ』では、人間の叡智者としての自己理解に即して想定される自律的自由が提示されるが、今しがた見たように、それは我々が自らを純粋な理性的存在者として「考えようと欲する」ことで想定されるものであり、そこには、そのように「考えなければならない」と強いるものが提出されていたわけではない。以上のことが確認できた。

さて『実践理性批判』は、周知のように、純粋実践理性の批判が不要であることの宣言から始まっている。「この書物は単に、純粋実践理性が存在することを証明するはずであり、こうした見地から理性の全実践的能力を批判する」(V 3)。これは、「純粋な活動性」を介して叡智界を開き、そこから叡智者としての人間の自由を演繹するという『基礎づけ』の戦略を放棄し、端的に、理性の純粋な実践性に定位するという宣言である。この宣言の背後に私は、『基礎づけ』第三章で自由が究明されたときに論及が控えられた「理性は義務の表象に即して、初めてそれだけで実践的でもありうることを自覚する(inne wird)」という事態を読み込んでみたいと思う。この事態は、理性が、人間が道徳的義務を意識しうるということにおいて、その純粋な実践性をすでに開示しているということを言っているからである。それは『実践理性批判』序言の言い方言えば、「理性が、純粋な理性として、現実に(wirklich)実践的であるならば、それは自らと自らの諸概念との実在性を行ないを通して(durch die Tat)証明する」という事態である。

しかし、この場合の「行ない(die Tat)」とは何か。この「行ない」は「理性の事実(Faktum der Vernunft)」として言及される事態に他ならない。このことは、同じ序言で次のよう

に言われることから分かる。

「実践理性はそれのみで…因果性のカテゴリーの超感性的対象である自由の実在性を与え、そこ[純粹理性批判]では単に思考されうるものにとどまったものを、Faktumを通して確証する (durch ein Faktum bestätigt)」(V 6)。

先に、理性が「行ないを通して」自らと自らの諸概念の実在性を証明すると述べられたときのその「諸概念の実在性」には、当然自由の実在性も含まれるだろうから、その説明は今引用した文と同じことを言っていることになる。つまり、「行ないを通して」は「Faktumを通して」と同じ事態を指す。

カントが“Faktum”という語を“Tat”と同義語として用いている例は、すでにヴィラシエックが指摘しているように⁽⁴⁾、この他にも見出すことができる。“imputatio facti”のためのレフレクションではこう言われる。「道徳的法則(命令のそれか禁止のそれか)のもとにある行為は“Tat”と呼ばれる。各々の“faktum”は、功績的か反功績的かであって、中立的なものはない」(XIX 159)。このレフレクションと共鳴する宗教論の一節ではこう言われる。「道徳的にどちらでもない行為(道徳的無記)は自然法則に基づいてのみ生じる行為ということになるが、これは自由の法則としての道徳法則とは何の関係もない。そのような行為は“Faktum”ではないからである」(VI 23)⁽⁵⁾。

しかし、ここで我々は再び問わなくてはならないだろう。理性の「行ない」、あるいは「理性の事実」は、どのようにして見出されるのか、と。と言うのも、すでにツィーママンの指摘に即して確認したように、我々は「一義的に同定された義務充足という状況から出発して、その義務充足は一般にただ純粹実践理性の能力を条件として可能である」という筋道を進めることは出来ないからである。

『実践理性批判』においてカントが定位したのは、時として人間が直面する内的葛藤という現象だと思われる。我々は、内的葛藤において、心の相反する要素の対立を経験し何らかの決定が要求されていることを知る。その場合、相反する各々の要素が通約可能な(kommensurabel)ケースと通約不可能な(inkommensurabel)ケースを区別できるだろう。そのようにして我々は、各々の要素をそれぞれの源泉に到るまで「洗い出す」(V 93)こともできよう。このようにカントは考えていたと思われる。これはカント自身の語を用いれば「化学に類似した方法」(V 163)であり、「人間の理性に実験を試みる」(V 92)という一つの疑似実験的方法である。しかしカントはどこでこのような方法を用いて、「理性の行ない」つまり「理性の事実」を確認しているのか。それは、「道徳法則がなければ知られないままであったろう自由」が語りだされる直前、つまり『実践理性批判』分析論第6節の注解である。

そこでカントは、人間に訪れうる二種類の内的葛藤について述べている。

一つは、色情の傾向性を満たすことができる機会に遭遇するならばその傾向性に抵抗できないと称する人が経験するかもしれない葛藤である。カントは問う。もし彼が、その機会に恵まれる家の前に絞首台が立てられていて、官能の悦びのすぐ後でこれに吊るされるとするならば、「彼はその場合でもその傾向性を抑圧しないだろうか」(V 30) と。カントがこの男をその前に立たせている葛藤の要因は、性欲の充足への欲求とその代償としての絞首による死の恐怖である。この男は、生き続けて快樂を得たいという欲求を持っているが、しかしそれによって死を招くことになるのであればどうすべきか、という事で葛藤する。カントは、「彼がどう答えるかは長く推測する必要はない」と続ける。死の恐怖が一時の快樂に勝ることは当たり前のことだからである。しかし我々がここで留意しなくてはならないのは、第一に、ここでの葛藤がI節で確認した「衝動によって触発されるが規定はされない」選択意志のその「実践的自由」の次元にあることであり、したがって第二に、ここでの葛藤要因が通約可能なものであるということである。快樂への欲求と生き続けたいという欲求は通約可能であり、それゆえこの葛藤は例えば「生き続けて快樂をさらに得るために、今何を控えなければならないか」といった目的合理的な考慮のなかで処理されうるのである。しかし人間はこの次元に留まる存在ではない、というのがカントの見方だった。そのことが、二番目の偽証をめぐる事例に即して表明される。

「しかし彼にこう尋ねてみよ」とカントは続ける。「もし彼の君主が、同じように即刻の死刑の威嚇の下に、ある誠実な人物に対する偽証を彼に要求し、その偽りの口実によってその人物を滅ぼしたいと思っているとしたら、果たして彼は、どれほど自分の生命への愛が大きいとしても、その生命愛を克服することが可能であると見なすだろうか (ober da, …sie wohl zu überwinden für möglich halte)」(ibid.) と。偽証を要求された男が陥ることになる (とカントが考えている) 葛藤のその相反する要因は何だろうか。一方には、生き続けたいという一番目の事例にも登場する欲求がある。他方には、それに抵抗する何かがある。しかしこの男は、「生き続けて快樂をさらに得たい」という欲求に基づいて色情を抑制するという合理的な振る舞いができる男であり、したがってここでも「偽証をしてでも生き続け、快樂を得たい」という合理性を發揮できるはずなのである。しかし、カントはこう続ける。「彼がそれ [生命への愛を克服して偽証を拒むこと] をするかしないかは、彼も敢えて断言しないだろう。しかしそれが可能であること (daß es ihm aber möglich sei) は躊躇なく認めるに違いない」と。このように言えるのであれば、ここで何が起っていることになるのか。それは、通約不可能な要因間の葛藤の生起であり、この男が第一の事例において示し得た合理性とは異なった合理性の裂開である。

ツィーマーマンは、ここでの葛藤の生起は次のように言わざるを得ないと述べている。

行為の「主観に、それが行なう以上の何事かが起こる (Diesem[dem Subjekt] widerfährt mehr etwas, als es etwas tut.)」と (Zimmermann,121)。個々の主観が通常、感性的にして合理的な行為者として行なうことは、すでに述べたように、目的合理的な考慮とそれに基づく振る舞いの選択である。しかし、偽証をめぐってその主観に葛藤が生じるとすれば、「それ以上の何事か」が起こっていることになる。それは、明言されていないが、例えば「無実の者を、それが誰であれ、偽りの理由によって傷つけてはならないから、私は偽証すべきではない」といった、この男の道徳的格律に基づいた動機づけの介入である。

しかしこの動機付けが基づく男の格律は、「侮辱されたらどんなことがあっても仕返しをせずにはおかない」といった私的な格律と同様な、この男の私的な信念ではないだろうか。そうではない。「無実の者を、それが誰であれ、偽りの理由によって傷つけてはならない」という格律は、自己を優先的に尊重せよとする自己愛に基づく格律とは異なり、普遍化可能性をメルクマールとしてもつ点で私的ではなく、客観的に道徳的である。(分析論6節までの論述は、「客観的に道徳的」であるとはどういうことかの解明に当てられていた。その際の鍵概念は、格律の普遍化可能性を担保する形式という概念だった。)したがってこの格律は、自分の生命の保持への欲求とは異なった源泉に基づいて構成されていると考えざるを得ない。では、その異なった源泉とは何か。それが「理性の行ない」すなわち「理性の事実」なのである。

第二の事例において男が葛藤状態に陥るとすれば、そこでは通約不可能な要因が、つまり生命の保持への感性的欲求という要因と普遍化可能な格律に基づく動機づけという要因が立ち現れていることになる。そして、生命の保持のために目的合理的に考慮するのが実践理性だとすれば、それと葛藤状態にある理性は純粋な実践理性であるだろう。この場合の「純粋な」とは、行為者に経験的に与えられる動機づけに依存しない理性的な熟慮と動機づけのありようを指している。こうして、『実践理性批判』分析論第6節の注解は、次の文によって締めくくられる。「それ故彼は、あることをなすべきであると意識するがゆえに、そのことをなしうると判断するのであり、そして道徳法則がなければ知られないままであったらう自由を、自己のうちに認識するのである」(V 30)。

この説明は道徳法則の「演繹」を述べているのではない。演繹という語は、法学的な語の使用から借りてこられたものであり、それが示さなくてはならないのは所有の正統性である (cf. Willaschek, b.229)。つまり、我々が道徳法則の意識やそれに基づく純粋な動機づけを所有するに至る、その獲得の仕方の正統性を説明することが、演繹の課題なのである。しかし、繰り返しになるが、叡智的原因性の純粋な発動の理論的認識は、我々には拒まれている。この意味で、道徳法則に関する演繹は閉ざされている。カントによれば、我々になしうることは、死の威嚇をもって偽証を強いられるという場面であって

も、そのような強要を普遍化可能な格律に基づいて拒否することが少なくとも「可能である」と自ら認めうるということ、そのようにして深刻な葛藤状態に自らを陥れることができるということ、そしてそのことが、道徳的動機づけなるものがありうること、つまり自律としての自由がありうることの、その証左となること、このことを示すことである。「理性の行ない」すなわち「理性の事実」は、こうして道徳的葛藤においてそれ自身を露わにする。これを有限な理性的存在者の側から言い換えれば、「理性の事実」は「与えられている」、すなわち「すでに働いている」ということになる。これがカントの考えだったと思われる。

これはカントによる強弁だろうか。確かに、道徳的判断はなしうるが、しかしそれによっていささかも動機づけられないというアモラリストの存在を想定することは、スヴァヴァルストドッティが行っているように理論的には可能かもしれない⁽⁶⁾。しかし、そのようなアモラリスト的心性は、カントが依拠する「通常の人間理性」にとってはやはりフレムトなものだろう⁽⁷⁾。むしろ「通常の人間理性」は、「悪意ある虚」の例で見たように、個々の行為者の行為を帰責可能なものと見なすのが常態である。そしてカントがそこで述べていたように、そのような帰責は「理性の法則に基づく」。

以上、『道徳形而上学の基礎づけ』と『実践理性批判』の間に断絶があるのか、それとも連続性があるのかという論争に関して、両著作には、義務表象に即して「理性が自らの純粋な実践性を自覚する」という事態の看取という点で連続性が認められることを述べた。

【注】

- (1) この場合の“weil”をヴィラシェクは「因果的weil」と呼んでいる (Willaschek, b.135)。合理的行為者としての自己理解には、理性の因果性が織り込まれているからである。
- (2) カントはここで、「思考の自由から行為の自由への移行」を説明なしに遂行しているというシェーネッカーの批判 (Schönecker, 307) や、ここでの叡智界概念は叡智的宿命論を排除しえないという保呂篤彦の批判 (保呂166) が代表的なものである。
- (3) このことは、カント自身が次のような慎重な言い方をしていることから言えることである。「意志というものを意識していると信じる存在者においては、つまり単なる欲求能力とはなお異なる能力を (つまり叡智者として、したがって理性の法則に従い自然本能から独立して、自分を行為へと規定する能力を) 意識していると信じる存在者においては、自由は理性にとって必然的な前提として妥当するに過ぎない」 (IV 459)。
- (4) Willaschek, a.456-57
- (5) ただしFaktumという語には、「純然たる事実」(Tatsache)という意味もある。それは、「活動性を表す動詞から導かれる多くの名詞がもつ原理的な二義性」を反映している。例えば、“die Schöpfung”は「創造」(活動性)を意味するとともに、その成果である「被造物」をも意味する。この点についてはWillaschek, a. 459を参照。

- (6) 道徳的判断とその判断内容への動機づけとの間には必然的な結びつきがあるとするメタ倫理学における「内在主義」に対するスヴァヴァルズドッティの批判については、銭谷 (a) を参照されたい。
- (7) カントがどのような意味で「通常の人間理性」に依拠してその倫理学を構築したのかについては、銭谷 (b) を参照されたい。

【文献】

カントからの引用の際は、アカデミー版の巻数と当該ページを記す。『純粹理性批判』からの引用の場合は、A版B版のページを記す。

保呂 篤彦「カント道徳哲学研究序説」(晃洋書房、2001)

Puls, Heiko. Freiheit als Unabhängigkeit von bloß subjektiv bestimmenden Ursachen – Kants Auflösung des Zirkelverdachts im dritten Abschnitt der Grundlegung zur Metaphysik der Sitten. (*Zeitschrift für philosophische Forschung*, Band.65, 2011)

Schöneker, Dieter. *Kant : Grundlegung III : Die Deduktion des kategorischen Imperativs*, München, 1999.

円谷 裕二 “Faktum der Vernunft” als Überwindung des Dualismus in Kants Ethik. (『哲学年報』Nr.75、九州大学、2016)

Willaschek, Marcus. (a) Die Tat der Vernunft. Zur Bedeutung der Kantischen These vom “Faktum der Vernunft”. (*Akten des Siebenten Internationalen Kant- Kongresses*, 1991.)

—— (b) *Praktische Vernunft. Handlungstheorie und Moralbegründung bei Kant*. Weimar, 1992

—— (c) Rationale Postulate. Über Kants These vom Primat der reinen praktischen Vernunft. (*Kant und die Zukunft der europäischen Aufklärung*. hers.von Heiner F. Klemme, Berlin, 2009)

Zimmermann, Stephan. Faktum statt Deduktion. Kants Lehre von der praktischen Selbstrechtfertigung des Sittengesetzes. (*Kants Rechtfertigung des Sittengesetzes in Grundlegung III*. hers.von Heiko Puls, 2014)

銭谷 秋生 (a) 「道徳的判断と動機づけの結びつきについて」(『茨城キリスト教大学紀要』Nr.42、2008)

—— (b) 「カント主義的倫理理論が受けている二つの挑戦について(2)」(『秋田大学教養基礎教育研究年報』Nr.14、2012)

—— (c) 「カント『道徳形而上学の基礎づけ』と理性の事実」(『秋田大学教養基礎教育研究年報』Nr.19、2017)

〔研究論文〕

『百戦奇法諺解』について

花 田 富二夫

この度、仮名草子集成第六十一卷（東京堂出版）に『百戦奇法』（七卷七冊、明暦四年、小嶋市郎右衛門刊）の翻刻と解題を掲載した。当書は、中国の兵法書を翻訳したものであり、筆者については不明である。ここに、当本に関する写本が伝存しているので、翻刻を試みることにする。奥書には「羅山子」という記載があり、林羅山の関与が推測される。もし、羅山が翻訳に関与したとすると、時期といい、兵書への関心と言い、まことにふさわしい。これら両書の関係や著者については今後の研究に俟ち、ここに一資料として提示したい。

以下、簡略な書誌を記す。

底本 国立公文書館蔵（請求記号）一八九―三四二

大本 写本 一冊

表紙 覆表紙 たて二八・五センチ×よこ二〇・一センチ

外題 左肩墨書「百戦奇法諺解」

内題 百戦奇法

字高 二四・二センチ

行数 每半葉九行

丁数 二十八丁（最終丁ウラ白紙）

印記 「昌平坂学問所」「林氏蔵書」「浅草文庫」「江雲渭樹」

その他 本書には、朱点や朱筆、墨筆による書き込みや校訂がある。

翻刻にあたっては、書き込みなどに用いられた他本が存在したかどうかは不明であるが、原則として、朱筆、あるいは墨筆で記された文字や濁点は、翻刻文の中に組み入れた。特殊なものは注を施して後掲した。また、原本が破れなどのために判読不明な箇所は、□で示した。句読点は適宜施し、文字は通行の字体に改めた。一部の片カナで原文通りとしたものがある。本書は国立公文書館の電子アーカイブでも閲覧が可能となっている。

翻刻

百戦奇法

むかし、漢の武帝と申みかと、霍去病といふものを大将として、兵法をならへとありしかは、去病申けるは、はかりことは、いかむとおもふ也と答て、兵法をまなはされとも、おのつから、あまたのてきを討ほろほして、大功をなせり、されば、いにしへと今とのいきほひ、同からず、山川、土地のかはりあれば、古人の兵法をまなふとも、時にあふよろしき道をしらずんは、今の世に用ひかたし、まして、大唐」一オ 日本国、隔たれば、一やうにおもふへからず、されとも、兵法の手たて、其理はおなしければ、常にかんかへあはせて、よく心得る時は、てきにあはんととき、かならすよろしき手たてを用ひて、うちかつへし、そのしなを、百个条あけて、百戦の奇法と名つく

一計戦は、戦の道は、はかりくらふるを本とす、戦はぬさきに、敵の大將と我か大將と、何かまされる、敵と味方との人数、何レカおほき、敵の場と味方の場と、何レかよき、敵味方の兵糧は、いつれかおほきと、はかり」一ウ くらへて、敵よりも味方まされる時は、たゝかふへし

一謀戦は、敵に、はかりことの手たて有を、味方よく知て、敵ノはかりことのならぬやうにしかけて、討勝也

一間戦は、味方より敵へ使者をやり、又は物見をつかはし、敵の内証を、よくうかゝひきかせて、其上に兵をつかはして、うちかつ也

一選戦は、おぼへの有よきものを、大將とし、又、けなげなる兵を、あまた選ひて、大將に添、先手として討時は、勝也

一步戦は、味方はかちだち多く、騎馬すくなくして、敵」二オ 騎馬、多からん時は、味方、必せばきところ、けはしき山路、森林のしげりたる所にて戦へし、敵の馬は、かけ引、自由ならずして、味方かつ也、若又、広き処、平なる処にて、騎馬の敵にあはば、味方まんまるに陣をかまへ、騎馬をさきにたて、かちたちあとにさがらぬやうにして、思きりて、敵のまん中を打破るへし、若、或は、馬ふせぎのくいをうち、ひしをまきちらして、ふせく事もあり

- 一騎戦は、騎馬の兵、もし、かちたちの敵にあはゝ、広」二ウ 平かなる所へ、敵をおびき出すへし、馬のかけ引、自由なる故也、山林、せばき処、堤、細道にてたゝかふへからす
- 一舟戦は、舟軍也、味方、風上に居へし、又、川上に居ルへし、風上よりは、小船ともに薪をつみて、火をかくれは、敵の舟をやく也、又、川上よりは、水のいきほひにしたかひて、兵船をすゝむれば、敵は水にさかふ故に、舟すゝみかねて、味方、勝也
- 一車戦は、車一れうに、馬四足をかけてひかする也、車の上に、武者三人のる、車の前後左右に、かちたち七十二」三オ 人あり、国の大小によりて、軍をする時に、車百れうあるも有也、車戦にて、敵のかちたちと戦時は、陣のたてやう四方にして、すゝむ時は、敵にやふられず、大唐はひろき所ある故に、車戦を用ふ、日本には車戦の沙汰なし
- 一信戦は、国主にても、大将にても、常／＼真実にして、士卒をたらし、あさむく事なければ、兵共、上をすこしもうたかはぬ故に、敵をおそるゝ事なく、命をかへり見ず、戦也」三ウ
- 一教戦は、我兵共に、常に軍法を教へならはすへし、太刀をつかひ、馬にのり、弓を射、鉄砲をはなちなとするやうの、稽古あるへし、又、法度、下知をもよく聞、旗しるしの紋をも見しり、金鼓の声をも聞知、すゝめといはゝ、すゝみ、ひけといはゝ、ひき、左といはゝ、左に行、右といはゝ、右に行やうなる事をも、をしへしめす也、常に如此、能をしふれば、敵にあふとも勝也
- 一衆戦は、味方、大勢にて、敵、小勢ならば、山路せばき所にて戦ふへからす、平かに広き処にて戦ふへし、一度に」四オ かゝり、一度にひくへし、まはらにかゝるへからす
- 一寡戦は、味方、小勢にて、敵、大勢ならば、必、日の暮時分に戦ふへし、或は、草ふかき所にかくれて、敵を討へし、或は、せばき所にて戦へは、勝也
- 一愛戦は、大将たる人、常に兵をなづけ、愛して、恩をほとこし、めくみをたるれば、子の親を思ふことくに、日比の情を忘れずして、命を捨て、上の恩を報する也

- 一威戦は、大将の法度たゞしき時は、兵共、敵をおそれずして、我大将をおそるゝ也、此故に、敵にあふてにぐる」四ウ 事なく、よく下知にしたかひて戦ふ也
- 一賞戦は、兵共にあまたの知行をとらせ、多くの財宝をあたへて、常にねん比にする故に、矢をもおそれず、堀をもおそれず、城へ責入也、亦、鎧を合、さきがけをするも、皆、恩賞を請たる故也
- 一罰戦は、軍法きびしくして、そむくものあれば、必、罰科に行るゝ故に、すゞみ戦て、一足もひかぬ也
- 一主戦は、敵、もし、我か国へよせ来らは、かる／＼しく出あはで、戦ふへからず、能兵共をあつめ、城をまもり」五オ セつしよをふさき、敵に分取、監妨せられぬやうに^にして、敵の兵糧の道をさいぎるへし、敵、戦ふ事得ス、糧ともしく、兵つかるゝ処を見て、うては、敵、崩レ引也
- 一客戦は、味方より敵の国へよせむ時、なる程ふかく責入へし、都までも城までも、急に責め入力能也、如此なれば、よせて、かつ也
- 一強戦は、味方つよく、敵よはくは、わさといつわり、たばかりて、よはきていを見せて、敵をおそるゝやうにすれば、敵、誠そと心得て、思ひあなづりて、よせ」五ウ 来る所を、味方、精兵共をいたして、討勝也
- 一弱戦は、味方よはく、敵つよくは、味方、旗を所／＼にたてまし、陣屋を広くして、煙を多くあぐれは、敵より大勢かとうたかひて、急によせてきたらず、味方の勢の多少をしりがたし、其時、味方、引とりて、敵におはれぬやうにのくへし
- 一驕戦は、敵つよくさかなれば、たやすく戦ひかたし、味方よりいんぎんにへりくたりて、敵を崇敬し、さい／＼に音信のつかひをつかはして、敵の下にな^に」六オ やうにすれば、敵いよ／＼おごり、ほしいまゝにして、味方を何ともおもはずして、油断する所を速に討也
- 一交戦は、敵の隣国、中よくまじはりてあれば、たやすく戦ひかたし、さもなくは、敵の隣国を、こなたよりいひあいするやうに、使をやり、財宝をおくり、味方の与力とする時は、敵かならずやふるゝ也

- 一形戦は、敵、大勢ならば、味方あなたこなたより、責へきやうにしかけて、敵に人数をわけさせて、諸方のふせぎのためにやらする也、敵の人数す□□□」六ウ て、すくなくなる所をうかゝひ見て、味方、人数を只一手にそろへて、せめうつ時、必、勝也
- 一勢戦は、敵のくつれ、みたれんとする処を見て、必、そこをぬかさず、せめやふる也、くづれんとする勢は、たとへ^は象戯たおしのこことくたり、坂にて石車にのるかことし
- 一昼戦は、昼たゝかふ時は、旗のほりを多くたてあげて、大勢のやうに見する時は、敵おそれて近づきかたし
- 一夜戦は、夜の戦には、おほく火をあげ、松明をともし、金鼓をうちたゝく時は、敵の耳をおとろかし、目を」七オ まとはして、あはてさはぐ故に、味方うちかつ也
- 一備戦は、兵をいたす時に、行時は、敵、左右より来らんか、又、前よりむかひきたらんか、といふの用心有、とゝまる時は、敵、不慮におもひよらぬ所より、おそひ来らんかといふ用心有、陣をとる時は、盗賊、夜討のあらんかといふ用心有、風吹時は、敵より火をかけて、せめんかといふ用心有、此備へあれば、味方やふるゝ事なし
- 一粮戦は、敵、味方、互に城を持て戦ふ事あり、或は戦陣する事も有、勝負いまた決せず、粮^{〔註1〕}あるものは、必」七ウ 勝故に、味方の粮の道を□番を置いて、□□□れぬやうにして、又、敵の兵粮の道をば、ひそかによき兵をつかはし、さいぎりとゝむへし、敵、粮なければ、則亡フ
- 一導戦は、案内者をさきにたてゝ、山川のある所、ほそき道、ひろき路、遠き所、近き所などを、よくたつねしりて行也、敵、爰までは、よせくる事あたはじと、ゆたんする所へ、案内者あれば、せめ入て、戦ひ勝也
- 一知戦は、味方かねてより、敵の戦はんとするの陣場をしりて、又、敵のきたらん日限、時剋をかんかへ知也、是を」八オ すれば、味方、用意してまつゆへに、敵の来処ヲ、討テ勝也
- 一斤戦は、物見をさきへやる也、広き所にては、騎馬をやり、山路にては、あしのはやきかちのものをやるなり、五人つゝにくませて、白旗もたせて、いくくみも次第／＼

にやる也、敵のいへるを見て、そのまゝつけきたる故に、味方、其意得をする也

一沢戦は、我か兵ゆく時に、水辺、沢などの地形、あしき所ならば、陣とるへからず、二日路を一日にもゆきて、よき所におるへし、若、路もとをく、日も暮て、一」八ウ夜にても陣どりすべきならば、其沢、水辺の中にて、一所をゑらび、亀の甲のこつく、中たかなる所に、まんまるに陣をとるへし、自然に敵のよせくる事もあり、亦是、一夜の間に、俄に大水いつる事もあり、このふたつの用心のためなり

一争戦は、敵と味方の間に、先はやくとりて、兵をやりおくへき場あり、そこをとれば、敵より味方をせめかたし、若、敵のかたへとられば、味方ふた／＼とせむへからず、暫くまちて、敵の色めき乱るゝ所を見て、うつへし」九オ

一地戦は、山を越て陣をとるへし、うしろに山あれば、敵の急にきたらん事、あるへからず、又、谷にそふて陣をとるへし、谷に水も草もあれば、馬人のために便あり

一攻戦は、敵をやふるへきてたてを、よく分別して戦時は勝也、敵にかつへき道をしらずんは、みたりに兵を出すへからず

一守戦は、味方かつまじき理をしるときは、戦ずして、かたく我か陣をまもる也、敵にかたざれとも、味方まけされば、よく守の道也、さらは、其上に、かつ理を分別」九ウ して戦ふへし

一敵戦は、味方よき城をもち、又は、要害、堅固なれば、小勢にても大勢をうけ、よはけれとも、つよきにむかふ、されば、よき地形、よき城郭をもつ事、肝要也

一山戦は、山にて戦はゝ、味方たかき所におるへし、上るはかたく、下るはやすし、或は、上なるものは、下なるものゝ甲冑をきる、下なるものは、上なるものゝ内股、足内、かぶとをつき、きる程に、下なるもの、勝といへとも、それは、五人、三人、わたしあはする時の事なるへし」十オ 大勢の時は、かさより、まくりおとさるへし、又は、石をころはかし、大木をきりおとす事あれば、山の軍には、下よりあをのき、のほる事なかれといへり

一谷戦は、けはしき山をば、ゆきこえて、谷にそふへし、水くみ草をかるにもよし、又、用心にもよし

- 一先戦は、敵たゝいま来て、そなへもいまたさたまらず、陣屋もいまた定まらず、とりまぎれたる所を、味方、急にすゝんで、先うつ時は勝也
- 一後戦は、敵の備へも定まり、あらての兵、きほひ」十ウ いさまば、みかたかる／＼敷、戦ふへからず、暫かまへをかたうして、敵の気のくたびるゝ処を見て、討へし
- 一奇戦は、敵のゆたんして、おもひもよらぬ処を討也、前をせむるやうにして、後をうち、左をうつやうに見せて、右をせむれば、敵より、我はたらきをしらぬ故に、味方、勝也
- 一正戦は、敵をたばからんとすれとも、たばかられず、引てのかんとすれとも、のかれす、またんとすれとも、兵糧ともし、如此なる時は、我兵をゑらび」十一オ 馬、物具をそろへ、下知、法度を定め、上下、一味して、まつすくに敵にむかひ、すゝみ勝へし
- 一虚戦は、みかた、兵つかれ、糧ともしく、たゝかはゝ負へし、用心せん便もなしと思はん時は、わさと偽て、つよきてい、ようじんするていを、敵に見せて、てきのさとらぬやうに、我陣をひくへき也
- 一実戦は、敵、用心きびしくして、味方より討へきまもなくは、味方も又、用心をきびしくして待へし、敵、かる／＼しく働くへからず」十一ウ
- 一軽戦は、戦はんとする時は、必、敵、味方の位をよくはかり、分別して、兵を出すへし、其思案もなく、むさといさみたゝかへば、敵の為にやぶらるゝ也
- 一重戦は、大将いかにもおも／＼として、あはてさはぐへからず、勝へきを見ては働へし、疑かはしからん時は、うごくへからず、あはてされは、あやまちなし、是を不動如山ト云
〔註2〕
- 一害戦は、敵、みかた、国境を互に守る時、敵より我か境目へ来て、濫妨せば、味方より、要害の所所／＼の」十二オ せつしよに、伏兵をおき、亦、番を道に置時は、敵れうじに来る事なし
- 一安戦は、敵、遠くより来りて、其威きうに戦はんとするならば、味方いかにもしづま

りて、出あふへからず、敵の草臥つかるゝをまちて、出て討へし

一危戦は、我兵、陣場あしき所に有て、敵、よき場より、攻来らば、味方、大将も諸卒も、いきてかへるへからずと、思ひきり、戦ふ時は勝也

一死戦は、敵つよくさかんにして、我か兵は一味せず、又」十二ウ 大将の下知をもきかぬ程ならば、我か兵を死地に置へし、死地とは、引てのく事ならぬ所にて、戦かはで不叶場也、此時、大将うしをころして、兵にくわせ、兵糧をも焼捨、陣屋のなべかまをも打わり、水辺ならば、舟筏をもやきすて、再ひいきてかへらぬやうに、思ひ定めさせて、戦ふ時は、是を、出万死逢一生といふ也

〔註3〕

一生戦は、我陣場もよく、人数もそろひ、法度もおこなはれ、備も定り、いつもよけれとも、大将」十三オ たる人、もし、虎口にのそみて、敵をおそれて、いさみなくして、命をおしむ心あれば、必、敵の為に破らるゝ也

一饑戦は、敵国へ攻入時に、味方の兵糧、わら草ともしき時は、兵をわけて、濫妨さすへし、敵の糧ある土蔵を取るを、本とす、我本国、遠ければ、兵糧はこひかたし、敵の兵糧をとりて、我か兵糧とするは、他国をせむる時の肝要也

一飽戦は、敵、遠く来りて、兵糧なければ、敵うへて、味方はあけり、此時は、味方、城を守りて、出へからず、しはら」十三ウ く日数をふるほとに、敵つかれて引所を、味方、騎馬の兵をつかはして、おいうつ時は、必、勝也

一営戦は、敵まつよき陣場を取ておる時は、味方おくれて戦んとするに、苦勞する故に、敵にやぶらるゝ也

一佚戦は、一旦、敵に勝といふとも、ほしいまゝに怠るへからず、一度勝て、弥、用心きひしくして、猶も敵のおこりて、ゆたんする所を待て、うつへし

一勝戦は、味方、勝にのるとも、必、おごるへからず、大将おこれは、敵をあなとる故に、諸卒も懈怠するなり」十四オ 昼夜ゆたんなく用心して、敵を待へし

一敗戦は、味方、一往まけたりといふとも、敵をおそれて、臆病かみのたゝぬやうにすべし、無念、口おしき事とおもひ、兵をはげまし、武具をとゝのへて、敵のゆたんす

る所をうちて、かつへき也

一進戦は、敵にかつへき理を、あきらかにしるならば、すみやかにすゝみかゝりて、もし、かゝらんか、かゝるましきかと、案する内に、時剋をうしなへば、利をえぬ也

一退戦は、敵、大勢にて、味方、小勢也、亦、味方の地形もあし」十四ウ くは、敵とあらそふへからず、急に引取て、我か兵をそこなはぬやうにすへき也

一挑戦は、敵、味方、対陣の時、互にらみあいて、たい／＼ならば、足かるをかけて、敵をいとみ出すへし、かねて伏の兵をおきて、敵、出て、足かるをおはん時に、伏の兵を出して、討へし

一致戦は、味方、居ながら、ほねをおらずして、敵の来るやうにしかくる也、敵は遠く来りて、兵つかれ、そろはぬ所を、味方よき場に待請て、我勝手に」十五オ ひきかけて討ち勝也

一遠戦は、敵、味方、水をへたてゝおる時に、味方、ちかき瀬をわたらんとするやうに見せて、舟筏をあつむれば、敵、是を見て、爰をわたさじと、一所にあつまり、ふせがんとする也、其時、味方とをき瀬にかはりて、敵のうしろへ攻入、勝也、遠き瀬に、若、舟なくは、竹、木、芦、かや、すゝきなどをあつめ、くみていかだとして、わたるへき也

一近戦は、水をはさみて陣をとる時に、みかたちかき」十五ウ 所をせめんとおもはゝ、まつ敵をたばかりて、あなたこなたより、せむへきやうに見せて、遠き所をわたらんとするやうにすれば、敵兵をわけて、方／＼をふせがんとする所を、味方近き瀬を、まつすぐにわたりて、うちかつ也

一水戦は、岸の辺に陣をとりて、戦ふ也、水に遠ざかりておるへし、敵、水をわたして来らば、敵の兵の半分わたる所を見て、あとの兵とものつゝかぬ間を討へき也、味方、戦はんとおもはゝ、水に遠ざかり」十六オ 敵のわたしくるやうにすへし、味方、戦ふまじきと思はゝ、水きわにそふて、敵のえわたさぬやうに、ふせくへき也

一火戦は、敵の陣場、草も有、かや、竹などもあらん所を見て、天気よく、風のふくにまかせて、火をつくるなり、敵さはぐ所を、兵を以てうち勝也

一緩戦は、城をせむる時に、堀ふかく、石かき高ければ、急にせめかたし、三月の間、せめ道具をこしらへ、亦、三月の間、地をほりて、城のきはへ路をつけ」十六ウ て、矢のあたらぬやうにもつたて、亀の甲などは、ものにてせめよする也、六月程は、てま入也、それを待兼て、急にせむれば、よせて多くうたれて、城おつへからず、只そとより加勢なく、内には、兵糧つくるやうにすれば、敵かならず落城す

一速戦は、城をせめ、陣をかこまん時に、敵の兵糧も多く、亦、よそよりのすけもあらん時には、なる程急にせめうちて、時剋をうつさず、すけのこぬさきに、うちかつへし、是は、よせて多勢にて、城中、小」十七オ 勢の時の事也

一整戦は、敵の陣も定り、備もとゝのをりてあらむ時は、味方かる／＼しく戦ふへからず、しばらく敵のうごかん所を見て、うつへし

一乱戦は、敵の陣もさたまらず、備へもさはぎ乱れば、味方、急に出て、戦ひかつへし

一分戦は、味方、大勢にて、敵、小勢ならば、広き場へおびき出して、戦ひ勝へし、又、たとへば、味方、五千人にて、敵、千人あらば、三千を以て、まつすくに敵に」十七ウ むかはせ、二千を以て、左右より横にうつへし、所により、時によりて、敵のうしろへまはす事もあるへし、亦、味方、三千にて、敵、千人あらば、二千を以て、敵にむかひ、残る千をわけて、左右よりなりとも、うしろよりなりとも、せめうつへき也

一合戦は、兵をわくれば、いきほひよはし、兵をあつむれば、いきほひつよし、是、常の事也、味方、兵を諸方へわけておかん時に、敵、大勢にてせめきたらば、思ひ切て、敵の大將のまん中を討へき也」十八オ

一怒戦は、味方の兵ともを、はげましすゝめて、敵を恨み、腹立さする時に、出て戦へば、勝也

一気戦は、大將も兵なくては、戦ふ事あたはず、兵も血気なくては、戦ふ事あたはず、血気をさかんにするものは、太鼓をうつ声也、敵と味方との間、一町と二町の内にて、よき大將、太鼓をうちてかゝる時は、兵すゝみ、血気さかんにして、必、勝也、太鼓なき時は、鬨の声をあくへし

- 一逐戦は、敵のにぐるを迫時に、真実に逃るか、偽て」十八ウ 逃るかとは分別すへし、旗もみたれず、太鼓、金もそろふてひかば、くづるゝにあらず、たはかりて逃る也、伏の兵かくれてあるへし、追へからず、もし、敵の旗も、あとさきにみたれ、太鼓、金もそろはず、兵もまばらににけば、誠に逃るそと、追かけ討へし
- 一帰戦は、敵、何の子細もなく引かへさば、定てくたびれつかれて、兵糧なき故也と知て、よき兵をつかはし、追うつへし、もし、又、故郷をしたひ、父母、妻子を思ふて帰る兵は、帰らんと思ふ心さし、はなはた切なる故」十九オ に、むかふさまにとゝめかたし、よこさまにうつへし
- 一不戦は、敵多く、味方すくなく、敵つよく、味方よはく、敵、兵糧多く、味方」糧ともしくは、戦ふへからず、味方の陣をかたふして、敵のすきまあらん所を待て、戦ふへし
- 一必戦は、味方ふかく、敵国の境へいらん時に、敵、城を守りて出あはず、味方くたびるゝやうにせんとする時は、敵のきらふ所をせめ、其本城へよせかゝり、二たひいきて帰るましきと、おもひきる躰をしめせは」十九ウ 敵ふせぎたゝかはてはかなはず、其時、いさみすゝんて、うちかつへし
- 一避戦は、敵つよく、我よはくして、敵きほひ来る時は、其いきほひ、はなはたしき故に、味方とりあふへからず、敵のつかるゝを見て、うつへし
- 一困戦は、城をかこまん時は、三方をとりまきて、一方をばあけておくへし、城中の兵、逃所ありと思ふ故に、思ひ切てふせぎ戦かはす、三方よりきうに責れば、城の兵、一方より落行故に、城をせめ落す也」二十オ
- 一声戦は、味方、声をあくる也、東にて時の声をあげて、西よりせめ、左より声をあげて右よりうつ、南北前後も、亦、かくのことし、いつくをふせがんといふてだてをさとらずして、まよふ所を、味方うち勝也
- 一和戦は、たゝかふ時に、先、使者をやりて、あつかひをして、軍をやめんといふ、亦、重て別の使者をやりて、何かといひまぎらかす故に、敵、必、ゆたんする也、其時、味方、急に兵をいだして、うちやふる也

一受戦は、敵は大勢、味方は小勢なる時に、敵、俄に□」二十ウ 城をかこまば、あはてゝのくへからず、味方の陣をまんまるにして、敵にむかふへし、敵より、城の三方をとりまきてせめば、城中には、其一方をかこまぬ所を、中よりふさいで、城の兵にけぬやうにすれば、味方、心を一にして、こゝを肝要と、ふせぎまもる也、さて、よせてのすき間を見て、出てうては、勝也

一降戦は、敵人、降参せば、必、まつ其人の真実か偽かと、ねんころにしるへし、所／＼の物見をいましめ、日夜、ゆたなく用心して、降参の人を請ケ取ル」二十一オへし、聊爾にすへからず

一天戦は、悪人をうちて、万民をすくふ事は、天の道也、必しも、日をゑらひ、時を定るにはあらず、君くらく、政乱れ、臣下おごり、民くるしみ、罪なきものをころし、賢人をしりぞけ、小人をちかつけ、日てり、大水ありて、百姓、飢饉に及はん時には、兵をいたし、其国をうつへし、日ゑらひて戦ふと云事は、兵書にある事なれとも、吉凶は、人によりて、日によらず、此道理、大将一人よく心得て、用ふへし、□」二十一ウ 軍勢は、おろかなるもの多ければ、一／＼にしるへからず、今日の軍こそ、方角もよけれ、日もよきぞといへは、弥いさみすゝみて、おそれあやふむ心なし、是亦、兵を用る手たて也

むかし、周の武王、甲子の日に、殷の紂をうちほろほされければ、後世に、甲子の日は、紂かほろひたる日也、いくさをいたすへからずといふを、後魏の武帝のいはく、さやうにはあらず、甲子の日、紂まくれば、武王かてり、しかれば、紂かためには、悪日にて、武王の為には吉日也と」二十二オ 云へり

一人戦は、天と人との間をおしはかりて、あやしきたたりをもやぶる也、或は、大将の旗竿に、梟のとまる事もあり、或は、門出の酒をのむ時に、盃の内にて血色となる事も有、或は、風吹て、旗をふきをる事も有、か様の事、たとひあるといふとも、大将一人、心中に何のあやしみもなく、少しも気にかゝる事なくして、兵をいたすことは、善を以て悪をうち、すぐなるを以てまかれるをうち、道を以て」二十二ウ 無道をうち、賢を以て愚をうつためなれば、何のうたかひかあらんや

むかし、太公望、武王の臣として、殷の紂をうつ時に、亀の甲をやき、めどをたててうらなへば、不吉也といふ人あり、太公望いかつて、くちたるかめから、かれたるめどぎ、なんぞ吉凶をしらんやといふて、亀の甲をうちわり、めときをうちおりて、馬をいたして行時に、俄に大風、武王の旗をふきおる、諸人いかゝといひければ、太公望、すこしもあやしむへからずといふて、すゝみかゝ」二十三オ り、はたして、殷

の紂を討ほろほしぬ

一難戦は、大将の道は、諸の兵と、苦をも楽をも、とも／＼におなしくすへし、人をすつへからず、あやうきにあふても、我ひとり、たすからんとおもふへからず、諸人のためをあしからぬやうにして、同心一味してたゝかへば、勝也

一易戦は、敵あまた所に陣をとりてあらば、其内のよき所、小勢なる所をゑらひ、うかゝいてうつへし、是まづやすき所より、戦ひはしむるの法也」二十三ウ

一離戦は、敵の隣国の中かあしきと、君臣、上下のお□ひあはぬ所を、きゝうかゝひて、味方より、よきこうの入たる物見をつかはし、敵のうちわのわるゝを見て、こなたよりせめうつ也

一餌戦は、ゑを以て魚をつりとることく、敵をたます也、たとへは、陣屋のくい物にとくを入れて、のく時に敵来て、其くい物をくふて、毒にあたる、或は、牛馬をはなちすてゝ、敵のうばいとるを見て、味方より兵を出し、討ことも有、或は、財宝をすて、或は」二十四オ 車に物をつみて、敵にとらるゝやうにして、敵、濫妨する処をうつ也、或は、きこり、草かりを出して、敵にふんとりせらるゝやうにしかけて、こなたよりうつを、餌戦と云

一疑戦は、森林の間、亦是、草木のしげりたる処に、多く旗のほりをたて、兵のあるやうにして、敵誠そとおもひて、東を用心すれば、味方、西より討、敵前を用心すれば、味方より、敵のうしろを責て、戦勝也、亦或は、味方ひかんとおもふ時は、敵にお□れまじ」二十四ウ きために、陣に人のあるやうにして、退事も有り

一窮戦は、味方、大勢、敵、小勢なれば、敵おそれて、たゝかはずしてのく也、それをきつくおつつめて、のがさじとする時は、敵かへりて、命を捨てゝ戦ふ故に、味方、勝かたし、我兵をそろへて、しつ／＼と討時は、勝也

一風戦は、順風にまかせて敵をうつ時は、風のいきほひにのりて、うちかつ也、或は、逆風にあふ時は、敵の用心せぬ方へまはりて、うつへし、亦、或は、火をかけて、せむる事もあり」二十五オ

一雪戦は、戦はんとする時に、大雪ふりてやまずんは、敵、此雪にはきたるへからすと、

ゆたんする所を、味方、しのびやかに兵をつかはして、討也、或は、夜討にしても、勝事あり

一養戦は、味方、一度も二度も戦ひまけて、兵くたひれたらば、よく其血気をやしなふへし、血気さかんならん時に、いよ／＼ねんころにことばをかけ、物をくわせて、なさけをほどこして、はけましますゝむへし、如此すれば、兵の氣あたらしく成て、いさみ戦ふ也」二十五ウ

一畏戦は、我陣に臆病のもの有て、太鼓をきゝてもすゝまず、金をきかぬさきに、先しりそくもの有り、か様のものをば、とらへきたりて、諸人の見せしめとすへし、若、諸軍勢、こと／＼く敵をおそれば、人、人を皆きりかたし、人を多くすれば、我陣のいきほひもへる也、此時には、大将すこしもおそるゝけしきなく、顔色をやはらげ、諸人にむかつていふやうは、戦にかてば、命もいき、国家もやすし、もし、まくれば、命もうしなひ、国家もやふ□」二十六オ 何故に人／＼は、敵をおそれて、戦んとする心なきや、戦ひ勝てこそ、あるものには、恩賞多くあたふへし、如此云ならば、人／＼、心をかためて戦ふ^[註4]へし

一書戦は、戦にのそむ時に、兵ともに、故郷、親類のもとより来るふみを、見すへからす、往来の事、雑説あれば、何かといひまはりて、人の心まとふ也、只、兵の心を一にして、戦かはしめんため也

一好戦は、兵はめてたき物にあらず、やむ事をゑずして戦ふ也、国のやすきもあやうきも、人のいくるも」二十六ウ しぬるも、是にあり、兵をおさめすして、もてあそび物のことくに、みたりにこのめば、必、大乱とな□也

一変戦は、たゝかひの道は、変をするをかんようとす、つねにさためかたく、敵により、所によりて、其手たて一やうならず、うつりかはりてむかふを、へんと名つく、たとへは、さむきがあつくなり、昼か夜になり、有物のなくなり、なきものゝ、俄に有がこときを、変化といふ、其ことく、兵の道は、敵のうごき、働く所によりて戦ふ、我か手だてのかはるを、変」二十七オ 戦といふ

一忘戦は、やすき時に、あやうからんことをわすれず、おさまる時に、みたれん事を不忘といへるは、聖人のをしへ也、天下、無事なる時に、武勇のそなへ、必、あるへし、是、静かなる時、戦の道をわすれさるときは、いよ／＼長久にしつかなるへし

以上戦法百个条

右百戦奇法は、李氏か武徳全書、章氏か図書編にのせたり、其もとは、四書、五経、七書の」二十七ウ 内より出たり

羅山子

(八行空白)」二十八オ

注1 「戦」の右側に「対」と訂正文字有り

注2 訓点、送り仮名の校訂有り

注3 同上

注4 「こそ」の右側に「功」と訂正文字有り

〔研究論文〕

夏目漱石『虞美人草』を読む —藤尾の人物造形とその死をめぐる—

橋元志保

I. はじめに

『虞美人草』は、夏目漱石の小説の中でも毀誉褒貶の激しい作品である。明治40年に漱石が東京帝国大学講師を辞職し、朝日新聞社に入社して初めて書いた新聞小説であったために、一般の読者からは好評を博し、三越呉服店は「虞美人草浴衣」を、天賞堂は「虞美人草指輪」を売り出すような騒ぎであった。⁽¹⁾しかしながら、同時代から正宗白鳥をはじめとする一部の批評家には酷評されており、その美文や「勸善懲悪」といった馬琴調の旧さや、唐突な藤尾の死に代表されるプロットの不自然さ、構成上の破綻等が度々指摘されてきた。⁽²⁾現代でも、石原千秋は「華麗なる失敗作である」⁽³⁾とまで言い切っており、漱石の長編小説の中でもあまり評価の芳しくない作品といえよう。

本論では、ヒロインである藤尾の人物造形及び悲劇の構造に注目し、なぜ漱石が構成上の破綻を招いても、あくまでも「悲劇」を描くことにこだわったのか、その理由について考察したい。また、ヒロインの藤尾の人物造形には古代エジプトの女王クレオパトラのイメージが付与されているが、本文にヘレニズム時代の逸話が引用され、物語の展開上重要な役割を果たしている点にも注目し、併せて考察することとしたい。

II. 藤尾の人物造形について

『虞美人草』のヒロインである甲野藤尾は、次のようにプルタルコス『英雄伝』の一節を読みながら登場する。

静かなる昼を、静かに葉を抽いて、箔に重き一卷を、女は膝の上に読む。

「墓の前に跪づいて云ふ。此手にて—此手にて君を埋め参らせしを、今は此手も自由ならず。捕はれて遠き国に、行く程もあらねば、此手にて君が墓を掃ひ、此手

にて香を焚くべき折々の、長しへに尽きたりと思ひ給へ。生ける時は、莫耶も我等を割き難きに、死こそ無残なれ。羅馬の君は埃及に葬むられ、埃及なるわれは、君が羅馬に埋められんとす。君が羅馬は一わが思ふ程の恩を、憂きわれに拒める、君が羅馬は、つれなき君が羅馬なり。去れど、情だにあらば、羅馬の神は、よも生きながらの辱に、市に引かるるわれを、雲の上より余所に見給はざるべし。君が仇なる人の勝利を飾るわれを。埃及の神に見離されたるわれを。君が片身と残し給へるわが命こそ仇なれ。情ある羅馬の神に祈る。—われを隠し給へ。恥見えぬ墓の底に、君とわれを永劫に隠し給へ」⁽⁴⁾

(二の一 第六回)

東北大学附属図書館漱石文庫所蔵の漱石の旧蔵書の中にはJ・ラングホーン英訳のブルタルコスの『英雄伝』が現存するが、野谷 士の調査により漱石は、シェイクスピアが『アントニーとクレオパトラ』の原作として使用したノース英訳の同書も参考にしたことが判明している。⁽⁵⁾ 上記の文章は漱石による翻訳であり、古代ローマの将軍「アントニウス」の章の終盤からの抜粋である。熱愛する恋人であり、政治的にも強力な後ろ盾であったアントニウスを失ったエジプトの女王クレオパトラがその死を嘆き悲しみながら、勝利者であるオクタヴィアヌスの捕虜としてローマの都に無理やり連れ去られようとしている我が身を嘆く場面である。

小説『虞美人草』の物語時間は明治時代末期であり、いくら東京帝国大学を優等の成績で卒業した小野清三から個人教授を受けているとはいえ、英訳の『英雄伝』を読めるとは、藤尾は当時としては稀有な女性として描かれていると云って良いだろう。そのうえ藤尾は美しく、「春を抽んずる紫の濃き一点を、天地の眠れるなかに、鮮やかに滴たらしたるが如き女である」という。「青白き頬の締れるに、薄き化粧をほのかに浮かせるは、一重の底に、余れる何物かを蔵せるが如く、蔵せるものを見極はめんとあせる男は悉く虜となる」とも語られている。

教養ある男性と対等に文学談義ができる才気と語学力を併せ持つ「読書する女」として登場した藤尾は、一方でまた良家の女性としての規範を逸脱する負のイメージも付与されている。藤尾は他の登場人物と比較すると圧倒的に「美文」で語られることが多く、「美文」によって彼女は「妖婦」に仕立て上げられているという水村美苗の指摘は正しいであろう。⁽⁶⁾ 藤尾の「春に居て春を制する深き眼」は魔力さえ秘めており、「死ぬる迄我を見よ」と男性に迫り、彼女と味わう「桃源郷」は死の世界だとさえ語られるのである。

つまり、藤尾の人物像そのものが現実の明治女性とはあまりにも懸け離れており、中山和子が「藤尾ははじめから、生身の女であるより『紫』のメタフォアとしての女であ

る」⁽⁷⁾と述べたのも首肯できるのである。「女に学問をさせると縁が遠くなる」⁽⁸⁾と言われた封建時代とは隔世の感のある文明開化の時代ではあったが、女性の勉学や読書がそれほど推奨されていたわけではない。後に文筆家となった長谷川時雨も少女時代には度々親から読書を戒められたと述べている。⁽⁹⁾

明治時代において女性の教育はあくまでも良妻賢母を育てるためにあるとの思想が支配的であった。それゆえ藤尾は、同時代の読者の側に存在するようなりアリスティックな女性というよりは、むしろ物語世界にだけ存在するような「性格」^{キョウゲク}を持った女性として描かれている。漱石は、その小説の女性像に先行する様々な文学や絵画のイメージを付与することの多い作家であるが、藤尾にはひときわ華麗で高貴な女性のイメージを重ね合わせた。彼女が手にしている「箔に重き一卷」に登場する古代エジプトの女王クレオパトラである。しかも藤尾が登場と共に読み耽るのは、『英雄伝』の古代ローマの將軍「アントニウス」の章の終盤であり、クレオパトラが勝利者であるオクタヴィアヌスの凱旋式の捕虜としてローマに連れ去られる運命を恐れ嘆きながら、心密かに死を決意し始める場面である。⁽¹⁰⁾

「此女は羅馬^{ろうま}に行く積なんでせうか」

女は腑に落ちぬ不快の面持で男の顔を見た。小野さんは「クレオパトラ」の行為に対して責任を持たねばならぬ。

「行きはしませんよ。行きはしませんよ」

と縁もない女王を弁護した様な事を云ふ。

「行かないの？私だつて行かないわ」と女は漸く納得する。小野さんは暗い^{とんねる}隧道を辛うじて抜け出した。

(二の二 第七回)

藤尾が英訳のプルタルコスの『英雄伝』を正確に読み取り、クレオパトラの心情を良く理解していることが看取できる。しかも以前から辞書等を使用して丹念に読み解いてきたわけではなく、甲野家を訪れた小野が携えて来た同書を「箔美し」と喜んで「男の手から挽ぎ取る様にして、読み始めた」のだという。藤尾の教養のある男性並みの優れた語学力が提示されている。その上、外出していた母が帰宅し小野と会話を始めると、彼等の傍らで藤尾は再び読書に没頭するのである。

「花を墓に、墓に口を接吻して、憂きわれを、ひたふるに嘆きたる女王は、浴湯をこそと召す。浴みしたる後は夕餉をこそと召す。此時賤しき^{こもの}厠卒ありて小さき籃に無花果を盛りて参らす。女王の該撒^{しがいざあ}に送れる文に云ふ。願はくは安^{あん}図^と尼^{にい}と同じ墓

にわれを埋め給へと。無花果の繁れる青き葉陰にはナイルの泥に焰の舌を冷やしたる毒蛇を、そつと忍ばせたり。該撒の使は走る。鬨を排して眼を射れば——黄金の寢台に、位高き装を今日と凝らして、女王の屍は是非なく横はる。アイリスと呼ぶは女王の足のあたりに此世を捨てぬ。チャーミオンと名づけたるは、女王の頭のあたりに、月黒き夜の露をあつめて、千顆の珠を鑄たる冠の、今落ちんとするを力なく支ふ。鬨を排したる該撒の使はこは如何にと云ふ。埃及の御代しろし召す人の最後ぞ、斯くありてこそと、チャーミオンは言ひ終つて、倒れながらに目を瞑る」

埃及の御代しろし召す人の最後ぞ、斯くありてこそと云ふ最後の一句は、焚き罩むる鍊香の尽きなんとして幽かなる尾を虚暝を曳く如く、全き頁が淡く霞んで見える。

(二の六 第十一回)

野谷 士によると、漱石はこの文章の前半部分をラングホーン英訳のプルタルコス『英雄伝』を、「鬨を排して眼を射れば」以下の後半部分をノース英訳の同書とシェイクスピアの『アントニーとクレオパトラ』を参考に訳出したという。⁽¹¹⁾ 女王クレオパトラの死因は自死であるが、その真相は不明であり、ただその立派な最期にオクタヴィアヌスも感服し、その遺骸を女王にふさわしく盛大にアントニウスと共に葬ったとプルタルコスは述べている。

また、「埃及の御代しろし召す人の最後ぞ、斯くありてこそ」という言葉は小説の中で「ルフランのように繰り返され、最後には藤尾その人の死方を告げる言葉ともなる」⁽¹²⁾と平川祐弘が述べているが正にその通りであろう。平川論をはじめとする多くの先行研究が指摘するように、藤尾は女王クレオパトラと自己を同一視しながら物語に登場する。もしくは語り手がそのようにクレオパトラと藤尾を結び付けて、「妖婦」「紫の女」の物語を語ろうとするのである。

「沙翁しえくすびやの描いたクレオパトラを見ると一種妙な心持ちになります」

「どんな心持に？」

「古い穴の中に引き込まれて、出る事が出来なくなつて、ぼんやりしてゐるうちに、紫色のクレオパトラが眼の前に鮮やかに映て来ます。剥げかゝった錦絵のなかゝら、たつた一人がぱつと紫に燃えて浮き出して来ます」

「紫？よく紫と仰やるのね。何故紫なんです」

「何故つて、さう云ふ感じがするのです」

「ぢや、斯んな色ですか」と女は青き畳の上に半ば敷ける、長き袖を、さつと捌いて、小野さんの鼻の先に翻へす。小野さんの眉間の奥で、急にクレオパトラの臭が

ふんとした。

(二の二 第七回)

帝政ローマの最盛期を生きた伝記作家プルタルコスが伝えるクレオパトラと、イギリス・ルネッサンス時代の劇作家シェイクスピアが描いたクレオパトラではその人物像に大きな差異があるが、それは全く無視され、飛躍する詩人の小野の想像力と共に語り手は藤尾を「紫の女」「クレオパトラ」と結び付けて語ろうとする。当の藤尾は小野との会話も中断して、手にしたプルタルコスの『英雄伝』を再び読み始め、母から何度も名前を呼ばれてもなかなか気づかず、容易に現実世界には戻れない程夢中になってしまっている。

読書する恋人たち、もしくは読書がきっかけで恋に落ちようとしている男女を漱石は好んで描いた。例えば、『草枕』ではメレディスのロマンティックな小説を画工が那美に読んで聞かせ、『三四郎』では美禰子と三四郎が人魚の絵が描かれた画集を一緒に覗き込む。有名なダンテの『神曲』のパオロとフランチェスカの読書の条りを挙げるまでもなく、同じ一つの本を楽しむことが男女の物理的な距離だけでなく、その心情をも近づけるからである。

しかし、『虞美人草』に描かれた読書はやや違った機能を持っているのではないだろうか。また、漱石は何故シェイクスピアの『アントニーとクレオパトラ』ではなく、プルタルコスの『英雄伝』を藤尾に読ませたのだろうか。シェイクスピアの戯曲は韻文であり、読んでわかりやすく耳にも心地良い。恋に落ちようとする男女が読むにはふさわしい書物であろう。逆に『英雄伝』は古代ギリシア・ローマの著名な人物の伝記であり、似たところのある人物を一人ずつ組み合わせていることから『対比列伝』とも呼ばれている。現存するのは22組の伝記であり、例えばアントニウスの対の相手はマケドニア王デメトリオスである。ちなみにクレオパトラの最初の後ろ盾であり恋人でもあったカエサルはアレクサンドロス大王と対になっている。シェイクスピアが同書を材料として『アントニーとクレオパトラ』だけでなく『ジュリアス・シーザー』『コリオレイナス』等のローマ史劇を書いたことは有名であるが、近代のヨーロッパでは広く読者に愛読されていたらしい。著名な愛読者として、モンテーニュ、モンテスキュー、ルソー、フリードリッヒ2世、ナポレオン、ゲーテ、シラー、ベートーヴェン等が挙げられるという。⁽¹³⁾もちろん、明治時代からは日本の知識人や青年たちにも愛読されるようになる。『虞美人草』の連載が始まる前々年の明治38年頃には、いずれも抄訳であるが、森晋太郎訳『プリーターク英雄伝』全5巻をはじめとする3種の翻訳本が刊行されている。⁽¹⁴⁾

つまり、プルタルコスの『英雄伝』は知識層や男子学生を中心に日本でも愛読者が生まれつつあったが、その全巻を読むとなると英訳本か仏訳本を読むしかない状況であっ

た。また、読者の多くは日本のみならず西洋でも男性中心であったようである。この点がシェイクスピアの読者とは大きく異なる。シェイクスピア劇の観劇や戯曲を読むことを楽しむ女性たちは16世紀末から、つまりはその作品の成立時から存在したからである。⁽¹⁵⁾

それゆえ、夢中になって『英雄伝』を読み耽る藤尾の姿は、当時の女性としては非常に珍しいものであっただろう。小野と語り手は、その藤尾の姿をクレオパトラとの同化や共鳴であるかのように語るが、一方でそれはまた藤尾の類まれな語学力や歴史・物語に強い関心を示す「性格」を提示している。また、シェイクスピアの『アントニーとクレオパトラ』には、クレオパトラがアントニウスの墓に詣でる場面がない。そのうえシェイクスピアの描いたクレオパトラと、プルタルコスが伝えるクレオパトラ像には大きな差異がある。後述するが、おそらく藤尾の高い語学力もプルタルコスの語るクレオパトラの素晴らしい語学の才を模しているのである。しかし、シェイクスピアのクレオパトラはアントニーを夢中で恋する女としての発言が多く、多彩な言語を操って外交能力を発揮する場面はほとんどないと云って良い。つまり、気高い女王、辱めを受けるならば死をも選ぶ、というような誇り高さや意志の強さをより感じさせるのは、プルタルコスのクレオパトラである。

ゆえに、『虞美人草』においては2冊のクレオパトラに関する著作が提示されながらも、最初に本文に直接引用され、また藤尾が愛読し、小野から借用したまま亡くなるまで所持していた書物であることから、プルタルコスの『英雄伝』の重要性はシェイクスピアの著作より勝っていることが看取できよう。また、紀元1世紀後半～2世紀初頭にプルタルコスの記述が生み出したプトレマイオス王朝の最後の女王の姿が、最も古く、そしておそらく史実に近い、クレオパトラ像であろう。そして、その後生み出された、数々の文学や芸術の源泉になっていることは間違いない。次節以降では、このクレオパトラ像の変遷やヘレニズム時代の逸話の引用に注目しながら、藤尾に何故クレオパトラのイメージが投影されているのか、その意味について考察してみたい。

III. ヘレニズム時代と「ゴーチアン、ノット」の引用

エジプトのプトレマイオス朝の最後の女王として名高いクレオパトラ7世は、紀元前69年頃にアレクサンドリアでプトレマイオス12世の娘として生まれた。アレクサンドロス大王の死後、その後継者たちが帝国の分割・統治を行ったが、プトレマイオス朝はその一つであり、紀元前3世紀に全盛期を迎え、クレオパトラの時代には弱体化していた。度重なる政争や王位継承をめぐる近親者同士の暗殺、被支配者層であるエジプト人の反乱、そして軍事大国ローマの侵攻等に因る。クレオパトラがその王権を確立するた

めに、最初はカエサルと、次にアントニウスと同盟を結び、また愛人関係に陥ったことは有名な史実であるが、限りなく作られ拡散していく様々なイメージによって本来はどのような女性であったのかが、見えにくくなっている歴史的人物の一人であろう。⁽¹⁶⁾

有名なパスカルの言葉「クレオパトラの鼻、それがもう少し低かったら、大地の全表面は変わっていたであろう」⁽¹⁷⁾を引用するまでもなく、その存在が一国の政治にすら影響を与えた、いわゆる「傾国の美女」とされている。『虞美人草』の藤尾は美文によりこのクレオパトラのイメージと結び付けられ、死に値する罪を犯した「私の女」として自死に追い込まれる。しかしながら、小谷野 敦が述べているように、『虞美人草』は、「古今東西にわたる文学的記憶が多彩に重なりあい、入り乱れている『キメラ』状の文学作品」である。タイトルの『虞美人草』自体が中国の虞美人の伝説から付けられたヒナゲシの別名であるし、正宗白鳥が述べたように曲亭馬琴の『八犬伝』、浄瑠璃・歌舞伎に描かれた「傾城」のイメージとしての「高尾太夫」等、日本・中国の古典からの影響だけでも多岐にわたる。また、前述のようにプルタルコス『英雄伝』やシェイクスピア『アントニーとクレオパトラ』及び『ハムレット』、そしてメレディス『エゴイスト』、イブセン『ヘッダ・カブラー』等、直接・間接を問わず、西洋の文献からの引用や影響も極めて大きい。⁽¹⁸⁾

だが、特に西洋の文献からの引用を辿ると、ある事実気づく。小説の展開上、重要な役割を果たしていると思われる、藤尾の異母兄の甲野欽吾とその遠縁の宗近 一との次のような会話がある。

「君、昔話しにゴーチアン、ノットと云ふのがあるぢやないか。知つてるかい」
「人を中学生だと思つている」
「思つてゐなくつても、まあ聞いて見るんだ。知つてるなら、云つてみる」
「うるさいな、知つてるよ」
「だから云つて御覧なさいよ。哲学者なんてものは、よく胡魔化すもので、何を聞いても知らないといふ出来ぬ執念深い人間だから、……」
「どつちが執念深いか分りやしない」
「どつちでも、いゝから、云つて御覧」
「ゴーチアン、ノットと云ふのはアレキサンダー時代の話しさ」
「うん、知つてるね。夫で」
「ゴーチアスと云ふ百姓がジュピターの神へ車を奉納した所が……」
「おやおや、少し待つた。そんな事があるのかい。夫から」
「そんな事があるのかつて、君、知らないのか」
「そこ迄は知らなかつた」

「何だ。自分こそ知らない癖に」

「ハ、ハ、ハ、学校で習った時は教師が其所迄は教へなかつた。あの教師も其所迄は屹度知らないに違ない」

「所が其百姓が、車の轆と横木を蔓で結ひた結目を誰がどうしても解く事が出来ない」

「なある程、夫をゴーヂアン、ノットと云ふんだね。さうか。其結目をアレキサンダーが面倒臭いって、刀を抜いて切つちまつたんだね。うん、さうか」

「アレキサンダーは面倒臭いとも何とも云やあしない」

「夫りやどうでもいゝ」

「此結目を解いたものは東方の帝たらんと云ふ神託を聞いたとき、アレキサンダーがそれなら、かうする許りだと云つて」

「そこは知つてるんだ。そこは大学の先生に教はつた所だ」

「それぢや、夫でいゝぢやないか」

「いゝがね、人間は、それなら斯うする許りだと云ふ了見がなくちや駄目だと思ふんだね」

「それも宣かろう」

「それも宣からうぢや張り合がないな。ゴーヂアン、ノットはいくら考へたつて解けつこ無いんだもの」

「切れれば解けるのかい」

「切れれば——解けなくつても、まあ都合がいゝやね」

「都合か。世の中に都合程卑怯なものはない」

「するとアレキサンダーは大變卑怯な男になる訳だ」

「アレキサンダーなんか、そんなに豪いと思つてるのか」

(三の一、第十二回)

やや長い引用となったが、小説の冒頭部で示された、京都に旅行に出かけた宗近と甲野の宿屋での何気ない会話と思われるこの文章は、実は様々な意図を含んでいると考える。まず、この場面は前述のプルタルコス『英雄伝』を読みながら、登場する藤尾と小野の会話（後半からは母も加わる）の後に置かれている。つまり、ヘレニズム時代からクレオパトラを招聘した後に、その時代の幕開けとなったアレクサンドロス大王の逸話を紹介しているのである。

「ゴーヂアン、ノットの話」は西洋ならば子供でも知っているという「ゴルディオンの結び目 (Gordian Knot)」という話である。アレクサンドロス王は父王が暗殺されたために、紀元前336年にわずか20歳の若さで王位に就き、まずマケドニア王国の近隣を征

服し、ヘレスポントス海峡を渡ってアジアに攻め入る。紀元前334年にコリントス同盟・ペルシア連合軍と戦った「グラニコスの会戦」で勝利し、小アジア西岸一帯を制圧する。古代アナトリア、現在のトルコの首都アンカラ近くの町ゴルディオオンに立ち寄ったのはその翌年のことである。⁽¹⁹⁾

もちろん、この逸話はプルタルコス『英雄伝』のアレクサンドロス大王の章に次のように記載されている。

Upon taking Gordium, which is said to have been the seat of the ancient Midas, he found the famous chariot, fastened with cords, made of the bark of the cornel-tree, and was informed of a tradition, firmly belived among the barbarians, "*That the Fate had decreed the empire of the world to the man who should untie the knot.*" Most historians say that it was twisted so many private ways, and the ends so artfully concealed within, that *Alexander finding he could not untie it, cut it asunder with his sword, and so made many ends instead of two.*⁽²⁰⁾

先に引用した宗近と小野の会話では、アレクサンドロスがどのように結び目を解いたかは正確には語られていない。いわゆる「ほのめかし」があるだけである。これは語り手の戦略であろう。

「この結び目を解くことができた者だけが、大帝国の支配者になることができる」という言い伝えがあったにも関わらず、今まで誰も解くことができなかった結び目に、アレクサンドロスは長剣を振りかざして一気に振り下ろした。その瞬間、幾重にも巻かれていたロープは断ち切れ、バラバラになってしまったという。この故事から、手に負えないような難問を誰も思いつかなかったような大胆な方法で解決してしまうことの喩として「ゴルディオオンの結び目の切断 (cut the Gordian knot)」は使われるようになった。⁽²¹⁾

つまり、この会話においてアレクサンドロス大王の行動に共感している宗近は、「複雑で誰も解決し難い問題」が起こった時に「一刀両断に」断固とした意志で解決すべきだ、という考えの持ち主であることが看取できるのである。また、それに同意しない甲野は自分に「都合」良く物事を運ぶための決断や権力に対しての嫌悪を表明している。アレクサンドロス大王のような生き方には、彼は何の称賛も憧れも抱かないのである。藤尾が夢中になった『英雄伝』は古代ギリシア・ローマの英雄・偉人たちを集めた列伝であるが、おそらく異母兄の甲野は同書にほとんど関心を示さないであろう。若き日のアレクサンドロスを無視した樽の中に住む哲学者ディオゲネスのように。藤尾も異母兄と口論になった際に、彼の書物を庭に投げたとの記述もある。読書への嗜好の差異だけ

では済まされない価値観の相違が、この異母兄妹の間には深く横たわっているようだ。

また、この会話は明らかに後のストーリー展開の伏線になっている。小野が恩師の井上孤堂の娘である小夜子と藤尾との間で迷い続け、とうとう小夜子を捨てて藤尾を選ぶつもりで彼女との大森行きを決意する。そこで、甲野が登場して小野に改心を迫り、物語はクライマックスに向けて急展開を遂げるのであるが、語り手はその状況を「ルビコンは渡らねばならぬ。然し事もなげに河を横切った該撒は英雄である。通例の人はいざと云ふ間際になつてから又思ひ返す。小野さんは思ひ返す度に、必ず廃せばよかったと後悔する」と語り、再びヘレニズム時代の故事を引用するのである。つまり一見、無作為に引用されているかのように見える西洋の故事や人物であるが、藤尾の人物造形だけでなく、宗近の人物造形やストーリー展開にもヘレニズム時代の逸話の影響が見られるのである。

このことはまた、宗近による藤尾への裁きの場面でも明らかになる。宗近の説得により改心した小野が藤尾との大森行を諦め、宗近や甲野、小夜子たちと共に藤尾の帰りを待つ場面である。

濃い紫の絹紐リボンに、怒をあつめて、幌を潜るときに颯とふるはしたクレオパトラは、突然と玄関に飛び上がった。

「二十五分」

と宗近君が云ひ切らぬうちに、怒の権化は、辱しめられた女王の如く、書齋の真中に突つ立つた。六人の目は悉く紫の絹紐に集まる。

<中略>

「藤尾さん、小野さんは新橋へは行かなかつたよ」

「あなたに用はありません。——小野さん。何故入らつしやらなかつたんです」

「行っては済まん事になりました」

小野さんの句切りは例になく明瞭であつた。稲妻ははたはたとクレオパトラの眸から飛ぶ。何を猪子才なと小野さんの額を射た。

「約束を守らなければ、説明が要ります」

「約束を守ると大変な事になるから、小野さんはやめたんだよ」と宗近君が云ふ。

「黙つて居らつしやい。——小野さん、何故入らつしやらなかつたんです」

宗近君は二三歩大股に歩いて来た。

「僕が紹介してやろう」と一足小野さんを横へ押し退けると、後から小さい小夜子が出た。

「藤尾さん、是が小野さんの妻君だ」

藤尾の表情は忽然として憎悪となつた。憎悪は次第に嫉妬となつた。嫉妬の最も

深く刻みこまれた時、ぴたりと化石した。

(十八の十四 第二十四回)

悲劇のクライマックスともいえる場面で語り手は、藤尾にクレオパトラのイメージを重ね合わせて語り続ける。クレオパトラの持つ激しい気性や女王としての誇り高さ、そして恋敵に対する憎悪にも似た強い嫉妬の情を喚起させ、藤尾と一体化させるような語りである。この後、小野の口からも確かに小夜子は自分の未来の細君であり、5年前から結婚の約束をしていた女性であることが藤尾に告げられる。

藤尾の表情は三たび変わった。破裂した血管の血は真白に吸収されて、侮蔑の色のみが深刻に残った。仮面の形は急に崩れる。

「ホ、、、」

歇私的理性の笑は窓外の雨を衝いて高く迸った。同時に握る拳を厚板の奥に差し込む途端にぬらぬらと長い鎖を引き出した。深紅の尾は怪しき光を帯びて、右へ左へと揺く。

「ぢあ、是はあなたには不用なんですね。よう御座んす。——宗近さん、あなたに上げませう。さあ」

白い手は腕をあらはに、すらりと延びた。時計は赭い宗近君の掌に確と落ちた。宗近君は一步を暖炉に近く大股に開いた。やつと云ふ掛声と共に赭黒い拳が空に躍る。時計は大理石の角で砕けた。

「藤尾さん、僕は時計が欲しい為に、こんな酔興な邪魔をしたんぢやない。小野さん、僕は人の思をかけた女が欲しいから、こんな悪戯をしたんぢやない。かう壊して仕舞へば僕の精神は君らに分るだらう。是も第一義の活動の一部分だ。なあ甲野さん」

「さうだ」

呆然として立つた藤尾の顔は急に筋肉が働かなくなつた。手が硬くなつた。足が硬くなつた。中心を失つた石像の様に椅子を蹴返して、床の上に倒れた。

(十八の十四 第二十四回)

正にこれが「ゴージアン、ノット（ゴルディオンの結び目）」を模倣した、極めて強引な解決でなくて何であろうか。藤尾の父が所持していた金時計を贈る相手は、結婚相手を意味していた。それを自分の意志で決めようとした藤尾は2度までも拒絶されることとなったのだ。この時、金時計は藤尾の換喩として成立している。道義を通そうとした宗近は金時計を投げつけたが、それは藤尾自身の心を打ち砕く行為だったのである。

この場面を良く読めば、藤尾はクレオパトラのように妻帯者と知りながらもその男性を誘惑するような女性ではなく、博覧会等での経験から小野に何らかの女性の影は感じてはいても、れっきとした婚約者までいたことは全く知らなかったことが看取できる。しかし、あくまでも語り手は藤尾とクレオパトラを同一視して語るのである。また金時計と同様、藤尾がつけている紫の絹紐まで、藤尾の、もしくはクレオパトラを連想させる換喩として成立している。いったい何故なのだろうか。

まず、「ゴージアン、ノット（ゴルディオンの結び目）」を模倣した宗近の一連の行動を確認してみよう。小説の中盤からの要約となるが、外交官試験に合格した宗近は藤尾を嫁にもらいたいと考えた。もともと宗近の家と甲野の家は遠縁であり、藤尾たちの父の存命中はそのような話も出ていたのである。しかし、藤尾の意は小野にあることを知り、妹の糸子や甲野の諫めもあって藤尾のことは諦めようとする。そこへ、小野と共通の友人である浅井がやって来て、小野に頼まれて藤尾と結婚したいがために小夜子を切り捨て、ただ孤堂先生の恩には報いるという形で物質的援助は続けるとの申し出を伝言する役目を果たしたら、孤堂先生が怒って大変なことになりそうだと伝えたのである。宗近はすぐに小野の許に行き、人として道義を守ることの意義について諭す。小野の改心を受けて、皆で藤尾を待ち受けるよう宗近が仕切るのであるが、実は宗近家からはおそらく彼の指示を受けて、父と妹もそれぞれの役目を果たすべく出向いていた。父は孤堂先生の家に出かけ、老父を慰め小夜子が間違いを起こさないよう見守っていた。また、糸子は甲野家に出向き、これ以上義母や藤尾とは暮らせないという欽吾を一時的にでも自分の家に迎えようとしていたのである。これらのことは、宗近の藤尾への厳しい断罪を裏面から支えている。道義を持って行動すること、「真面目である」ことの意義を宗近は熱心に説くが、彼の道義とは個人の自由意思やそれに基づく恋愛の自由を制限する、家父長制度の維持・存続のための倫理に他ならない。逆を言えば、宗近の父及び、額の中の「生きた母より慥かな」甲野の亡父の肖像に見守られて行った、家の存続のための婚姻及び正当な跡継ぎを守るための行為でもある。

また、小野と小夜子の婚約は小夜子の保護者である父、井上孤堂が小野の面倒を見たことから起こった縁談である。藤尾はそのことを全く知らなかったが、藤尾の存在自体が男性同士の取り決めた婚姻を壊そうとするエネルギーを秘めている。その上、藤尾は宗近との婚姻を嫌ったという点からも家長同士の取り決めから逸脱する存在である。そしてまた、母と共に正当な跡継ぎである異母兄の欽吾を圧迫し続けているという悪徳もある。

これらのことから、宗近は、家長たちの、つまりは実の父や亡くなった甲野の父、小夜子の父である孤堂先生等の権威をも背景にして藤尾を裁いたのだといえよう。しかし、再び思い出してほしいのは、彼がその行動において模倣したのは「ゴージアン、ノット

(ゴルディオンの結び目)」を一刀両断するような解決であり、アレクサンドロス大王の行為に倣うものだという事である。彼はクレオパトラの先祖であるプトレマイオスが仕えた王であり、アレクサンドロス大王とその臣下たちが引き起こした変革はヘレニズム時代の幕開けともなった。そして、その末裔である「クレオパトラの死」によってヘレニズム時代は終焉を迎え、帝政ローマが地中海世界を支配していくのである。次節で詳しく述べるが『虞美人草』における藤尾の死と男性たちによる断罪は、このヘレニズム時代の故事「クレオパトラの死」を模倣していると考えられる。また、この裁きによって何故、藤尾がクレオパトラの属性を与えられていたのかも明らかとなった。クレオパトラこそは、ローマの武将アントニウスを墮落させたことで名高い女であり、オクタヴィアという正妻に嫉妬し、彼を奪い、最後には破滅させた家父長制度の破壊者であったからである。⁽²²⁾

IV. 「クレオパトラの死」と悲劇の構造

シェイクスピアが描いた、クレオパトラがアントニウスの正妻オクタヴィアに激しく嫉妬する場面を文学者の小野は「その尋ね方が、語り方が、性格を活動させているから面白い」と評した。しかし、これこそが典型的なクレオパトラという文化記号をもとに限りなく作り出され、増幅・拡散していくイメージの一つであるといっても良いだろう。⁽²³⁾ ほんの少しでも当時のエジプトやプトレマイオス王朝に関する知識があればカエサルにせよ、アントニウスにせよ、クレオパトラの方に選択の余地はなく、恋愛というよりはむしろ生命と王権の維持のために自らの魅力を用いたのは間違いないだろう。⁽²⁴⁾

ただ興味深いのは、プルタルコス『英雄伝』に記載されているようにオクタヴィアは弟であるオクタヴィアヌスとアントニウスの盟約のために結婚したというのである。つまり、当時のローマの貴族もしくは上層の市民の結婚は家父長同士の取り決めによるものが当然であって、特に元老院議員の娘は家同士の結びつきを強めるため、長く独身でいることは出来なかった。例えばアントニウスの母ユリアも再婚しているし、その妻オクタヴィアも再婚、アントニウス自身も同様である。⁽²⁵⁾

プルタルコスはオクタヴィアについて「非常な美貌に加えて品位と分別を兼ね備えていた」ので夫に愛され、また良く彼を支えたと語っている。しかし、アントニウスはオクタヴィアに心を残しながらも、クレオパトラと別れることは出来ず、オクタヴィアヌスはアントニウスと不仲になるとかえって姉の不幸を戦争の口実の一つに利用したという。⁽²⁶⁾

つまり、家父長の権限が非常に強いローマにおいて、オクタヴィアは守られながらも利用される立場であるのに対し、クレオパトラは一国の女王でありながら恋人の妻とは

なりえない存在である。『虞美人草』の小夜子と藤尾の関係も同様であり、一見小夜子の方が不幸であるように見えながら、家父長制度という枠組みの中で父や宗近らに守られているのに対して、その制度から逸脱し自由意志で配偶者を選ぼうとする藤尾は嚴重に処罰される。婚姻という男女の結びつきにおいて、対称的な位置に置かれた二人の女性はオクタヴィアとクレオパトラの関係に近似している。男性たちによって一方は婦徳を称えられ、一方は貶められるという点においても。『虞美人草』の物語世界には、明らかに近代以前のより強固で古い価値観や家父長制度が反映されていると思われるのである。

また、藤尾が亡くなった途端にその黒髪から「紫の絹紐」が解かれ、クレオパトラとしての属性が消滅するのも奇妙である。「ゴージアン、ノット（ゴルディオンの結び目）」が切って捨てられた証かもしれないが、代わって立ち上がってくるのが「虞美人草」と天女のイメージである。クレオパトラは愛欲の罪で煉獄の中に落とされたという説まであるのに、藤尾はどうやら地獄に落ちるほどの罪を犯していないことを語り手も認識しているようである。⁽²⁷⁾

しかし、藤尾はその登場の際から、死を予告された女性である。「読書する女」として記述される藤尾が読み耽るのは『英雄伝』の「アントニウス」の章の終盤であり、恋人アントニウスの死を嘆くクレオパトラと藤尾はいつの間にか同化し、次のように叫ぶ。

「行かないの？ 私だつて行かないわ」

（二の二 第七回）

何処へ行かないというのか。それはもちろん、オクタヴィアヌスの凱旋式のための捕虜として連れ去られようとしているローマ帝国である。しかし、この時クレオパトラと藤尾は何処にいるのか。少なくとも藤尾の目の前にいる小野は、彼女の美しさと紫の衣の袖の「クレオパトラの臭」に誘われて「二千年のかなた」に引き寄せられている。「私だつて行かないわ」と断言するほど本の中の物語に引き込まれている藤尾の、少なくとも彼女の意識は「二千年のかなた」を感じ取っているだろう。そして、死をも覚悟して敵国ローマには決して「行かない」とクレオパトラが嘆いた場所は、エジプトの首都アレクサンドリアである。

シェイクスピアの戯曲はまず、アレクサンドリアの宮殿の場面から始まる。ローマの誇る勇猛な将軍であったアントニウスが、エジプトの妖艶な女王クレオパトラにすっかり夢中になり、「自制心を丸ごとかなぐり捨て、ジプシー女の情欲を冷ます、鞆か団扇になっている」とまで忠実な部下を嘆かせるのである。彼が「ジプシー女」と仮にもエジプトの女王を見下すのは、当時のローマの軍事上の圧倒的な優位と白人尊重の人種差別の表れであり、サイードが指摘した「オリエンタリズム（オリエントを支配し再構成

し威圧するための西洋の様式)」が早くもシェイクスピアの時代には始まっていたことを示すものでもあろう。⁽²⁸⁾ この後、これほど愛していたクレオパトラがいるのにも関わらず、同盟のためとはいえあっさりオクタヴィアヌスの姉とアントニウスが結婚するのも、同様の理由からであろう。

また、先に指摘したようにアントニウスの再婚相手であるオクタヴィアは、家父長制度に守られ、婦徳の体現者として描かれている。「称賛の的」「女の中の宝石」とまで語られる美しく賢く思いやり深いオクタヴィアは、ローマの厳しい家父長制度が求める規範を遵守しただけでなく、アントニウス亡き後は彼の子供を（クレオパトラとの間に生まれた娘さえ）すべて引き取って立派に育てあげた。彼女はローマを代表する素晴らしい女性であり、プルタルコスもシェイクスピアもその点は一致している。そして、もちろんシェイクスピアの戯曲においてオクタヴィアが登場する時、その背後には次代のローマの執政者たる弟オクタヴィアヌスが控えており、彼らはローマの家父長制的な堅固な繋がりを感じさせる存在である。⁽²⁹⁾

一方でクレオパトラはその魅力でアントニウスを夢中にさせ、豪華な衣装と素晴らしい趣味で「見事なエジプト女」、その「美しさは無敵」とまで賞賛されながらも、劇中では度々「売女」「娼婦」「魔女」とまで罵倒されるのである。キリキアのシドナス川を遡って来た深紅の帆の金色に輝くエジプト船の上でアントニウスと出会った時、クレオパトラの美しさと機知は絶頂期であり、美の女神アフロディテさながらであったという。アントニウスは一目でクレオパトラに魅かれたが、彼女を得ることはエジプトの富を手に入れることでもあった。アレクサンドロス大王の臣下たちが樹立したヘレニズム時代の三つの王国の中で、最も富める国がエジプトであったからである。そしてその都であるアレクサンドリアは文字通りアレクサンドロス大王が樹立し、交易と文化で栄えた地中海世界随一の大都市であった。⁽³⁰⁾

そのアレクサンドリアでプトレマイオス12世の娘として生を受けたクレオパトラは、素晴らしい教養を身につけていた。もともと血筋の点からも明らかに彼女は純粋な「エジプト女」ではなく、ギリシア系エジプト人である。同じくローマ人ではなく、ギリシア系であるプルタルコスは次のように語っている。

Such was the variety of her powers in conversation: her beauty, it is said, was neither astonishing nor inimitable; but it derived a force from her wit, and her fascinating manner, which was absolutely irresistible. Her voice was delightfully melodious, and had the same variety of modulation as an instrument of many strings. She spoke most languages; and there were but few of the foreign ambassadors whom she answered by an interpreter. She gave audience herself to the Ethiopians, the

Troglodites, the Hebrews, Arabs, Syrians, Medes, and Parthians. Nor were these all languages she understood, though the kings of Egypt, her predecessors, could hardly ever attain to Egyptian; and some of them forgot even their original Macedonian.⁽³¹⁾

クレオパトラの容姿とその類まれな語学力を語っているものとして、有名な文章である。彼女の容姿は決して「比類のない」という程の美しさではなかったが、その声は甘美で音楽のようで、彼女との交際は逃れようのない魅力があったという。また、クレオパトラの先祖である代々のエジプト王たちが（プトレマイオス朝はギリシア系であるために）支配するエジプトの民の言葉を介さなかったのにも関わらず、彼女はギリシア語やエジプト語だけでなく、何ヶ国語も自在に操り、通訳を介さずに様々な国々の人々と会話したという。

クレオパトラの属性である富と才知が、藤尾に受け継がれているのは明白である。物語の冒頭から藤尾には、明治時代を生きる女性としては類まれな語学力が与えられていた。また、東京の富裕な家に生まれた藤尾は、文明開化の恩恵を受けた「文明の淑女」として造形されている。一方で小夜子は東京で教育を受けたものの京都で育ち琴の才を示すという古風な属性を持つ。文化と交易の都であるアレクサンドリアが生んだ才知溢れる美女、クレオパトラと、堅固な家父長制の支配する都、ローマの婦徳を体現するオクタヴィアとの対照性は、藤尾と小夜子の人物造形に明らかに反映されているのではないだろうか。

それでは、藤尾の罪とは何か。藤尾は何故、死ななければならなかったのか。水村美苗は、男性たちが「藤尾が一人出ると昨夕の様な女を五人殺します」と藤尾の兄の甲野は語るが全くそのような事件は起きておらず、彼女の罪といえば単に「好きな男を選んだだけ」であるという。⁽³²⁾ 正にその通りであろう。藤尾は家長の意に従わず、自ら結婚相手を選び、家父長制度が要請する規範から逸脱しようとしただけである。不義を犯したわけでも、人を殺したわけでもない。

実は、この点でも藤尾はクレオパトラの系譜に位置づけられる女性なのだ。なぜクレオパトラは生前からローマ人たちから批難されたのだろうか。シェイクスピアの戯曲において顕著なように、ローマの勇猛な將軍たるアントニウスを墮落させたからであろうか。だから「売女」「娼婦」「魔女」とまで批難されるのであろうか。

その理由の一つは女性の持つ権利の相違にある。家父長制の支配するローマでは良家の子女は家父長の意に従って婚姻した。言い換えれば家父長の意にそむく結婚はありえなかった。ローマにおいて家父長の権威は絶対であり、「家（ファミリア）」の構成員に対して生殺与奪の権である「生死の権」をはじめとする強大な権限を有し、たとえ息子であっても逆らうことは許されなかった。⁽³³⁾ しかし、エジプトでは王家の兄妹婚に象徴

されるように、女性の地位・権利は強く、財産権も有していた。そして、もちろん女性が夫を選ぶ権利さえも。クレオパトラが18歳で弟と共に王位に就いたのは、父の遺言によるものであったが、その後カエサルやアントニウスと恋愛関係に陥ったのは、政治上の保身のためとはいえ、彼女の意思によるものであっただろう。しかし、女王として男性の行うべき政治に関わること、自ら恋人や夫を選ぶことが、ローマ人の倫理観では許しがたく感じられたのであろう。⁽³⁴⁾

藤尾の死への問いに戻ろう。藤尾の死は物語の冒頭から予告されていた。彼女が読み耽るプルタルコス『英雄伝』の中の「クレオパトラの死」のように。その罪とは何か。自らの意志で夫を選ぶこと、それは家父長制度が要請する倫理に抵触することに他ならない。漱石は紙片の断片に次のように記している。

道徳は習慣だ

強者の都合よきものが道徳の形にあらわれる

孝は親の権力の強き処

忠は君の権力の強き処

貞は男子の権力の強き処にあらはれる⁽³⁵⁾

『虞美人草』の物語は明らかに「男子の権力の強き処」を舞台として描かれた。クレオパトラと同じように、藤尾は家父長制に基づいた男性たちの紐帯の前に敗北し、若くして死を迎える。しかし、「クレオパトラの死」が彼女の女王としての尊厳を守り、その伝説を形づくり、絵画や文学をはじめとする様々な芸術の源泉となったように、藤尾の死は彼女の魅力を損なうことはなかった。連載中も漱石の意図に反して人気を集め、劇化を望む声も高かったのである。⁽³⁶⁾

V. おわりに

藤尾の死によって物語は終焉し、甲野の悲劇論が「セオリー」として末尾に記されているのであるが、このセオリーが『虞美人草』において最も漱石が語りたかったものであることが小宮豊隆宛書簡によって判明している。

「最後に哲学をつける。此哲学は一つのセオリーである。僕は此セオリーを説明する為に全篇をかいてみるのである」⁽³⁷⁾

この「セオリー」である悲劇論こそは東西の様々な「文学的記憶」から成立している

と考えられる。例えば「悲劇は喜劇より偉大である」という言葉はギリシア悲劇を定義したアリストテレスの言葉を思わせる。ギリシアの哲学者アリストテレスは実はマケドニア出身であり、壮年期には父王に招かれてアレクサンドロスの師となった。彼は『詩学』の中で次のように述べている。

悲劇とは、一定の大きさをそなえ完結した高貴な行為、の再現（ミーメーシス）であり、快い効果をあたえる言葉を使用し、しかも作品の部分部分によってそれぞれの媒体を別々に用い、叙述によってではなく、行為する人物たちによっておこなわれ、あわれみとおそれを通じて、そのような感情の浄化（カタルシス）を達成するものである。⁽³⁸⁾

ギリシア悲劇は西洋の悲劇の原型であり、アリストテレスの悲劇に関する記述も古来より様々な文献に引用されて来た。小説『三四郎』の終盤に描かれた広田先生の『ハムレット』観劇を拒み、ギリシア悲劇への憧憬を語る姿勢からも看取できるように、漱石の悲劇に対する関心はシェイクスピアを起点としながらも、ギリシア・ローマ古典まで遡るものである。彼は『虞美人草』執筆後も悲劇に関心を持ち続け、所蔵していた Vaughan, *Types of Tragic Drama* の次のような箇所にアンダーラインを付している。

The comparative failure of *Electra* suggests another reflection. This is that, among the qualities which are indispensable to a great dramatist, not the least important is keenness and soundness of moral judgment. It was the possession of such a judgment which went far to give Shakespeare so immeasurable a superiority over many of his Elizabethans. It is the same thing which, in the last resort, accounts for the superiority, in this instance, of *Æschylus* over *Sophocles*.⁽³⁹⁾

上記の文章はギリシア悲劇のソフォクレスに関する章からの引用であるが、ソフォクレスとアイスキュロス、そして時代は下がるがシェイクスピアとも比較して、偉大な劇作家としての資質について述べている部分である。素晴らしい劇作家に不可欠なものは「道義的な判断 (of moral judgment)」における鋭敏さと健全さであるとの箇所に漱石はアンダーラインを付しているのである。そして、そのような資質をエリザベス朝の同時代の作家たちとは違って、シェイクスピアは有していたと筆者は述べている。

また、漱石の書き残した断片には明らかに『虞美人草』の筋や甲野の「悲劇論」を想起させるものがある。例えば、次のような文章である。

喜劇ハ道德ヲ抽出スル。而シテ道德ハlifeノ根本義ヲ維持スル上に於テabsolutelyニ必要デアル。故ニ喜劇ノ多クハlifeノ第二義ニ墮ツル者デアツテ、lifeノ第一義ニ触レル者ハ必ズ道德問題ヲ含ンデ居ル。而シテ道德問題ノ尤モ深キモノ、表現ハtragicデアル。tragedyニ於テ始メテ此道德問題ノ重要ナルコトガ明瞭ニ分カツテクル。是ダカラ古来カラ悲劇ハ喜劇ヨリモ重要視セラル、ノデアル。⁽⁴⁰⁾

以上の二つの文章から、漱石が藤尾の死を描くことに拘った理由が見えてくるだろう。二つの文章の趣旨は似通っており、悲劇は人生の第一義である人間の生死の問題を描くものであり、それにはどうしても道德の問題が絡んでくる。その際に道義的な判断を示せるかどうか、悲劇を描く上では重要であるということだ。藤尾の死は、作者による「女性嫌悪」や「勸善懲悪」ではなく、悲劇の役割を熟知していた漱石が「道義的な判断」を読者に提示したものだといえよう。

なお従来、甲野の人物造形にシェイクスピアの『ハムレット』の影響を見る説が有力であるが、⁽⁴¹⁾ 現世への執着を持たない彼の思想・生き方には哲学や禅宗の影響があるようである。例えば、悲劇論の次のような箇所「この生とあの生との取捨に忙しきが故に生と死との最大問題を閑却する」以下の文章からは禅宗の影響が感じられる。漱石の書き残したノート「超脱生死」は青年期の参禅の経験と生死の問題について語ったものだが、「十年前円覚ニ上り宗演禅師ニ謁ス」とあることから、『虞美人草』執筆時の1、2年前に書かれた文章であることが判明している。「超脱生死」の文章は明らかに道元の『正蔵眼蔵』「生死」巻の影響を受けており、漱石の死生観を知る上でも興味深く、またそれが甲野の思考にも反映されているようである。⁽⁴²⁾ なお、甲野のモデルとして飛ヶ谷美穂子は漱石の畏友、哲学者にして京都大学初代学長の狩野亨吉の可能性を示唆している。⁽⁴³⁾

『虞美人草』を読む時、読者は唐突なプロット、特に藤尾の死に違和感を覚える。また、異母兄である甲野と仮にも藤尾を妻にと望んだ宗近が藤尾の死に際して全く嘆きもせず何の良心の呵責も感じていない様子も不自然であることは、先行研究でも指摘されてきた。⁽⁴⁴⁾ しかし、小説の棹尾に悲劇論が置かれ、「あいつを仕舞に殺すのが一篇の主意」⁽⁴⁵⁾と前述の小宮豊隆宛書簡において漱石が述べているように、藤尾の死は小説の構想段階から予定されたものであろう。美文や引用、比喩が多用された藤尾に関する記述は、その死で一つの頂点を迎える。

高蒔絵の上には一卷の書物が載せてある。四隅を金に立ち切つた箔の小口丈が鮮やかに見える。間から紫の葉の房が長く垂れて居る。葉を差し込んだ頁の上から七行目に「埃及の御代しろし召す人の最後ぞ、斯くありてこそ」の一句がある。色鉛筆

で細い筋を入れてある。

凡てが美しい。美しいものゝのなかに横はる人の顔も美しい。驕る眼は長へに閉ぢた。驕る眼を眠つた藤尾の眉は、額は、黒髪は、天女の如く美しい。

(十九の一 第二百五回)

藤尾の最期までプルタルコス『英雄伝』の中に記された「クレオパトラの死」と照応させようという、語り手の意図は見やすい。しかし、女王としての誇りを守るためだけでなく、アントニウスへの愛を語りながら死んでいくクレオパトラと恋に破れた藤尾ではその死の動機・心情に大きな隔りがあるであろう。藤尾を「妖婦」「紫の女」として語り始めた語り手はその最期までクレオパトラのイメージを借りて「天女」としての藤尾の美を創出したのである。

〔注〕

- (1) 小森陽一ほか編『漱石辞典』(翰林書房 2017年)
- (2) 正宗白鳥は「作者漱石が、疑問のない頑強なる道徳心を保持してゐることは、八犬傳を通して見られる曲亭馬琴と同様」と述べ、『虞美人草』を「通俗小説型の脚色を、彼れ独得の詩才で磨きをかけ、十重二十重の錦の切れで包んでいる」と酷評している。このような正宗白鳥の同時代評等から、『虞美人草』を「近代化した馬琴」のような小説、ひいては失敗作と見る批評の枠組みが成立したと思われる(「夏目漱石論」初出『中央公論』1908年3月・『正宗白鳥全集』第20巻 福武書店 1983年に収録)。
- (3) 石原千秋『漱石と日本の近代』上巻(新潮社 2018年)
- (4) 『虞美人草』本文の引用は凡て『漱石全集』第4巻(岩波書店 2002年)に拠る。なお、引用に際して旧字は新字に改め、ルビは適宜省略した。
- (5) 野谷 士『漱石のシェイクスピア』(朝日出版社 1974年)
- (6) 水村美苗「『男と男』と『男と女』—藤尾の死」(『批評空間』1992年7月)
- (7) 中山和子「『虞美人草』—女性嫌悪と植民地—」(『迷羊のゆくえ 漱石と近代』翰林書房 1996年)
- (8) 山川菊栄『武家の女性』(岩波書店 2002年)
- (9) 神崎 清「長谷川時雨略傳」(『長谷川時雨全集』第5巻 不二出版 1993年)によると、小学校に通う頃から時雨は読書が好きであった。しかし、母は「跛や眼つかちに生んでやらなかつたのだから、本など読まなくても、よいところへお嫁に行ける」という保守的な考えで、娘に読ませないために家中の本を隠したり、庭で燃やしてしまつたりしたという(『長谷川時雨全集』第5巻 不二出版 1993年)。長谷川時雨は明治12年生まれで、藤尾の年齢設定より4、5歳ほど年長であるが、小説のヒロインとしての藤尾の生活環境は、当時の庶民の女性とは懸け離れたものであったことは否めない。
- (10) 東北大学附属図書館漱石文庫には、*Plutarch's Lives*, Langhorne Translation (London: Frederick Warne and Co., and New York) が現存している。引用されているアントニウス (Antony) の章は Roman Section part II の pp.336-337である。
- (11) 同注 (5)
- (12) 平川祐弘「クレオパトラと藤尾」(『夏目漱石 非西洋の苦闘』新潮社 1976年)
- (13) プルタルコス『英雄伝』「解説」(『世界古典文学全集 第23巻プルタルコス』筑摩書房 1988年)
- (14) 森晋太郎訳による『プリューターク英雄伝』(尚友館)は1904～1905年にかけて第1巻～第5巻まで刊行され、第1巻「シーセアスとロミュラス」に始まる10人の対比列伝の翻訳であり、全訳には至っていない。

ほぼ同時期に刊行された新見吉治訳『プルタルコス偉人伝』（早稲田大学出版部 1905年）等も抄訳であり、いずれにもアントニウス（Antony）の章の翻訳はない。つまり、『虞美人草』におけるプルタルコス『英雄伝』の引用文は、抜粋とはいえ本邦初の翻訳文であった可能性が高い。

- (15) 北村紗衣『シェイクスピア劇を楽しんだ女性たち 近世の観劇と読書』（白水社 2018年）
- (16) 歴史上の人物としてのクレオパトラは、古代ローマ及び古代ローマ軍事史を専門とする歴史家エイドリアン・ゴールズワーシー著『アントニウスとクレオパトラ』上下巻（白水社 2016年）他を参考にした。
- (17) パスカル『世界の大思想8 パンセ』（河出書房新社 1965年）
- (18) 小谷野 敦『夏目漱石を江戸から見る 新しい女と古い男』（中央公論新社 2000年）
- (19) 塩野七生『ギリシア人の物語III 新しい力』（新潮社 2017年）
- (20) *Plutarch's Lives*, Langhorne Translation (London: Frederick Warne and Co.,and New York) pp.115–116
- (21) アレクサンドロス大王に関する著作（注19参照）の他に*Kenkyusha's New English-Japanese Dictionary*（竹林 滋編『研究社 新英和大辞典』2002年）のGordian Knotの項を参考にした。
- (22) メアリー・ヘイマー著 正岡和恵・橋本 恵訳『クレオパトラという記号 歴史、ポリティクス、表象』（ありな書房 2003年）
- (23) 同注（22）
- (24) 同注（16）
- (25) 同注（16）
- (26) プルタルコス『英雄伝』（『世界古典文学全集 第23巻プルタルコス』筑摩書房 1988年）
- (27) ダンテ『神曲』第5歌には、地獄の第二の谷に肉欲の罪を犯した者たちが落とされて苦しんでおり、その中にクレオパトラやヘレナ（伝説によるとトロイ戦争の原因となった女性）がいるとされる（ダンテ 平川祐弘訳『神曲 完全版』河出書房新社 2017年）。
- (28) エドワード・サイード『オリエンタリズム』上・下巻（平凡社 1993年）
- (29) 東北大学附属図書館漱石文庫には、7種ものシェイクスピア全集が所蔵されているが、たとえば書き込みも多いナイト版キャビネット全集（C.Knight ed., *The Works of William Shakespeare*, Cabinet Edition）第10巻に掲載されている『アントニーとクレオパトラ』は、『コロレナス』『ジュリアス・シーザー』、『タイタス・アンドロニクス』と共に収録されている。『タイタス・アンドロニクス』はゴート人の女王が捕虜として引き回されるローマの将軍の凱旋式から始まるのであり、まるでクレオパトラのもう一つの運命を暗示させるようである。このようにローマ史劇に拘った編集方針のシェイクスピア全集を漱石は愛読していたのである。
- (30) フランク・B・ギブニー編『ブリタニカ国際大百科事典』第18巻（ティーピエス・ブリタニカ 1991年）及びジョン・ジュリアス・ノーウィッチ編『世界の歴史都市 世界を彩った都の物語』（柘風舎 2016年）
- (31) *Plutarch's Lives*, Langhorne Translation (London: Frederick Warne and Co.,and New York) p.303
- (32) 同注（6）
- (33) 島田 誠『古代ローマの市民社会』（山川出版社 2014年）
- (34) 同注（16）
- (35) 『漱石全集』第19巻（岩波書店 1995年）
- (36) 大正2年11月21日の高原 操宛書簡にて、『虞美人草』の「翻訳の義は平に御免蒙り度と候」とドイツ語への翻訳を断っているが、版を重ねており印税が入ること、「劇壇の人あれを芝居にしたら」と「人づてに」申し込みがあったことを述べている。『漱石全集』第24巻（岩波書店 1997年）
- (37) 1907（明治40）年7月19日の小宮豊隆宛書簡には藤尾に同情する小宮を窘め、プロット上藤尾を殺す予定であることも告げている（『漱石全集』第23巻 1996年）。
- (38) アリストテレス『詩学』（岩波書店 2016年）
- (39) 東北大学附属図書館漱石文庫所蔵のVaughan, *Types of Tragic Drama*, (Macmillan and Co.,Limited, St Martin Street, London,1908) pp.56-57から引用した。
- (40) 同注（35）

- (41) 越智治雄は「甲野のハムレットのイメージのように」、「作者はあらかじめ演ずべき役割を登場人物に定めていた」が、それから逸脱し、物語の後半で活躍するのが宗近一・糸子兄妹だと述べている（越智治雄「喜劇の時代－『虞美人草』－」『東京大学教養学部人文科学科紀要』46輯・1968年9月）。
- (42) 漱石の死生観と禅宗との関連については、拙稿「夏目漱石『硝子戸の中』を読む－死生観を視座として－」（『教養・文化論集』第7巻第1号 2012年3月）及び「『思ひ出す事など』論－死生と自然－」（『総合研究』第3号 2015年3月）をご参照いただきたい。
- (43) 飛ヶ谷美穂子『漱石の書齋 外国文学へのまなざし 共鳴する孤独』（慶應義塾大学出版会 2017年）
- (44) 同注（6）
- (45) 同注（37）

〔研究論文〕

秋田県の実然風景地を活用した誘客戦略の検討

村 中 孝 司

要 約

近年、地方都市では高齢化や人口減少により地域が衰退し、地域再生が必要とされている。自然が豊かな秋田県では自然風景の観賞を目的とした訪問客数は全体の26%を占めているため、自然風景を地域資源としてとらえることができる。本研究では、文献、統計資料および現地調査に基づき、能代市と大仙市の2地域の自然風景を対象に、地域資源としての利用可能性と問題点を整理し、誘客に資する施策の提言を試みた。

能代市および大仙市への1年間（2017年）の訪問客数のうち、自然風景地を目的としている者の割合は、それぞれ5.8%、5.2%にすぎなかった。それには、各市の有する自然風景地の観光価値の低さが第一の問題と考えられた。能代市を代表する自然風景地のうち、風の松原については、砂浜とクロマツ林の織りなす白砂青松の風景を観賞できる位置に関する情報の提供が必要と考えられた。一方、大仙市では、白神山地ブナ林にも遜色のない和賀山塊および真木溪谷・川口溪谷に対する必要最小限の散策路の整備による観賞スポットの発掘が必要と考えられた。さらに、両市においても観光価値の高い地点が近隣に少なく、訪問客による回遊的な観光行動をもたらしていないことが要因と推定された。これらの自然風景地の観光価値を、観賞スポットの発掘によって高めるとともに、複数の地域との連携し、訪問客の回遊を考慮した訪問ルートを検討する必要がある。

はじめに

近年、日本の地方では人口の減少が深刻化し、この状況を改善するためのさまざまな施策が進められている。このような中、地方へ観光客を誘客することは、地域を活性化させる取り組みの1つとして効果的と考えられている。それは、地域外から貨幣が入ってくる上、その貨幣が地域を循環するためフローの貨幣量が増え、所得が増加するだけ

でなく、関連施設などで雇用が創出されるためである。それには、観光施設の充実化（其田 2006）、積極的なPR活動（深見 2009）、交通機関の整備、自然環境資源の活用（海津 2004）などが実施されている。その際、有効な地域資源とは何かを明確にし、どのような施策が効果的かを明示しておかなければならない。

秋田県は、十和田湖、田沢湖といった名高い湖沼が存在するほか、白神山地、八幡平、秋田駒ヶ岳、栗駒山、鳥海山などの山岳に三方を囲まれる自然豊かな地域である。また、男鹿半島、八森・岩館は海岸景観の眺望のみならず、ハタハタの主要な漁場としての歴史は古い。自然景観やそれをとりまく人間生活との関わりは、固有性や特殊性に富んだ地域を含んでいる。

秋田県と青森県にまたがる白神山地には毎年多くの観光客が訪れており、世界遺産地域入山者は推定3.3万人（2017年）である（環境省東北地方環境事務所2018）。ただし、ここには世界遺産地域外の訪問客数が含まれていない。なお、青森県観光国際戦略局（2018）によれば、代表的な観光地点の1つである十二湖への1年間（2017年）の訪問客数は約26.7万人に及ぶ。

江戸時代の博物学者である菅江真澄は、「白神山地はブナの原生林としてではなく、自然の恩恵を受けて暮らす人々との関わりの中にこそ白神山地本来の魅力がある」と考え、よりその地域らしい資源を掘り起こし、深みのある観光体験の提供を通して地域振興にも結びつけていこうとした。また、室谷（1998）、山口（2006, 2012）は、訪問客が満足を与える要因として、美しい風景と宿泊先での人とのふれあいの2つと指摘した。秋田県は自然風景地に恵まれ、また、その観光地点としての利用の歴史も長く、自然風景をターゲットとした訪問客が多い。つまり、秋田県における地域資源として、自然風景を十分に活用することができると考えられる。

自然風景を観光産業に生かす試みは世界各地で実施されている。例えば、Priskin（2001）は、オーストリアのセントラルコースト地方で、自然を基盤とする観光産業の発展に必要な地域資源を評価したところ、この地域の魅力は高いものの、観光インフラが低いことなどの問題点を指摘した。すなわち、自然風景を活用した観光産業の発展において、その可能性と問題点を明確にする必要がある。

本研究では、秋田県能代市と大仙市の2つの異なる地域を事例として取り上げ、自然風景の観光価値を文献、統計資料、現地調査を行い、自然風景の地域資源としての利用可能性と問題点を浮き彫りにすることを目的とした。能代市は米代川の河口から中流を含む日本海に面し、白神山地の南端をわずかに含んでいる。一方、大仙市は雄物川の中流から上流に位置し、和賀山塊などの奥羽山脈の一部を含む。この2市は沿岸と内陸といった対比される性格をもつ一方、能代市は白神山地（青森県側）、大仙市は角館や田沢湖（仙北市）の観光価値の高い地点を近隣地域にもつ。

方 法

対象地域

能代市（北緯40度13分、東経140度2分）は、秋田県の沿岸北部に位置する地方都市である。面積は427.0km²、人口は約5.5万人（2017年）である（能代市2018）。能代市は米代川流域の位置し、米代川河口を含む旧能代市域と、米代川中・上流域を含む旧二ツ井町域に区分される。旧能代市域には風の松原、旧二ツ井町域にはきみまち阪、仁鮎水沢スギ植物群落保護林などが存在する。

大仙市（北緯39度43分、東経140度1分）は、秋田県の内陸に位置する地方都市である。面積は866.8km²、人口は約8.2万人（2018年）である（大仙市2019）。大仙市は大曲の中心市街地のほかは、水田が広がっている。また、東側は和賀岳、薬師岳、真昼岳を含む和賀山塊、真木溪谷、川口溪谷などの山間・溪流区域が広がっているほか、平野部には旧池田氏庭園などの公園、史跡が存在する。

なお、都市近郊に存在する公園などを自然風景地と呼ぶことが適切かどうかについては議論の余地がある。しかし、これらの観光地点においても、観賞の対象が歴史的建造物を包含した自然物、花、桜、新緑、紅葉であることから、本研究の対象として取り扱った。

情報の収集

秋田県、能代市、大仙市の自然風景地の抽出については、秋田県観光総合ガイドあきたファン・ドット・コム（<https://www.akitafan.com/>；2019年2月1日最終確認）を参照した。また、能代市の自然風景地に関する情報は、能代市史編纂委員会（2009）に詳しく記述されており、これに小塚（1999）、近田・梅田（2001）、野添（2006）および村中（2017）を追加して実態等の情報を収集した。これらの文献には、風の松原、きみまち阪、白神山地ブナ林、仁鮎水沢スギ植物群落保護林など、能代市を代表する自然風景地の自然や動植物、景観などについて記述されている。一方、大仙市の自然風景地に関する情報は、市域全域に関する市史がまだ刊行されていないため、旧太田町域についての情報を大仙市教育委員会（2007）から得た。さらに、和賀山塊自然学術調査会（1999）、倉田（2004）、佐藤・藤原（2005）は和賀山塊の自然や動植物、景観に関する情報、大曲市理科教育センター（1979）、大曲市生涯教育自然保護の会（2005）から、旧大曲市域の公園、緑地、寺院等に関する情報をそれぞれ収集した。以上の文献の中に記述されている定性的情報のうち、本研究に必要な事項を拾い集めた。さらに、江戸時代の記録、貝原益軒（1692）『壬申紀行』、菅江真澄（1806）『宇良の笛多幾』を併せて参照した。

次に、秋田県、能代市、大仙市および各々の市域の代表的な自然風景地の地誌、観光入込客数における統計情報を、秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課（2011, 2012, 2013, 2014, 2015, 2016, 2017, 2018）を参照して集めた。

文献および統計資料の調査から示すことのできない現地実態の情報については、現地調査（フィールドワーク）によって補った。現地調査は2010年4月から2018年12月にかけて行い、自然風景地の景観（特に景観構成要素の記録）、フェノロジー、設備、人工物、人々の利用性、アクセス情報等を記述または写真撮影によって収集した。なお、景観構成要素の種類や好ましき、自然、人文および自然人文の種別については、鈴木・堀（1989）、油井（1991）、古谷ほか（1994）、児島（1995）、沼本ほか（1996）、古谷（1997）、田代・岩崎（2017）を参照した。現地調査を行った地点は、能代海岸、風の松原、きみまち阪、七座山、米代川、白神山地ブナ林（以上、能代市）、真木溪谷、川口溪谷、黒森山（西仙北）、雄物川河川敷、唐松神社、万松寺、旧池田氏庭園、旧池田氏払田分家庭園、姫神公園（以上、大仙市）とした。また、必要に応じて、市内外の地点を対象とした調査も実施した。

結 果

能代市への訪問客数と自然風景地

秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課（2018）によると、能代市に訪れる訪問客数は、年間約146万人（2017年；27地点）、このうち観光地点（10地点）への訪問を目的としている訪問客は約66万人であった。これは、秋田県全体に訪れる訪問客数の4.4%、観光地点に限れば2.9%であった。観光地点への訪問客数については、鹿角市、北秋田市、男鹿市、由利本荘市、にかほ市、仙北市などに及ばず、県内の市町村のうち13位である。これは、湯沢市、羽後町、美郷町とほぼ同じ水準であった。なお、自然風景地を目的としている訪問客数に関する統計資料は乏しく、きみまち阪県立自然公園（8,818人）が唯一であり、これら能代市への訪問客数の0.6%程度である。なお、能代公園への訪問客数を含めると5.8%程度（2015年）となる。

能代市に存在する主な自然風景地は、能代海岸と風の松原、能代公園、小友沼、浅内沼、檜山城跡、ふたつ白神郷土の森、七座山、きみまち阪、仁鮎水沢スギ植物群落保護林、田代瀉などである。これらのうち、代表的な4つの地点、風の松原、きみまち阪、白神山地、仁鮎水沢スギ植物群落保護林について次に記述した。

海岸風景と風の松原

風の松原（写真1）は沿岸部に広がるクロマツ海岸林であり、延長約14km、面積約



写真1 風の松原（2013年8月20日撮影）

760haに及ぶ。江戸時代から飛砂防備保安林・保健保安林として、能代・山本地域沿岸を保全し、地域住民に守られ続けてきた。管理は300年間継続され、現在は、クロマツが半自然状態で生い茂る海岸林となっている（能代市史編纂委員会2009）。

村中（2017）は、風の松原における供給、調整、文化的サービスを整理・検討している。材や燃料などの物質供給に対する認識は、その必要性の低下から失われつつあるものの、現在でもなお、飛砂防止には必要不可欠な存在である。一方、文化的サービスについては、整備された散策路から植物や鳥類などの観察によって得られている。特にハマボウフウ、ハマゴウ、ハマヒルガオ、コウボウムギなどはいずれも海岸生の植物である（能代市史編纂委員会2009）。

米代川中流の自然風景ときみまち阪

米代川中流域には、七座山やきみまち阪などが知られ、紅葉の名所となっている。きみまち阪（写真2）は、桜、ツツジ、紅葉の名所であり、きみまち阪県立自然公園に指定されている。きみまち阪はかつて、羽州街道の難所のひとつで険しい山であった。旅



写真2 きみまち阪からみた米代川と七座山（2013年8月28日撮影）

人はいったん米代川を渡り、七座山の麓を通ったあと、もういちど米代川を渡っていたという。明治以降にゆるやかな坂道がようやく開通し、現在に至っている。菅江真澄はきみまち阪を訪れた際、七座山と米代川を望む鳥瞰図を作成している。米代川と七座山を望む自然風景は、好ましい自然風景の景観構成要素を豊富に含む、能代・山本地域の代表的な風景の1つと考えられる。また、きみまち阪は恋文神社や恋文ポストが設置され、カップルが訪れる隠れたデートスポットとしても知られている。

山間地域の自然と白神山地および天然秋田スギ林

能代市はブナ原生林を有する白神山地の南端を含んでいる。一方、天然秋田スギの山地としても知られており、奥山の原生林を2つの種類に区分するならば、1つはブナ林であり、もう1つは天然秋田スギ林である。

旧二ツ井町は世界遺産白神山地に隣接する地域を含み、ブナ林を保護するため、1995年にふたつ白神郷土の森（約190ha）が整備された。遊歩道内を歩きながらブナ林を観察することができ、1時間半ほどかけて山頂に達する。白神山地の自然に気軽に触れ

ることのできる観光地点の1つといえる。

一方、仁鮎水沢スギ植物群落保護林は、米代川から旧二ツ井町を経て支流を遡上し、田代川沿いに存在する約18haの保護林である。この地域では、ブナ林のほか3,000本程度の天然秋田スギが生育しており、なかでも「きみまち杉」（樹高58m、胸高直径1.64m、推定樹齢200年から300年）とよばれる日本一の高さを誇る天然秋田スギが存在する。林内は散策路が整備され、天然秋田スギの巨木を観賞することができる。天然秋田スギの巨木には名称が与えられ、観光資源として活用している（野添2006）。このようなシンボル要素の存在は、そこに存在するだけで価値を有するものと認識される（村中2018）。

大仙市への訪問客数と自然風景地

秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課（2018）によると、大仙市に訪れる訪問客数は年間約208万人（2017年；28地点）で、観光地点（14地点）への訪問を目的としている観光客は約86万人であった。これは、秋田県全体への訪問客数の6.3%、観光地点に限れば3.7%である。観光地点に対しては、鹿角市、由利本荘市、にかほ市、仙北市などには及ばず、県内の市町村のうち10位である。これは、小坂町、北秋田市とほぼ同じ水準である。自然風景地を目的としている訪問客数は、真木真昼県立自然公園に旧池田氏庭園、唐松神社、姫神公園を加えると約10万人（2015年）であるが、訪問客数全体の5.2%にすぎない。

大仙市の主な自然風景地は、和賀岳を主峰とする和賀山塊、真木溪谷、川口溪谷、太平山（大曲）、神宮寺嶽、黒森山（西仙北）、八乙女公園、姫神公園、大佐沢公園、唐松神社、万松寺、旧池田氏庭園、旧池田氏払田分家庭園などである。これらのうち代表的な5つの地点、和賀山塊、真木溪谷と川口溪谷、姫神公園、唐松神社、旧池田氏庭園を中心に記述した。

和賀山塊の自然風景

和賀山塊を中心とする奥羽山脈の一部は大仙市域に属している。和賀山塊の主峰は和賀岳（標高1440.2m）であり、薬師岳、甲山、朝日岳、白岩岳、真昼岳などの山脈が連なるほか、抱返り溪谷、真木溪谷などの溪流を広範に含んでいる。和賀山塊にはブナ林を中心とする原生林や、亜高山帯の風衝草原などが広がり、薬師岳および甲山の山頂付近、真木溪谷は大仙市域に存在する。

最も標高が高い和賀岳は、低山ながらも高山植物が数多く分布している。佐藤・藤原（2005）は、和賀山塊は白神山地に匹敵する秘境であると述べており、現在でもなお、人を容易には寄せつけない原始性を誇っていると指摘している。和賀岳へは真木溪谷を登山口とし、薬師岳からの稜線を移動するルートなどが整備されている。風衝草原が広

がるなど山岳景観の眺望に優れ、和賀岳はまた花と紅葉の名所ともなっている（和賀山塊自然学術調査会1999）。ただし、和賀岳への登頂には、本格的な登山装備が欠かせない。

倉田（2004）は、和賀岳、真昼岳の維管束植物をリストアップした。この中には、タカネセンブリ、ムカゴトラノオ（以上、絶滅危惧IA類；秋田県生活環境部自然保護課（2014））、オオカサモチ、イブキトラノオ（以上、絶滅危惧IB類）、ミヤマキンボウゲ、タカネナデシコ、ヤマスカシユリ（以上、絶滅危惧II類）、アズマギク、ウスユキソウ、ヤマリトラノオ、ギンリョウソウ、ミヤママンネングサ、シラネアオイ、オノエラン、ハクサンチドリ（以上、準絶滅危惧）の15種の絶滅危惧植物が含まれている。また、オサバグサ、リシリシノブ、アオモリマンテマ、ミチノククワガタ、タカネセンブリ、オノエラン、ヒナザクラ、ムカゴトラノオ、ヤマスカシユリ、ミネウスユキソウ、アズマギクなどの高山植物がリストアップされており、標高が1500m以下のこれらの山岳において、これだけ多くの高山植物が見られる山岳は、本州では珍しい（佐藤・藤原2005）。

真木溪谷および川口溪谷の自然風景

和賀山塊から雄物川本流へいくつかの河川が流下し、真木溪谷などの溪流ではV字谷、



写真3 真木白滝（2011年5月15日撮影）

岩礁、ブナ林を観賞することができる（大曲市理科教育センター 1979；大曲市生涯教育自然保護の会2005；大仙市教育委員会2007）。

川口渓谷は2011年に渓谷探勝のための遊歩道が整備され、奥羽山荘から林道や散策路に沿って観賞できるようになった。林道終点のつくし森に至る溪流の途中には、オブ山のオシダと呼ばれる樹齢1000年以上、樹高34m、主幹12.4mの老スギが生育しているだけでなく、二又の景、見返りの滝などの景勝ポイントがいくつも存在している。また、真木渓谷へは、和賀岳登山口まで自家用車の進入が可能である。林道途中には、真木白滝と呼ばれる滝が林道に流下しており（写真3）、林道上に居ながらにして滝を真下から見上げることが可能である。

市民の憩いの場としての公園・緑地の自然風景

大仙市には、旧池田氏庭園、姫神公園、唐松神社など、市民が容易に観賞することのできる緑地や公園、史跡などが存在する。自然・人文の複合的な景観構成要素の数の多さが、先述の和賀山塊、真木渓谷などとの違いといえる。旧池田氏庭園などの庭園や史跡は、自然・人文景観構成要素の重要性が高い観光地点であるといえる。



写真4 姫神公園からの眺望（2014年9月11日撮影）

旧池田氏庭園は、カエデ、イチョウなどの広葉樹が植栽され、紅葉の名所となっているだけでなく、庭園内に池沼を配置している。また、唐松神社の庭園には樹齢300年以上の老杉が生育するほか、神社参道の杉並木は160mの区間に推定樹齢100年から300年の杉が80本以上並ぶ、県内でみられる数少ない杉並木の1つである。一方、姫神公園には、シンボルとなるような巨木などは存在していないが、公園からは雄物川と大曲の市街地を一望することができるように整備されている（写真4）。

観光客流動実態

秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課（2011）に基づき、2010年の2月（冬）、5月（春）、8月（夏）、10月（秋）の人の流動数を示したものが図1である。秋田県内および隣接県の主要都市間との人の移動（1年あたり）は、田沢湖と角館間が最も多く、10.3万人に達していた。次いで、3万人を超えていたのは、盛岡から田沢湖を経て八幡平、花輪、大湯、十和田湖に至る全区間、角館から協和、秋田、男鹿に至る全区間、および小阪と十和田湖を結ぶ区間であった。また、北上から横手に至る区間は、2ルートを合計すると3万人を超えていた。1万人を超えていたのは、大曲から六郷、横手、十文字、湯沢、院内を経て新庄に至る全区間、大曲から協和に至る区間、角館から米内沢、比内、大館に至る区間、横手から秋田を経て男鹿・昭和方面に至る区間、秋田から本荘、象潟を経て酒田に至る区間、能代から二ツ井、鷹巣、大館、小坂、弘前に至る全区間、能代から八森に至る区間であった。

流動数は季節によって違いがあり、5月（春）および10月（秋）盛岡もしくは秋田を起点に、角館、田沢湖、八幡平、花輪、大館、十和田湖を結ぶルートの移動数が多くなっていた。また、8月（夏）は、北上を起点に高速道路経由で秋田、男鹿のルート、もしくは盛岡を起点に、田沢湖、角館、秋田、男鹿のルートの移動数が多かった。5月（春）に移動数の割合が際立って高いルートは、盛岡から田沢湖に至るルート、大曲から角館を経て田沢湖、八幡平、花輪に至る経路であった。8月（夏）では、角館から協和、秋田を経て男鹿に至るルート、秋田から本荘、象潟、酒田方面、男鹿から能代、鷹巣、大館、小坂を経て十和田湖に至るルートであった。10月（秋）では、田沢湖から八幡平を経て、花輪、大湯、十和田湖に至る区間であった。2月（冬）は移動が際立って多いルートは存在しなかった。

また、能代と大曲それぞれの隣接地域との流動数合計（年間）は、能代は5.8万人に対し、大曲は8.8万人に及ぶ。しかし、いずれの流動数も、角館（20.2万人）、田沢湖（26.7万人）、八幡平（13.5万人）、十和田湖（12.3万人）よりも少なかった。

秋田県の自然風景地を活用した誘客戦略の検討

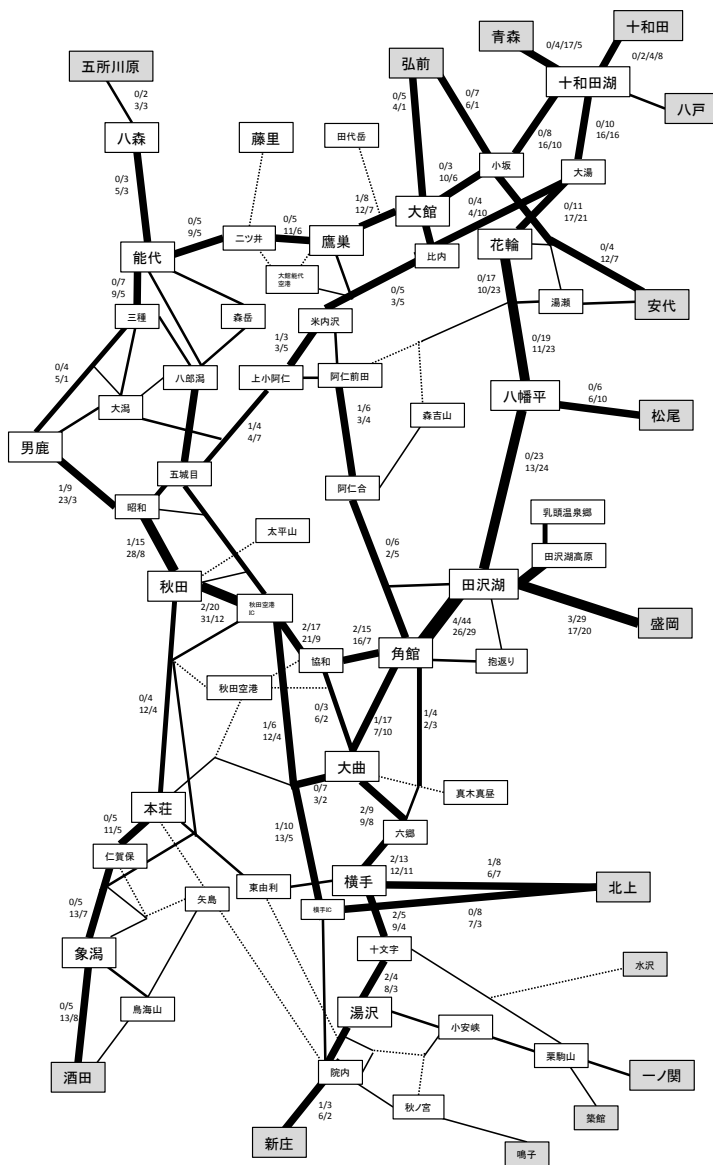


図1 観光客流動ルート

秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課(2011)『平成22年度秋田県観光統計』に基づき作成した(一部改変)。通行量1,000人以上を実線、1,000人未満を点線で表示している。また、実線の太さは、2月(冬)、5月(春)、8月(夏)、10月(冬)の流動数合計の大きさと対比させている。また、必要に応じ、流動数を主要経路上の数字で示した。2月(左上)、5月(右上)、8月(左下)、10月(右下)の流動数(千人)で示している。なお、便宜的に複数の経路の流動数を合算した部分がある。

考 察

訪問客数と地域資源有効活用に向けた方策の提案

これまで、能代市および大仙市の自然風景地を整理してきた。この2つの地域にはいくつもの自然風景地が存在している。しかし、自然風景の観賞を目的とした観光客数の割合は秋田県全体と比べると低く、県内の他の地域と比較して、自然風景地を地域資源として十分には活用できていない可能性が考えられた。ただし、すべての観光地点が価値を高める対象となるわけではない。逆に、現段階では課題のみあたらぬ観光地点も存在すると考えられる。したがって、能代市、大仙市の各々について、観光価値を向上させることが可能で、その効果が期待される代表的な対象地について検討を進めた。

風の松原ときみまち阪

風の松原やきみまち阪など、人里近い自然風景は、主に地域の住民の憩いの場として機能している。しかし、現段階では、市外、県外などからこれらの観光地点に多くの観光客が訪れる潜在性は低いと考えられる。古谷ほか(1994)は、自然風景に対する好ましさは、イメージの形成に影響を与えていると指摘し、構成要素が多様、広々としている、水の流れ、遠くに山並みが見えるなどが重要と指摘している。風の松原はその比類ない広大さにおいて高い価値が得られるだろう。一方、小塚(1999)、有馬ほか(2009)は、レクリエーションにおいて重要なのは非日常であると指摘している。クロマツも砂浜海岸も全国的に普遍的にみられるものである。さらに、クロマツ林は広葉樹林と異なり、時間的(季節的)にも空間的にも単調で、好ましさに関わる景観構成要素となる水の流れもほとんど存在していない。そのため、観光客に満足を与える要素は小さいと推定される。ただし、風の松原の文化的な価値は、「白砂青松」、すなわち砂浜とクロマツの組み合わせた海岸風景の広大さに見出されるはずである。

西田(2001)は、日本人の海岸の松に対する強い思いは万葉の時代にさかのぼることができることを指摘している。貝原益軒(1692)は『壬申紀行』のなかで、海岸の松を名所化し、日本人の心をとらえ続けたことを示唆している。菅江真澄(1806)もまた、『宇良の笛多幾』などにおいて海岸と松のスケッチを残している。また、Kuwashima(2015)は、安芸の宮島を対象に、白砂青松(白沙青松)の美をみごとな配置とバランス故に成立していることを述べている。風の松原もまさにそのような対象の1つであると考えられる。風の松原らしい海岸風景を観賞するためには、汀線近くから砂浜と海岸林を鳥瞰的に観察すること、あるいは海岸、砂浜、松林を統合的に観賞できることが望ましく、そのような観賞スポットを発掘し、観光客に用意すること、さらにそれを広くアピールすることによる効果が期待される。

一方、きみまち阪の紅葉や頂上付近から米代川を望む俯瞰景は、自然風景の好ましさは高いと考えられる。しかし、きみまち阪への1年間の訪問客数は、48,163人（2010年）から8,818人（2017年）と、8年間で5分の1以下に減少した。その要因については、詳細な分析をすすめなければならないが、公園管理の不適切さや、人工物の多さが一因と考えられる。特に、散策路や山頂には休憩することのできるベンチがほとんど用意されておらず、設置されていても周囲に雑草が生い茂っていたり、ベンチが破損しているなど、管理が行き届いていない状態にある。さらに、きみまち阪はその歴史的経緯から人工物が多すぎることも問題と考えられる。沼本ほか(1996)、景観観賞の阻害要因として、電波塔、道路、電柱、ごみなどの人工物の存在を指摘している。自然風景を景観資源として活用するためには、慎重な整備が欠かせない。現段階では訪問客数が少ないからという理由で、短絡的な人寄せのための人工物や観光客に必ずしも満足を与えていないとされる土産物屋などを設置することは避けることが望ましい。

能代白神山地と仁鮎水沢スギ植物群落保護林

次に、能代市域の白神山地のブナ林と仁鮎水沢スギ植物群落保護林の天然秋田スギ林が、自然風景の景観資源として活用することによる効果を期待できるか検討しておきたい。ブナ林の観賞スポットとして著名な十二湖（青森県）や美人林（新潟県）は、いずれもブナ林とともにいくつかの湖沼群を観察することができる。さらに、観賞スポットへのアクセスも容易である。能代市に整備されたふたつ白神郷土の森は、ブナ林の散策できる点では他の観光地点と遜色がない。しかし、青森県側、あるいは藤里町のブナ林との違いは小さく、固有性も乏しいといえる。さらに、十二湖のような池沼群が散策可能な範囲にほとんど存在しない。つまり、白神山地の複数の観光地点を比較したとき、あえて能代市川の地点を選択することは、特に市外、県外など遠方から訪れる観光客の回遊範囲には含まれないと推定される。

能代市の森林は、ブナ林よりもむしろ天然秋田スギ林に特徴があると考えられる。しかも、スギ林は能代の伝統産業をも担う重要な存在であった。しかし、観光価値として森林をとらえたとき、スギ林はブナ林にみられるような季節の変化や色彩の多様さが欠落している。鈴木・堀（1989）は、さまざまなタイプの森林風景から、人間が好ましいと感じる森林を評価し、自然性の高い巨木・古木よりも、落葉広葉樹林を好ましいと感じる人の割合が高いことを導いた。また、針葉樹林に対しては、針葉樹人工林のイメージが働いて自然性評価を低下させている可能性を示唆している。スギ人工林に欠落している巨木や古木などのシンボル要素が備われば、その観光価値は高まるかもしれないが（村中2018）、スギ林を対象とした観光資源への活用については、さらなる研究の発展を待たなければならない。

和賀山塊と真木真昼県立自然公園

和賀岳、薬師岳、真昼岳などを含む和賀山塊は、尾根や山頂付近には高山・亜高山帯の風衝草原が広がり、容易に人を寄せ付けない秘境である。優れた風景を観賞できる観光地点ではあるものの、登山や沢登りなどに不慣れな多くの一般市民が自然に親しむには不向きであるといえる。ただし、白神山地にも遜色のない原生的自然が存在していることそのものに価値があるといえる。そのような存在価値の高さが、人々の訪問機会を促すかどうかは定かではないが、和賀山塊の自然風景の魅力を写真などによって伝えることができれば、その麓、例えば太田町からの眺望、あるいは真木溪谷、川口溪谷などへの訪問に結びつく可能性はある。真木溪谷、川口溪谷は、ブナの原生林や北方針葉樹林が茂るほか、いくつかの探勝ポイントが存在し、比較的容易に自然風景を観賞することができる。しかし、これらの観光地点への訪問客数に関する統計情報は見つからず、川口溪谷の整備がどれだけの訪問意欲を増幅させる可能性があるかは判然としない。

一方、真木溪谷への散策は、現段階では魅力ある姿にはなっていないと考えられる。それは、林道が延伸されたことにより自動車を利用して長距離を移動することはできるものの、徒歩で移動して魅力あるスポットに到達できるといった感動体験の付与が容易でないからである。白神山地十二湖や抱返り溪谷に数多くの訪問客が自然風景を求めて訪問するのには、その自然風景の魅力が高いだけでなく、自然風景の観賞を歩いて体感しているためと考えられる。一方、川口溪谷においては、自動車も通行可能な林道を長時間歩いて移動することを余儀なくされる。林道には数多くの人工物が存在するばかりか、林道そのものが非日常とはかけ離れた人工物であり、自然風景に対する好ましさを低下させていると推測される。真木溪谷および川口溪谷では、周辺地域の観光地点と比較しながら、固有性が高く、景観の優れたスポットを見出し、観光客が容易に感動を与えられる地点に到達できるような散策路等の整備が必要と考えられる。

大仙市民の憩いの場としての旧池田氏庭園、唐松神社、姫神公園

最後に、市民の憩いの場として機能している史跡や公園について検討しておきたい。

旧池田氏庭園の2017年の1年間の訪問客数は12,197人であり、2013年に22,563人であったのを境に、2014年以降は減少傾向にある。しかし、大仙市の観光地点の中でも多くの集客を見込むことのできる代表的な史跡の1つである。風景の中に、水（池沼や流水など）や巨木・古木、滝などのシンボル要素が存在していれば、それは重要な好ましい景観構成要素である（古谷ほか1994；児島ほか1995；沼本ほか1996；古谷1997）。旧池田氏庭園は、このような景観要素が揃い、多くの集客を見込むことのできる大仙市を代表する自然風景地と考えることができる。

また、唐松神社では、2014年から4年間の訪問客数は、1年あたり46,000人前後で推

移しており、参道の杉並木は神秘性を保っている。この2つの観光地点に対しては、観光価値における問題は特にみあたらない。一方、姫神公園はそのようなシンボル要素などの好ましい景観構成要素は少ないものの、1年間の訪問客数（2011年－2017年）は25,800人に達している（秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課2014－2018）。公園内からの雄物川、大曲市街地への眺望に優れており、大曲の花火競技大会当日は、公園から花火を觀賞する人々が集まるという。つまり、花火競技大会というイベントが関係している。姫神公園のような眺望を有する地点は、神宮寺嶽や黒森山（西仙北）などにも存在し、そのような眺望の価値を観光客がどれだけ見出すことができるかが、訪問意欲を増幅させる鍵となっている。

観光客流動パターンに関する検討

本研究では、広域レベルでの人の移動パターンを検討した。その結果、季節による移動量の違い、すなわち、春と秋は角館、田沢湖から十和田湖への内陸ルート（八幡平ルート）が多く、夏は男鹿方面の海側ルート（男鹿ルート）の移動が多い傾向を確認した。このようなルートの特性は、その觀賞物の季節性が関係していると考えられる。すなわち、春は桜や新緑の名所、例えば、角館武家屋敷や桧木内川堤防の桜、田沢湖や八幡平の新緑である。夏は主に海沿いのルートに人が集まっている。秋は八幡平や十和田湖の紅葉の觀賞が中心となっている。つまり、観光客はこれらのルート上の複数の観光地点を回遊していることが推定される。橋本（1997）、岡本（2014）は、観光の発地点が遠いほど、宿泊日数が増加し、かつ観光価値の高い地点を回遊する傾向があることを指摘している。また、1日の観光時間や立ち寄り地点、観光地点間のつなぎ時間（適度な間）が必要であり地点間に必要な時間が90分以内であることの重要性を指摘している。八幡平ルートや男鹿ルートを地図上で検討すると、これらの条件を満たしていることが判断できる。

能代と大曲それぞれの隣接地域との流動数合計（年間）は、八幡平ルートには及ばない。これは、八幡平ルートに存在する観光地点はいずれも秋田県を代表する自然風景地であることから推察される。それに対し、能代、大曲にはいずれも観光価値が角館、八幡平クラスの観光地点は存在していない。また、大曲は、北上方面、横手方面からの経由地にすぎない可能性もある。そのため、本研究で取り扱った観光地点を回遊するルートを、観光において設定することの優先順位は低いと推測される。

澁谷（2017）は、訪日外国人旅行者の位置情報データに基づき、その都道府県間流動のパターンを検討したところ、東京都と大阪府、京都府を中心とした流動が生み出されるとともに、ゴールデン・ルートの重要性を指摘している。また、北陸・飛騨・信州3つ星街道観光協議会（2016）は、3地域を結ぶ地域連携による二次交通取り組みを実

現している。これらの事例は、本研究で取り扱った地域スケールより大きいが、秋田県内で回遊ルートを立案する上で役立つと考えられる。

結 論

本研究では、能代市と大仙市の2つの地域を取り上げ、自然風景地の価値と誘客可能性を検討した。いずれの地域の自然風景地についても、その観光価値が高くなく、また、複数の観光地点の連続性が不完全と考えられることである。すなわち、自然風景地を景観資源として活用するための必要事項として見出されたことは2つある。

まず第1に、各々の観光地点の観光価値を向上させることである。裘・橋本（2004）、水田ほか（2009）は、トラベルコスト法や仮想評価法などを用いて環境価値を評価している。しかし、観光価値は国内外のどの範囲で知られているかといった知名度に強く依存している（橋本1997）ことは念頭に置く必要がある。そのため、観光価値を定量的な手法によって評価する研究を進める必要がある。しかし、これについては本論の目的から逸脱するので、今後の研究課題としておきたい。本研究では、訪問客数を増加させるための応急的な方策を考察した。まず、自然風景地の特殊性や固有性、あるいは人文景観との組合せを考慮した歴史性を重点的にアピールすることが必要になると考えられる。例えば、風の松原の特殊性は白砂青松の魅力ある自然風景であった。この自然風景を観賞するためのスポットは、風の松原の内部の散策路よりもむしろ、海岸線、あるいは鳥瞰的に眺望できるスポットの用意と提供であると考えられる。風の松原の位置を漠然と地図上で示すだけでなく、魅力が伝わるような眺望に適した場所を示すのである。また、きみまち阪や姫神公園は、それぞれ米代川、雄物川の蛇行と農地、住宅地を一望できる点で共通している。人々の暮らしを組み込んだ風景を一望できるスポットであることのアピールと訪問客の誘導が必要と考えられる。なお、一望できるスポットに対しては、観賞した人々の考える「好ましさ」が低下しないよう、人工物の配置に留意することが必要である。

観光価値を高め、誘客増加を期待するあまり、しばしば、観光価値の向上を目指して、不用意に人工物（案内板、施設、遊歩道の過剰な整備など）を設置している場合がある。また、安全性や利便性の過剰な追求により、地域資源として活用可能だった自然風景が全国各地で失われている。自然風景地における人工物の存在は、人々の観賞における好ましさを低下させる（油井1991, 1993）。また、演歌などを大音量で流すことや、派手な園芸植物を植栽するなど、観賞の本質を見失った観光地点の実態は望ましいとはいえない。自然風景を基盤とする観光は、消費者に対する適切なレベルのサービス（Kompplu 2001；Eagles 2003）だけではなく、自然風景の質が高いこと（Bushell 2000）や、自然

と文化との共存やバランス (Greiner 1998) が一般的に重要であるとされている。期待されない人工物の設置により、本来の自然観賞という目的対象を見失い、不必要な観光地化は避けなければならない (Inskeep 1987; 溝尾2011)。それは、観光客が再来訪したいという考えを持つとするとするか否かに現れるだろう。あくまでも、本来の自然風景の姿、あるいは古来より続く人間社会との関わりと伝統に感銘を受けるのである。自然性の高い和賀山塊や真木溪谷、白神山地のブナ林、仁鮎水沢スギ植物群落保護林では、特に注意する必要がある。また、和賀山塊や真木溪谷、川口溪谷などでは、観賞スポットが散在し、観賞スポットへのアクセスが人々への感動や好ましさを維持し続ける程度の距離をもつ散策路の整備が必要と考えられるため、特に慎重にすすめなければならない。

第2に複数の観光地点を組み合わせた回遊ルートを考案することである。観光には、交通や宿泊施設、訪問者の意欲が当然欠かせない (Priskin 2001; Buckley & Weaver 2003)。秋田県内では、春と秋には八幡平ルート、夏には男鹿ルートの人の移動が多くなっている。それは、各々の観光地点の価値が高く、移動時間も90分以内と連続していることが要因と考えられる。一方、観光価値の高い地点においても、近隣にそのような地点が乏しければ、訪問客数は必然的に少なくなる。現在、能代市、大仙市ともに、周囲の地域からの人の移動密度は高いとはいえない。いくつかの観光地点に対する観光価値を向上させると同時に、複数の地点への回遊計画を考案できるようなゴールデン・ルートの実現が不可欠である。その際、回遊ルートの空間構造や所要時間、地点数には留意しなければならない (橋本1997)。

例えば、風の松原を対象とするのならば、秋田を出発し、風の松原を経て十二湖、千畳敷、鱒ヶ沢へのルートの構築、あるいは米代川を遡上し、きみまち阪、天然秋田スギ林との組み合わせが考えられる。大仙市の真木溪谷や川口溪谷をルートに組み込むのであれば、和賀岳、薬師岳、真昼岳との組み合わせが考えられる。しかし、人々のアクセスの容易さを考慮すれば、異なったルートが用意される方が望ましいだろう。例えば、春または秋であれば、抱返り溪谷や旧池田氏庭園との組み合わせの方が遠方からの周遊においては現実的と考えられる。また、八幡平や十和田湖へ北上するルートに次ぐ第2のルートとして、大仙、秋田方面を用意することが望ましいと考えられる。以上の課題を認識し、誘客に関する問題が解決できれば、両地域の自然風景を観賞する訪問客数は増加し、結果として地域活性化に寄与できるものと考えられる。

本研究では、2市を対象に自然風景の地域資源としての発掘と問題点に対する検討を試みた。このような地域をより増やし、一般的な法則を導くことも1つの研究の方向性である。一方、実社会への提言として必要なことは、地域の特性に適合した施策を実行することである。その際、近隣地域の観光地点の特性にも留意することが必要である。近隣地域の特性と似た種類のものを用意することはむしろ適切ではない。また、「てん

こ盛り」のように、何でもありますよ、というメッセージも不適切である。その場所できなければ観賞できない、特殊性や固有性の高いスポットの発掘や提供に労力を注がなければならない。秋田県は世界的に見てもまれな豪雪地帯の1つである。多雪と低温は人々の観光行動に対する意識を低下させるだろう。しかし、そのような雪国の特性をうまく利用した誘客が課題となっている（東北活性化研究センター 2018）。冬の自然風景地の活用のように、既存の実態を反面から見て、不便さをメリットと捉えるような視点が今後必要になってくると考えられる。

謝 辞

本研究の実施にあたり、ノースアジア大学経済学部環境学ゼミナール学生諸氏には、現地調査や文献調査において多大なご協力をいただいた。また、本研究の一部は、平成25年度および26年度秋田県私大・短大魅力アップ支援事業『交通が結ぶ生活基礎インフラと住民生活の質—秋田県における医療・商業・交通整備』のうち、環境学ゼミナール「能代市の自然と活性化」、および「自然風景地と観光資源に関する検討」の研究指導によって実施したものである。ここに記してお礼申し上げる。

引用文献

- 青森県観光国際戦略局（2018）平成29年青森県観光入込客統計
- 秋田県生活環境部自然保護課（2014）秋田県の絶滅のおそれのある野生生物—秋田県版レッドデータブック2014 [維管束植物]。秋田県自然環境部自然保護課，秋田
- 秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課（2011）平成22年度秋田県観光統計
- 秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課（2012）平成23年度秋田県観光統計
- 秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課（2013）平成24年度秋田県観光統計
- 秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課（2014）平成25年度秋田県観光統計
- 秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課（2015）平成26年度秋田県観光統計
- 秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課（2016）平成27年度秋田県観光統計
- 秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課（2017）平成28年度秋田県観光統計
- 秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課（2018）平成29年度秋田県観光統計
- 油井正昭（1991）自然景観地における景観の自然性評価に与える工作物の影響に関する研究。造園雑誌54：203-208
- 油井正昭（1993）工作物の眺望距離の変化に伴う自然景観への影響に関する研究。造園雑誌56：217-222
- 有馬貴之・和田英子・小原規宏・菊地俊夫（2009）若者のレクリエーション行動からみた偕楽園という観光空間。観光科学研究(2)：49-63
- 大曲市生涯教育自然保護の会（2005）大曲市名木・古木の今昔。精巧堂出版，秋田
- 大曲市理科教育センター（1979）大曲の自然。大曲市理科教育センター，大曲
- 岡本卓也（2014）観光動機の違いが観光情報収集と訪問地選択に与える影響～長野県松本市・案雲野市における観光者動向からの検討～。地域ブランド研究 9:31-42
- 海津ゆりえ（2004）第二世代を迎えた日本型エコツーリズムの課題と展望に関する研究。国立民族学博物館調査報告51：211 - 227

貝原益軒（1692）壬申紀行

環境省東北地方環境事務所（2018）平成29年度白神山世界遺産地域及び周辺地域入山者数調査について（結果報告）

裘春暉・橋本介三（2004）奄美大島の観光価値に関する経済表か分析．観光研究16：1-8

倉田陽一（2004）花かおる和賀岳・真昼岳．真木真昼県立自然公園を美しくする会（編），ほおずき書籍，長野
児島隆政・古谷勝則・油井正昭（1995）自然景観における好ましさの評価構造に関する研究．ランドスケープ研究，
58：177-180

小塚力（1999）森林のレクリエーション利用とその管理の現状—能代市「風の松原」の事例—．林業経済研究
45：43-48

近田文弘・梅田市美（2001）植生と植物相に基づく能代市風の松原海岸林の環境保全．自然環境科学研究14：
119-136

佐藤隆・藤原優太郎（2005）秘境・和賀山塊、無明舎出版，秋田

澁谷和樹（2017）訪日外国人旅行者にみられる都道府県間流道の空間構造．立教観光学研究紀要(19)：15-26

菅江真澄（1806）宇良の笛多幾

鈴木修二・堀繁（1989）森林風景における自然性評価と好ましさに関する研究．造園雑誌52：211-216.

其田智洋（2006）島原地域の火山災害学習施設を利用した火山観光の推進と観光客の動態に関する調査，自然災
害科学J.JSND5 25 - 2：197 - 219

大仙市（2019）平成30年度大仙市地域別人口・世帯数集計表

大仙市教育委員会（2007）太田町史通史編．太田町史編さん委員会，大仙

田代豊・岩崎溪太（2017）砂浜景観としての泡瀬干潟の評価．名桜大学紀要(22)：79-82

東北活性化研究センター（2018）冬の誘客戦略：深い歴史と雪の山形へ（特集 地方創生の取組み：東北圏各県の
光る施策を紹介）．(31)：22-25

西田正憲（2001）瀬戸内海における海岸景の変遷．ランドスケープ研究64：479-484

沼本健司・斐重南・古谷勝則・油井正昭（1996）展望地点から観賞する自然景観の景観評価に関する研究．ラン
ドスケープ研究59：165-168

能代市（2018）平成29年版能代市の統計

能代市史編纂委員会（2009）能代市史特別編 自然，能代市史編纂委員会，能代

野添憲治（2006）秋田杉を運んだ人たち．社会評論社，東京

橋本俊哉（1997）観光回遊論—観光行動の社会工学的研究．風間書房，東京

深見聡（2009）大河ドラマ「篤姫」効果と観光形態に関する一考察．環境教育研究マネジメントセンター年報1：
57-64

古谷勝則（1997）自然景観における評価と調和に関する研究．ランドスケープ研究61：56-61

古谷勝則・斐重南・油井正昭・石井弘・児島隆政・沼本健司（1994）自然景観地における眺望景観の認識特性に
関する研究．造園雑誌57：283-298

北陸・飛騨・信州3つ星街道観光協議会（2016）北陸・飛騨・信州3つ星街道：新たなゴールデン・ルートの誕生。
人と国土21/42(1)：77-80

水田哲生・チャイワンデンパイブーン・大槻知史・鐘ヶ江秀彦（2009）世界文化遺産タイ・アユタヤにおける水
害に対する認識と観光価値の定量的分析の試み．歴史都市防災論文集3：237-244

溝尾良隆（2011）観光学と景観．古今書院，東京

村中孝司（2017）風の松原がもたらす生態系サービスと自然風景「白砂青松」における課題．総合研究（ノース
アジア大学総合研究センター紀要）(5)：165-177

村中孝司（2018）秋田県スギ人工林に対する自然風景地としての利用可能性の検討．総合研究（ノースアジア大
学総合研究センター紀要）(6)：213-224

室谷正裕（1998）観光地の魅力度評価—魅力ある国内観光地の整備を向けて—．運輸政策研究1(1)：14-24

山口一美（2006）観光業と職務満足：旅行会社の場合．文教大学国際学部紀要17(1)：13-27

- 山口一美 (2012) 観光地における再来訪を促す要因の検討：長野県小布施町に焦点を当てて. 生活科学研究34 : 59-69
- 和賀山塊自然学術調査会 (1999) 和賀山塊の自然－和賀山塊学術調査報告書. 和賀山塊自然学術調査会, 天王
- Buckley R.P.C. and Weaver D.B. (2003) Nature-based tourism, environment and land management. CABI Publishing, Oxon
- Bushell B. (2000) Global Issues for Protected Areas and Nature-based tourism: Case studies of partnership in Australia addressing some of these issues. In: L. Gunling, H. Korn, and R. Specht, editors. International workshop: Case studies on sustainable tourism and biological diversity. German Federal Agency for Nature Conservation, November 11-14, 1999. 93-114
- Eagles P.F.J. (2003) International trends in park tourism: The emerging role of finance, The George Wright Forum 2003. 20:25-57
- Greiner R. (1998) Trade-offs in nature-based tourism management. CSIRO Resource Futures, Australia
- Inskeep E. (1987) Environmental planning for tourism. *Annals of Tourism Research* 14: 118-135
- Komppula R. (2001) New-product development in tourism companies-case studies on nature-based activity operators. 10th Nordic Tourism Research Symposium, October 18-20, Vasa, Finland.
- Kuwashima H. (2015) Landscape aesthetics on the Sacred Island “Miyajima” in Hiroshima : In terms of the sublime, grace, and the picturesque. *Studies in Human Sciences, Graduate School of Integrated Arts and Sciences, Hiroshima University* 10, 59-69
- Priskin J. (2001) Assessment of natural resources for nature-based tourism: the case of the Central Coast Region of Western Australia. *Tourism Management* 22: 637-648

〔研究論文〕

修辞判断の認知プロセス

—本音、アイロニー、皮肉、嫌味、優しい嘘、
欺瞞、間違い、冗談、からかい、照れ隠し—

瀧澤 純

要 約

言語学において研究の対象とされてきた、嫌味、嘘、比喩、冗談などの修辞表現について概観を行った。本研究の主張は3点ある。第一に、伝統的な言語学では、ひとつの理論から多くの修辞表現を説明しようとしており、それら修辞表現の区別ができる研究がほとんど行われていない。第二に、語用論研究で取り上げられてきた主な修辞表現は、聞き手の視点による四つのプロセス「違和感の知覚」「誤認判断」「隠蔽判断」「笑い判断（非攻撃性）」によって分類可能である。第三に、これらの分類が今まで行われてこなかった原因として、修辞表現それぞれの概念的な難しさと、言語学において認知的な視点が不足しているという二点が挙げられる。以上の主張に基づき、今後の研究の動向を提案した。

1. はじめに

人は言葉を文字通りには受け取らないことがある。例えば、「発表よかったよー。感動的だった。」と言われたとき、言われた側がほめられていると受け取るとはかぎらない。嫌味を言われている、お世辞を言われている、冗談を言われているなどと受け取る可能性がある。このような誤解は、ほめ言葉にかぎらず、あらゆる言葉で起こりうる。

嫌味や嘘などは、言語学などの分野で扱われてきた。言語学における分類にはいくつかの立場があるが、音韻論、統語論、意味論、語用論の四つに分ける方法がある。それぞれ説明すると、音韻論は音声としての言語を扱う分野、統語論は語と語の組み合わせや修飾関係などを扱う分野、意味論は言語の意味を扱う分野、そして、語用論は実際の発話場面における言葉の使い方を扱う分野である。なお、このような分類の仕方には異

なる立場もある。例えば、辻・野村（2001）はこれら四つに音声学と、語の内部構造や語の規則を探る分野として形態論を加えている。いずれの立場にしても、嫌味や嘘による研究は、語用論で行われてきた。

本研究は、嫌味や嘘などのコミュニケーションについて整理し、分類を行う。そして、このようなコミュニケーションの違いを判断するような認知プロセスについて提案を行うことを目的とする。

2. 本研究で対象にする修辞表現

語用論では、嫌味やアイロニー（皮肉）などの反語表現、お世辞や嘘などの嘘表現、隠喩（メタファー）などの比喩表現など、さまざまな修辞表現（figurative speech、修辞的表現ともよばれる）が研究の対象にされてきた。本研究で扱う修辞表現の範囲を定めるにあたって、伝統的な語用論研究において取り上げられてきた修辞表現を整理する。取り上げる先行研究は、Grice（1989）、Sperber & Wilson（1995）、Clark（1996）である。これら三つの研究は、言葉を理解するためには、言葉の表面的な意味だけでなく、やり取りの中で推測される言外のものが必要になるという立場で共通している。それぞれの概要については省略する。

次に、これら三つの先行研究において取り上げられてきた修辞表現を列挙する。なお、Grice（1989）とSperber & Wilson（1995）については、英語表記に翻訳版の日本語表記を併記して示す。Grice（1989）ではdeception（欺瞞）、irony（皮肉）、metaphor（隠喩）が、Sperber & Wilson（1995）ではmetaphor（メタファー）、metonymy（換喩）、synecdoche（提喩）、irony（アイロニー）が、Clark（1996）ではirony、metaphors、lies、jokesが取り上げられている。以上を整理し、表1に示す。皮肉（irony）と隠喩（metaphor）が、全ての研究で取り上げられている。

表1 語用論研究で取り上げられている修辞表現の例

研究	反語		嘘		比喩			その他
	アイロニー	欺瞞	嘘	隠喩	換喩	提喩	冗談	
Grice (1989)	○	○		○				
Sperber & Wilson (1995)	○			○	○	○		
Clark (1996)	○		○	○			○	

ここで、本研究で整理した反語表現、嘘表現、比喩表現という三つの修辞表現について、用語の包含関係を整理しておきたい。これらの修辞表現の中には日本語と英語との

対応が取れないものもあり、包含関係は複雑である。

反語表現としては、アイロニー、嫌味、皮肉がある。アイロニーは狭い意味では、「(外の大雨を見ながら) なんてよい天気なんだ！」という反語的な場面を含む。しかし広い意味では、攻撃的なニュアンスのある嫌味も含まれる。表1はいずれも広い意味でのアイロニーを扱っている。問題は、日本語で「皮肉」と呼ぶ場合である。日本語でいう皮肉は、研究上ではアイロニーを指すことが多いが、一般的には嫌味を指す場合もあり、混同する可能性がある。そのため、本研究の概念の説明においては、皮肉という言葉が可能なかぎり使用しない。ただし、先行研究の紹介で特に説明がなく「皮肉」という用語を使用している場合は、アイロニーを指す。

嘘表現には欺瞞と優しい嘘がある。欺瞞は、通常は冷たい嘘、悪意ある嘘、傷つけるための嘘のことを指す。欺瞞とは異なる嘘表現としては、優しい嘘やお世辞がある。

比喩表現にはいくつもの種類があるが、ここでの詳しい説明は省略する。概念的に混乱を呼びやすいのは、メタファーを比喩表現全般を指して「比喩」とするのか、「隠喩(暗喩)」とするのかという問題である。本研究では、比喩表現全般を指すときは「比喩表現」、その一部である隠喩を示すときには「隠喩」という用語を用い、メタファーという用語は可能なかぎり使用しない。

3. 伝統的な研究における問題点

これまでの伝統的な語用論研究では、アイロニーや比喩表現など、いくつもの修辞表現が研究の対象とされてきた。ただし、伝統的な研究には大きな問題がある。それは、ひとつの理論から多くの修辞表現を説明しようとしていることである。Grice (1989) を例にすれば、協調の原理と四つの格率によってアイロニーも説明可能であるし、隠喩も説明可能であるとされる。しかし、このような説明では、アイロニーと比喩表現がいかにして区別されるのかがわからない。その他の伝統的な二つの研究を含めても、反語表現、嘘表現、比喩表現、冗談などがいかにして判断されるのかが不明である。このような判断を修辞判断 (figurative judgment) とよぶならば、伝統的な研究では、修辞判断の認知プロセスすべてがブラックボックスに放り込まれた状態であろう。

伝統的な研究において明らかになっていない点について、より具体的に述べる。第一に、伝統的な研究では、同じ言葉でも判断が分かれることが説明できていない。一般的に、言葉が発せられる場面では、どの修辞表現なのかかわからない状態で判断が行われる。聞き手が修辞判断を行うときに、どのような情報を用い、どのような基準で判断しているのかが明らかにされるべきであろう。第二に、聞き手が修辞表現の判断に困るような現象を説明できていない。例えば、アイロニーなのか嘘なのかを迷う状態とはどのよう

な状態で、なぜこのような現象が起こるのかが明らかにされるべきであろう。

4. 修辭判断に関する先行研究の概観

これまで述べてきたように、伝統的な研究では、単一の理論から多くの修辭表現を説明してきた。そのため、修辭判断についての系統的な理論化が行われておらず、聞き手が修辭表現それぞれの違いをどのように判断しているのかが説明できていない。そして、近年の研究においても、このような問題の一部が議論され始めたばかりである。認知語用論、言語心理学、発達心理学を主として、いくつかの知見を整理する。

この問題に関して、最も多くの修辭表現を扱って論じているのは、岡本（2010）であろう。彼は、皮肉、偽悪表現、冗談、嘘を対象に、話し手の意図による分類を行い、「発話において、言葉の評価と伝えようとする評価に逆転があるか、攻撃対象があるか、現実と表現内容との齟齬を聞き手に気づかせる（真意伝達）ように意図するか、気づかせないように意図するか、後者の場合、無知の聞き手を嘲笑う（かつぐ）意図があるかどうか、という点で整理できる」としている（表2）。なお、岡本（2016）では、嘘と冗談などの欺瞞に関してさらに詳しい分類を行っているが、ここでは説明を割愛する。

表2 事実と異なった伝達における話し手の意図（岡本，2010）

発話のタイプ	評価逆転	攻撃対象	聞き手の齟齬認識	聞き手の無知の嘲笑い
皮肉（真意伝達型）	+→-	有	有	無
皮肉（かつぎ型）	+→-	有	無	有
偽悪表現	-→+	無	有	無
冗談（真意伝達型）	*	無	有	無
冗談（かつぎ型）	*	無	無	有
嘘	*	無	無	無

*：存在を必要条件としない

修辭判断の認知プロセスについて、岡本（2010）を議論の土台にしながら、批判的に検討する。ここでは四つの問題点を挙げたい。

第一に、最も重要な問題点として、「本音（sincerity）」がこの分類に含まれていない。もし本音をこの分類の中を含めるならば、嘘と同一になる。すなわち、この分類のままでは、本音と嘘がどう区別されるのかがわからない。本音と修辭表現それぞれの違いが明確になるような分類が必要である。

第二に、この分類では、皮肉と嘘の違いについての重要な点を見逃している。確かに、

岡本（2010）において皮肉と嘘の違いとされている攻撃性は、皮肉を理解するための重要な点である。しかし、皮肉の場合、話し手は聞き手に皮肉として認知されるようにするが、嘘の場合、話し手は聞き手に嘘として認知されないようにする。この「暴露か隠蔽か」という点については、多くの研究で類似した言及がされている（e. g. 橋元, 1989；松井, 2011；竹内, 2014；Winner & Leekam, 1991；山梨, 2015）。これらを組み込んだ分類が必要である。

第三に、修辞判断における認知プロセスの順序が正しいのかどうか、検討すべきである。これは特に、修辞表現について判断する側である、聞き手の認知プロセスを考える時に重要な問題になる。例えば、評価逆転の有無と攻撃対象の有無は、どちらが先に判断されるのか、あるいは、両方が先になる可能性があるのか。この順序の問題を検討した上で、分類を作成し、モデル化を行うべきである。

ここでいう順序に関して、関連する先行研究がある。春木（2006）は、ほめ言葉を例にして、皮肉（本研究でいう嫌味）を賛辞（本音）、世辞、からかいと比較している。修辞表現の全体の判断がどのようなプロセスになるのかについては述べていないものの、聞き手が皮肉を理解するときには、攻撃的意図の次に送り手の本心が評価される可能性と、送り手の本心の次に攻撃的意図が評価されるの可能性の両方を提案している。このほか、松井（2011）は、意図的な嘘、冗談、メタファーなどの発話は、3歳から9歳の子どもにとっては、すべて「間違い」として理解される可能性があるとしている。さらに、いくつかの研究から、嘘より皮肉のほうが理解できるようになる年齢が遅いことを示している。以上を踏まえると、人の発達において早期に達成される順である「本音>間違い>意図的な嘘≒冗談≒比喻>アイロニー」が、修辞判断における容易さを反映している可能性がある。

第四に、分類に含まれていない、重要な修辞表現がある。例えば、からかい、間違い、照れ隠しなどがある。なかでも、照れ隠しは重要な位置づけになる。橋元（1989）は「『間抜けだね』という表現で『かしこい』を包含することは皆無に近い。実際、いわばこの『逆皮肉』の例を見出すのは至難の業である」と述べている。しかし、照れ隠しや（村越, 2001）、若者ことばである「ツンデレ」ならば（瀧澤・渡辺, 2012）、逆皮肉の例としてふさわしいのではないか。これらを含めた分類が必要であろう。

5. 本研究による提案

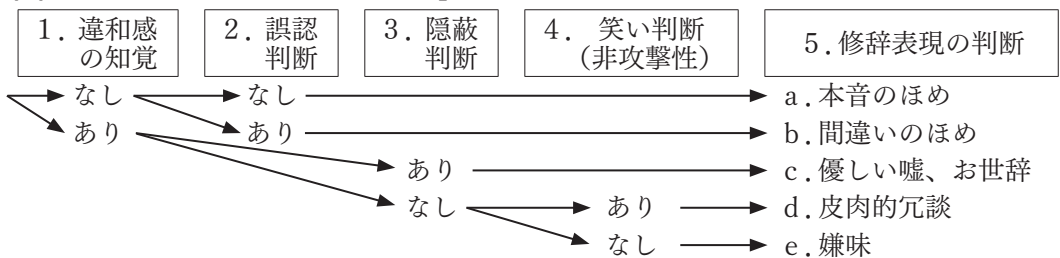
以上から、修辞表現の判断についての認知プロセスを提案する。認知プロセスを考えると、話し手が言葉を伝えるときの認知プロセスと、聞き手が言葉を聞いて判断するときの認知プロセスの両方が存在する。本研究では、聞き手の認知プロセスを提案する。

そして、発話の具体例を二つ挙げ、それぞれの修辞判断を示す。具体例があれば、同一の文についての修辞判断が状況によって分かれることを示すことができる。岡本(2000)も同様の立場から、「実際に注目しなければならないのは、同じ言語形式を持って発話されたとしても、解釈者がどのような情報に基づいて処理していくかによって異なった焦点化と同定を行っていく可能性である。」と述べている。

修辞判断モデルを図1に示す。(A)では褒め言葉、(B)ではその対極となるけなし言葉を用いたが、両者の認知プロセスは共通していると考えられる。最初のプロセス「違和感の知覚」は、言葉を事実や過去の行動と照合したときの矛盾の知覚であり、岡本(2004)による「コミュニケーションの不誠実性」と基本的に同一のものである。ただし、意識的で統制的なプロセスではなく、無意識的で非統制的なプロセスを想定している点で異なる。「違和感の知覚」がない場合は、次のプロセスで送り手の認識不足などの「誤認判断」を行う。「違和感の知覚」がある場合は、送り手の本心などの「隠蔽判断」と、「笑い判断(非攻撃性)」を行う。「違和感の知覚」以外は、意識的で統制されたプロセスを想定している。また、違和感がない場合は疑いがなさそうかどうかを判断するが(2)、違和感がある場合は疑いがありそうかどうかを判断する(3と4)。

修辞判断モデルについて、いくつか補足を行う。まず、モデルではありとなしのルー

(A) ほめ言葉「最高の出来だったよ」の場合



(B) けなし言葉「最低の出来だったよ」の場合

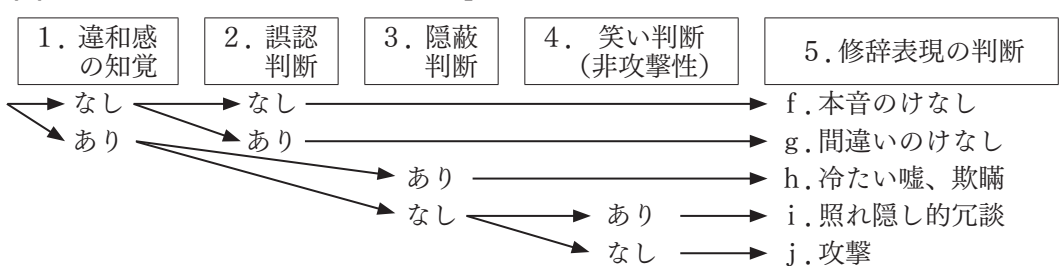


図1 聞き手についての修辞判断モデル

トを明確に分けたが、実際には判断が難しい場合や、中間的な判断が行われる場合がありうる。次に、分類を足し合わせることによって表現できる修辭表現がある。例として、本音（aとf）、間違い（bとg）、嘘表現（cとh）、からかい（dとi）、反語表現とアイロニー（dとeとiとj）などがあるだろう。

今回の分類に、比喩を含めることはできなかった。その理由は、比喩を示す言葉には例えや抽象的な表現が必要であり、比喩とその他の修辭判断すべてが両立するような言葉の例が見つからなかったためである。これは、本研究による検討が不十分であった可能性も捨てきれないが、比喩とその他の修辭表現が異なるプロセスで判断されているとも考えられる。

6. おわりに

本研究の目的は、嫌味や嘘などのコミュニケーションの違いを判断する認知プロセスについて提案を行うことであった。これまでの研究では、修辭表現が整理されておらず、統一的に理解できるモデルは存在しなかった。そこで、聞き手についての修辭判断モデルを提案し、「違和感の知覚」「誤認判断」「隠蔽判断」「笑い判断（非攻撃性）」という四つのプロセスから修辭判断が説明可能であることを示した。

従来の研究で多数の修辭表現を区別する研究があまり行われてこなかった理由を、二つの点から考察する。第一に、修辭表現それぞれの概念的な難しさがあるだろう。アイロニーを例に述べる。Allott (2010) は「アイロニーについては誰もが認めるような一般的定義はない。」としている。日本でも、内海 (1997) などがアイロニーが複雑な現象であると述べている。アイロニーひとつだけでも定義が難しく、複雑な現象であるため、その他の修辭表現も含めて論じることが困難を極める。第二に、言語学において認知的な視点が不足していることが挙げられるだろう。言語学は、言語として表に出ている部分に注目する学問である。それ自体が必ずしも悪いとはいえないが、表に出ている部分だけでは言語現象を限定的にしか理解できない。かつて伝統的な語用論が挑戦したように、認知的な視点から言語現象を論じることが必要であろう。

今後の課題としては、修辭判断モデルについて、真偽の確認が必要であろう。なかでも、本研究では他の理論との関連付けが不十分であった。岡本(2007)は、Okamoto(2006)を紹介して考察する中で「世辞というのは、話し手の意図が賞賛なのかそうでないのかはあいまいな場合なのではないか」と述べている。しかし本研究によると、世辞は隠蔽の意図が明確な場合である。このような他の理論との整合性の問題は、本研究ではほとんど取り上げることができなかった。

また、モデルの真偽を実証することも必要であろう。本研究で用いているプロセスが

存在するのか、他のプロセスが存在しないか、順序は適切かなど、検討すべき点が多数ある。典型的な方法としては、場面を設定し、音声を聞いて、修辞表現を選択する実験を行う方法がある。「違和感の知覚」「誤認判断」「隠蔽判断」「笑い判断（非攻撃性）」それぞれを左右するような音声刺激や場面刺激を作成し、検証を行うべきであろう。また、音声でなくとも、文字を通して検証することも可能であろう。

引用文献

- Allott, N. (2010). *Key terms in pragmatics*. London: Continuum. (今井邦彦 (監訳) (2014). 語用論キータム事典 開拓社), pp. 161-165.
- Clark, H. H. (1996). *Using language*. New York.: Cambridge University Press
- Grice, P. (1989/1991). *Studies in the way of words*. Cambridge: Harvard University Press. (グライス, P.(著), 清塚 邦彦 (訳) (1998). 論理と会話 勁草書房)
- 春木茂宏 (2006). アイロニーの記述的研究(3) 賛辞、世辞、からかいとの比較 文学・芸術・文化：近畿大学文学部論集, pp. 39-69.
- 橋元良明 (1989). 背理のコミュニケーション 勁草書房
- 松井智子 (2011). 子どもの「ミス・コミュニケーション」と心の理論の発達 岡本真一郎 (編) ミス・コミュニケーション——なぜ生ずるか どう防ぐか—— ナカニシヤ出版, pp.41-64.
- 村越行雄 (2001). アイロニー：伝統的なアプローチと最近のアプローチ (2) 跡見学園女子大学紀要, 34, pp. 11-41.
- 岡本雅史 (2000). アイロニー発話の解釈随意性が示唆する発話理解の認知的構造 語用論研究, 2, pp. 108-123.
- 岡本真一郎 (2004). アイロニーの実験的研究の展望——理論修正の試みを含めて——心理学評論, 47, pp. 395-420.
- Okamoto, S. (2006). Perception of *hiniku* and *oseji*: How hyperbole and orthographically-deviant styles influence irony-related perceptions in the Japanese language. *Discourse Processes*, 41, pp. 25-50.
- 岡本真一郎 (2007). 第4章第1節 皮肉:何をどのように伝えているのか 岡本真一郎 (編) ことばのコミュニケーション——対人関係のレトリック——ナカニシヤ出版, p. 167.
- 岡本真一郎 (2010). ことばの社会心理学 第4版 ナカニシヤ出版, pp. 148-149.
- 岡本真一郎 (2016). 悪意の心理学 中公新書, p. 183.
- Sperber, D. & Wilson, D. (1995). *Relevance: Communication and cognition*. 2nd Edition. Malden: Blackwell Pub. (内田聖二・宋南先・中達俊明・田中圭子 (訳) (1999). 関連性理論—伝達と認知 (第2版) 研究者出版)
- 竹内道子 (2014). うそと皮肉はどう違うか ことばの使用からところをみる 人文学研究所報, 52, pp. 1-17.
- 瀧澤純・渡辺未由希 (2012). 他者が理解している新語の意味の推測——「ツンデレ」における自己中心性バイアスの検討—— 首都大学東京・東京都立大学心理学研究, 22, pp. 1-8. (国立国語研究所監修『日本語学論説資料』第50号再録)
- 辻幸夫・野村益寛 (2001). 言語学の基礎 辻幸夫 (編) ことばの認知科学事典 大修館書店, pp. 87-94.
- 内海彰 (1997). アイロニーとは何か?——アイロニーの暗黙的提示理論—— 認知科学, 4, 99-112.
- Winner, E. & Leekam, S. (1991). Distinguishing irony from deception: Understanding the speaker's second-order intention. *British Journal of Developmental Psychology*, 9, 257-270.
- 山梨正明 (2015). 第3章 虚・実の世界と言葉の修辞性 山梨正明 修辞的表現論——認知と言葉の技巧—— 開拓社, pp. 59-94.

〔研究ノート〕

がん検診の受診率向上はがんによる死亡率を減少させるか？

カ 石 國 男

1. はじめに

がんはヒトの細胞が物理・生化学的な刺激を受けることによって遺伝子の一部が変異して発症する。人体には遺伝子の変質を修復する機能も備わっているが、高齢化すると遺伝子の変異が起りやすくなり、修復機能も弱まると考えられている。高齢化が急速に進んでいるわが国では人口10万人当たりのがんによる死亡率が年々増加し、2014年の調査によれば、日本人は生涯のうち男性の62%女性の47%が“がん”になり、男性の25%女性の16%が“がん”で亡くなると推計されている（国立がん研究センター、2018）。高齢化の影響を補正した年齢調整死亡率でみると、1978年以降、脳血管疾患に代ってがんが死因の第1位である（総務省統計局、2018）。そのためがんによる死亡率を減少させることが保健行政の課題となっている。

がんは早期治療が死亡率を著しく減少させるので、わが国ではがんの早期発見を目標にして健常者を対象にがん検診を実施してきた。がん検診の実施状況は2007年から3年毎に「国民生活基礎調査」に報告され、WEB上にも公開されている（厚生労働省、2018）。それによればがん検診の受診率は都道府県によって大きく異なっている。このことはがん検診がどの程度がんによる死亡率減少に寄与しているかを推定することを可能にする。その理由は、もしがん検診ががんの早期発見に寄与しているならば、受診率の高い都道府県は低い都道府県よりもがんの早期治療が可能となり、その結果、がんによる死亡率が低いか、あるいは死亡率が減少傾向にあると期待されるからである。

本研究は、以上の視点立って47都道府県別のがん検診受診率と年齢調整がん死亡率を分析して、がん検診率の向上ががんによる死亡率減少に寄与しているかどうかを検証することを目的とする。

2. 都道府県別のがん検診の受診率状況

「国民生活基礎調査」によればがん検診受診率はがん検診対象者からの回答に基づいている（国立がん研究センター、2018）。受診率はがん検診を「受けた」と回答した人数を回答者総数で割った値で算出される。ここで回答者総数とは①「受けた」と回答した人数、②「受けなかった」と回答した人数、③どちらにも回答しなかった人数の総和である。実際に検診を受診した人数を集計したものではないので注意が必要である。回答者の記憶違いなどによる誤差が含まれている可能性もあるが、その割合は小さいと推定される。

がん検診の調査項目と検診方法を表1に示し、回答方法および調査票の回収方法を表2に示した。調査項目と検診方法には2007年と2010年以降で多少の違いがあり、回答方法・回収方法には2010年以前と2013年以降で違いがある。

「国民生活基礎調査」に記載された受診率のうち、本論文では40～69歳の受診率を用いた（ただし子宮（頸）がんのみは20～69歳の受診率）。がん検診は厚生労働省・各都道府県の主導のもとに各市町村が健康増進法に基づいて実施されているが、具体的な検診方法の詳細は実施に当たった医療機関によって異なっている。たとえば胃がん検

表1 がん検診の調査項目と検診方法

2007年	胃がん検診	バリウムによるレントゲン撮影や内視鏡による撮影など
	大腸がん検診	便潜血反応検査（検便）など
	肺がん検診	胸の単純X線撮影（結核検診と同一）や喀痰検査など
	乳がん検診	記述なし
	子宮がん検診	記述なし
2010年以降	胃がん検診	バリウムによるレントゲン撮影や内視鏡（胃カメラ、ファイバースコープ）による撮影など
	大腸がん検診	便潜血反応検査（検便）など
	肺がん検診	胸のレントゲン撮影や喀痰（かくたん）検査など
	乳がん検診	マンモグラフィ撮影や乳房超音波（エコー）検査など
	子宮（頸）がん検診	子宮の細胞診検査など

表2 回答方法および調査票の回収方法

	回答方法	調査票の回収方法
2007年、2010年	受診したがん検診（種別）を回答する形式（あてはまるものすべてを回答）	密封方式で回収
2013年、2016年	がん検診（種別）ごとに「受けた」、「受けなかった」を回答する形式	非密封方式で回収（やむを得ない場合のみ密封方式）

3. がん検診受診率に対する社会環境・生活習慣の影響

がん検診受診率とがん死亡率の関係を調べる前に、まずがん検診受診率に影響を及ぼしている要因について考察する。受診率に影響を与える要因として住民の健康意識や、漠然とした健康不安感、医療機関までのアクセスの利便性、検診を受ける時間的な余裕、経済状況、交友関係、自治体による保健行政の取り組み状況などが考えられる。これらの要因は数値化することはできないが、住民を取り巻く社会環境（自然環境も含む）に関係していたり、住民の生活習慣に反映されていたりすることが考えられる。そこで、都道府県別の受診率と社会環境および生活習慣の関係を概観する。

3.1 がん検診受診率に対する社会環境の影響

社会環境とは個人の意思とは関係なく個人を取り巻いている状況のことである。本研究では都道府県の社会環境を代表するものとして冬の寒さ（県庁等所在地の1981－2010年間の1月平均気温）、2015年の県民の平均所得、世帯の第1～3次産業比率、高齢者比率（65歳以上の人口比率）、都市人口比率（人口集中地帯に住む住民の割合）、有効求人倍率（地理統計要覧、二宮書店、2016）の8要素を取り扱う。ただしこれらの8要素全てが互いに独立であるわけではないことに注意しなければならない。例えば都市人口比率が高い都道府県では第3次産業比率が高く、高齢者比率が低く、有効求人倍率が低い傾向がある。反対に都市人口比率が低い都道府県では第1次産業比率が高く、高齢者比率が高く、有効求人倍率が高い傾向がある。がん検診受診率と社会環境・生活習慣との関係を考察するとき、これらの交絡現象に注意しなければならない。

表3は都道府県別のがん検診受診率と社会環境との相関係数を示している。相関が有意といえるかどうかは有意水準（＝検定を誤る確率）によって異なるが、両者の関係は

表3 がん検診受診率と各種社会環境の相関係数

検診種目		平均気温 (1月)	平均所得 (2015年)	第一次 産業比率	第二次 産業比率	第三次 産業比率	高齢者 比率	都市人口 比率	有効求人 倍率
胃がん	男	-0.473	-0.114	0.210	0.407	-0.507	0.230	-0.370	0.577
	女	-0.383	-0.225	0.393	0.309	-0.532	0.273	-0.473	0.512
大腸がん	男	-0.604	-0.033	0.178	0.398	-0.479	0.191	-0.301	0.541
	女	-0.507	-0.078	0.255	0.376	-0.507	0.203	-0.377	0.553
肺がん	男	-0.488	-0.122	0.336	0.409	-0.588	0.315	-0.497	0.677
	女	-0.336	-0.234	0.488	0.280	-0.565	0.362	-0.583	0.601
乳がん	女	-0.158	-0.094	0.234	0.179	-0.313	-0.003	-0.304	0.312
子宮がん	女	-0.213	-0.151	0.290	0.151	-0.322	0.102	-0.327	0.353

有意水準	10%	5%	1%	0.1%	0.01%
相関係数	0.24	0.29	0.37	0.46	0.54

で与えられる。例えば相関係数が0.37であれば1%の危険率で両者の相関が有意となる。

表3によれば、胃がん・大腸がん・肺がんの受診率が高いのは冬期気温が低く、第三次産業比率が低く、都市部の人口比率が低く、有効求人倍率が高い都道府県である。冬期寒冷な県で受診率が高いのは、平均寿命の低い県が多いので健康に対する意識が高いことが考えられる。逆に都市型の都道府県で受診率が低いのは、第三次産業に従事して多忙のために受診する時間的余裕がないことが考えられる。女性の乳がん・子宮がん検診の受診率も都市型の都道府県で低い傾向が認められるが、相関の度合は胃がん・大腸がん・肺がんの場合より弱い。また寒冷環境との関係は認められない。平均所得と各種がん受診率の相関も認められない。

3.2 がん検診受診率に対する生活習慣の影響

がん検診を受診するかどうかは基本的に個人の自由意思に委ねられているので、健康に関わる生活習慣と受診率は互いに関連している可能性がある。本論文では生活習慣として肥満率（BMIが25以上の住民の比率、男子のみ）、BMI、野菜摂取量、食塩摂取量、喫煙率（習慣的に喫煙する人の割合）、飲酒率（習慣的に飲酒する人の割合、男子のみ）の6種類の要素を取り扱う。これらのデータは主として3年毎の国民生活調査報告書(厚生労働省、2018)による。

表4 がん検診受診率と各種生活習慣との相関係数

検診種目		肥満率	BMI	野菜 摂取量	食塩 摂取量	歩数	喫煙率	飲酒率
胃がん	男	-0.111	0.037	0.751	0.546	-0.305	0.276	0.247
	女		0.194	0.612	0.433	-0.428	-0.166	
大腸がん	男	-0.141	0.108	0.723	0.620	-0.222	0.313	0.365
	女		0.081	0.708	0.571	-0.299	-0.135	
肺がん	男	-0.100	0.165	0.714	0.579	-0.390	0.307	0.307
	女		0.231	0.616	0.444	-0.478	-0.232	
乳がん	女		0.144	0.532	0.288	-0.320	-0.092	
子宮がん	女		0.212	0.487	0.253	-0.354	-0.100	

表4によれば、男女とも野菜摂取量と受診率に非常に高い相関関係がある。これは野菜を積極的に摂取する人は健康意識が高いので受診率が高くなることを示唆している。受診率と塩分摂取量の間にも高い正の相関があるが、これは交絡現象によるものであり

健康意識とは無関係である。すなわち、野菜摂取量の多い都道府県は塩分摂取量も多いことによる（力石、2017）。歩数と受診率に弱い負の相関（歩数が多い都道府県ほど受診率が低い傾向）が認められるが、これも交絡現象を反映しており、歩数が多いのは都市型の都道府県である（力石、2017）ため受診率が低いことを示している。男性の喫煙率・飲酒率と受診率に弱い正の相関（喫煙率・飲酒率の高い都道府県ほど受診率が高い傾向）が認められる。このことは習慣的に喫煙・飲酒する人も健康を意識してがん検診を受診していることを示唆している。一方、肥満率・BMIと受診率には相関が認められない。BMIの高い人はあまり健康を気にしていないことが推定される。

4. がん検診受診率とがん死亡率との関係

がん検診の受診率は年とともに増加しているもので、それによってがんによる年齢調整死亡率が年々減少していることが期待される。しかし市民の生活習慣が年々改善され、外科手術・抗がん剤治療などの医療技術も進歩しているもので、それによりがん死亡率が年々減少している可能性も考えられる。そのため、死亡率が減少していたとしてもそれががん検診受診率の向上によるものか医療技術等の進歩によるものか判断できない。そこで本論文では受診率の都道府県分布が12年間でほぼ一定していることに着目し、受診率の高い都道府県では低い都道府県よりもがんによる死亡率が低いかどうか、あるいは死亡率が年々減少しているかどうかを調査する。

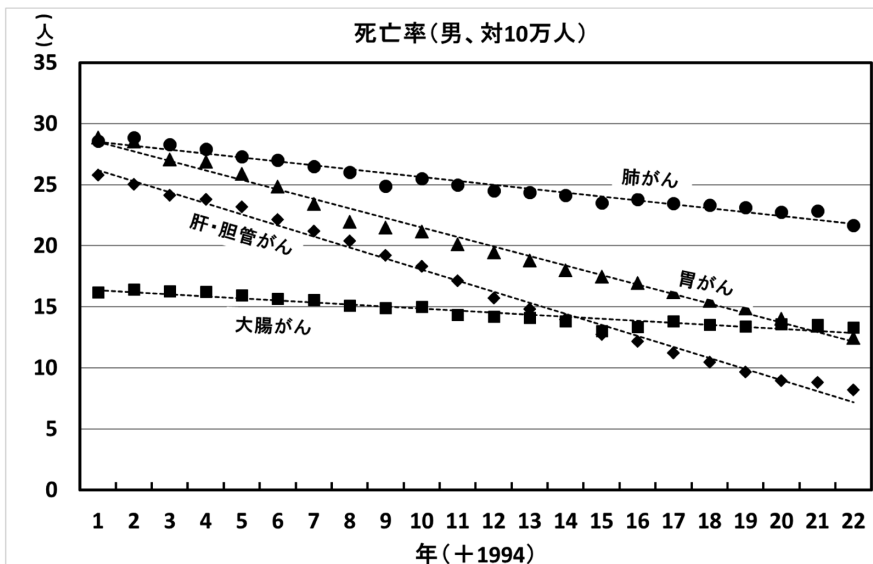


図5 1995～2016年の代表的ながんの全国平均の年死亡率（対10万人、男性）

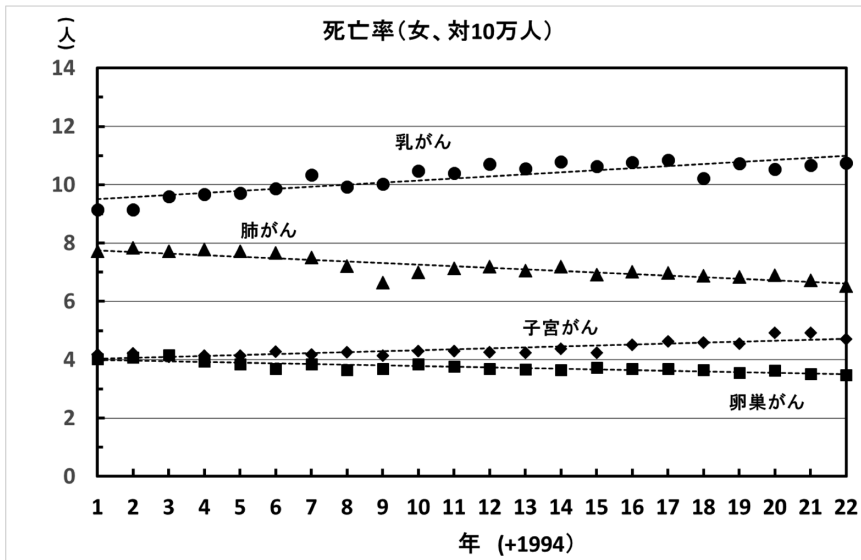


図6 1995～2016年の代表的ながんの全国平均の年死亡率（対10万人、女性）

本論文で調査したのは厚生労働省(2018)がウェブ上に公開している16種類のがん(一部重複しているものも含む)による年齢調整死亡率である。データの期間は1995年から2016年までの22年間である。例として図5に全国の男性の肺がん・胃がん・肝臓肝内胆管がん・大腸がんによる死亡率(対10万人)を時系列で示し、図6に全国の女性の乳がん・肺がん・子宮がん・卵巣がんによる死亡率(対10万人)を時系列で示した。肝・胆管がんや胃がんのように急激に死亡率が減少しているものもあれば、乳がん・子宮がんのように死亡率が年々上昇しているものもある。がん死亡率を y_i 、調査年を x_i とすれば

$$y_i = a(x_i - \bar{x}) + \bar{y} \quad (i = 1, 2, \dots, 22)$$

と表される。ここで a はがん死亡率の増加率を表し、データから最小二乗法によって求められる。また、 \bar{x} は調査年の中央(=2005.5年)を表し、 \bar{y} は22年間の平均死亡率を表す。最小二乗近似による a と \bar{y} の値は各種がん毎・47都道府県毎に求まる。以下では各種がんについて、がん検診受診率の都道府県分布と平均死亡率(\bar{y})・死亡率増加率(a)の都道府県分布の相関係数を求めて、がん検診受診率とがん死亡率との関係を調査する。

4.1 がん検診受診率と22年平均死亡率(\bar{y})との関係

表5はがん検診受診率と22年平均がん死亡率の相関係数を示している。がん検診は

表5 がん検診受診率と22年平均がん死亡率の相関係数

がん死亡率 検診種目	性別	胃がん	大腸がん	肺がん	乳がん	子宮がん	肝・ 胆管がん	全部位 がん
胃がん	男	0.226	- 0.131	- 0.400			- 0.571	- 0.320
	女	0.056	- 0.117	- 0.610	- 0.180	- 0.386	- 0.497	- 0.390
大腸がん	男	0.330	- 0.040	- 0.363			- 0.607	- 0.261
	女	0.143	- 0.044	- 0.561	- 0.130	- 0.451	- 0.591	- 0.370
肺がん	男	0.250	- 0.079	- 0.414			- 0.527	- 0.277
	女	0.020	- 0.197	- 0.697	- 0.213	- 0.319	- 0.436	- 0.429
乳がん	女	- 0.245	- 0.312	- 0.563	- 0.189	- 0.154	- 0.495	- 0.517
子宮がん	女	- 0.190	- 0.254	- 0.542	- 0.160	- 0.199	- 0.462	- 0.449

2007～2016年の平均値であるので2011.5年のデータ、22年平均がん死亡率は2005.5年のデータを代表している。もしも両者の間に正（または負）の相関があれば、がん検診受診率の高い都道府県はがんによる死亡率が高い（または低い）ことを意味する。すなわち有意な負の相関があればがん検診が死亡率を減少させていることを意味する。表5に太字で示した相関係数に着目すると、胃がん・大腸がん・乳がん・子宮がんの受診率は同種のがんによる死亡率との間に有意な相関を示さない。すなわち、各種がん検診は同種のがん死亡率の減少に寄与しているとはいえない。

例外的に肺がんの受診率は肺がんによる死亡率と有意な負の相関があり、胃がん・大腸がん・乳がん・子宮がんによる死亡率とは相関がない。しかしそれは見掛けだけの相関である。その理由は、肺がん死亡率と高い相関を示すのは肺がん検診だけでなく、他の4種のがん検診も同様であるからである。表5に比較のために示した各種がん検診と肝・胆管がんおよび全部位がんの死亡率との相関係数も強い負の相関を示している。すなわち、肺がん死亡率が減少するには肺がん検診以外の原因があると推察される。表4によればがん検診受診率は野菜摂取量と強い正の相関を示す。また力石（2017）によれば、野菜摂取量が多い都道府県はがんによる死亡率が低い。これらのことから、表5で肺がんによる死亡率が低いのは肺がん検診受診率が高いためではなく、野菜摂取量が多いためであると推察される。

4.2 がん検診受診率とがん死亡率増加率（a）との関係

かつてがんは不治の病として恐れられていたが、現在は外科手術・薬物療法・放射線治療等の進歩により5年生存率が伸び、がんの部位によっては完治するケースも増えている。そのため、肝および肝内胆管がん・胃がん・胆のうがんでは死亡率が急速に減少している（図5）。その一方ですい臓がん・子宮がん・乳がんは緩やかではあるが死亡率が増加している（図6）。がんによる死亡率増加率（値が負の場合は減少率）はがん

の部位によって異なり、また都道府県によっても異なる。もしがん検診ががんの早期発見に寄与しているならばがん死亡率は年々減少することが推測される。すなわちがん検診受診率の高い都道府県ほどがん死亡率が減少傾向にあることが期待される。そこで本研究では都道府県別のがん検診受診率と各種がんの死亡率増加率の相関係数を求めた。その際、全都道府県で検査方法が等しい肺がん検診の受診率でがん検診受診率を代表させた。またがん死亡率としては検診種目以外のがんも含めた全18種（男8種、女10種）のがん死亡率増加率を調べた。（肺がん検診受診率と社会環境・生活習慣の相関係数については表3・表4をされたい。）

その結果、相関係数（ r ）が0.40以上の高い相関を示すがんの種類は、男性が全部位がん（0.47）、肝・胆管がん（0.57）、女性は全部位がん（0.49）、肝・肝胆がん（0.53）、卵巣がん（0.40）、子宮がん（0.40）のみであった。図7に男性のがん検診受診率と肝・胆管がん（正式には肝および肝内胆管がん）の死亡率増加率の散布図を、また図8に女性のがん検診受診率と全部位がんの死亡率増加率の散布図を示した。いずれも正の相関であるが、死亡率増加率は負の値（＝減少率）であるので、がん検診受診率の高い都道府県の方が低い都道府県より死亡率減少率が小さいことを意味している。医療技術の進歩や生活習慣等の改善によってがんによる死亡率が年々減少しているなかで、がん検診受診率の高い都道府県ほどがん死亡率が減少しにくいことが明らかになった。

ここで図7図8のように受診率と死亡率増加率が正の相関を示す原因として社会環境

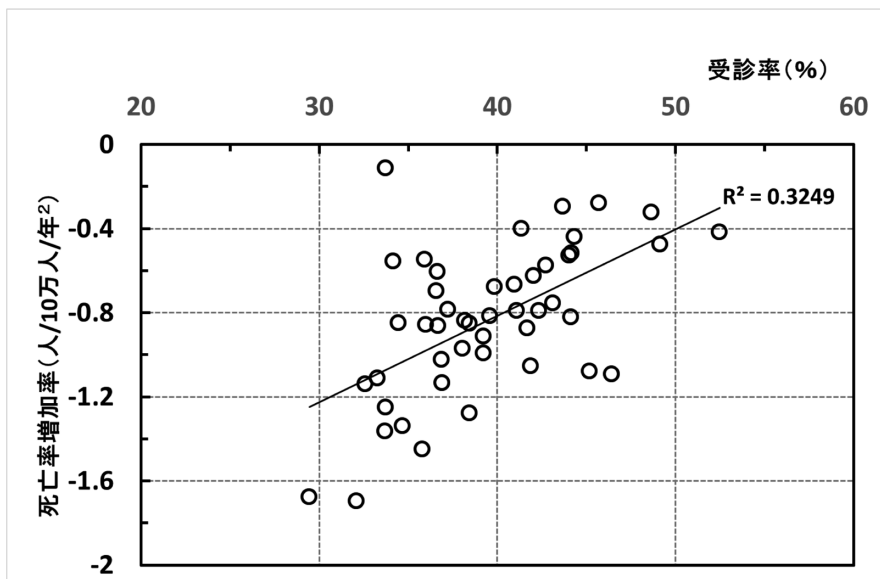


図7 肺がん受診率（横軸）と肝・胆管がんの死亡率増加率（縦軸）の散布図（男性）。縦軸が負の値は死亡率が減少していることを表す。

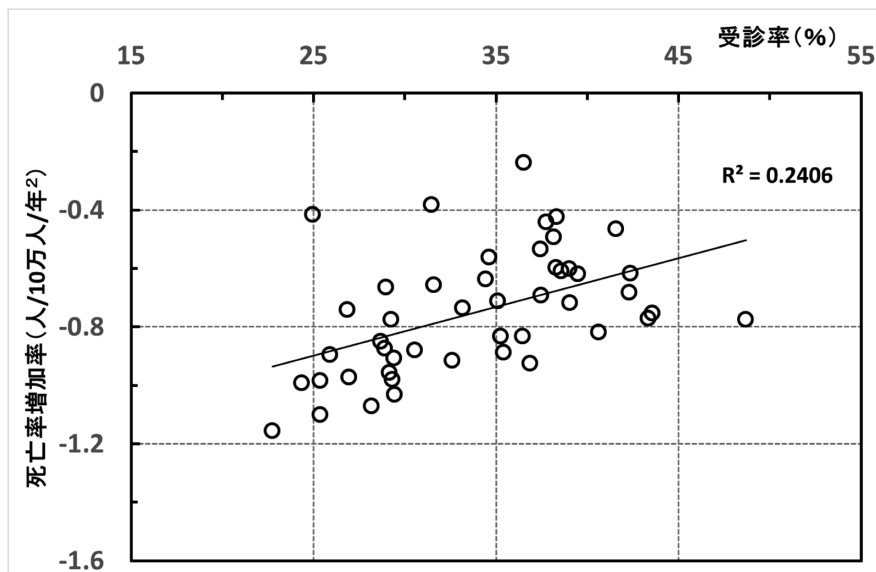


図8 肺がん受診率（横軸）と全部位がんの死亡率増加率（縦軸）の散布図（女性）。
縦軸が負の値は死亡率が減少していることを表す。

や生活習慣の影響がないかどうかを調べた。死亡率増加率と社会環境・生活習慣との相関係数を調べると、喫煙率や飲酒率との相関はないが、冬期気温、第1次産業比率、第3次産業比率、都市人口比率、野菜摂取量などが高い相関を示す。これらほとんどが互いに相関している。そこで本論文ではこれらの要因の影響が小さくなるように、20都府県（東京都、大阪府、神奈川県、埼玉県、兵庫県、京都府、愛知県、奈良県、滋賀県、千葉県、福岡県、岐阜県、石川県、広島県、富山県、三重県、福井県、静岡県、岡山県、宮城県）を選んで、がん検診受診率とがん死亡率増加率との相関係数を求めた。得られた相関係数（ r ）は、男性が全部位がん（0.66）、肝・胆管がん（0.66）、女性は全部位がん（0.71）、肝・肝胆がん（0.66）、子宮がん（0.58）、乳がん（0.50）で高い値を示した。20都府県のみデータを扱うときは相関係数（ r ）が0.56以上のとき危険率1%で、0.44以上のとき危険率5%で相関が有意となる。したがって、がん検診受診率と上記がん種の死亡率増加の強い相関は社会環境・生活習慣の影響をほとんど受けていないことが明らかになった。

肺がん検診で使われるX線（電離放射線）は微弱（～0.06ミリシーベルト）であるので、それによってがんが誘発される確率は極めて小さいと考えられる。しかしがん検診を受診して精密検査に回された人々はその後CT検査等で100倍以上もの強い放射線（5～30ミリシーベルト）を（場合によっては）複数回浴びることになる。厚生労働省

の「平成27年度地域保健・健康増進事業報告」によると、肺がん検診を受診した約420万人のうち約1.5%（63,272人）が精密検査に回り、そのうちの約2.4%（1,527人）から肺がんが発見された。胃がん・大腸がん・乳がんのがん検診では7%前後の人々が精密検査に回されている。47都道府県のがん検診受診率と精密検査受診率の比が一定であると仮定すれば、図7や図8に示された相対的な死亡率の増加はがん検診（精密検査）による被ばくによると考えられる。

これまでは広島・長崎の被爆生存者の追跡調査によって、100ミリシーベルト以上の実効線量では被曝の影響が放射線量に比例するが、それ以下の実効線量では被曝の影響が確認されないとされてきた。しかし最近さまざまな研究によって100ミリシーベルト以下の低線量でもがんが誘発された事例が報告されている（Eisenberg MJ, et al. 2011, Pearce MS, et al. 2012, Kendall GM. et al. 2012, Mathews JD et al. 2013, David B Richardson et al. 2015）。その多くは100ミリシーベルト以下でも線量に比例して発がんリスクが増加することを示している。近藤（2011）は治療用の放射線によって異なる種類のがんが誘発されたと推察される事例を紹介している。また力石（2018）は九州・沖縄を除いた39都道府県の白血病死亡率と全部位の死亡率との相関が非常に高いことから、両者の診断・治療に共通している放射線の利用が白血病の原因のひとつであると推論している。

今回得られた結果では、肺がん検診と最も高い相関を示したのは肺がんではなく肝・胆管がんの死亡率であった。肝・胆管がんの診断では肝臓ダイナミックCTにより多量の放射線を浴びることが知られているが、肺がん検診の精密検査で肝臓ダイナミックCTが利用されることは少ないかもしれない。広島・長崎原爆の生存者（全身被曝）の発がん状況を長年にわたって追跡した結果からは肝臓の放射線感受性は中程度とされているが（たとえばPreston et al. 2007）、肝臓は密度の濃い臓器であるので放射線の透過率が低く、一般的な胸部・腹部のCT検査で被曝（局所被曝）しやすいと推察される。婦人科のがん（乳がん・卵巣がん・子宮頸がん）も肺がん検診と有意な相関を示すが、乳がん・子宮頸がんは年々死亡率が上昇しているがんであり、乳腺や卵巣の組織は放射線に対する感受性が高い。また、乳がん・子宮頸がんは乳がん検診・子宮がん検診の受診率よりも肺がん検診の受診率と高い相関を示す。したがって乳がん・子宮頸がんも一般的な胸部・腹部のCT検査による影響が強いと推察される。（女性は飲酒や喫煙などの生活習慣による影響が男性よりも小さいので、ノイズが少なくシグナルが検出されやすいためかも知れない。）これらの事実は肺がん検診後のCTによる精密検査ががんを誘発している可能性が高いことを示唆していると考えられる。

図7と図8のような散布図から肺がん検診の受診によってどれだけ死亡者（対10万人）が増加しているかを見積もってみる。いま47都道府県の受診率を s_i 、死亡者の年

増加率を a_i とすると、

$$a_i = \alpha (s_i - \bar{s}) + \bar{a}$$

が成り立つ。47都道府県の平均値 \bar{s} と \bar{a} は既知であり、勾配 α は最小二乗法によって求まる。この式から受診率が47都道府県平均 (\bar{s}) のときの平均増加率 (a_m) は $a_m = \bar{a}$ 、受診率0のときの増加率 (a_0) は $a_0 = a_m - \alpha \bar{s}$ と求まる。すなわち受診率 \bar{s} のときの死亡者増加率は受診率0のときより $\Delta \alpha = a_m - a_0$ だけ増える。これからがんによる年死亡者数 y の増加率は、 x を1年×自然数とすると

$$y = \Delta \alpha \cdot x$$

で表わすことができる。増加率を%表示するときは両辺を平均死亡者数 \bar{y} で割ればよい。

以上の計算によれば、男性と女性の全部位死亡者の1年当たりの増加率はそれぞれ1.2%、0.9%であり、男性と女性の肝・胆管がん死亡率の増加率はそれぞれ9.8%、5.1%と見積もられる。また女性の乳がん・子宮がん・卵巣がんの死亡率の増加はそれぞれ0.9%、1.5%、1.6%と見積もられる。肝・胆管がん死亡者数は10年で100%（男）ないし50%（女）増加すると予想される。そのほかのがんも10年で10～15%増加するという予測値であり、決して無視できない値である。

5. 結 び

47都道府県のがん検診受診率（2007年から3年毎4回の延べ約6,000万人の受診者）と1995年～2016年の22年間平均のがん死亡者数（総計714万人）の関係を調べた。その結果、がん検診受診率が高い都道府県ほどがんによる死亡者が少ないというエビデンスを見出すことができなかった。また47都道府県の肺がん検診受診率と各種がんの死亡者数増加率との関係を調べたところ、全部位がん・肝および肝内胆管がん・子宮頸がん・乳がん・卵巣がんではがん受診率の高い都道府県ほど（相対的に）がん死亡者数が多くなっていることが明らかとなった。肝および肝内胆管がんでは1年当たり約10%（男性）ないし約5%（女性）の高い増加傾向を示した。放射線に対する感受性の高い子宮頸部・乳房・卵巣のがんと全部位がんでは死亡者の年増加率は1～2%程度であった。日本は医療用のCT装置数が世界最多（100万人当り101.3台）で、2位のオーストラリア（同53.7台）を大きく引き離している（日本学術会議2017）。最近ではマルチスライスCT、PETCT、肝臓ダイナミックCTなど、さまざまな高性能CTががん診断で使われている。医療用のCT検査が二次がんを誘発する可能性について調査研究が望まれる。

引用文献

- Eisenberg MJ, et al. (2011): Cancer risk related to low-dose ionizing radiation from cardiac imaging in patients after acute myocardial infarction. *CMAJ*. 2011;183:430-6.
- Kendall GM. et al. (2012): A record-based case-control study of natural background radiation and the incidence of childhood leukemia and other cancers in Great Britain during 1980-2006. *Leukemia*. 2012 Jun 5. doi: 10.1038/leu.2012.151
- 国立がん研究センター (2018) : <https://www.ganjoho.jp/cancer/>。
- 近藤 誠 (2011) : 放射線被ばく CT検査でがんになる。亜紀書房、pp. 209。
- 厚生労働省 (2018) : <https://www1.mhlw.go.jp/toukei/>。
- Mathews JD et al. (2013): Cancer risk in 680 000 people exposed to computed tomography scans in childhood or adolescence: data linkage study of 11 million Australians. *BMJ* 346:f2360.
- 二宮書店 (2016) : 「地理統計要覧」、160ページ。
- 日本学術会議 (2017) : CT検査による医療被ばくの低減に関する提言。 <http://www.scj.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-t248-1.pdf>
- Pearce MS, et al. (2012): Radiation exposure from CT scans in childhood and subsequent risk of leukemia and brain tumours: a retrospective cohort study. *Lancet*. 380:499-505.
- Preston, et al (2007) : *Radiation Research*, 168:1.
- 力石國男 (2017) : 10大死因の死亡率に対する社会環境および生活習慣の影響。総合研究、第5号、203-215。
- 力石國男 (2018) : 太陽紫外線と治療用放射線が白血病の原因である可能性について。総合研究、第6号、199-211。
- Richardson, D. B. et al. (2015): Risk of cancer from occupational exposure to ionizing radiation: retrospective cohort study of workers in France, the United Kingdom, and the United States (INWORKS). *BMJ* 2015;351:h5359.
- 総理府統計局 (2018) : <https://www.stat.go.jp/data/roudou/2.htm>。

執筆者紹介

- | | | |
|--------|------------------|------|
| 岡田 裕介 | ノースアジア大学総合研究センター | 客員教授 |
| 橋本 五郎 | ノースアジア大学 | 客員教授 |
| 内館 牧子 | ノースアジア大学総合研究センター | 客員教授 |
| 福岡 政行 | ノースアジア大学総合研究センター | 客員教授 |
| 銭谷 秋生 | ノースアジア大学経済学部 | 教授 |
| 花田 富二夫 | ノースアジア大学経済学部 | 教授 |
| 橋元 志保 | ノースアジア大学法学部 | 教授 |
| 村中 孝司 | ノースアジア大学経済学部 | 准教授 |
| 瀧澤 純 | ノースアジア大学法学部 | 講師 |
| 力石 國男 | ノースアジア大学総合研究センター | 教授 |

総合研究 第7号

2019年（平成31年）3月29日発行

編集・発行 ノースアジア大学総合研究センター
秋田市下北手桜守沢46-1
TEL 018-836-6592
FAX 018-836-6530
URL <http://www.nau.ac.jp/~center/>

印刷 秋田活版印刷株式会社
秋田市寺内字三千刈110-1
電話 018-888-3500

General Research

The 7th issue

March, 2019

CONTENTS

Lectures

- Talks on movies V Yusuke OKADA
 Is this way Japanese politics should be ? Goro HASHIMOTO
 Let's write an essay "Makura-no-soshi" as a textbook I Makiko UCHIDATE
 Let's write an essay "Makura-no-soshi" as a textbook II Makiko UCHIDATE
 Abenomics and Japanese Politics Masayuki FUKUOKA
 Tubulance of political situation -How Japanese politics Masayuki FUKUOKA
 The aspect of Japan of 2018
 - The future of Japan, the big country of gradual decline Masayuki FUKUOKA
 Wandering Japanese Politics and a talk between US and North Korea
 Masayuki FUKUOKA

Articles

- "The Fact of Reason" and the Freedom in Kant Akio ZENIYA
 A Study of "HYAKUSENKIHOUGENGE" Fujio HANADA
 A Study of Soseki Natsume's *Gubijinsou* from the Viewpoint of
 Fujio's Character and Her Death Shiho HASHIMOTO
 A Study on the Tourism Strategy Which Utilize
 Natural Landscape for Akita Takashi MURANAKA
 Cognitive process of figurative judgment: sincerity, irony, hiniku, sarcastic,
 white lie, deception, mistake, joke, teasing, hiding bashfulness Jun TAKIZAWA

Notes

- Does the higher rate in cancer screening lower the mortality rate from cancer?
 Kunio RIKIISHI

North Asia University General Research Institute
 Akita, Japan